

- 目 次 -

1 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査設計	1
(3) 回収結果	1
(4) 調査結果の見方	2
2 調査結果	3
〔1〕 保育施設調査	3
(1) 回答者の基本属性	3
(2) 施設の職員について	6
(3) 情報通信技術（ICT）の活用について	18
(4) 保育職員の職場定着に向けた取組状況	23
(5) 保育士の採用状況	31
(6) 潜在保育士について	38
(7) 保育行政などについて	53
〔2〕 現任保育士調査	55
(1) 回答者の基本属性	55
(2) 現在の就業先の状況	62
(3) 保育に関する仕事を退職した経験がある方	94
(4) 保育士としての就労や労働環境などについて	108
〔3〕 潜在保育士調査	110
(1) 回答者の基本属性	110
(2) 保育士としての勤務経験	118
(3) 今後、保育士として働くことについて	123
(4) 保育士としての就労や労働環境などについて	139
〔4〕 保育士養成施設調査	141
〔5〕 保育士養成施設学生調査	152

1 調査概要

(1) 調査目的

保育士不足の実態や保育現場の職場環境の実態、保育士として働くことへの不安や職場に望むことなど、幅広く実態を把握し、滋賀県の今後の効果的な保育人材確保の取組につなげるための基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計

- ① 調査地域：滋賀県内全域
- ② 調査対象：
 - 〔1〕 保育施設調査
県内に所在する保育事業者415施設
 - 〔2〕 現任保育士調査
県内保育施設に勤務する現任保育士8,682人
 - 〔3〕 潜在保育士調査
無職または他の仕事に就いている保育士登録者464人
 - 〔4〕 保育士養成施設調査
県内に所在する保育士養成施設5施設
 - 〔5〕 保育士養成施設学生調査
県内の保育士養成施設に通う学生734人
- ③ 調査方法：郵送配布、郵送回収
- ④ 調査期間：令和元年11月8日（金）から令和元年11月20日（水）

(3) 回収結果

区分	配付数	有効回答数	有効回答率
〔1〕 保育施設調査	415 件	245 件	59.0%
〔2〕 現任保育士調査	8,682 件	4,972 件	57.3%
〔3〕 潜在保育士調査	464 件	208 件	44.8%
〔4〕 保育士養成施設調査	5 件	5 件	100.0%
〔5〕 保育士養成施設学生調査	734 件	468 件	63.8%

* 現任保育士調査と潜在保育士調査に白票が1件ずつあった

(4) 調査結果の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。
- ⑤ 表の網掛けは、最も多い項目を示している。

2 調査結果

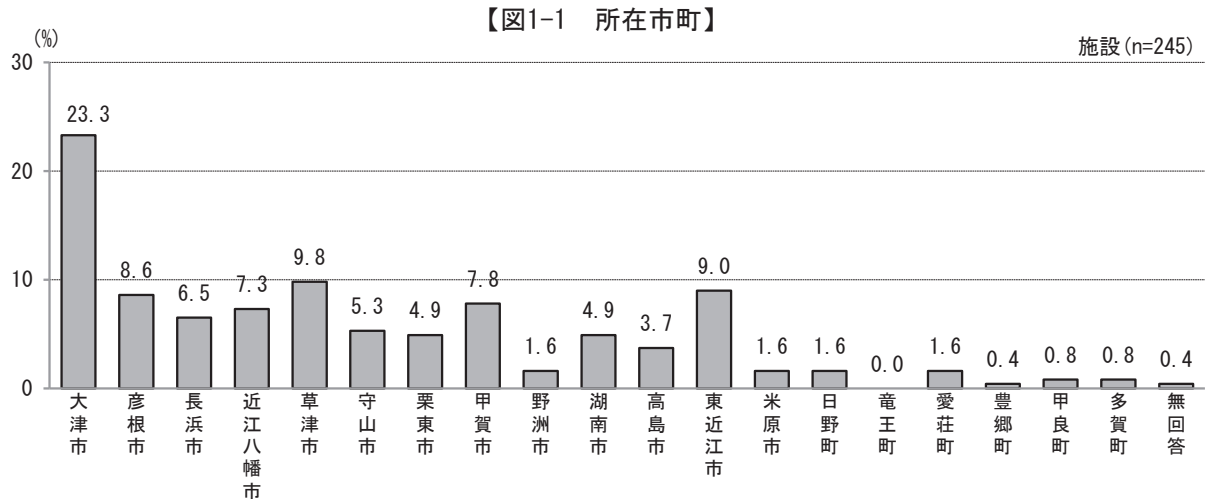
〔1〕 保育施設調査

（1） 回答者の基本属性

問1 施設の設置・運営主体

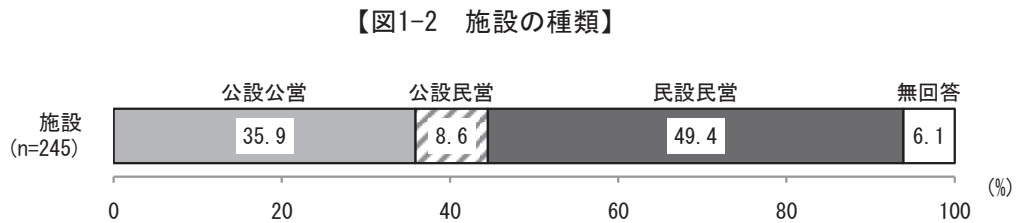
貴施設の設置・運営主体の種類などについておうかがいします。

①施設の所在市町



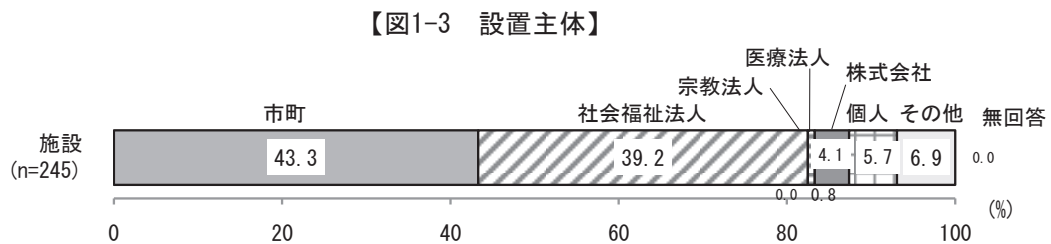
施設の所在地については、「大津市」が23.3%で最も多く、次いで「草津市」が9.8%、「東近江市」が9.0%となっている。(図1-1)

②施設の種類



施設の種類の種類については、「民設民営」が49.4%で最も多く、次いで「公設公営」が35.9%、「公設民営」が8.6%となっている。(図1-2)

③設置主体

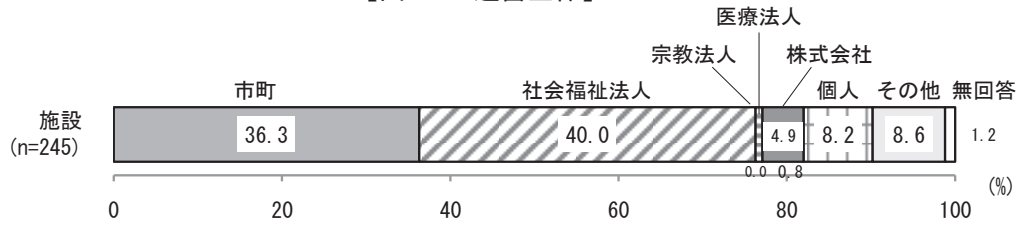


施設の設置主体については、「市町」が43.3%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が39.2%となっている。(図1-3)

【1 保育施設調査】

④運営主体

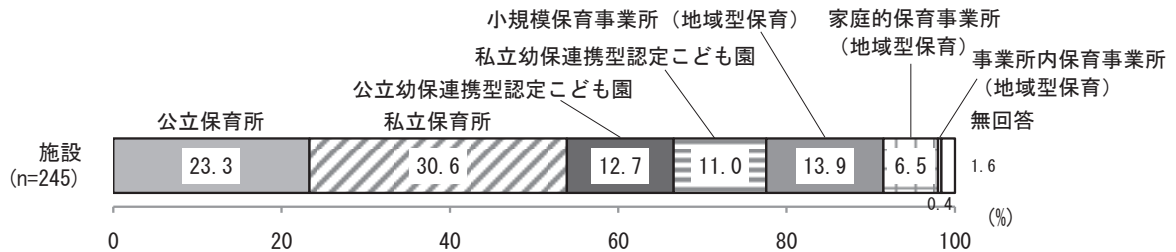
【図1-4 運営主体】



施設の運営主体については、「社会福祉法人」が40.0%で最も多く、次いで「市町」が36.3%となっている。(図1-4)

⑤施設種別

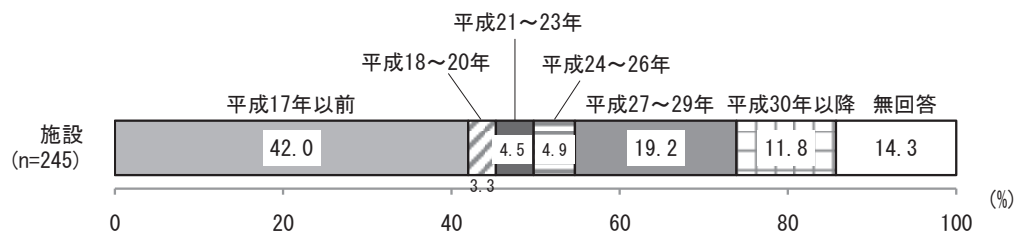
【図1-5 施設種別】



施設の種別については、「私立保育所」が30.6%で最も多く、次いで「公立保育所」が23.3%となっている。(図1-5)

⑥設置年月

【図1-6 設置年月】



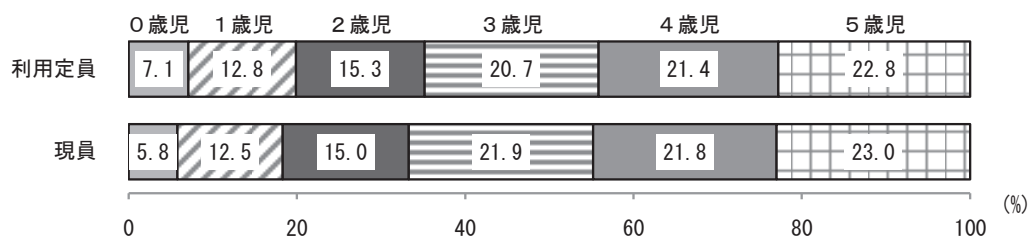
施設の設置年月は「平成17年以前」が42.0%で最も多く、次いで「平成27~29年」が19.2%、「平成30年以降」が11.8%となっている。(図1-6)

【1 保育施設調査】

問2 利用定員

貴施設の利用定員、現員とその内訳についておうかがいします。

【図2 利用定員と現員（実人数）】



上段:実人数 下段:%	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員	1,598 7.1	2,861 12.8	3,430 15.3	4,637 20.7	4,795 21.4	5,109 22.8	22,430 100.0
現員	1,415 5.8	3,066 12.5	3,664 15.0	5,376 21.9	5,348 21.8	5,635 23.0	24,504 100.0

利用定員、現員とも、「5歳児」が最も多くなっている。(図2)

【表2 利用定員と現員（施設種別）】

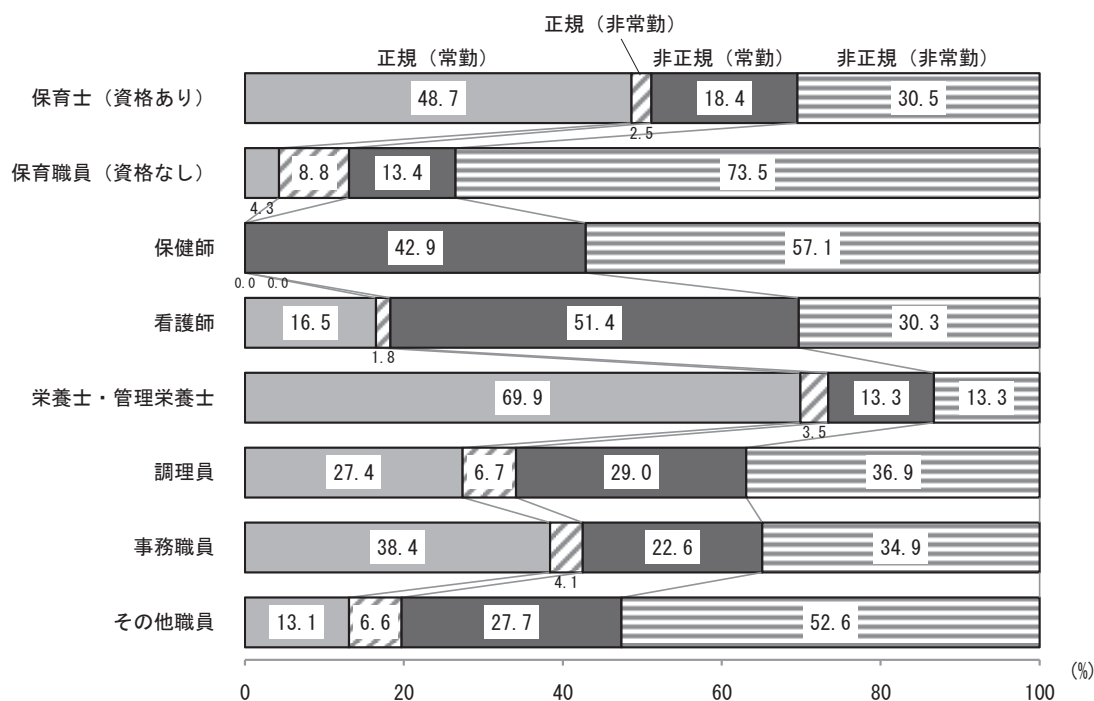
上段:実人数 下段:%		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員	公立保育所	287 6.8	540 12.8	654 15.5	814 19.3	918 21.8	1,002 23.8	4,215 100.0
	私立保育所	627 8.3	1,065 14.1	1,268 16.8	1,479 19.6	1,517 20.1	1,599 21.2	7,555 100.0
	公立幼保連携型認定こども園	269 4.7	519 9.0	655 11.4	1,420 24.7	1,423 24.8	1,461 25.4	5,747 100.0
	私立幼保連携型認定こども園	232 5.8	457 11.5	537 13.5	871 21.9	882 22.2	995 25.0	3,974 100.0
	小規模保育事業所(地域型保育)	134 24.2	198 35.8	221 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	553 100.0
	家庭的保育事業所(地域型保育)	14 19.4	25 34.7	31 43.1	1 1.4	1 1.4	0 0.0	72 100.0
	事業所内保育事業所(地域型保育)	11 31.4	12 34.3	12 34.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	35 100.0
	現員数	248 4.3	686 11.8	883 15.2	1,242 21.4	1,214 21.0	1,519 26.2	5,792 100.0
公立保育所	583 7.4	1,137 14.4	1,338 17.0	1,616 20.5	1,592 20.2	1,620 20.5	7,886 100.0	
公立幼保連携型認定こども園	197 3.4	458 7.9	589 10.1	1,500 25.8	1,542 26.6	1,518 26.2	5,804 100.0	
私立幼保連携型認定こども園	225 5.6	459 11.4	544 13.5	947 23.6	928 23.1	913 22.7	4,016 100.0	
小規模保育事業所(地域型保育)	126 22.3	229 40.5	210 37.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	565 100.0	
家庭的保育事業所(地域型保育)	7 9.3	35 46.7	31 41.3	1 1.3	1 1.3	0 0.0	75 100.0	
事業所内保育事業所(地域型保育)	6 20.0	12 40.0	12 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	30 100.0	

(2) 施設の職員について

問3 職種別職員数

貴施設の職員体制についておうかがいします。各職種別の職員数をご記入ください。

【図3 職種別職員数（実人数）】



上段:実人数 下段:%	正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計	上段:実人数 下段:%	正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
保育士 (資格あり)	2,730	138	1,031	1,710	5,609	保育士 (資格あり)	48.7	2.5	18.4	30.5	100.0
保育職員 (資格なし)	17	35	53	291	396	保育職員 (資格なし)	4.3	8.8	13.4	73.5	100.0
保健師	0	0	6	8	14	保健師	0.0	0.0	42.9	57.1	100.0
看護師	18	2	56	33	109	看護師	16.5	1.8	51.4	30.3	100.0
栄養士・ 管理栄養士	100	5	19	19	143	栄養士・ 管理栄養士	69.9	3.5	13.3	13.3	100.0
調理員	143	35	151	192	521	調理員	27.4	6.7	29.0	36.9	100.0
事務職員	56	6	33	51	146	事務職員	38.4	4.1	22.6	34.9	100.0
その他職員	36	18	76	144	274	その他職員	13.1	6.6	27.7	52.6	100.0

職種別職員数について、『保育士（資格あり）』では「正規（常勤）」が48.7%で最も多く、次いで「非正規（非常勤）」が30.5%となっている。

『保育職員（資格なし）』では「非正規（非常勤）」が73.5%で最も多く、次いで「非正規（常勤）」が13.4%となっている。

『保健師』では「非正規（非常勤）」が57.1%、「非正規（常勤）」が42.9%となっている。

『看護師』では「非正規（常勤）」が51.4%で最も多く、次いで「非正規（非常勤）」が30.3%となっている。

『栄養士・管理栄養士』では「正規（常勤）」が69.9%で最も多く、次いで「非正規（常勤）」「非正規（非常勤）」がそれぞれ13.3%となっている。

『調理員』では「非正規（非常勤）」が36.9%で最も多く、次いで「非正規（常勤）」が29.0%となっている。

『事務職員』では「正規（常勤）」が38.4%で最も多く、次いで「非正規（非常勤）」が34.9%となっている。

『その他職員』では「非正規（非常勤）」が52.6%で最も多く、次いで「非正規（常勤）」が27.7%となっている。（図3）

【 1 保育施設調査】

【表3 職種別職員数（施設種別）】

【保育士(資格あり)】

上段:実人数 下段:%	正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
公立保育所	551 38.3	5 0.3	368 25.6	516 35.8	1,440 100.0
私立保育所	1,071 59.6	60 3.3	209 11.6	456 25.4	1,796 100.0
公立幼保連携型認定こども園	414 37.8	4 0.4	320 29.3	356 32.5	1,094 100.0
私立幼保連携型認定こども園	464 60.7	25 3.3	91 11.9	185 24.2	765 100.0
小規模保育事業所 (地域型保育)	144 46.9	24 7.8	14 4.6	125 40.7	307 100.0
家庭的保育事業所 (地域型保育)	17 24.3	7 10.0	1 1.4	45 64.3	70 100.0
事業所内保育事業所 (地域型保育)	9 75.0	0 0.0	3 25.0	0 0.0	12 100.0

【保育士(資格なし)】

正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
1 1.3	15 18.8	8 10.0	56 70.0	80 100.0
16 12.1	11 8.3	16 12.1	89 67.4	132 100.0
0 0.0	0 0.0	22 27.5	58 72.5	80 100.0
0 0.0	2 4.0	5 10.0	43 86.0	50 100.0
0 0.0	6 22.2	0 0.0	21 77.8	27 100.0
0 0.0	1 4.8	0 0.0	20 95.2	21 100.0
0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【保健師】

上段:実人数 下段:%	正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
公立保育所	0 0.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	5 100.0
私立保育所	0 0.0	0 0.0	1 16.7	5 83.3	6 100.0
公立幼保連携型認定こども園	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0
私立幼保連携型認定こども園	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
小規模保育事業所 (地域型保育)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	2 100.0
家庭的保育事業所 (地域型保育)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
事業所内保育事業所 (地域型保育)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【看護師】

正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
2 5.9	0 0.0	29 85.3	3 8.8	34 100.0
7 25.9	0 0.0	6 22.2	14 51.9	27 100.0
2 9.5	0 0.0	12 57.1	7 33.3	21 100.0
3 17.6	2 11.8	7 41.2	5 29.4	17 100.0
3 50.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	6 100.0
0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【栄養士・管理栄養士】

上段:実人数 下段:%	正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
公立保育所	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	5 100.0
私立保育所	71 88.8	0 0.0	4 5.0	5 6.3	80 100.0
公立幼保連携型認定こども園	1 16.7	0 0.0	4 66.7	1 16.7	6 100.0
私立幼保連携型認定こども園	18 69.2	0 0.0	5 19.2	3 11.5	26 100.0
小規模保育事業所 (地域型保育)	8 40.0	4 20.0	1 5.0	7 35.0	20 100.0
家庭的保育事業所 (地域型保育)	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	3 100.0
事業所内保育事業所 (地域型保育)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

【調理士】

正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
33 25.8	2 1.6	54 42.2	39 30.5	128 100.0
49 30.1	15 9.2	32 19.6	67 41.1	163 100.0
29 31.9	0 0.0	45 49.5	17 18.7	91 100.0
17 26.6	5 7.8	15 23.4	27 42.2	64 100.0
9 20.0	7 15.6	1 2.2	28 62.2	45 100.0
1 5.0	4 20.0	2 10.0	13 65.0	20 100.0
0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【事務職員】

上段:実人数 下段:%	正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
公立保育所	1 5.6	0 0.0	5 27.8	12 66.7	18 100.0
私立保育所	32 47.8	3 4.5	12 17.9	20 29.9	67 100.0
公立幼保連携型認定こども園	0 0.0	0 0.0	9 40.9	13 59.1	22 100.0
私立幼保連携型認定こども園	19 61.3	1 3.2	7 22.6	4 12.9	31 100.0
小規模保育事業所 (地域型保育)	2 40.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	5 100.0
家庭的保育事業所 (地域型保育)	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
事業所内保育事業所 (地域型保育)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【その他職員】

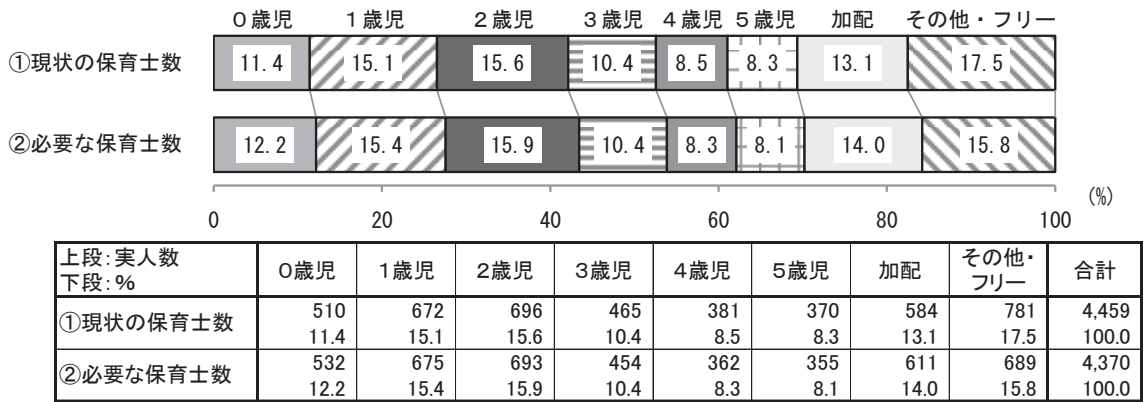
正規 (常勤)	正規 (非常勤)	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
10 11.4	0 0.0	38 43.2	40 45.5	88 100.0
16 20.5	5 6.4	4 5.1	53 67.9	78 100.0
5 9.1	0 0.0	29 52.7	21 38.2	55 100.0
5 12.5	11 27.5	3 7.5	21 52.5	40 100.0
0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	5 100.0
0 0.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	4 100.0
0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【1 保育施設調査】

問4 現状の保育士数と必要な保育士数

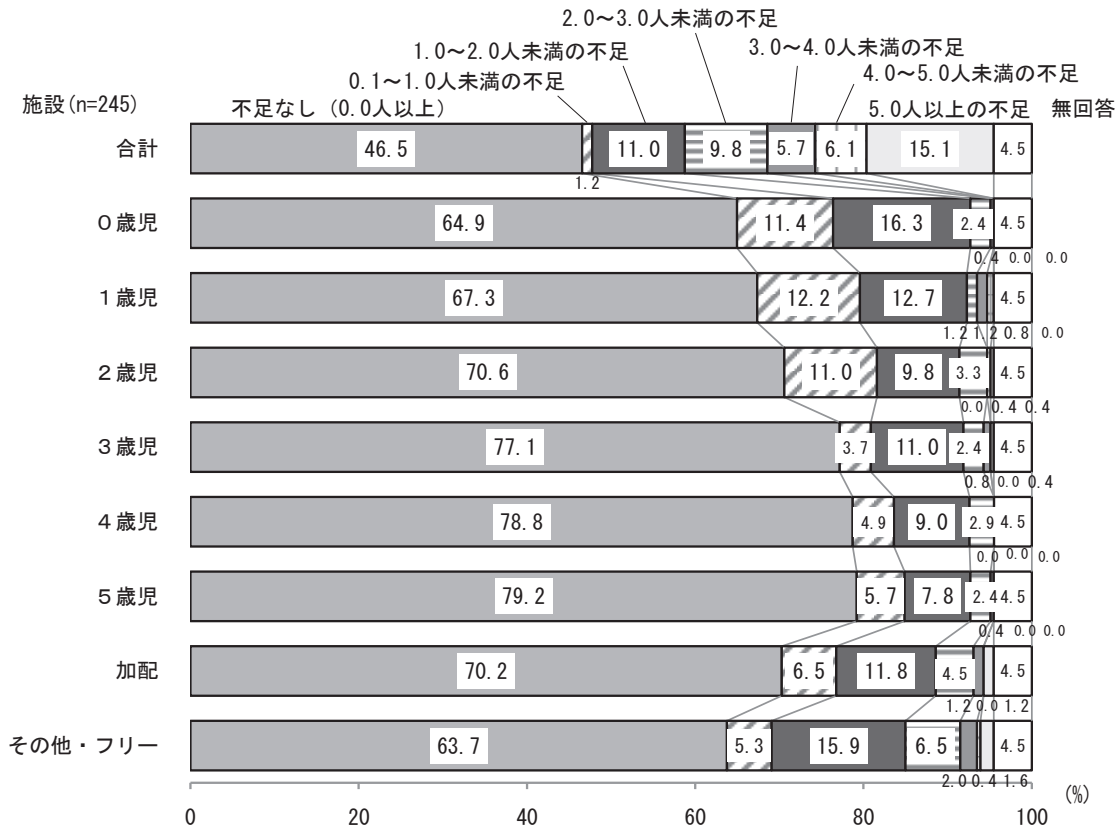
現状の保育士の人数と、理想の保育を行うために必要な保育士の人数をご記入ください。

【図4 現状の保育士数と必要な保育士数（実人数）】



現状の保育士数と理想の保育を行うために必要な保育士数については、「0歳児」「1歳児」「2歳児」「加配」で必要な保育士数が現状の保育士数より高い割合となっている。（図4）

【図4① 保育士の不足数】



現状の保育士数から理想の保育を行うために必要な保育士数を引いた数（不足数）をみると、いずれの年齢も「不足なし」が最も多いが、子どもの年齢が下がるにつれて不足している割合が高くなる傾向にある。（図4①）

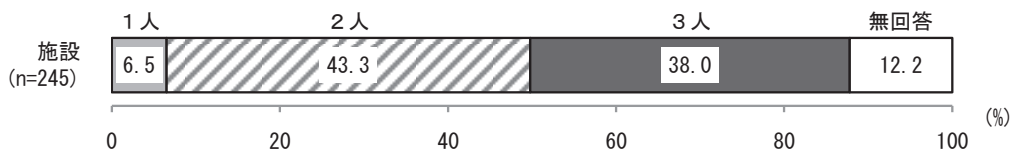
【1 保育施設調査】

問4-1 望ましい配置基準

法令上の配置基準に対して、望ましい配置基準についてご記入ください。

【図4-1① 望ましい配置基準（0歳）】

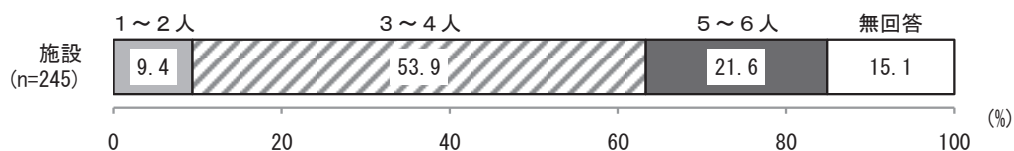
現行の配置基準	
0歳	3人



0歳児の望ましい配置基準については、「2人」が43.3%で最も多く、次いで「3人」が38.0%となっている。(図4-1①)

【図4-1② 望ましい配置基準（1歳）】

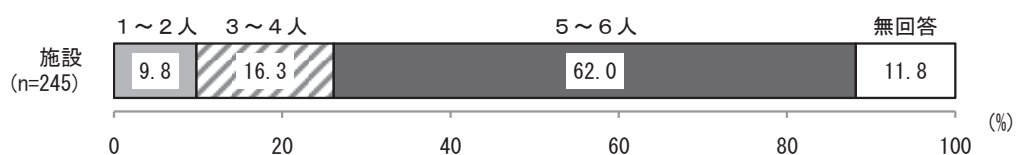
現行の配置基準	
1歳	6人



1歳児の望ましい配置基準については、「3~4人」が53.9%で最も多く、次いで「5~6人」が21.6%となっている。(図4-1②)

【図4-1③ 望ましい配置基準（2歳）】

現行の配置基準	
2歳	6人

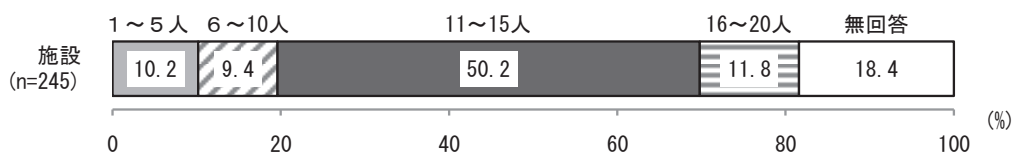


2歳児の望ましい配置基準については、「5~6人」が62.0%で最も多く、次いで「3~4人」が16.3%となっている。(図4-1③)

【1 保育施設調査】

【図4-1④ 望ましい配置基準（3歳）】

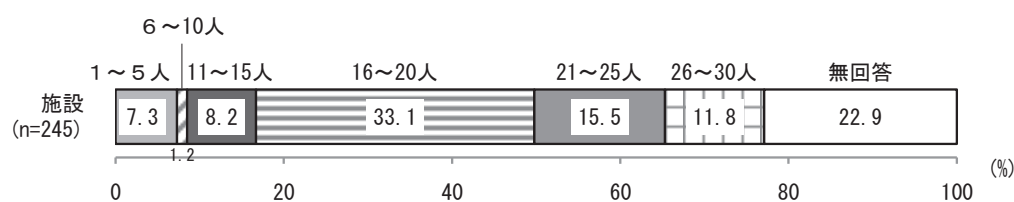
現行の配置基準	
3歳	20人



3歳児の望ましい配置基準については、「11~15人」が50.2%で最も多く、次いで「16~20人」が11.8%となっている。(図4-1④)

【図4-1⑤ 望ましい配置基準（4歳）】

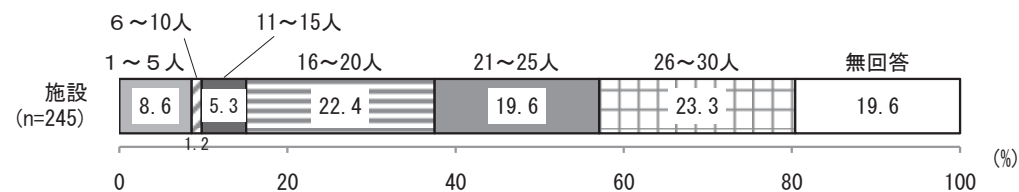
現行の配置基準	
4歳	30人



4歳児の望ましい配置基準については、「16~20人」が33.1%で最も多く、次いで「21~25人」が15.5%となっている。(図4-1⑤)

【図4-1⑥ 望ましい配置基準（5歳）】

現行の配置基準	
5歳	30人



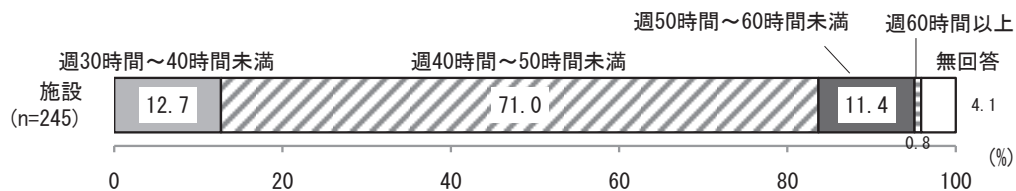
5歳児の望ましい配置基準については、「26~30人」が23.3%で最も多く、次いで「16~20人」が22.4%となっている。(図4-1⑥)

【1 保育施設調査】

問5 正職員（常勤）である保育士の週あたりの実労働時間

貴施設の正職員（常勤）である保育士（主任を含む）についておうかがいします。
週あたりの平均的な（時間外労働を含む）実働時間は何時間ですか。（○は1つ）

【図5 正職員の週あたりの実労働時間】



正職員（常勤）の週あたりの実労働時間については、「週40時間～50時間未満」が71.0%で最も多く、次いで「週30時間～40時間未満」が12.7%となっている。（図5）

【表5 正職員の週あたりの実労働時間（施設種別）】

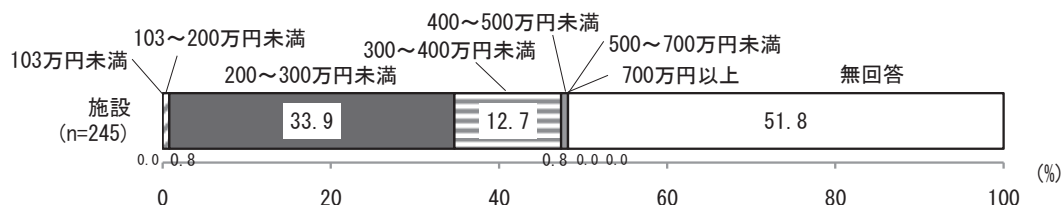
施設種別	n	労働時間区分 (%)				
		週40時間未満	週43時間未満	週54時間未満	週65時間未満	週60時間以上
公立保育所	57	15.8	63.2	19.3	-	1.8
私立保育所	75	12.0	81.3	5.3	-	1.3
公立幼保連携型認定こども園	31	3.2	64.5	22.6	-	9.7
私立幼保連携型認定こども園	27	7.4	77.8	7.4	-	7.4
小規模保育事業所(地域型保育)	34	14.7	82.4	2.9	-	-
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	12.5	37.5	18.8	12.5	18.8
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	100.0	-	-	-	-

問 6 正職員（常勤）の待遇

貴施設における正職員（常勤）の待遇について、該当する数字をご記入ください。

①初任保育士の給与等（年間）

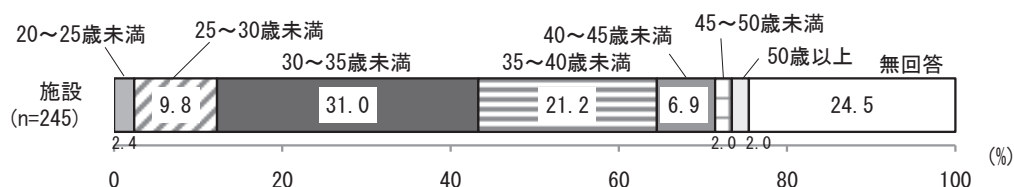
【図6① 初任保育士の給与等（年間）】



初任保育士の給与等については、「200～300万円未満」が33.9%で最も多く、次いで「300～400万円未満」が12.7%となっている。（図6①）

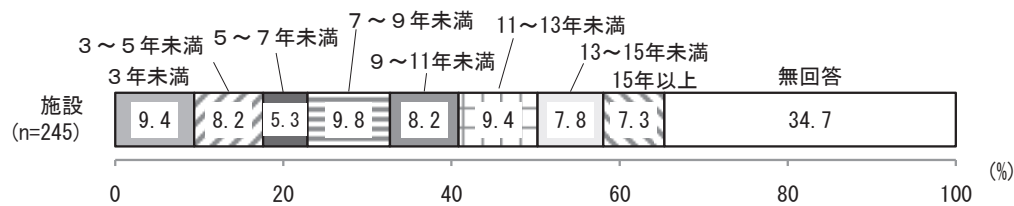
②保育士（初任・主任を含む）の待遇

【図6②ア 保育士（初任・主任を含む）の平均年齢】



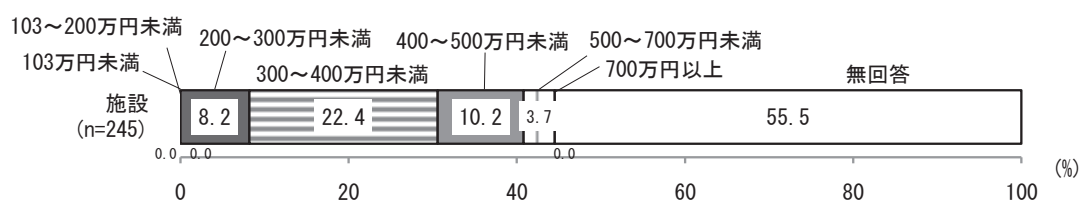
保育士（初任・主任を含む）の平均年齢については、「30～35歳未満」が31.0%で最も多く、次いで「35～40歳未満」が21.2%となっている。（図6②ア）

【図6②イ 保育士（初任・主任を含む）の勤続年数】



保育士（初任・主任を含む）の勤続年数については、「7～9年未満」が9.8%で最も多く、次いで「3年未満」「11～13年未満」がそれぞれ9.4%となっている。（図6②イ）

【図6②ウ 保育士（初任・主任を含む）の給与等（年間）】



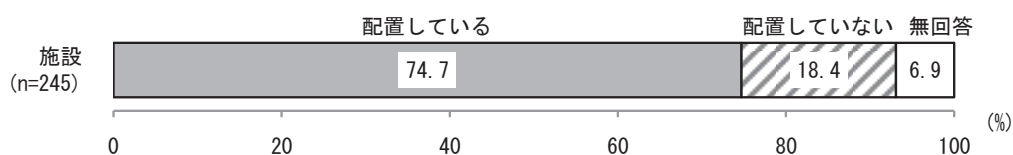
保育士（初任・主任を含む）の給与等（年間）については、「300～400万円未満」が22.4%で最も多く、次いで「400～500万円未満」が10.2%となっている。（図6②ウ）

【1 保育施設調査】

問7 非正規（常勤）保育士の配置の有無

雇用形態が非正規（常勤）である保育士（資格あり）を配置していますか。（○は1つ）

【図7 非正規（常勤）保育士の配置の有無】



非正規（常勤）保育士の配置の有無については、「配置している」が74.7%、「配置していない」が18.4%となっている。（図7）

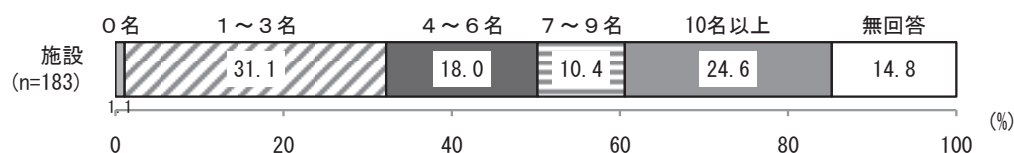
問7-1 非正規職員の人数、給与等

問7で「1 配置している」と回答した方におうかがいします。

貴施設に勤める非正規職員のうち、保育士資格を持つ保育士について、雇用形態別に(1)雇用総人数、(2)平均年齢、(3)勤続年数、(4)給与等をお答えください。

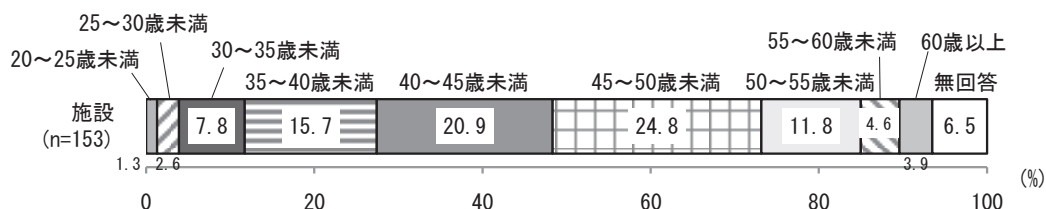
①直接契約

【図7-1①ア 直接契約の非正規（常勤）保育士の雇用総人数】



直接契約の非正規（常勤）保育士の雇用総人数については、「1～3名」が31.1%で最も多く、次いで「10名以上」が24.6%となっている。（図7-1①ア）

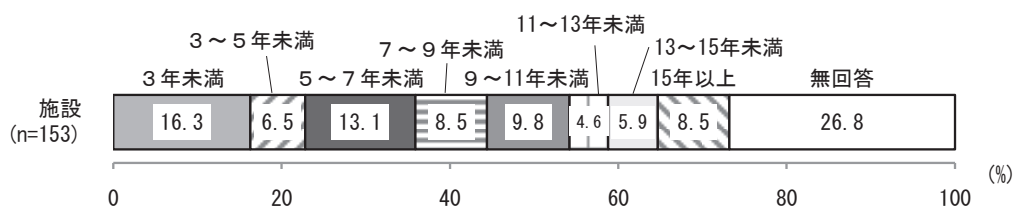
【図7-1①イ 直接契約の非正規（常勤）保育士の平均年齢】



直接契約の非正規（常勤）保育士の平均年齢については、「45～50歳未満」が24.8%で最も多く、次いで「40～45歳未満」が20.9%となっている。（図7-1①イ）

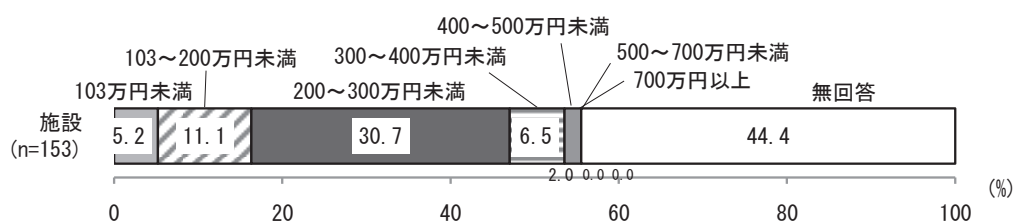
【1 保育施設調査】

【図7-1①ウ 直接契約の非正規（常勤）保育士の勤続年数】



直接契約の非正規（常勤）保育士の勤続年数については、「3年未満」が16.3%で最も多く、次いで「5～7年未満」が13.1%となっている。（図7-1①ウ）

【図7-1①エ 直接契約の非正規（常勤）保育士の給与等】

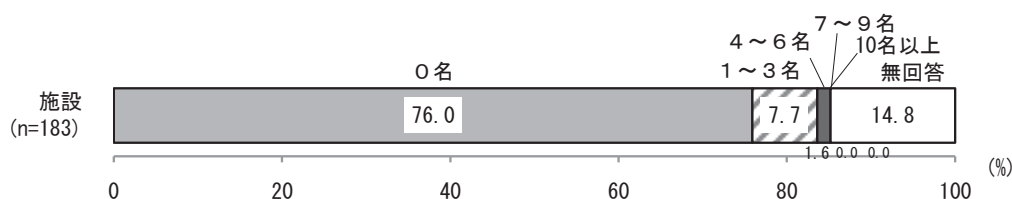


直接契約の非正規（常勤）保育士の給与等については、「200～300万円未満」が30.7%で最も多く、次いで「103～200万円未満」が11.1%となっている。（図7-1①エ）

【1 保育施設調査】

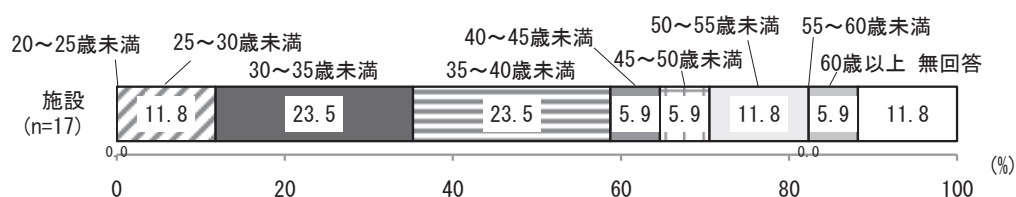
②間接契約

【図7-1②ア 間接契約の非正規（常勤）保育士の雇用総人数】



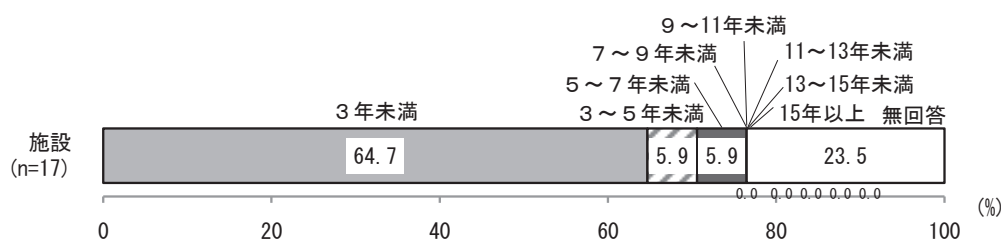
間接契約の非正規（常勤）保育士の雇用総人数については、「0名」が76.0%で最も多く、次いで「1～3名」が7.7%となっている。（図7-1②ア）

【図7-1②イ 間接契約の非正規（常勤）保育士の平均年齢】



間接契約の非正規（常勤）保育士の平均年齢については、「30～35歳未満」と「35～40歳未満」がそれぞれ23.5%で最も多く、次いで「25～30歳未満」と「50～55歳未満」がそれぞれ11.8%となっている。（図7-1②イ）

【図7-1②ウ 間接契約の非正規（常勤）保育士の勤続年数】



間接契約の非正規（常勤）保育士の勤続年数については、「3年未満」が64.7%で最も多くなっている。（図7-1②ウ）

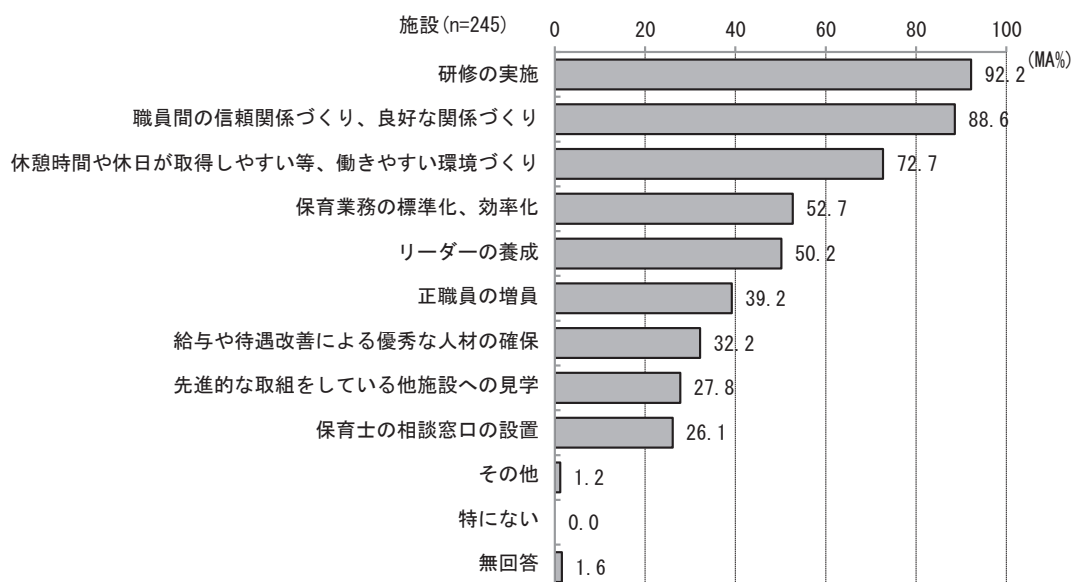
【1 保育施設調査】

問8 職員の質を向上させるための取組

貴施設において、職員の質を向上させるために、ア 現在、取り組んでいること、イ 今後取り組みたいこと、をそれぞれお答えください。(ア・イそれぞれ〇はいくつでも)

ア 職員の質を向上させるために現在取り組んでいること

【図8ア 職員の質を向上させるために現在取り組んでいること】



職員の質を向上させるために現在取り組んでいることについては、「研修の実施」が92.2%で最も多く、次いで「職員間の信頼関係づくり、良好な関係づくり」が88.6%、「休憩時間や休日取得しやすい等、働きやすい環境づくり」が72.7%となっている。(図8ア)

【表8ア 職員の質を向上させるために現在取り組んでいること（施設種別）】

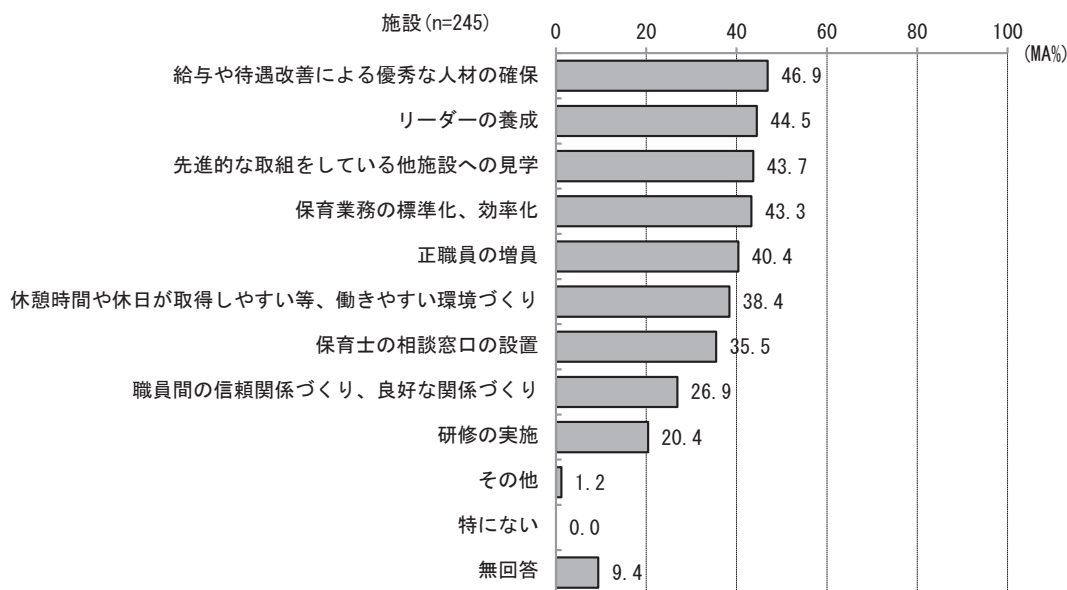
	n	研修の実施	他施設への先進的な取組を見学している	境や休息時間、働きやすい環境づくり	職員間の信頼関係づくり	保育業務の標準化、効率化	給与や待遇改善による優秀な人材の確保	正職員の増員	リーダーの養成	保育士の相談窓口の設置	その他	特にない	無回答
公立保育所	57	94.7	28.1	50.9	93.0	33.3	5.3	14.0	49.1	15.8	3.5	-	1.8
私立保育所	75	90.7	26.7	82.7	80.0	58.7	41.3	58.7	50.7	32.0	-	-	1.3
公立幼保連携型認定こども園	31	96.8	38.7	58.1	96.8	48.4	29.0	29.0	45.2	6.5	3.2	-	-
私立幼保連携型認定こども園	27	88.9	25.9	81.5	85.2	63.0	63.0	66.7	66.7	48.1	-	-	3.7
小規模保育事業所(地域型保育)	34	94.1	26.5	91.2	94.1	70.6	32.4	44.1	52.9	32.4	-	-	-
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	81.3	6.3	87.5	93.8	43.8	50.0	6.3	25.0	25.0	-	-	6.3
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	100.0	-	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-

施設種別にみると、家庭的保育事業所（地域型保育）は「職員間の信頼関係づくり、良好な関係づくり」が多くなっているが、それ以外の施設は「研修の実施」が多くなっている。「職員間の信頼関係づくり、良好な関係づくり」は公立幼保連携型認定こども園や小規模保育事業所（地域型保育）も多くなっている。(表8ア)

【1 保育施設調査】

イ 職員の質を向上させるために今後取り組みたいこと

【図8イ 職員の質を向上させるために今後取り組みたいこと】



職員の質を向上させるために今後取り組みたいことについては、「給与や待遇改善による優秀な人材の確保」が46.9%で最も多く、次いで「リーダーの養成」が44.5%となっている。(図8イ)

【表8イ 職員の質を向上させるために今後取り組みたいこと（施設種別）】

	n	研修の実施	他施設への先進的な取組	見学	環境づくり等	休憩時間や休日取得	職員間の信頼関係づくり	保育業務の標準化、効率化	給与や待遇改善による優秀な人材の確保	正職員の増員	リーダーの養成	保育士の相談窓口の設置	その他	特にない	無回答
公立保育所	57	26.3	38.6	54.4	28.1	50.9	42.1	49.1	47.4	33.3	1.8	-	-	7.0	
私立保育所	75	17.3	49.3	29.3	28.0	38.7	54.7	30.7	46.7	34.7	1.3	-	-	10.7	
公立幼保連携型認定こども園	31	29.0	25.8	58.1	32.3	58.1	54.8	48.4	54.8	25.8	-	-	-	6.5	
私立幼保連携型認定こども園	27	11.1	37.0	25.9	18.5	40.7	37.0	29.6	25.9	40.7	-	-	-	14.8	
小規模保育事業所(地域型保育)	34	17.6	58.8	20.6	23.5	29.4	47.1	41.2	47.1	47.1	-	-	-	2.9	
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	18.8	56.3	25.0	18.8	37.5	25.0	43.8	25.0	25.0	6.3	-	-	25.0	
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	

施設種別にみると、「休憩時間や休日が取得しやすい等、働きやすい環境づくり」と「保育業務の標準化、効率化」は公立幼保連携型認定こども園で最も高くなっている。また「給与や待遇改善による優秀な人材の確保」は私立保育所で最も高くなっている。(表8イ)

問9 現在取り組めていない理由

問8の「ア 現在取り組んでいること」で「11 特にない」と回答した方にお聞きます。現在取り組めていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

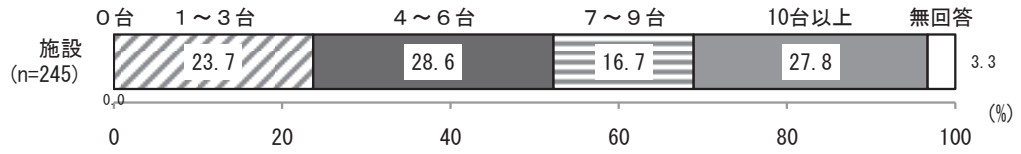
* 「11 特にない」と回答した方がいないため、グラフは省略する。

（3）情報通信技術（ICT）の活用について

問 10 使用しているパソコンやタブレットの台数

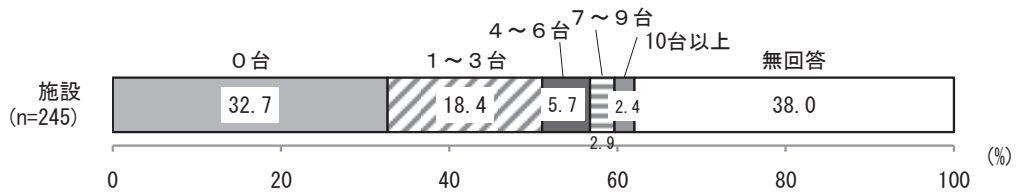
貴施設で使用しているパソコンやタブレットの台数をご記入ください。

【図10① パソコンの台数】



使用しているパソコンの台数については、「4～6台」が28.6%で最も多く、次いで「10台以上」が27.8%となっている。(図10①)

【図10② タブレットの台数】



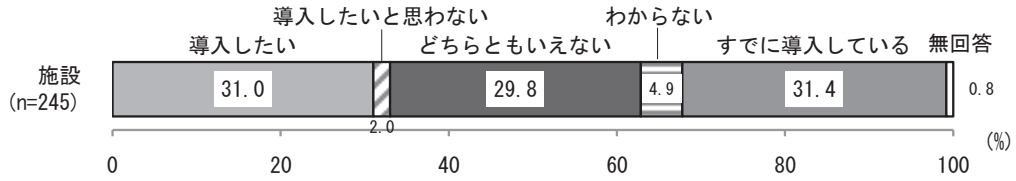
使用しているタブレットの台数については、「0台」が32.7%で最も多く、次いで「1～3台」が18.4%となっている。(図10②)

【1 保育施設調査】

問11 情報通信技術（ICT）の導入を望むか

業務の簡略化、負担軽減のため、情報通信技術（ICT）の導入を望めますか。（○は1つ）

【図11 情報通信技術（ICT）の導入を望むか】



情報通信技術（ICT）の導入を望むかについては、「すでに導入している」が31.4%で最も多く、次いで「導入したい」が31.0%、「どちらともいえない」が29.8%となっている。（図11）

【表11 情報通信技術（ICT）の導入を望むか（施設種別）】

	n	（%）					
		導入したい	導入したいと思わない	どちらともいえない	わからない	すでに導入している	無回答
公立保育所	57	50.9	-	29.8	7.0	10.5	1.8
私立保育所	75	14.7	2.7	28.0	2.7	50.7	1.3
公立幼保連携型認定こども園	31	32.3	-	32.3	3.2	32.3	-
私立幼保連携型認定こども園	27	25.9	-	25.9	3.7	44.4	-
小規模保育事業所(地域型保育)	34	35.3	2.9	32.4	5.9	23.5	-
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	25.0	12.5	43.8	12.5	6.3	-
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	-	-	-	-	100.0	-

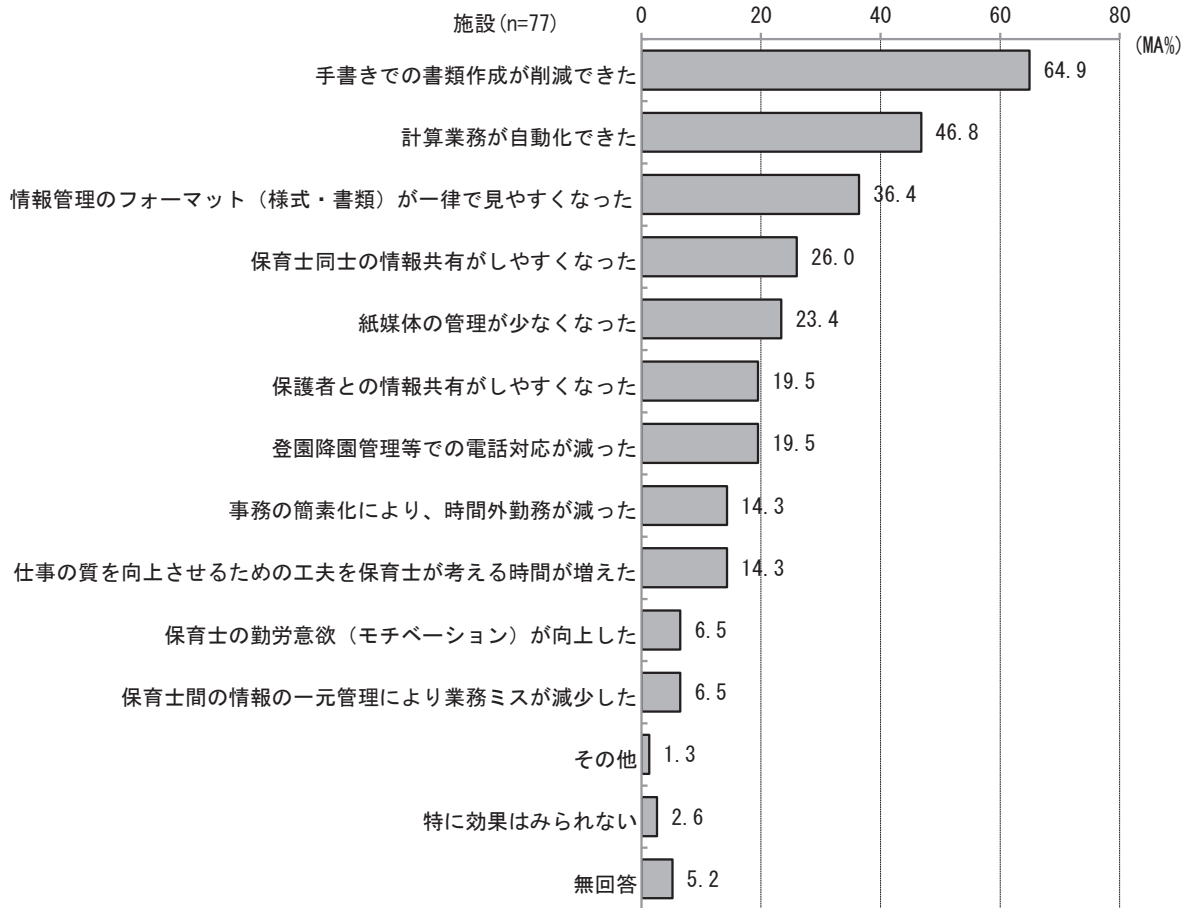
施設種別にみると、「導入したい」は公立保育所で最も高くなっている。また「すでに導入している」は私立保育所で高くなっている。（表11）

【1 保育施設調査】

問11-1 導入の効果

問11で「5 すでに導入している」と回答した施設におうかがいします。
導入して、どのような効果がありましたか。(〇はいくつでも)

【図11-1 導入の効果】



情報通信技術（ICT）をすでに導入していると回答した施設にどのような効果があったかをたずねたところ、「手書きでの書類作成が削減できた」が64.9%で最も多く、次いで「計算業務が自動化できた」が46.8%、「情報管理のフォーマット（様式・書類）が一律で見やすくなった」が36.4%となっている。（図11-1）

【1 保育施設調査】

問12 パソコン等を活用している事務業務

貴施設において、パソコン等の情報通信技術（ICT）を使用して作業されている事務業務をお答えください。（〇はいくつでも）

【図12 パソコン等を活用している事務業務】



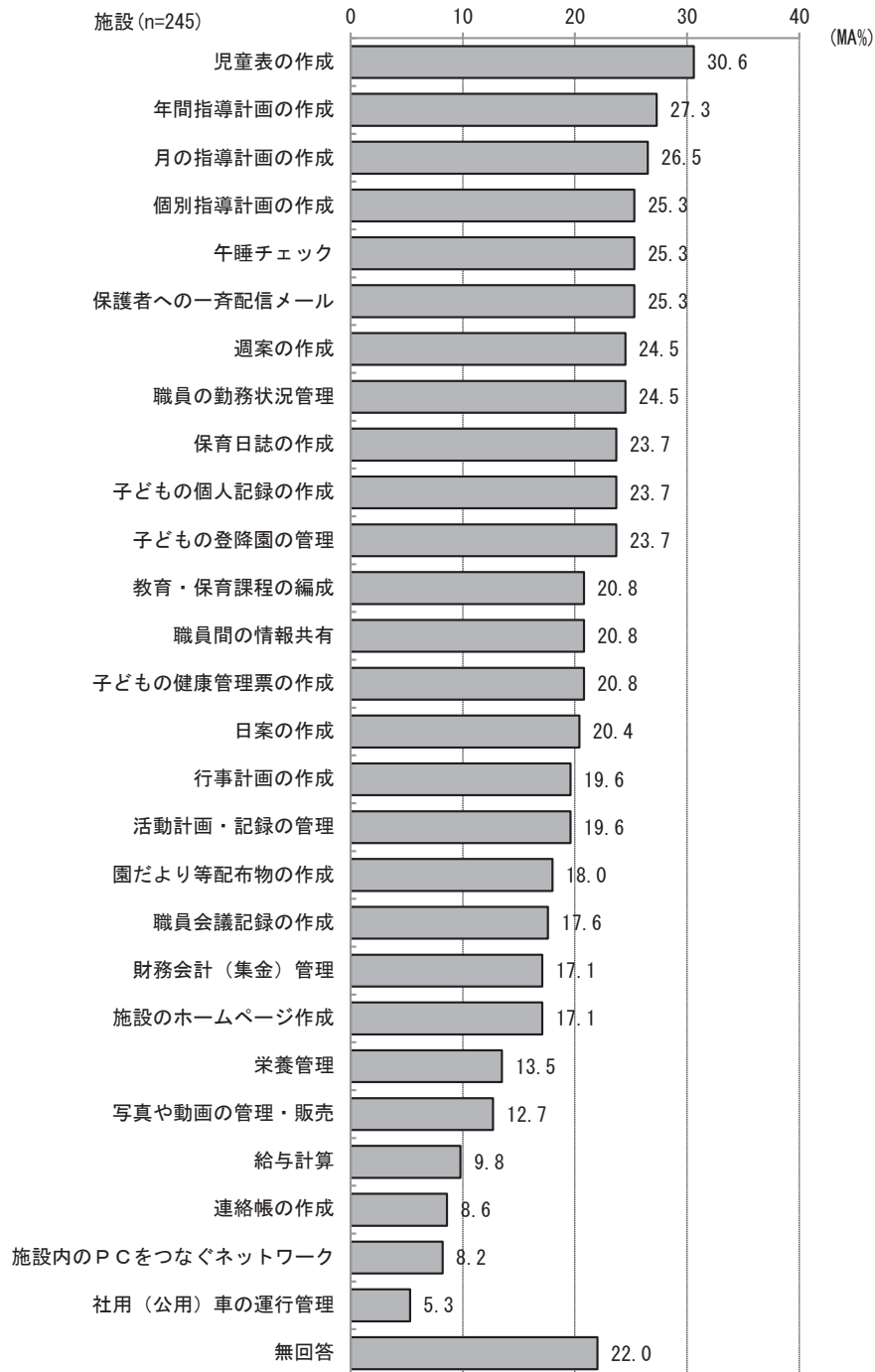
パソコン等の情報通信技術（ICT）を使用して作業している事務業務については、「園だより等配布物の作成」が69.8%で最も多く、次いで「保護者への一斉配信メール」が64.9%、「教育・保育課程の編成」が61.6%となっている。（図12）

【1 保育施設調査】

問 13 パソコン等を活用したい事務業務

貴施設において、今後、パソコン等の情報通信技術（ICT）を使用して作業したいと思う事務業務をお答えください。（〇はいくつでも）

【図13 パソコン等を活用したい事務業務】



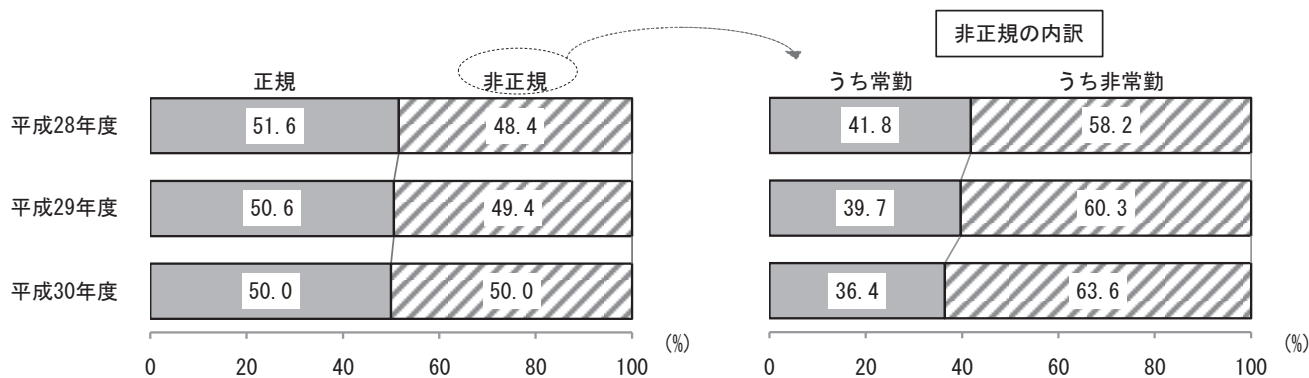
パソコン等の情報通信技術（ICT）を使用して作業したい事務業務については、「児童表の作成」が30.6%で最も多く、次いで「年間指導計画の作成」が27.3%、「月の指導計画の作成」が26.5%となっている。（図13）

（４）保育職員の職場定着に向けた取組状況

問 14 過去3年間の保育士数

貴施設の、過去3年間（H28年度～H30年度）の4月1日時点での保育士の人数をご記入ください。

【図14 過去3年間の保育士数】



上段:実人数 下段:%	正規	非正規	合計
平成28年度	1,817 51.6	1,703 48.4	3,520 100.0
平成29年度	2,014 50.6	1,965 49.4	3,979 100.0
平成30年度	2,323 50.0	2,321 50.0	4,644 100.0

上段:実人数 下段:%	うち常勤	うち非常勤	合計
平成28年度	696 41.8	969 58.2	1,665 100.0
平成29年度	761 39.7	1,156 60.3	1,917 100.0
平成30年度	822 36.4	1,434 63.6	2,256 100.0

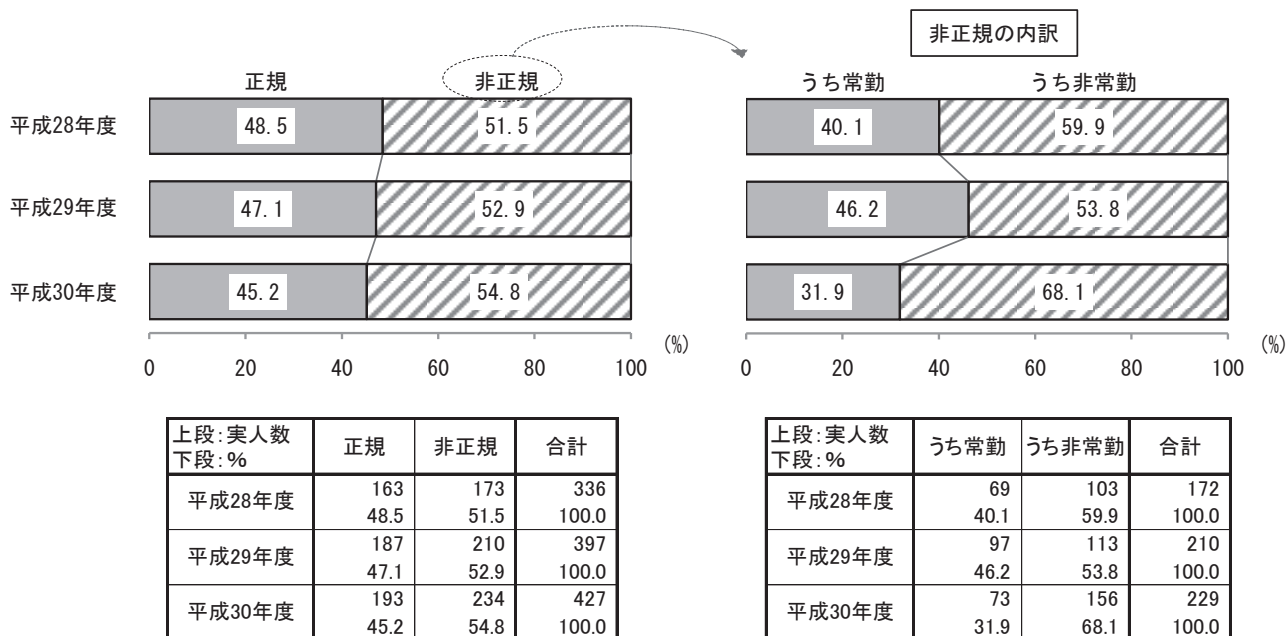
過去3年間の4月1日時点での保育士数については、「正規」職員のほうが「非正規」職員より多いが、平成30年度は同じ割合になっている。また非正規職員の常勤、非常勤については、年々「非常勤」の割合が増加している。（図14）

【1 保育施設調査】

問 15 過去3年間の退職者数

貴施設で、過去3年間（H28年度～H30年度）に自己都合で退職した保育士（定年退職除く）がいますか。いる場合、その人数をご記入ください。

【図15 過去3年間の退職者数】



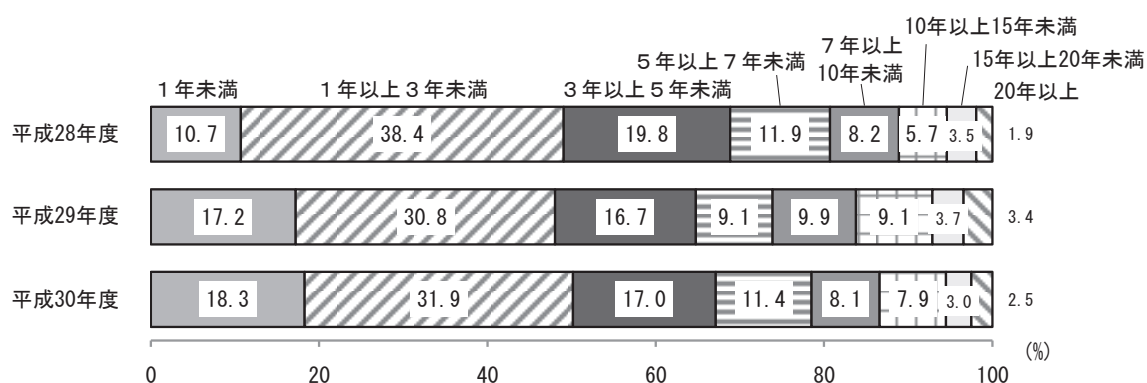
過去3年間に自己都合で退職した保育士数については、いずれの年度も「非正規」職員のほうが「正規」職員より多くなっている。また非正規職員の常勤、非常勤については、いずれの年度も「非常勤」職員のほうが「常勤」職員より多くなっている。（図15）

【1 保育施設調査】

問16 退職者数（勤務年数別の実人数）

問15の退職者（定年退職除く）について、勤務年数別の実人数を記入してください。

【図16 退職者の勤務年数別比率（実人数ベース）】



上段:実人数 下段:%	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
平成28年度	34 10.7	122 38.4	63 19.8	38 11.9	26 8.2	18 5.7	11 3.5	6 1.9	318 100.0
平成29年度	66 17.2	118 30.8	64 16.7	35 9.1	38 9.9	35 9.1	14 3.7	13 3.4	383 100.0
平成30年度	74 18.3	129 31.9	69 17.0	46 11.4	33 8.1	32 7.9	12 3.0	10 2.5	405 100.0

過去3年間に自己都合で退職した保育士の、勤務年数別の比率は、いずれの年度も「1年以上3年未満」が最も多く3割を超えている。また「1年未満」の割合が年々増加している。(図16)

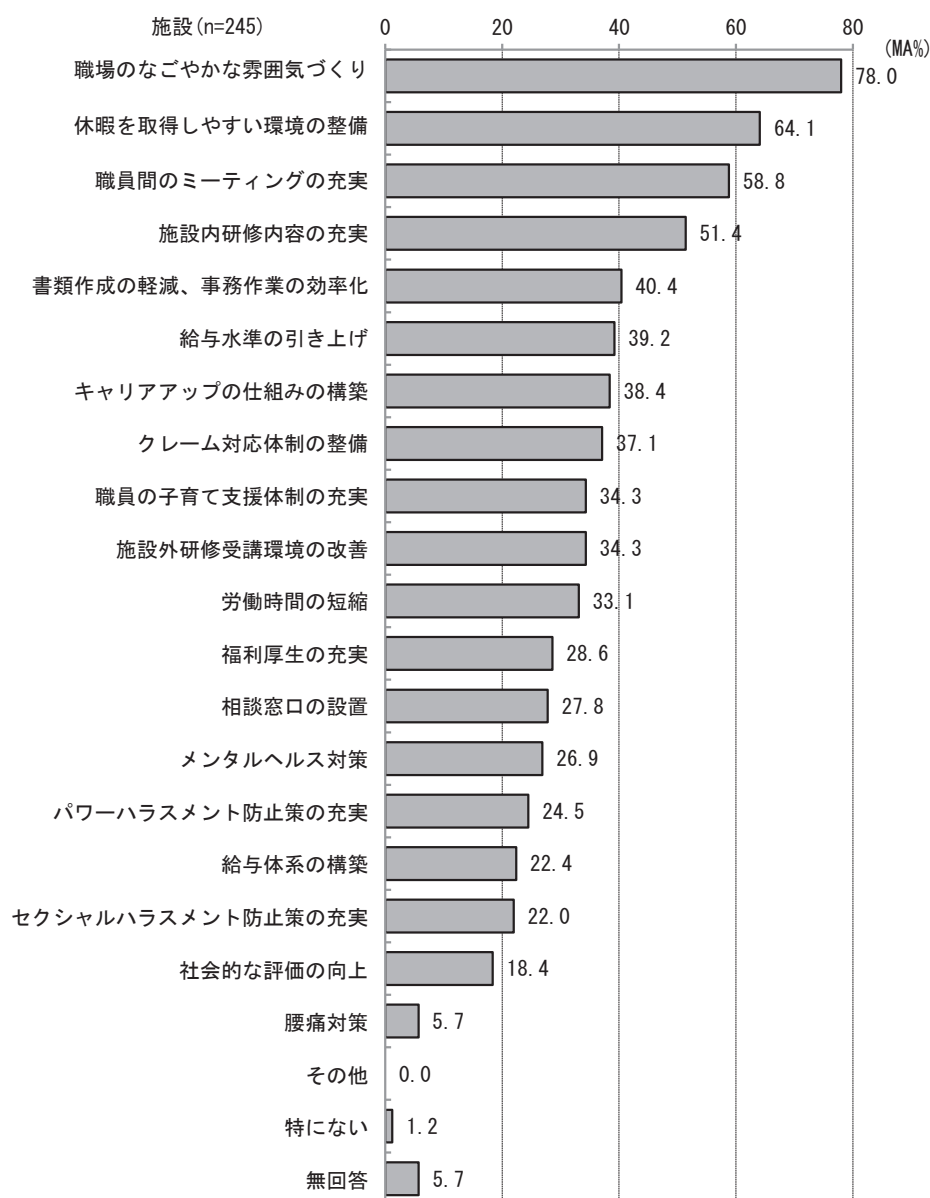
【1 保育施設調査】

問 17 保育士の職場定着のために取り組んでいること、今後取り組みたいこと

貴施設で、ア現在、保育士の職場定着のために取り組んでいることは何ですか。また、イ今後、保育士の職場定着のために取り組みたいと思うことは何ですか。⑳その他の場合は（ ）内に具体的内容をご記入ください。（それぞれ〇はいくつでも）

ア 現在、保育士の職場定着のために取り組んでいること

【図17ア 現在、取り組んでいること】



現在、保育士の職場定着のために取り組んでいることについては、「職場のなごやかな雰囲気づくり」が78.0%で最も多く、次いで「休暇を取得しやすい環境の整備」が64.1%、「職員間のミーティングの充実」が58.8%となっている。（図17ア）

【1 保育施設調査】

【表17ア 現在、取り組んでいること（施設種別）】

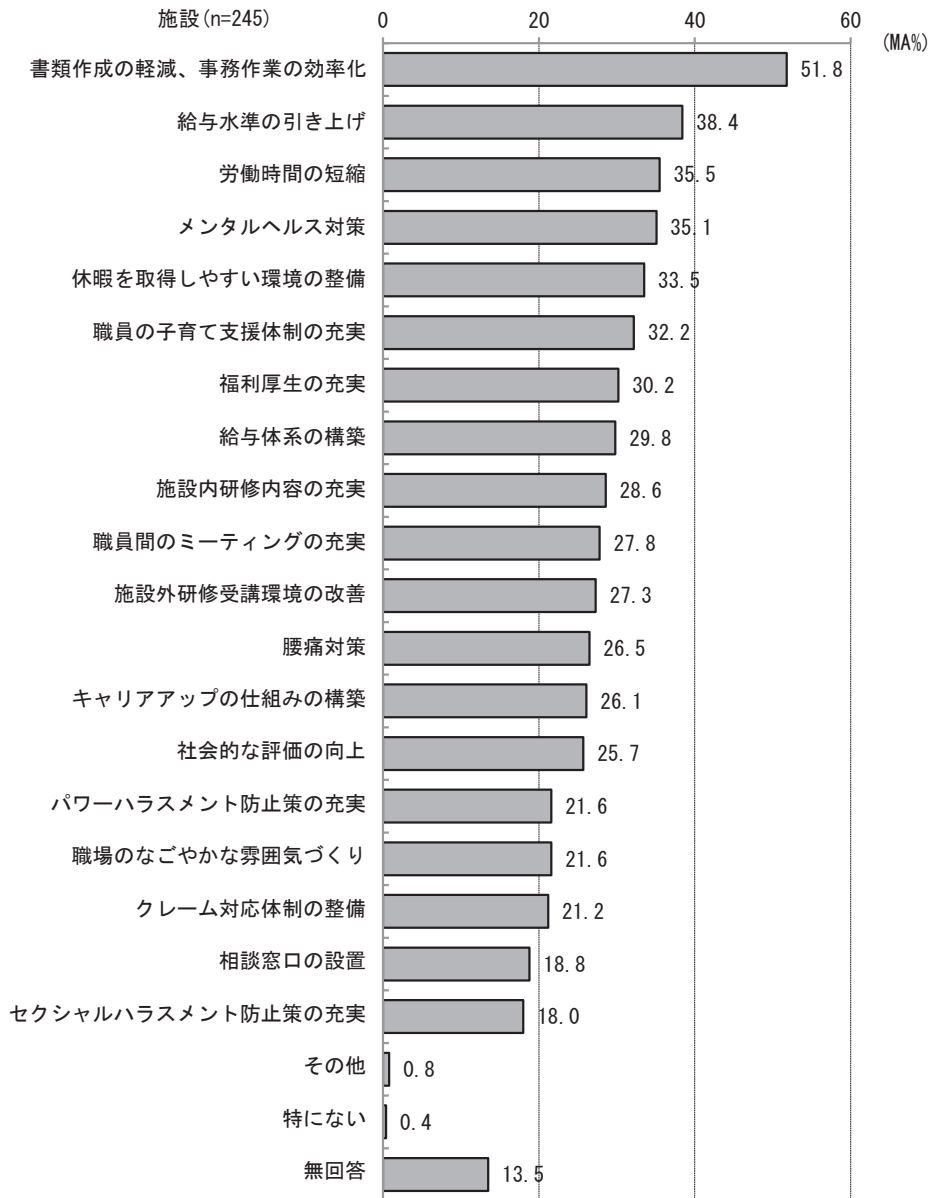
	n	給与水準の引き上げ	給与体系の構築	労働時間の短縮	休暇を取得しやすい環境の整備	職員の子育て支援体制の充実	キャリアアップの仕組みの構築	施設外研修受講環境の改善	施設内研修内容の充実	書類作成の軽減、事務作業の効率化	福利厚生の充実	腰痛対策	メンタルヘルス対策	パワーハラスメント防止策の充実	セクシャルハラスメント防止策の充実	相談窓口の設置	社会的な評価の向上	職場のなごやかな雰囲気づくり	職員間のミーティングの充実	クレーム対応体制の整備	その他	特になし	無回答
公立保育所	57	10.5	7.0	12.3	38.6	15.8	5.3	22.8	43.9	26.3	7.0	3.5	29.8	31.6	22.8	14.0	7.0	75.4	49.1	21.1	-	1.8	14.0
私立保育所	75	57.3	25.3	44.0	76.0	41.3	58.7	46.7	53.3	44.0	42.7	6.7	28.0	22.7	20.0	30.7	21.3	70.7	53.3	44.0	-	-	2.7
公立幼保連携型認定こども園	31	19.4	12.9	41.9	54.8	19.4	12.9	29.0	38.7	48.4	16.1	6.5	29.0	16.1	16.1	19.4	12.9	80.6	45.2	25.8	-	3.2	9.7
私立幼保連携型認定こども園	27	74.1	51.9	37.0	74.1	59.3	70.4	37.0	70.4	40.7	40.7	11.1	25.9	40.7	40.7	51.9	33.3	81.5	70.4	55.6	-	-	3.7
小規模保育事業所 (地域型保育)	34	26.5	23.5	35.3	73.5	41.2	47.1	38.2	52.9	52.9	29.4	-	23.5	17.6	20.6	35.3	26.5	85.3	85.3	41.2	-	-	-
家庭的保育事業所 (地域型保育)	16	75.0	37.5	37.5	75.0	37.5	37.5	18.8	56.3	18.8	37.5	12.5	18.8	6.3	6.3	25.0	18.8	93.8	68.8	43.8	-	6.3	-
事業所内保育事業所 (地域型保育)	1	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-

施設種別にみると、私立保育所では「休暇を取得しやすい環境の整備」が最も多くなっているが、それ以外の施設では「職場のなごやかな雰囲気づくり」が多くなっている。（表17ア）

【1 保育施設調査】

イ 今後、保育士の職場定着のために取り組みたいこと

【図17イ 今後、取り組みたいこと】



今後、保育士の職場定着のために取り組みたいことについては、「書類作成の軽減、事務作業の効率化」が51.8%で最も多く、次いで「給与水準の引き上げ」38.4%、「労働時間の短縮」が35.5%となっている。(図17イ)

【1 保育施設調査】

【表17イ 今後、取り組みたいこと（施設種別）】

(%)

	n	給与水準の引き上げ	給与体系の構築	労働時間の短縮	休暇を取得しやすい環境の整備	職員の子育て支援体制の充実	キャリアアップの仕組みの構築	施設外研修受講環境の改善	施設内研修内容の充実	書類作成の軽減、事務作業の効率化	福利厚生の充実	腰痛対策	メンタルヘルス対策	パワーハラスメント防止策の充実	セクシャルハラスメント防止策の充実	相談窓口の設置	社会的な評価の向上	職場のなごやかな雰囲気づくり	職員間のミーティングの充実	クレーム対応体制の整備	その他	特になし	無回答
公立保育所	57	26.3	17.5	40.4	38.6	38.6	24.6	21.1	21.1	54.4	21.1	14.0	19.3	14.0	14.0	14.0	21.1	26.3	33.3	21.1	-	-	21.1
私立保育所	75	36.0	33.3	28.0	25.3	29.3	25.3	34.7	33.3	50.7	29.3	28.0	33.3	28.0	22.7	21.3	26.7	17.3	28.0	20.0	-	-	10.7
公立幼保連携型認定こども園	31	48.4	29.0	38.7	41.9	29.0	19.4	22.6	19.4	54.8	19.4	9.7	35.5	6.5	6.5	9.7	12.9	25.8	22.6	3.2	-	-	19.4
私立幼保連携型認定こども園	27	37.0	25.9	44.4	33.3	29.6	25.9	37.0	29.6	59.3	40.7	40.7	44.4	18.5	18.5	25.9	25.9	22.2	29.6	18.5	3.7	-	14.8
小規模保育事業所 (地域型保育)	34	52.9	44.1	35.3	35.3	35.3	38.2	23.5	32.4	41.2	44.1	41.2	47.1	32.4	20.6	23.5	41.2	17.6	17.6	44.1	-	-	5.9
家庭的保育事業所 (地域型保育)	16	31.3	31.3	25.0	31.3	31.3	25.0	18.8	43.8	50.0	43.8	37.5	50.0	25.0	25.0	25.0	31.3	18.8	37.5	18.8	6.3	6.3	6.3
事業所内保育事業所 (地域型保育)	1	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-

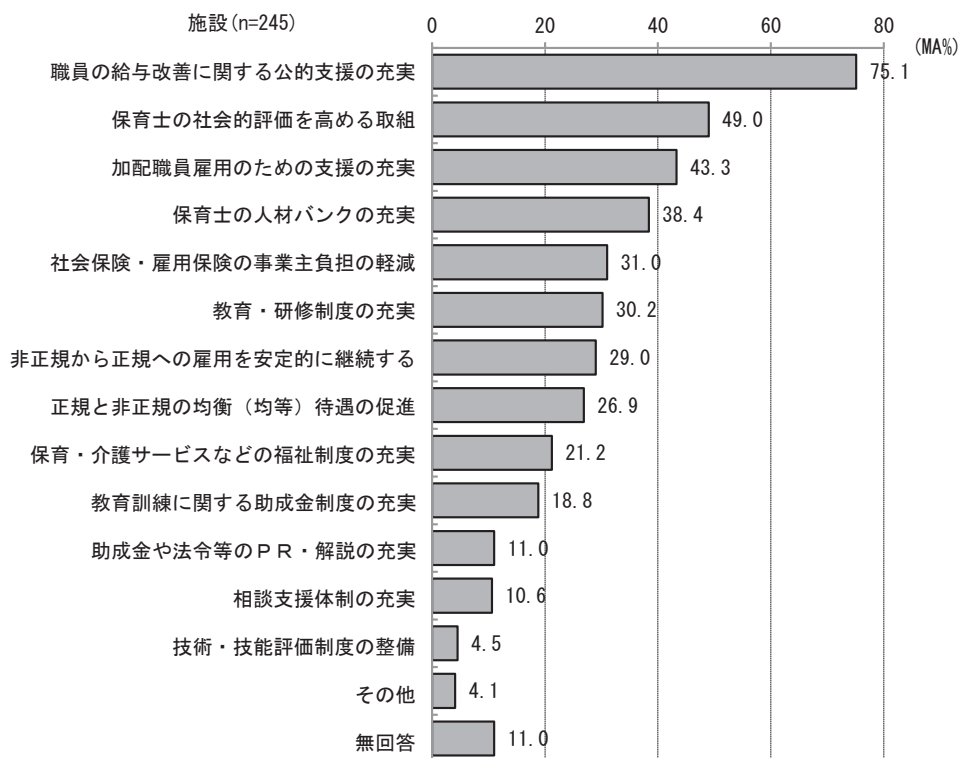
施設種別にみると、「小規模保育事業所（地域型保育）」では「給与水準の引き上げ」が多く、それ以外の施設では「書類作成の軽減、事務作業の効率化」が多くなっている。（表 17 イ）

【1 保育施設調査】

問 18 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援

貴施設において、保育士を安定的に雇用していくために望む公的支援は何ですか。
(〇はいくつでも)

【図18 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援】



保育士の安定的な雇用のために望む公的支援については、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が75.1%で最も多く、次いで「保育士の社会的評価を高める取組」が49.0%、「加配職員雇用のための支援の充実」が43.3%となっている。(図18)

【表18 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援（施設種別）】

	n	職員の給与改善に関する公的支援の充実	非正規から正規への雇いを安定的に継続する	正規と非正規の均衡（均等）待遇の促進	社会保険・雇用保険の事業主負担の軽減	保育士の人材バンクの充実	保育・介護サービスなどの福祉制度の充実	教育訓練に関する助成金制度の充実	教育・研修制度の充実	相談支援体制の充実	技術・技能評価制度の整備	高まる取組の社会的評価を高める取組の充実	助成金や法令等のPR・解説の充実	加配職員雇用のための支援の充実	その他	無回答
公立保育所	57	50.9	40.4	29.8	8.8	28.1	12.3	7.0	28.1	10.5	3.5	50.9	-	31.6	1.8	21.1
私立保育所	75	86.7	21.3	26.7	40.0	41.3	26.7	17.3	29.3	10.7	1.3	49.3	12.0	48.0	5.3	8.0
公立幼保連携型認定こども園	31	64.5	51.6	29.0	12.9	32.3	19.4	3.2	9.7	6.5	3.2	41.9	6.5	38.7	-	19.4
私立幼保連携型認定こども園	27	92.6	29.6	37.0	48.1	59.3	25.9	33.3	48.1	14.8	11.1	63.0	22.2	63.0	7.4	3.7
小規模保育事業所(地域型保育)	34	85.3	14.7	26.5	41.2	52.9	20.6	41.2	38.2	11.8	11.8	41.2	20.6	50.0	5.9	2.9
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	68.8	12.5	-	56.3	12.5	25.0	25.0	37.5	6.3	-	43.8	18.8	25.0	6.3	6.3
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	100.0	-	100.0	-	-	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	-

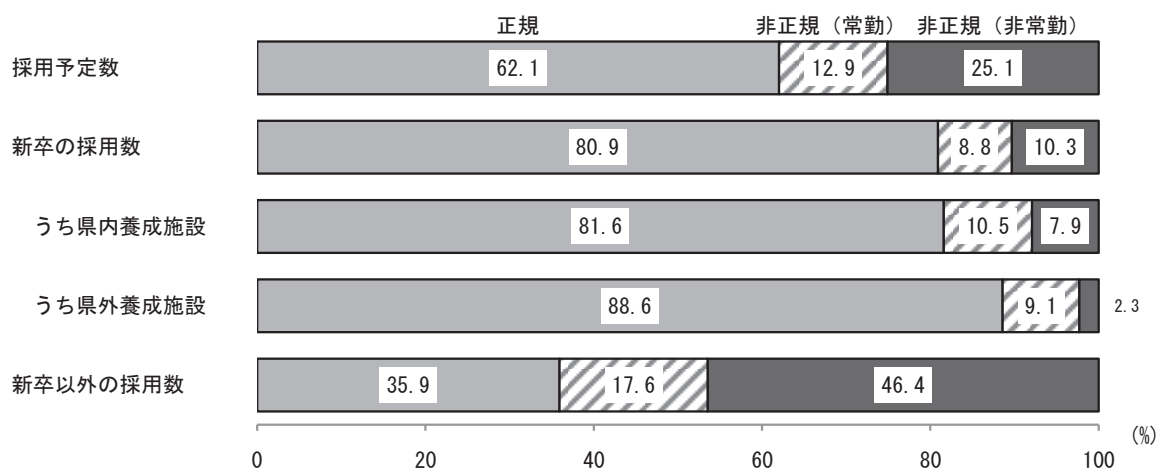
施設種別にみると、どの施設も「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が最も多くなっている。また公立保育所では「保育士の社会的評価を高める取組」も多くなっている。(表18)

（5）保育士の採用状況

問 19 昨年度の保育士の採用状況

昨年度（平成30年度）の「（1）新卒」及び「（2）新卒以外」の採用状況それぞれについて、該当する欄に数字をご記入ください。

【図19 昨年度の保育士の採用状況】



上段:実人数 下段:%	正規	非正規 (常勤)	非正規 (非常勤)	合計
採用予定数	280 62.1	58 12.9	113 25.1	451 100.0
新卒の採用数	165 80.9	18 8.8	21 10.3	204 100.0
うち県内養成施設	62 81.6	8 10.5	6 7.9	76 100.0
うち県外養成施設	78 88.6	8 9.1	2 2.3	88 100.0
新卒以外の採用数	110 35.9	54 17.6	142 46.4	306 100.0

昨年度の保育士の採用状況について、『採用予定数』は「正規」が62.1%、「非正規（常勤）」が12.9%、「非正規（非常勤）」が25.1%となっている。

『新卒の採用数』は「正規」が8割以上となっている。

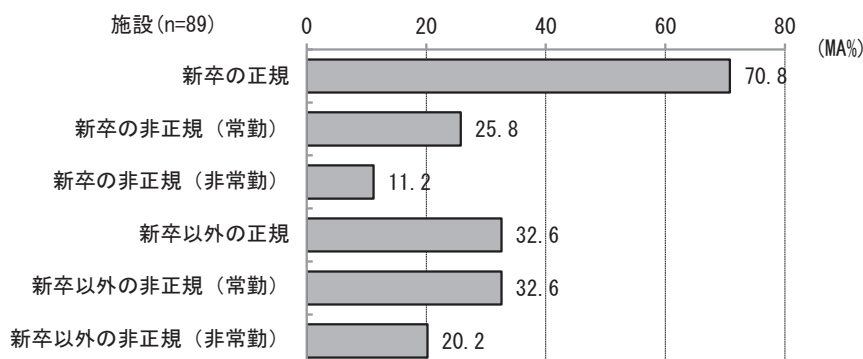
『新卒以外の採用数』は「非正規（非常勤）」が最も多く5割近くを占めている。（図19）

【1 保育施設調査】

問 20 応募が少なかった雇用形態

昨年度（平成30年度）の採用において、募集に対し応募が、「なかった」または「募集より応募が少なかった」場合は、その雇用形態について選択肢より選び記入してください。（○はいくつでも）

【図20 応募が少なかった雇用形態】

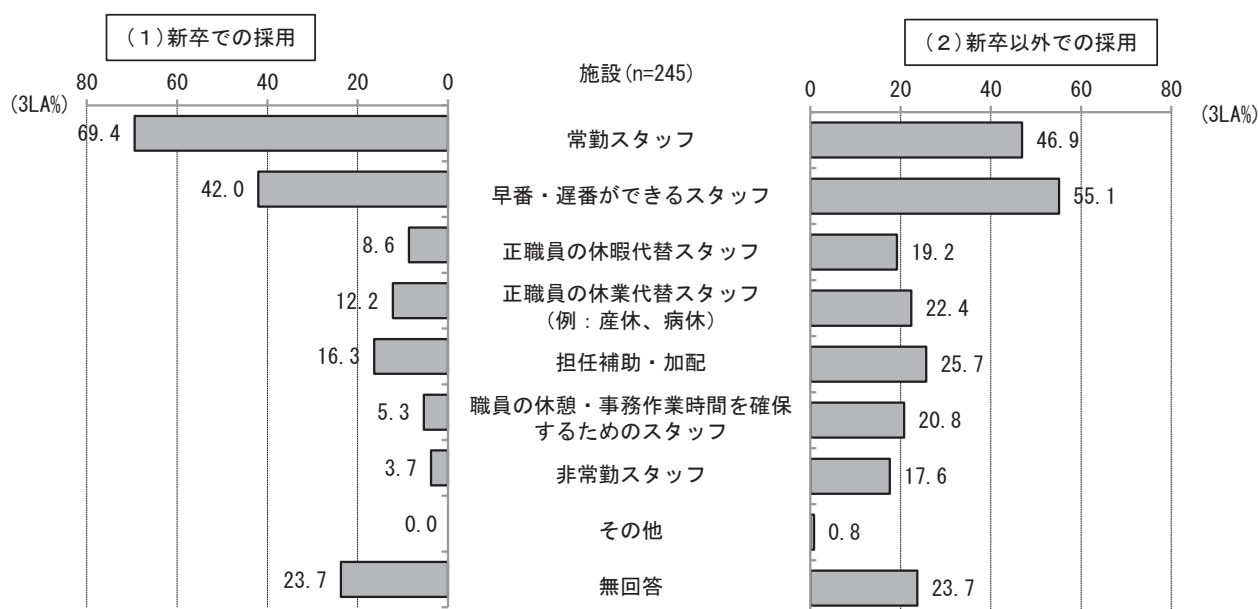


募集に対し応募がなかった、または応募が少なかった場合の、その雇用形態については、「新卒の正規」が70.8%で最も多くなっている。（図20）

問 21 求めているスタッフの雇用形態等

どのようなスタッフを求めているか、(1)と(2)それぞれの場合について、選択肢より3つまで選び、番号に○を記入してください。（○はそれぞれ3つまで）

【図21 求めているスタッフの雇用形態等】



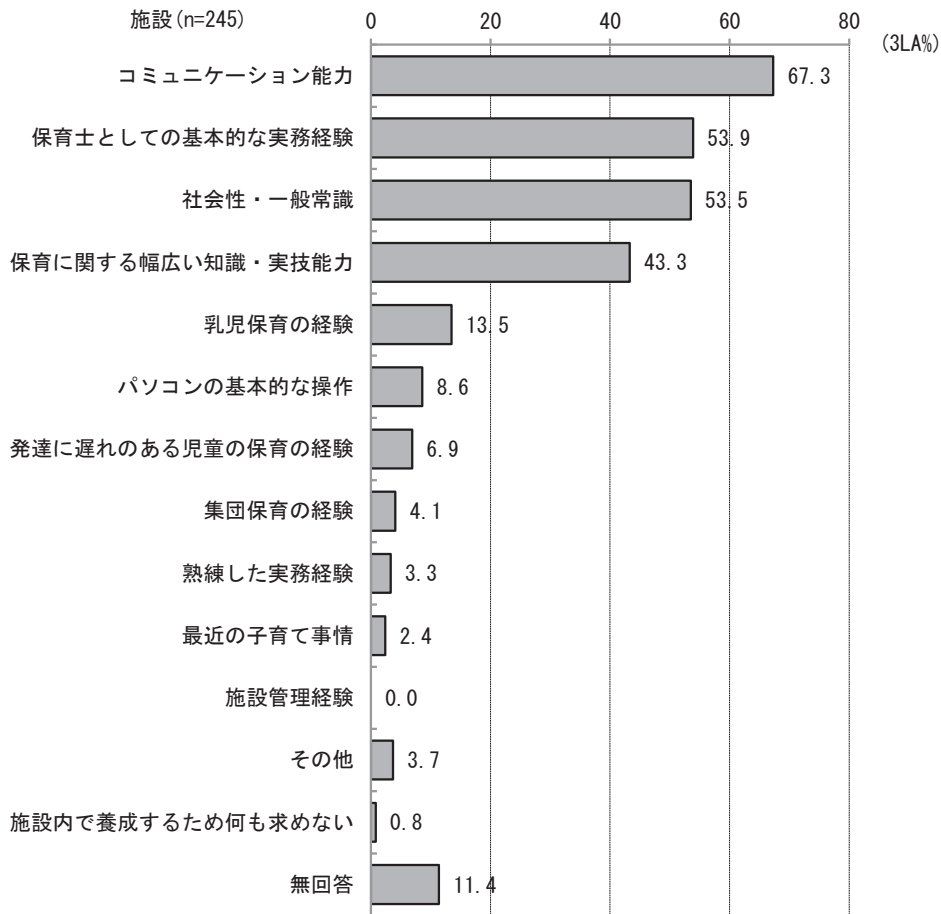
求めているスタッフの雇用形態等について、(1)新卒での採用では「常勤スタッフ」が69.4%で最も多く、次いで「早番・遅番ができるスタッフ」が42.0%となっている。(2)新卒以外での採用では「早番・遅番ができるスタッフ」が55.1%で最も多く、次いで「常勤スタッフ」が46.9%となっている。（図21）

【1 保育施設調査】

問 22 採用する保育士に求める技術・知識

採用する保育士に求める技術・知識についておうかがいします。(〇は3つまで)

【図22 採用する保育士に求める技術・知識】



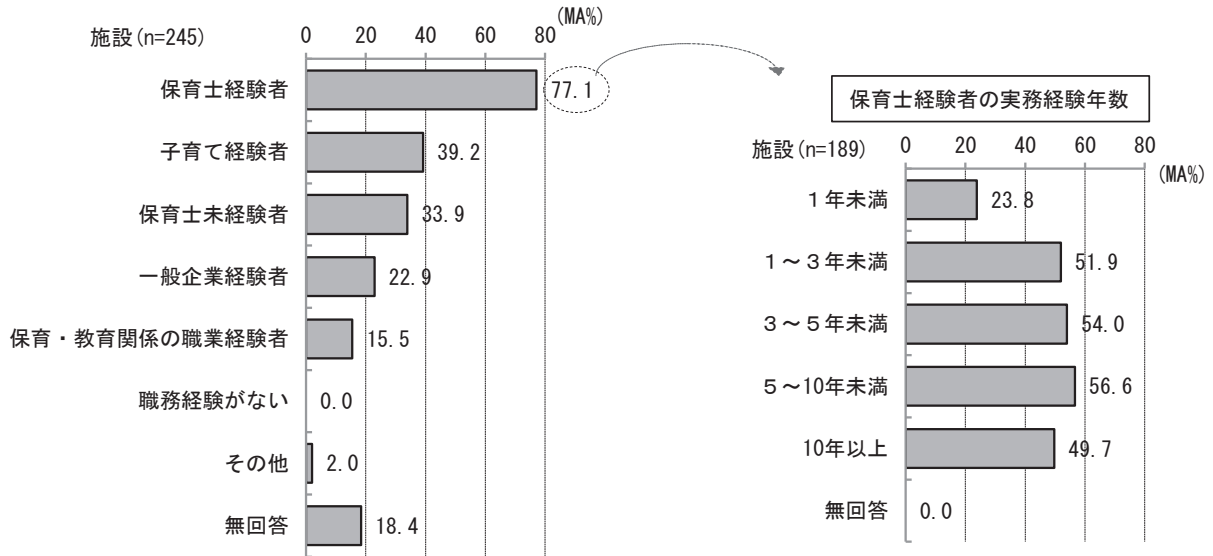
採用する保育士に求める技術・知識については、「コミュニケーション能力」が67.3%で最も多く、次いで「保育士としての基本的な実務経験」が53.9%、「社会性・一般常識」が53.5%となっている。(図22)

【1 保育施設調査】

問 23 新卒以外で採用した保育士の経歴

これまで新卒以外で採用した保育士について、保育士の経験についてお答えください。
(〇はいくつでも)

【図23 新卒以外で採用した保育士の経歴】



新卒以外で採用した保育士の経歴については、「保育士経験者」が77.1%で最も多く、次いで「子育て経験者」が39.2%、「保育士未経験者」が33.9%となっている。

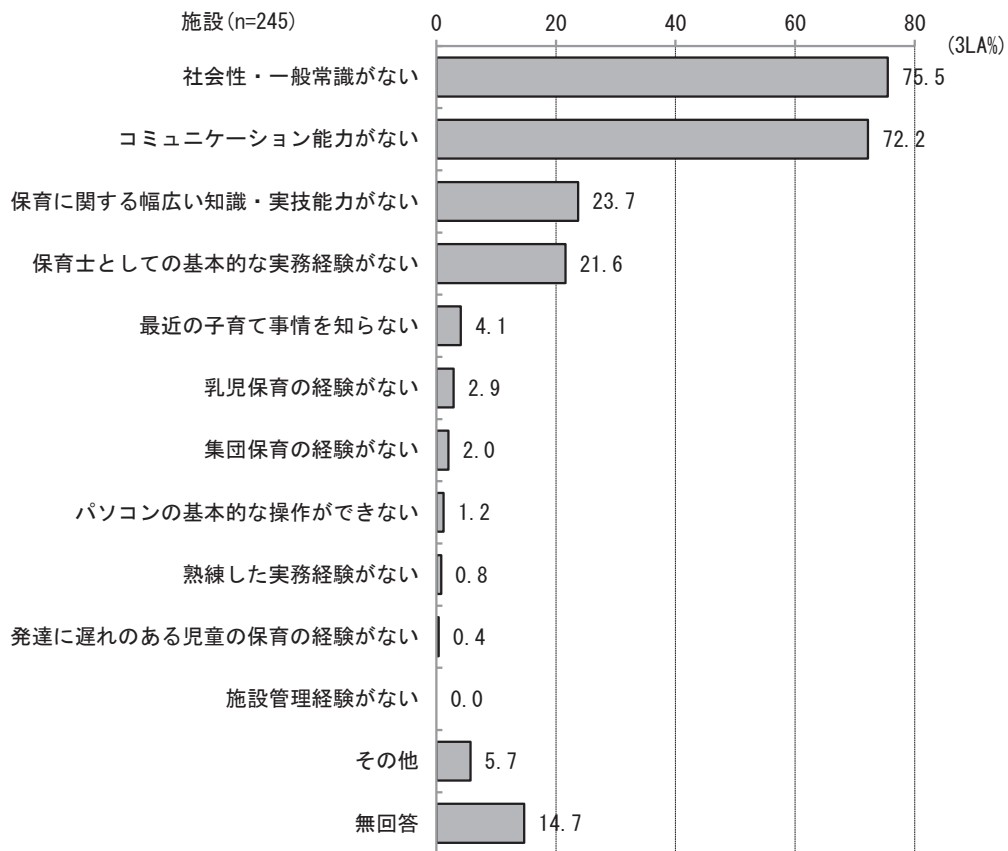
また保育士経験者の実務経験年数については、「5～10年未満」が56.6%で最も多い。(図23)

【1 保育施設調査】

問 24 採用に至らない方

採用に至らない方、あるいは採用するには心配な方はどんな方ですか。(〇は3つまで)

【図24 採用に至らない方】



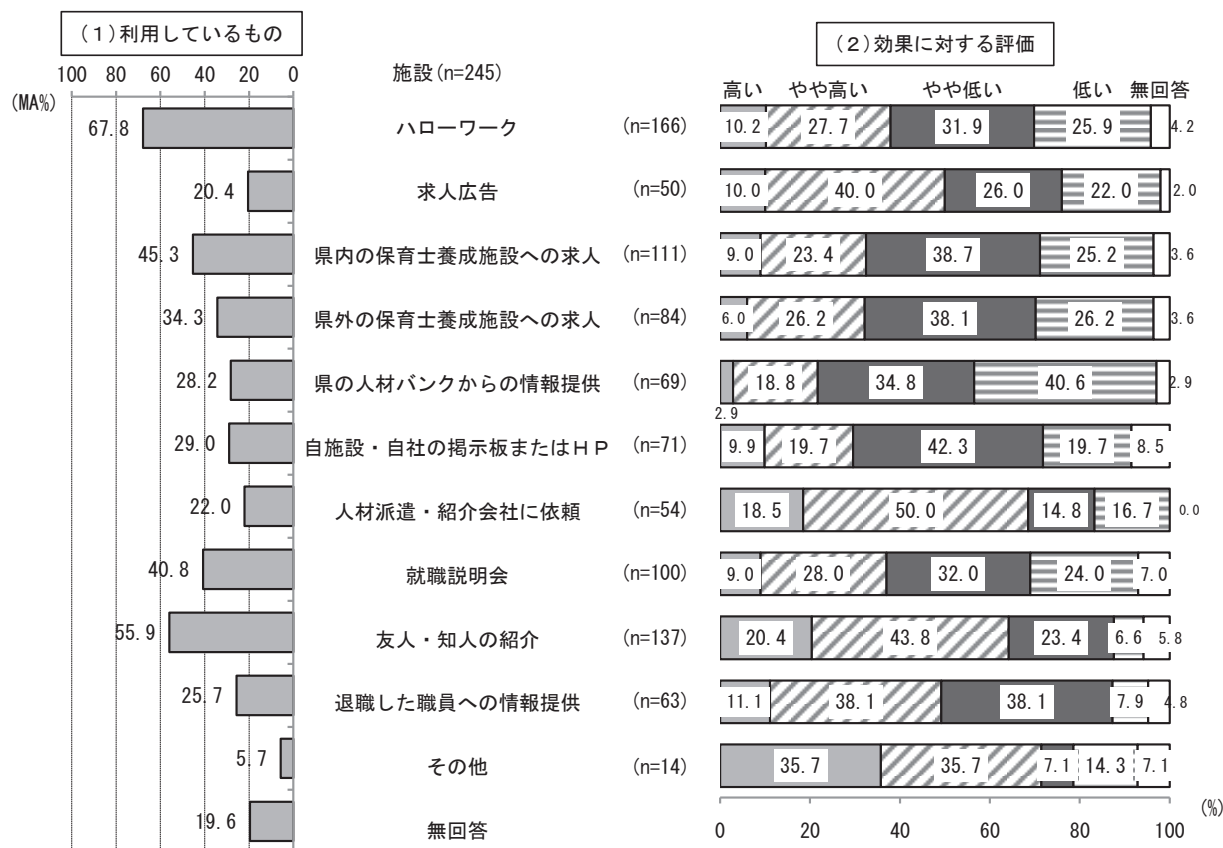
採用に至らない方あるいは採用するには心配な方については、「社会性・一般常識がない」が75.5%で最も多く、次いで「コミュニケーション能力がない」が72.2%となっている。(図24)

【1 保育施設調査】

問 25 利用している求人手段とその効果

- (1) 利用している求人手段をお答えください。(〇はいくつでも)
 (2) その効果について4段階で評価してください。(〇はそれぞれ1つずつ)

【図25 利用している求人手段とその効果】



(1) 利用している求人手段については、「ハローワーク」が67.8%で最も多く、次いで「知人・友人の紹介」が55.9%、「県内の保育士養成施設への求人」が45.3%となっている。

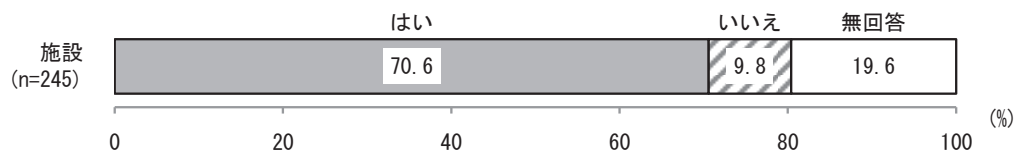
(2) 利用している求人手段の効果については、『効果が高い』（「高い」と「やや高い」の合計）と評価されているのは、『人材派遣・紹介会社に依頼』（68.5%）、『友人・知人の紹介』（64.2%）となっている。一方『効果が低い』（「低い」と「やや低い」の合計）と評価されているのは、『県の人材バンクからの情報提供』（75.4%）、『自施設・自社の掲示板またはHP』（62.0%）となっている。（図25）

【1 保育施設調査】

問 26 保育士採用の困難の有無

現在、保育士の採用に困難を感じていますか。(○は1つ) またその理由はどんなことですか。

【図26 保育士採用の困難の有無】



保育士の採用に困難を感じているかについては、「はい」が70.6%、「いいえ」が9.8%となっている。(図26)

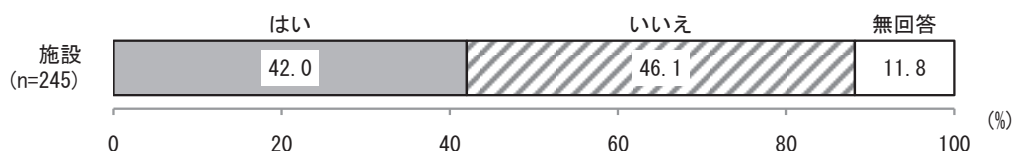
困難を感じる理由として、『求人を出しても応募がない、少ない』『施設が求める勤務時間や雇用形態に合う人材がいない』『保育士不足、絶対数が少ない』『給与が低い、給与の良い近隣の園や地域に人が流れている』『新卒の採用が難しい、新卒の希望者が少ない』『施設が増えて人材の取り合いになっている』などの回答があった。

(6) 潜在保育士について

問 27 過去3年間の潜在保育士の雇用の有無

貴施設において、過去3年間（平成28年度～30年度）に潜在保育士を雇用したケースがありますか。（〇は1つ）

【図27 潜在保育士の雇用の有無】

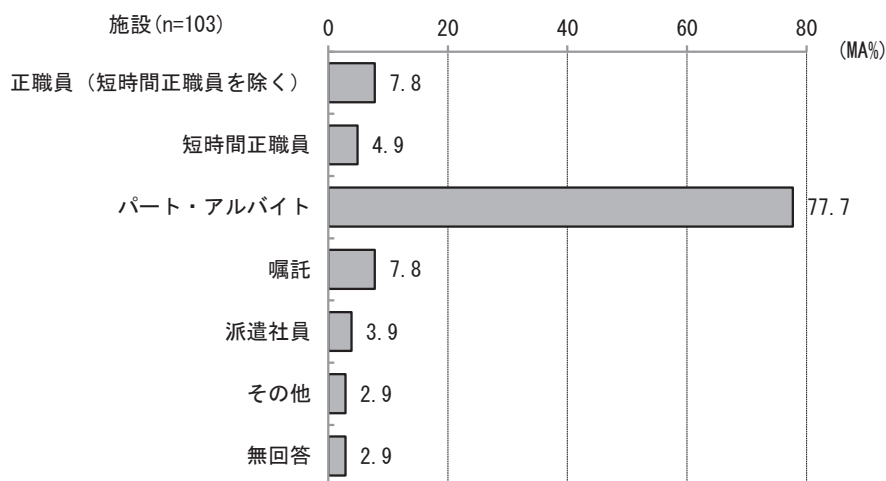


過去3年間に潜在保育士を雇用したケースがあるかについては、「はい」が42.0%、「いいえ」が46.1%となっている。（図27）

問 28 潜在保育士の雇用形態

雇用した潜在保育士が複数名いる場合は直近の方に関してお答えください。
雇用した潜在保育士の雇用形態は次のうちどれですか。（〇は1つ）

【図28 潜在保育士の雇用形態】



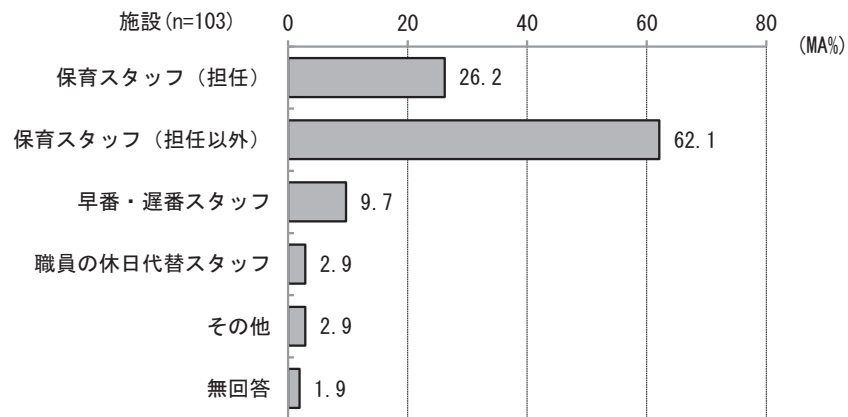
潜在保育士を雇用したことがあると回答した施設に、潜在保育士の雇用形態をたずねたところ、「パート・アルバイト」が77.7%で最も多く、次いで「正職員（短時間正職員を除く）」「嘱託」がそれぞれ7.8%となっている。（図28）

【1 保育施設調査】

問 29 潜在保育士の担当

雇用した潜在保育士は次のうちどのスタッフですか。(○は1つ)

【図29 潜在保育士の担当】

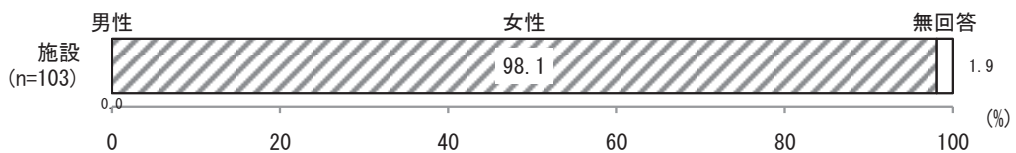


雇用した潜在保育士の担当については、「保育スタッフ (担任以外)」が 62.1%で最も多く、次いで「保育スタッフ (担任)」が 26.2%となっている。(図 29)

問 30 雇用した潜在保育士の性別

性別についてお答えください。(○は1つ)

【図30 雇用した潜在保育士の性別】



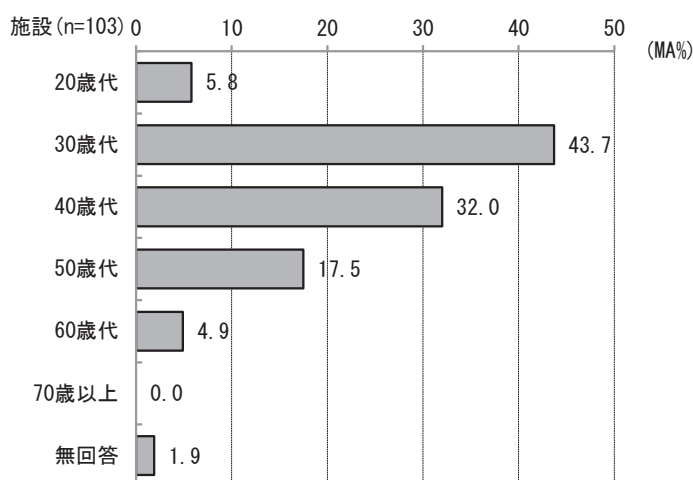
雇用した潜在保育士の性別については、「女性」が 98.1%となっている。(図 30)

【1 保育施設調査】

問 31 雇用した潜在保育士の年代

年代についてお答えください。(○は1つ)

【図31 雇用した潜在保育士の年代】

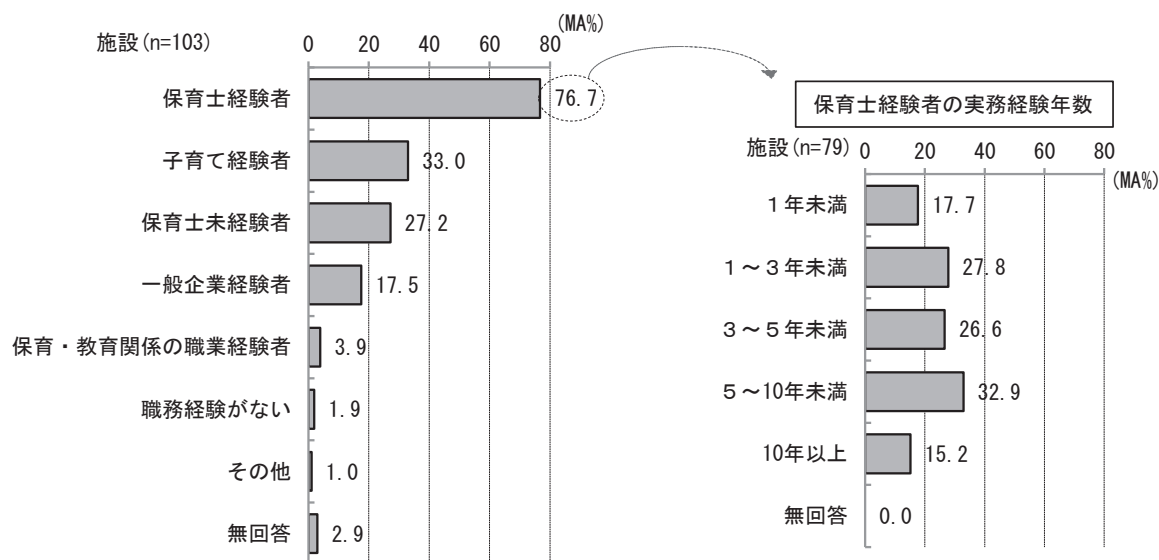


雇用した潜在保育士の年代については、「30歳代」が43.7%で最も多く、次いで「40歳代」が32.0%となっている。(図31)

問 32 雇用した潜在保育士の実務経験等

雇用した潜在保育士の実務経験等についてお答えください。(○はいくつでも)

【図32 雇用した潜在保育士の実務経験等】



雇用した潜在保育士の実務経験等については、「保育士経験者」が76.7%で最も多く、次いで「子育て経験者」が33.0%、「保育士未経験者」が27.2%となっている。

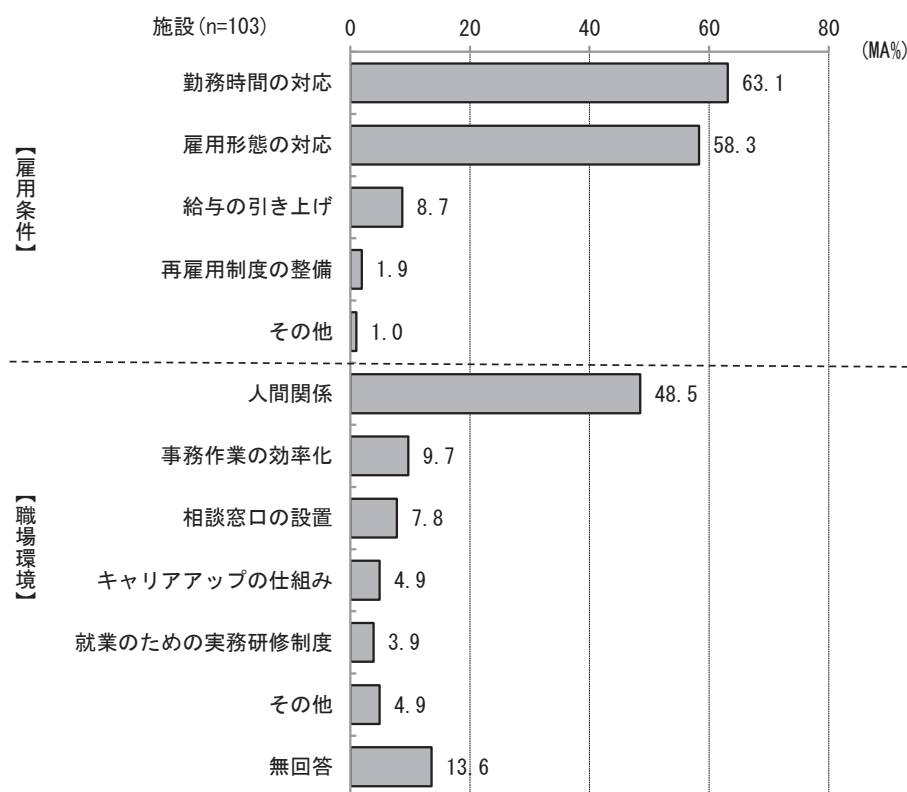
保育士経験者の実務経験年数については、「5～10年未満」が32.9%で最も多く、次いで「1～3年未満」が27.8%となっている。(図32)

【1 保育施設調査】

問 33 潜在保育士の雇用の際の工夫

潜在保育士の雇用の際、工夫したことはありますか。(〇はいくつでも)

【図33 潜在保育士の雇用の際の工夫】



潜在保育士の雇用の際の工夫について、【雇用条件】では「勤務時間の対応」が63.1%で最も多く、次いで「雇用形態の対応」が58.3%となっている。【職場環境】では「人間関係」が48.5%で最も多く、次いで「事務作業の効率化」が9.7%となっている（図33）

【表33 潜在保育士の雇用の際の工夫（施設種別）】

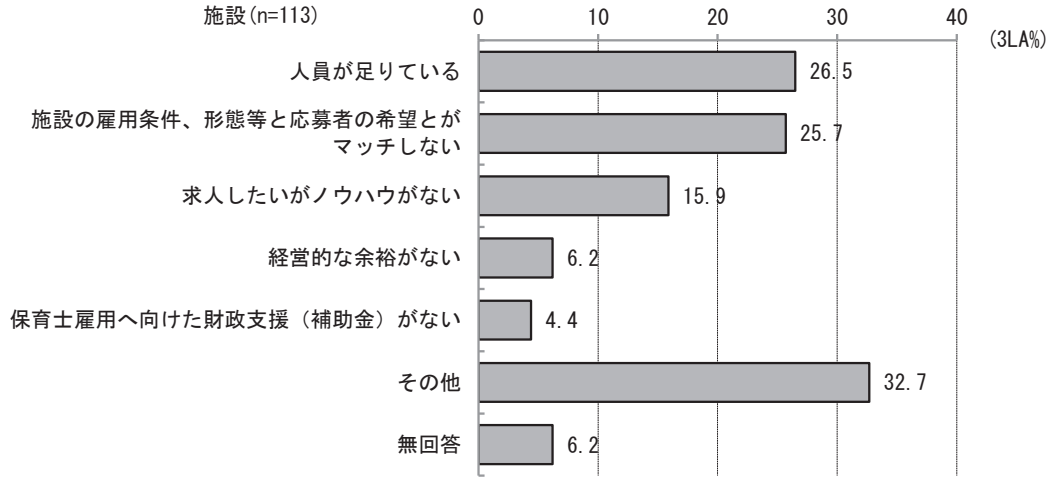
	n	給与の引き上げ	勤務時間の対応（短縮、隔日勤務等）	雇用形態の対応（パート等）	再雇用制度（退職者を満了後の復職を促す）	その他の雇用条件	就業のための実務研修制度	人間関係（例：潜在的保育士への積極的サポート）	相談窓口の設置	キャリアアップの仕組み	事務作業の効率化	その他の職場環境	無回答
公立保育所	21	4.8	42.9	33.3	-	-	4.8	42.9	-	-	4.8	-	28.6
私立保育所	37	16.2	70.3	73.0	5.4	2.7	5.4	48.6	10.8	8.1	13.5	5.4	5.4
公立幼保連携型認定こども園	16	-	50.0	25.0	-	-	-	31.3	6.3	-	-	6.3	25.0
私立幼保連携型認定こども園	13	7.7	76.9	84.6	-	-	7.7	61.5	15.4	7.7	7.7	-	-
小規模保育事業所（地域型保育）	8	-	87.5	87.5	-	-	-	62.5	12.5	12.5	25.0	-	12.5
家庭的保育事業所（地域型保育）	7	14.3	71.4	57.1	-	-	-	71.4	-	-	14.3	28.6	-
事業所内保育事業所（地域型保育）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

施設種別にみると、公立保育所では「勤務時間の対応」と「人間関係」が、私立保育所と私立幼保連携型認定こども園では「雇用形態の対応」が、公立幼保連携型認定こども園では「勤務時間」が多くなっている。（表33）

問34 潜在保育士を雇用しない理由

問27で「2 いいえ」と回答した施設におうかがいします。
雇用しない（またはできない）理由は何ですか。（〇は3つまで）

【図34 潜在保育士を雇用しない理由】

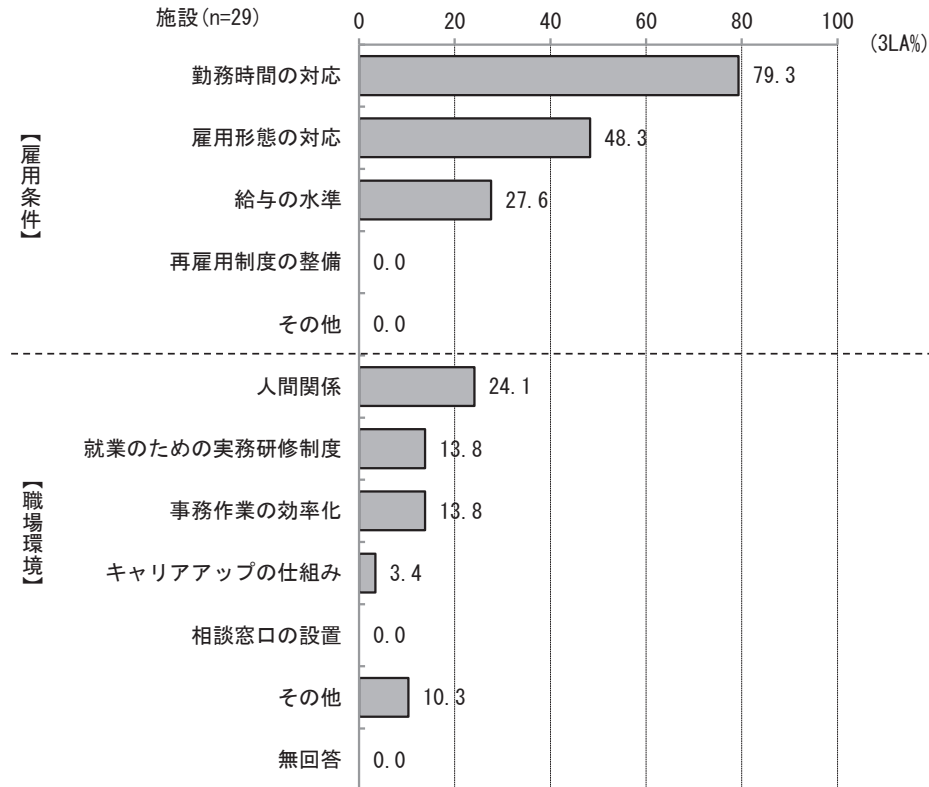


潜在保育士を過去3年間に雇用していない施設に雇用しない理由をたずねたところ、「人員が足りている」が26.5%、「施設の雇用条件、形態等と応募者の希望とがマッチしない」が25.7%となっている。また「その他」には『応募者がいなかった』という回答が多かった。（図34）

問 35 雇用の際に障害となっているもの

問34で「3 施設の雇用条件、形態等と応募者の希望とがマッチしない」と回答した施設にお
うかがいします。雇用するにあたって障害となっているものは何ですか。(〇は3つまで)

【図35 雇用の際に障害となっているもの】



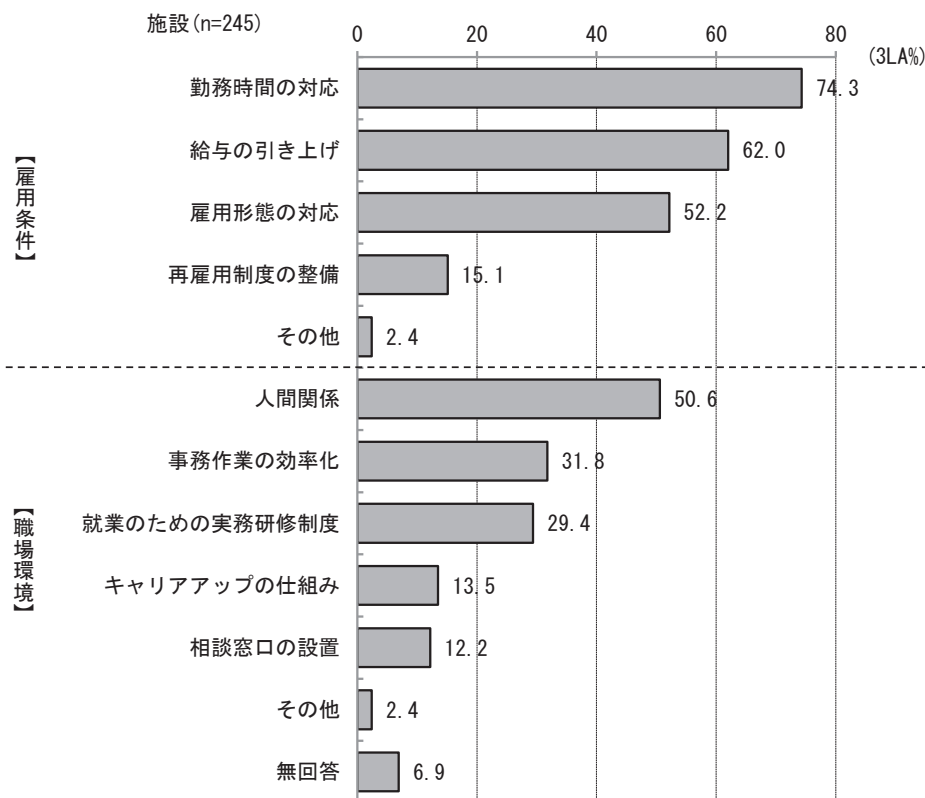
潜在保育士を雇用しない理由で、施設の雇用条件、形態等と応募者の希望がマッチしないと回答した施設に、潜在保育士を雇用する際に障害となっているものについてたずねたところ、【雇用条件】では「勤務時間の対応」が79.3%で最も多く、次いで「雇用形態の対応」が48.3%となっている。【職場環境】では「人間関係」が24.1%で最も多く、次いで「就業のための実務研修制度」「事務作業の効率化」がそれぞれ13.8%となっている。(図35)

【1 保育施設調査】

問 36 潜在保育士を雇用する際の効果ある取組

すべての施設におうかがいします。今後、潜在保育士を雇用するにあたって、効果があると思われる取組についてお答えください。(〇は3つまで)

【図36 潜在保育士を雇用する際の効果ある取組】



潜在保育士を雇用する際の効果ある取組について、【雇用条件】では「勤務時間の対応」が74.3%で最も多く、次いで「給与の引き上げ」が62.0%となっている。【職場環境】では「人間関係」が50.6%で最も多く、次いで「事務作業の効率化」が31.8%となっている。(図36)

【表36 潜在保育士を雇用する際の効果ある取組（施設種別）】

施設種別	n	効果ある取組 (%)											
		給与の引き上げ	勤務時間の対応(短時間・隔日勤務等)	雇用形態の対応(パート等)	再雇用制度の整備	その他の雇用条件	就業のための実務研修制度	人間関係(例:潜在的サポート)	相談窓口の設置	キャリアアップの仕組み	事務作業の効率化	その他の職場環境	無回答
公立保育所	57	50.9	61.4	43.9	17.5	-	38.6	49.1	5.3	15.8	40.4	-	17.5
私立保育所	75	61.3	77.3	54.7	13.3	5.3	25.3	53.3	18.7	9.3	28.0	4.0	2.7
公立幼保連携型認定こども園	31	77.4	71.0	45.2	19.4	-	22.6	61.3	9.7	9.7	35.5	-	6.5
私立幼保連携型認定こども園	27	70.4	81.5	48.1	11.1	3.7	40.7	37.0	7.4	29.6	18.5	3.7	7.4
小規模保育事業所(地域型保育)	34	64.7	85.3	64.7	11.8	-	23.5	58.8	14.7	14.7	35.3	-	2.9
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	50.0	81.3	56.3	12.5	6.3	12.5	31.3	6.3	-	25.0	12.5	-
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-

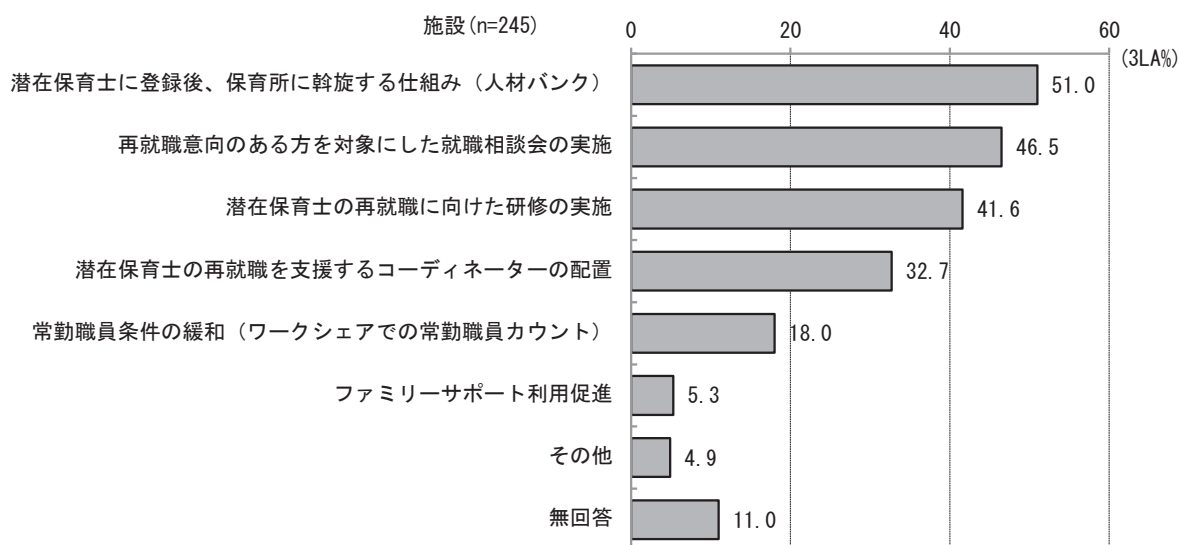
施設種別にみると、公立幼保連携型認定こども園では「給与の引き上げ」が多くなっているが、それ以外の施設では「勤務時間の対応」が多い。(表36)

【1 保育施設調査】

問37 保育士の雇用に関して求める支援

今後、保育士の雇用に関する支援でどのようなものを求めますか。(〇は3つまで)

【図37 保育士の雇用に関して求める支援】



保育士の雇用に関して求める支援については、「潜在保育士に登録後、保育所に斡旋する仕組み(人材バンク)」が51.0%で最も多く、次いで「再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施」が46.5%、「潜在保育士の再就職に向けた研修の実施」が41.6%となっている(図37)

【表37 保育士の雇用に関して求める支援(施設種別)】

	n	潜在保育士の再就職に向けた研修の実施	再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施	潜在保育士に登録後、保育所に斡旋する仕組み(人材バンク)	潜在保育士の再就職を支援するコーディネーターの配置	ファミリーサポート利用促進	常勤職員条件の緩和(ワークシェアでの常勤職員カウント)	その他	無回答
公立保育所	57	31.6	45.6	40.4	42.1	8.8	10.5	1.8	29.8
私立保育所	75	41.3	42.7	57.3	24.0	2.7	25.3	9.3	4.0
公立幼保連携型認定こども園	31	38.7	61.3	58.1	25.8	16.1	16.1	-	6.5
私立幼保連携型認定こども園	27	55.6	55.6	66.7	48.1	-	11.1	-	11.1
小規模保育事業所(地域型保育)	34	47.1	41.2	50.0	32.4	2.9	20.6	2.9	-
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	43.8	43.8	31.3	31.3	-	25.0	12.5	6.3
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-

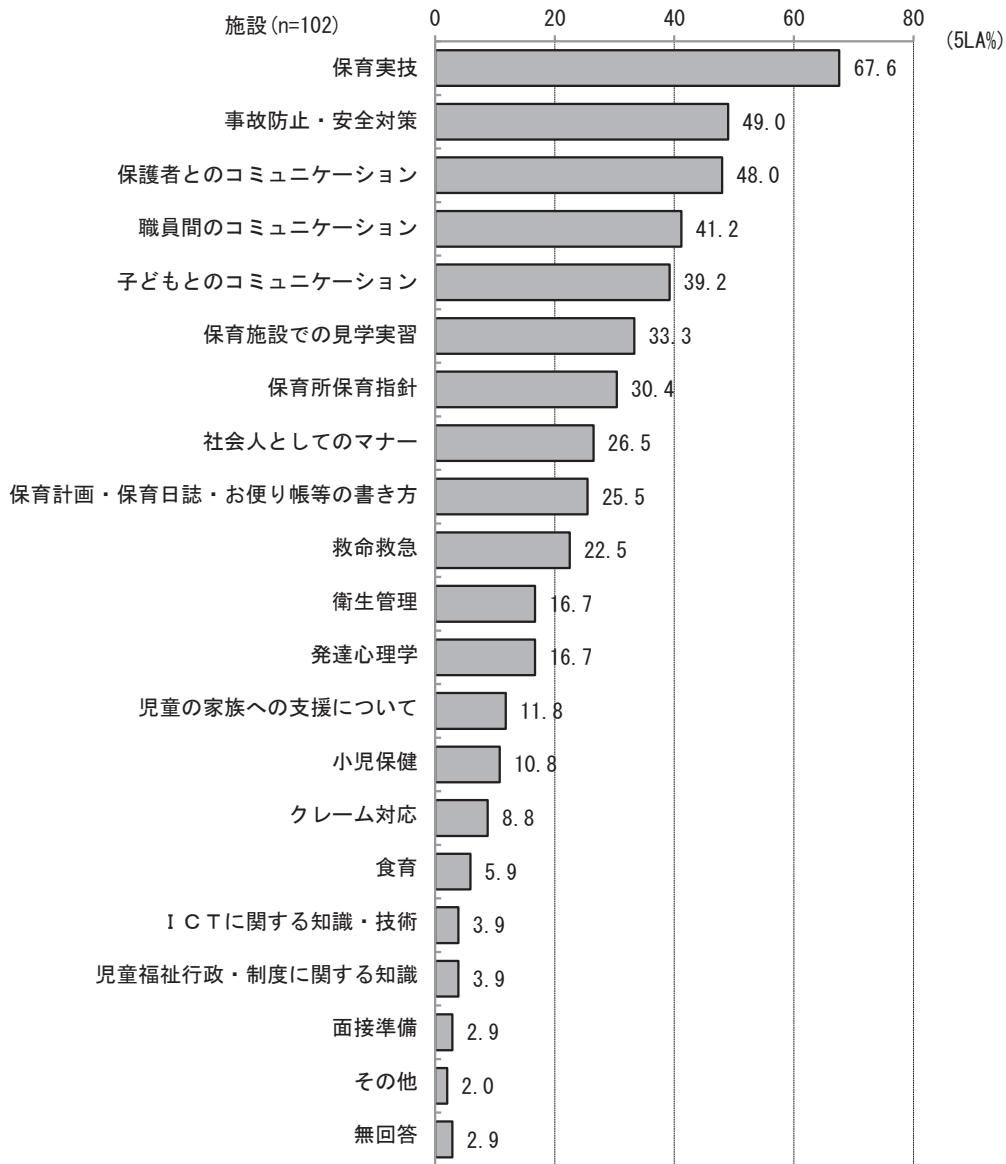
施設種別でみると、「再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施」は公立幼保連携型認定こども園で、「潜在保育士に登録後、保育所に斡旋する仕組み(人材バンク)」は私立幼保連携型認定こども園で、最も高くなっている。(表37)

【1 保育施設調査】

問38 潜在保育士に受けさせたい研修

問37で「1 潜在保育士の再就職に向けた研修の実施」と回答した施設におうかがいします。潜在保育士を現場に受け入れる際に、受けさせたい研修をお選びください。(〇は5つまで)

【図38 潜在保育士に受けさせたい研修】



潜在保育士の再就職に向けた研修の実施と回答した施設に、潜在保育士に受けさせたい研修についてたずねたところ、「保育実技」が67.6%で最も多く、次いで「事故防止・安全対策」が49.0%、「保護者とのコミュニケーション」が48.0%となっている。(図38)

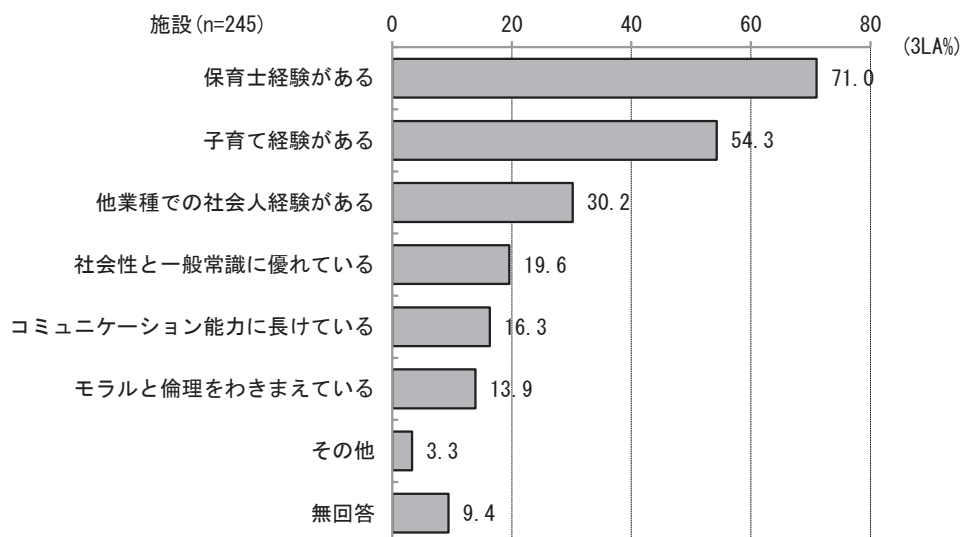
【1 保育施設調査】

問 39 潜在保育士を雇用するメリット

潜在保育士を雇用することによるメリットは何だと思えますか。

①潜在保育士が持つ特性

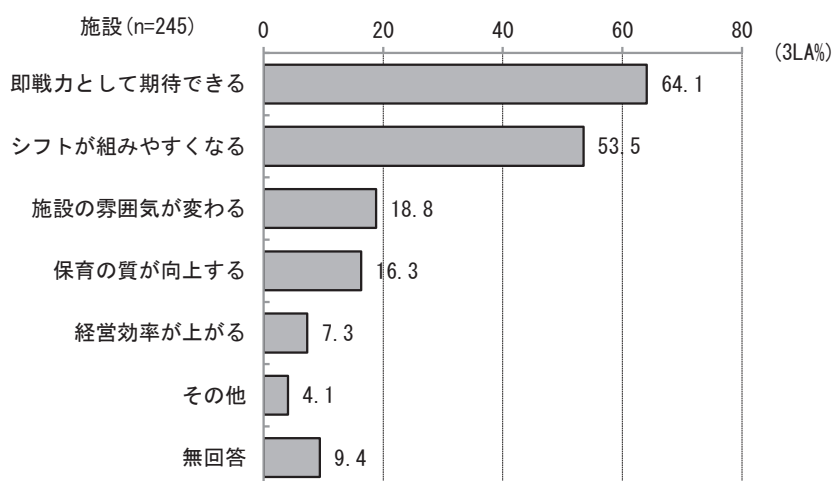
【図39① 潜在保育士が持つ特性】



潜在保育士を雇用するメリットについて、①潜在保育士が持つ特性に関しては、「保育士経験がある」が71.0%で最も多く、次いで「子育て経験がある」が54.3%となっている。(図39①)

②施設に与える影響

【図39② 施設に与える影響】



②施設に与える影響に関しては、「即戦力として期待できる」が64.1%で最も多く、次いで「シフトが組みやすくなる」が53.5%となっている。(図39②)

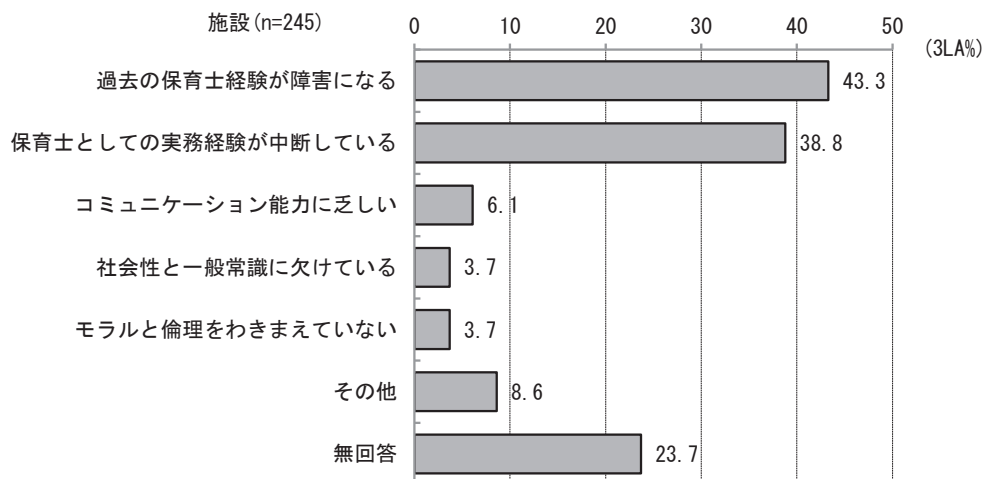
【1 保育施設調査】

問 40 潜在保育士を雇用するデメリット

潜在保育士を雇用することによるデメリットは何だと思えますか。

①潜在保育士が持つ特性

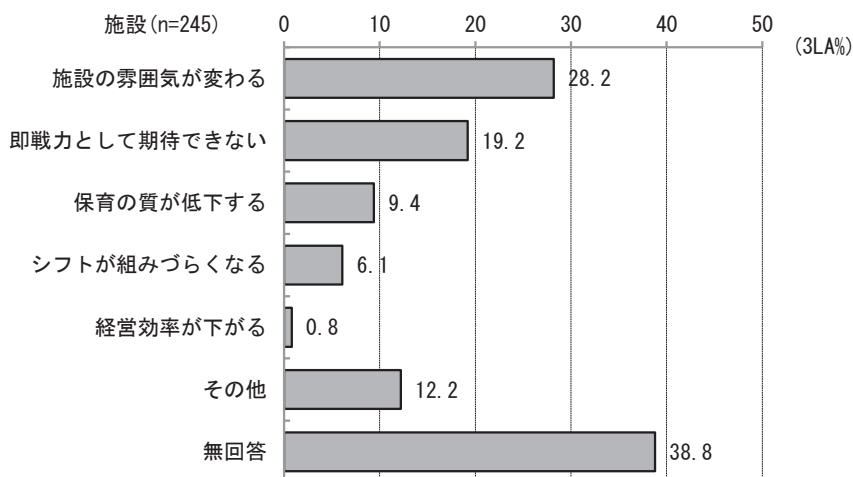
【図40① 潜在保育士が持つ特性】



潜在保育士を雇用するデメリットについて、①潜在保育士が持つ特性に関しては、「過去の保育士経験が障害になる」が43.3%で最も多く、次いで「保育士としての実務経験が中断している」が38.8%となっている。(図40①)

②施設に与える影響

【図40② 施設に与える影響】



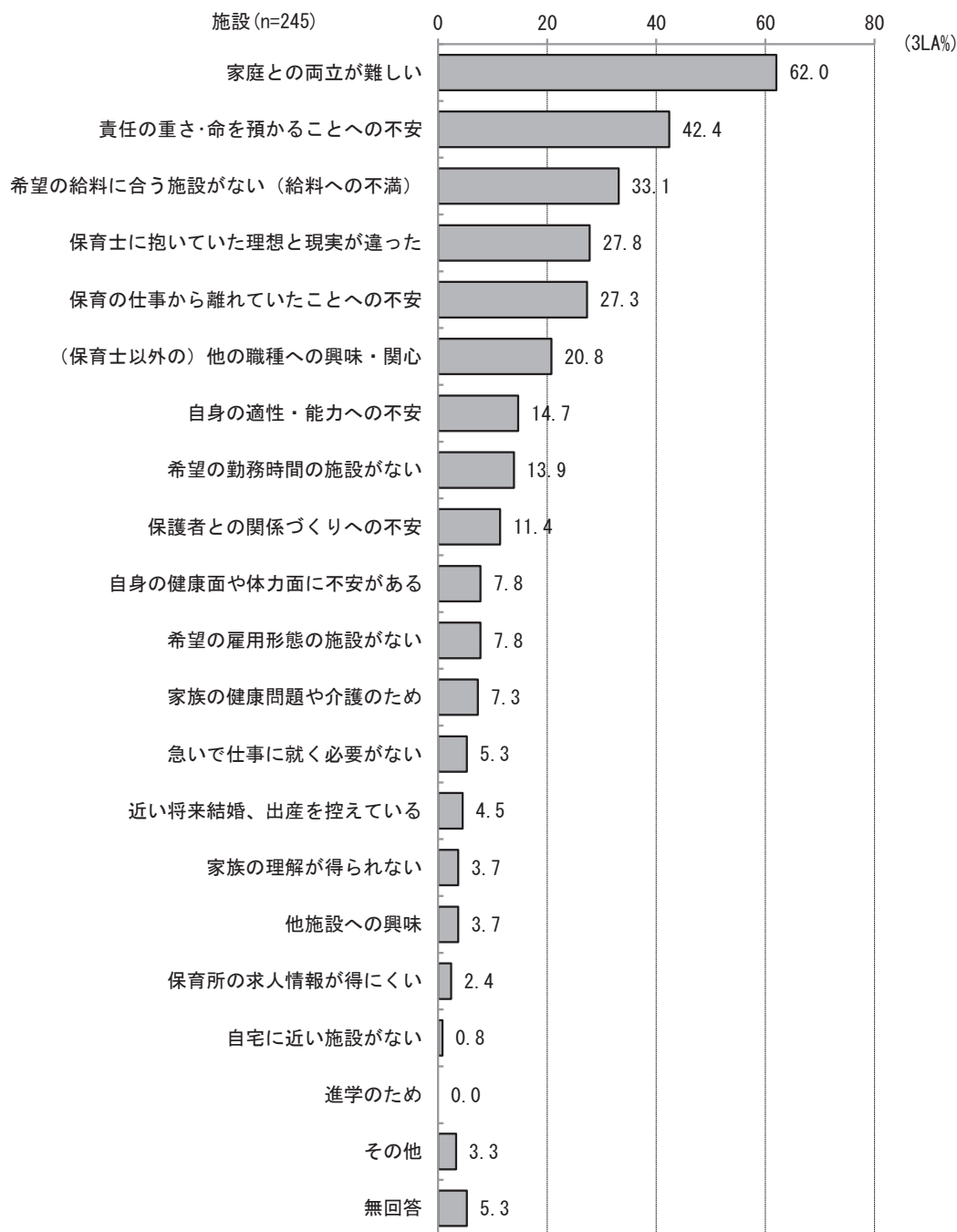
②施設に与える影響に関しては、「施設の雰囲気が変わる」が28.2%で最も多く、次いで「即戦力として期待できない」が19.2%となっている。(図40②)

問 41 保育士資格所有者が保育士として就労しない理由

保育士資格所有者が、保育士として就労しない理由は何だと思えますか。

①個人の状況

【図41① 保育士資格所有者が保育士として就労しない個人的理由】

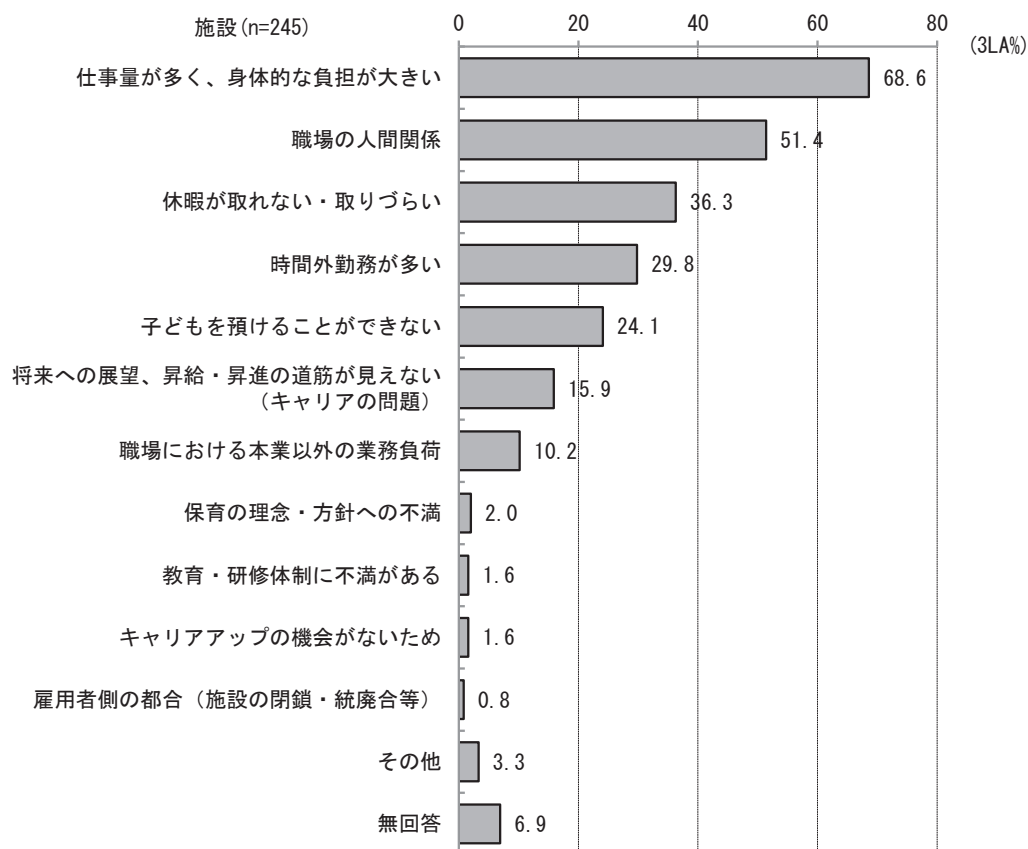


保育士資格所有者が保育士として就労しない理由について、①個人の状況では「家庭との両立が難しい」が62.0%で最も多く、次いで「責任の重さ・命を預かることへの不安」が42.4%、「希望の給料に合う施設がない（給料への不満）」が33.1%となっている。（図41①）

【1 保育施設調査】

②職場環境

【図41② 保育士資格所有者が保育士として就労しない理由（職場環境）】



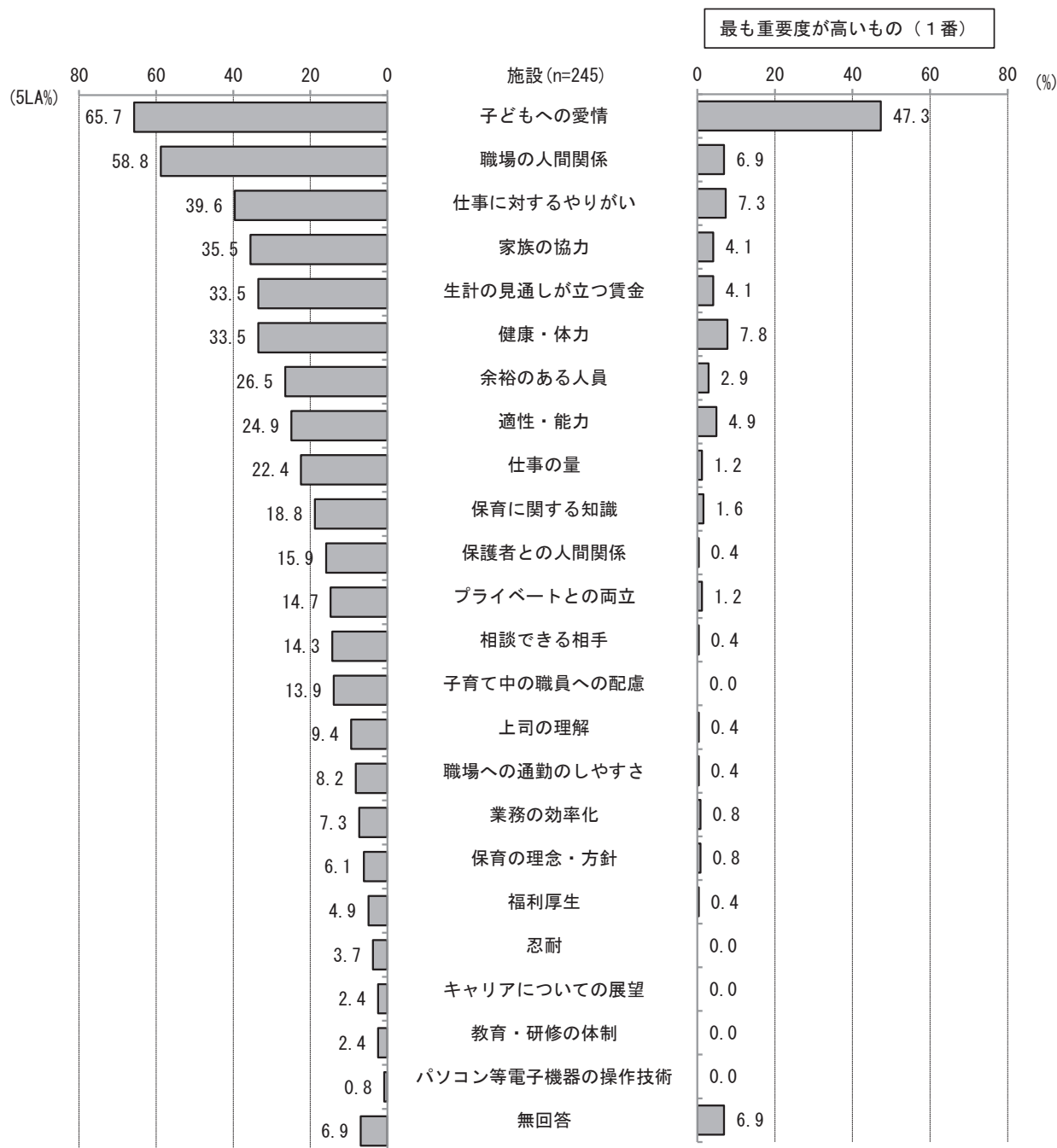
②職場環境では、「仕事量が多く、身体的な負担が大きい」が68.6%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が51.4%となっている。(図41②)

【1 保育施設調査】

問 42 保育士として働くために重要なこと

保育士として働くためには、何が重要だと思いますか。重要度の高いものから順に、() 内に番号を記入してください。

【図42 保育士として働くために重要なこと】



保育士として働くために重要なことについては、全体でみると「子どもへの愛情」が65.7%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が58.8%、「仕事に対するやりがい」が39.6%となっている。

最も重要度が高いもの（1番）でみると、「子どもへの愛情」が47.3%で最も多く、次いで「健康・体力」が7.8%、「仕事に対するやりがい」が7.3%となっている。（図42）

【1 保育施設調査】

【表42 保育士として働くために重要なこと（施設種別）】

(%)

	n	子どもへの愛情	生計の見通しが立つ賃金	プライベートとの両立	家族の協力	上司の理解	仕事の量	余裕のある人員	子育て中の職員への配慮	福利厚生	相談できる相手	仕事に対するやりがい	職場の人間関係	保護者との人間関係	キャリアについての展望	教育・研修の体制	業務の効率化	忍耐	保育に関する知識	パソコン等電子機器の操作技術	保育の理念・方針	健康・体力	適性・能力	職場への通勤のしやすさ	無回答	
公立保育所	57	64.9	19.3	7.0	49.1	7.0	21.1	24.6	26.3	1.8	19.3	29.8	49.1	15.8	-	1.8	5.3	-	17.5	1.8	3.5	35.1	24.6	3.5	14.0	
私立保育所	75	58.7	41.3	16.0	37.3	13.3	20.0	21.3	9.3	6.7	14.7	49.3	64.0	17.3	4.0	2.7	10.7	4.0	16.0	-	8.0	34.7	20.0	9.3	4.0	
公立幼保連携型認定こども園	31	64.5	22.6	9.7	45.2	3.2	29.0	35.5	12.9	9.7	6.5	25.8	61.3	16.1	-	-	3.2	-	16.1	3.2	3.2	35.5	35.5	12.9	9.7	
私立幼保連携型認定こども園	27	74.1	40.7	22.2	22.2	3.7	22.2	25.9	7.4	3.7	14.8	51.9	51.9	14.8	7.4	7.4	3.7	3.7	11.1	-	3.7	29.6	22.2	7.4	7.4	
小規模保育事業所(地域型保育)	34	73.5	47.1	17.6	11.8	14.7	17.6	29.4	14.7	2.9	11.8	35.3	73.5	17.6	2.9	2.9	5.9	8.8	32.4	-	8.8	29.4	23.5	2.9	2.9	
家庭的保育事業所(地域型保育)	16	75.0	18.8	25.0	31.3	12.5	25.0	31.3	6.3	-	12.5	31.3	43.8	12.5	-	-	18.8	12.5	31.3	-	12.5	43.8	37.5	18.8	-	
事業所内保育事業所(地域型保育)	1	-	-	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
最も重要度が高いもの	公立保育所	57	45.6	-	-	5.3	-	3.5	3.5	-	-	8.8	1.8	1.8	-	-	-	-	1.8	-	1.8	8.8	3.5	-	14.0	
	私立保育所	75	41.3	8.0	1.3	5.3	1.3	-	4.0	-	-	10.7	9.3	-	-	-	2.7	-	1.3	-	1.3	5.3	4.0	-	4.0	
	公立幼保連携型認定こども園	31	48.4	-	3.2	6.5	-	-	3.2	-	3.2	-	3.2	3.2	-	-	-	-	-	6.5	-	-	6.5	6.5	-	9.7
	私立幼保連携型認定こども園	27	55.6	3.7	-	3.7	-	3.7	-	-	-	-	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	7.4	3.7	7.4
	小規模保育事業所(地域型保育)	34	50.0	5.9	-	-	-	-	-	-	-	2.9	2.9	23.5	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	2.9	-	2.9
	家庭的保育事業所(地域型保育)	16	62.5	-	6.3	-	-	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.8	6.3	-	-
	事業所内保育事業所(地域型保育)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-

施設種別にみると、全体では、私立保育所で「職場の人間関係」が多く、それ以外の施設では「子どもへの愛情」が多くなっている。

最も重要度が高いものでは、どの施設も「子どもへの愛情」が多くなっている。(表 42)

(7) 保育行政などについて

問 43 保育行政などについて（自由意見）

保育行政などについて、ご意見・ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。

78 施設から回答をいただいた。主な意見は次の通り。

■ 保育の無償化に関すること

- ・ 無償化により、長時間、低年齢保育の需要が高まっている。そのため保育者の仕事量は増え、時間内に終わることが難しい。受け入れ体制を整えてから、政策を考えて欲しい。
- ・ 無償化になったが、保育士の給料も上げないと保育士は確保できず、ますます保育士は減っていき保育の質は下がる一方だと思う。
- ・ 無償化による保育需要の高まり、待機児の解消のために施設をどんどん増やしているが、そこでどんな保育がなされているか、基準やチェック体制が徹底されていない。子どもたちのために適切な保育がなされるようご指導いただきたい。
- ・ 子育て支援化が大きく一元化して行き、保育、教育の教員、保育士の資格が必然的に統一して一本化することが大切であり、いろいろな子育て支援の施設が多様な中で人々が理解しやすく利用しやすいということが肝要と思う。
- ・ 無償化など保護者には良いが、保育現場にとっては、ますます忙しくなる施策に疑問をもつ。必要などころに必要な保育が与えられるように、又、育休をとり、2-3才から預けられるなど、社会のしくみを考えてほしい。

■ 給与について

- ・ 日本の保育制度は大変不十分である。保育の仕事に見合った、生活を支えられる十分な賃金が支給出来る公定価格となっていない。
- ・ 公民の給与の格差をなくし民間の保育園にも、保育士さんに就労していただけるようにしてほしい。当市は、民間の保育所、認定子ども園への保育士の就労が少ないため、子どもを受け入れることができない。市は民営化を進めたいと言っているが、現実的に不可能だと思う。
- ・ 産休、育休その後時短勤務を取られる方も多く、その分、他の先生たちの負担が増える。出産も大切にしていくなためにも、負担増分の人手確保か手当てなどを考慮していただき皆が助け合えるようになれば、働きやすい＝人手不足解消にもつながるかと思う。
- ・ 保育士不足の最大の理由は、労働時間や責任の重さが給与に見合っていない事である。精神的にも肉体的にも大変な仕事であるが、一般企業と比べると格差があり、プライベートな時間（有休も含めて）が取りにくい。もはや人気のある職業ではない。プライベートも楽しめるような（気分転換）施策、例えば海外研修なども検討してほしい。

■ 保育士の配置基準

- ・ 保育士の配置基準の見直しをしていただきたい。1才児6人は無理である。保育士の仕事（親支援、保護者対応）はどんどん増えているが家庭での子育て力が低下している。
- ・ 職員配置基準は先進諸外国と比較して極端に見劣りしていて、とてもこの基準で子どもたちを豊かに安全に保育することは不可能である。
- ・ 現代の子ども、保護者の状況が以前に比べ多様化している。保育士定数の見直しを早急にしてほしい。現状の定数では、丁寧な保育は不可能である。
- ・ 保育士定数の見直し又は、保育補助職員でカバーできるような体制になればいい。クラス（年齢）が複数担任になるような、配置ができるように保育補助職員の配置を認めてほしい。

■ その他

- ・ 人材不足で、働き方改革といっても、休憩に入る職員のかわりも確保するのが難しい。有休をとってもらうためにもみんなが協力し合って取得している。
- ・ 求人を出しても申し込み者がなく、今いる職員で当番を増やして対応をするため、時間外勤務が増え、有給休暇も取得しにくい現状がある。保育士の魅力を伝えたり、キャリアアップにつながる研修や保育士待遇が向上するよう支援をお願いしたい。
- ・ 保護者対応や気になる子のサポート、人手不足の中、精いっぱい働いている保育士を支えるサポートがあまりにも少ないと思う。
- ・ 園により格差がでてきているように思う。公立、私立、その他で働く所は違っても、同じ国の子どもを育てているのだから処遇も公平であってほしい。処遇加算の手続きも一律化にして単純にしてほしい。
- ・ 保護者支援の政策が多く、一人一人の保育士への支援が少ないと思う。また新任保育士への研修および指導・助言等を継続的に行う、研修、窓口が、通年あると良い。
- ・ 認定こども園となってから、書類作成に費やす時間が多くなった。事業ごとに作成する申請書類、実績報告並びに詳細に提出を求められる添付書類など。3月の終わりから4月の初めにかけては、卒園式、入園式など、園にとって一番忙しい時期であり、改善をお願いしたい。

〔2〕現任保育士調査

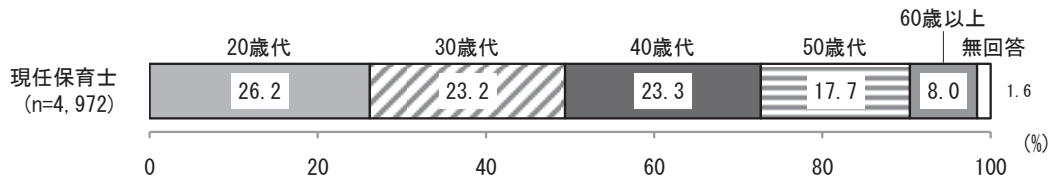
（1）回答者の基本属性

問1 回答者の基本属性

あなた自身のことについておうかがいします。

①年代

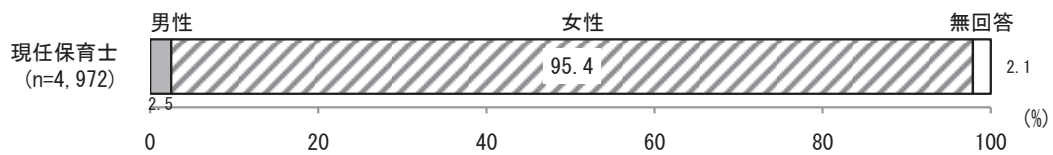
【図1-1 年代】



回答者の年代は、「20歳代」が26.2%で最も多く、次いで「40歳代」が23.3%、「30歳代」が23.2%となっている。（図1-1）

②性別

【図1-2 性別】

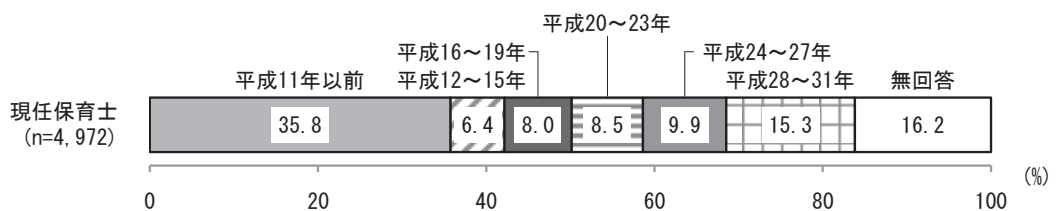


回答者の性別は、「男性」が2.5%、「女性」が95.4%となっている。（図1-2）

③保育士資格取得年月と取得方法

ア 保育士資格取得年月

【図1-3ア 取得年月】

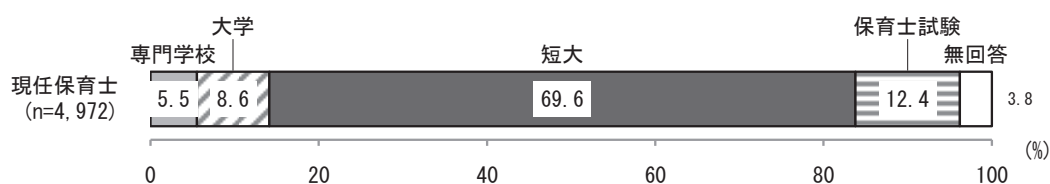


保育士資格取得年月については、「平成11年以前」が35.8%で最も多く、次いで「平成28～31年」が15.3%、「平成24～27年」が9.9%となっている。（図1-3ア）

【2 現任保育士調査】

イ 取得方法

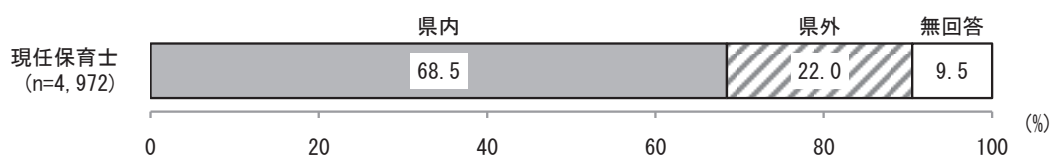
【図1-3イ 取得方法】



保育士資格の取得方法については、「短大」が69.6%で最も多く、次いで「保育士試験」が12.4%となっている。(図1-3イ)

ウ 保育士登録をした都道府県

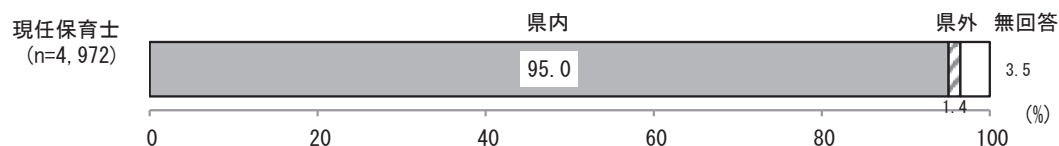
【図1-3ウ 保育士登録をした都道府県】



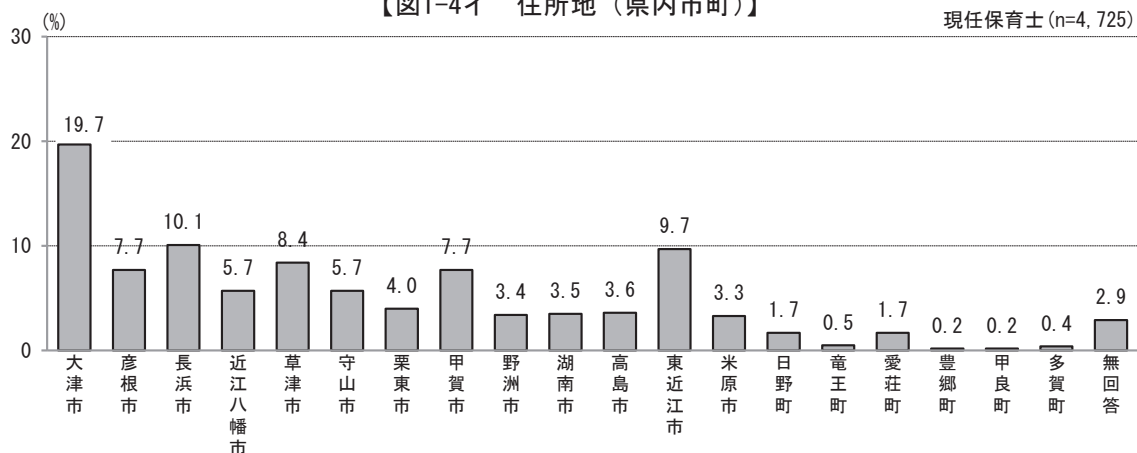
保育士登録をした都道府県については、「県内」が68.5%、「県外」が22.0%となっている。(図1-3ウ)

④現在の住所地

【図1-4ア 住所地】



【図1-4イ 住所地（県内市町）】



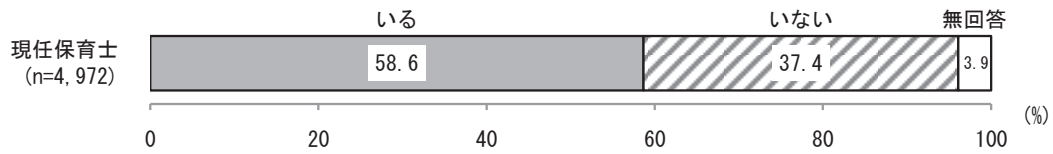
現在の住所地については、「県内」が95.0%、「県外」が1.4%となっている。(図1-4ア)

住所地の市町については、「大津市」が19.7%で最も多く、次いで「長浜市」が10.1%、「東近江市」が9.7%となっている。(図1-4イ)

【2 現任保育士調査】

⑤配偶者の有無

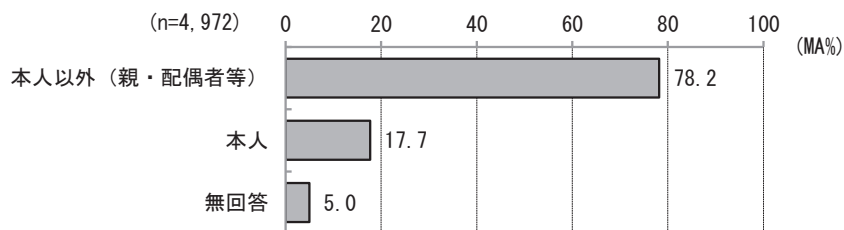
【図1-5 配偶者の有無】



配偶者の有無については、「いる」が58.6%、「いない」が37.4%となっている。(図1-5)

⑥家計の主たる生計者

【図1-6 家計の主たる生計者】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

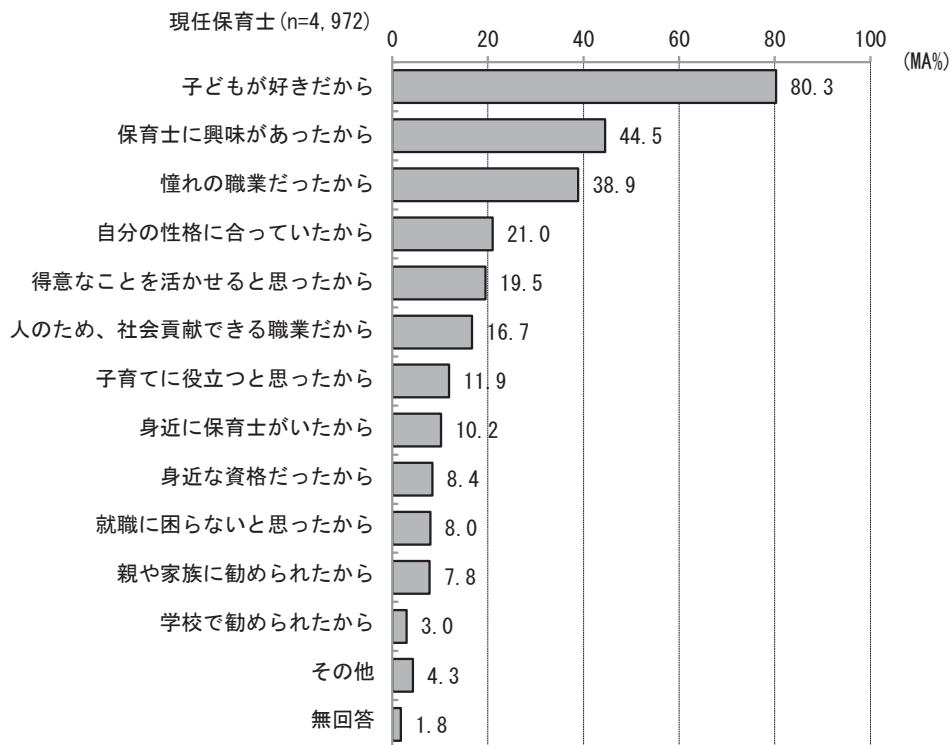
家計の主たる生計者については、「本人以外 (親・配偶者等)」が78.2%、「本人」が17.7%となっている。(図1-6)

【2 現任保育士調査】

問2 保育士の資格を取得した理由

あなたはなぜ保育士の資格を取りましたか。(〇はいくつでも)

【図2 保育士資格の取得理由】

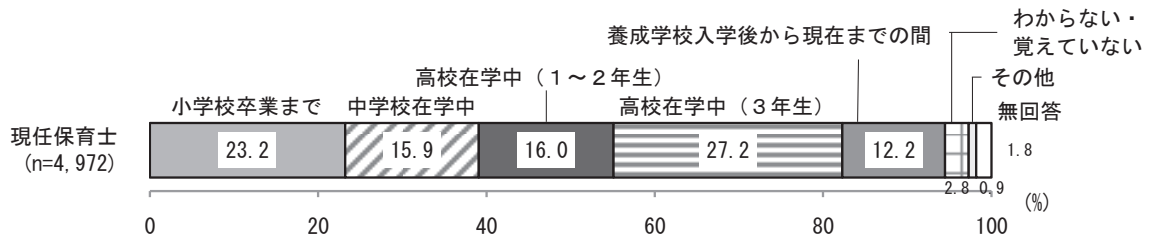


保育士の資格を取得した理由については、「子どもが好きだから」が80.3%で最も多く、次いで「保育士に興味があったから」が44.5%、「憧れの職業だったから」が38.9%となっている。(図2)

問3 保育士資格を取得しようと思った時期

保育士資格を取ろうと思った時期はいつ頃ですか。(〇は1つ)

【図3 保育士資格を取得しようと思った時期】



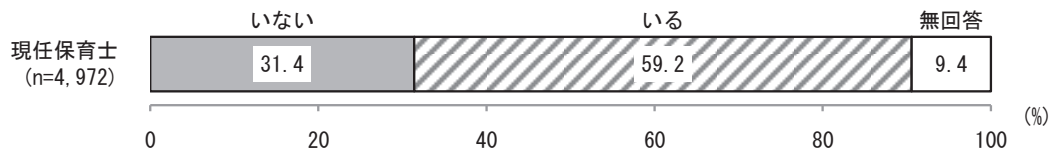
保育士資格を取得しようと思った時期については、「高校在学中 (3年生)」が27.2%で最も多く、次いで「小学校卒業まで」が23.2%となっている。(図3)

【2 現任保育士調査】

問4 子どもの有無と、子どもの人数、末子の年齢

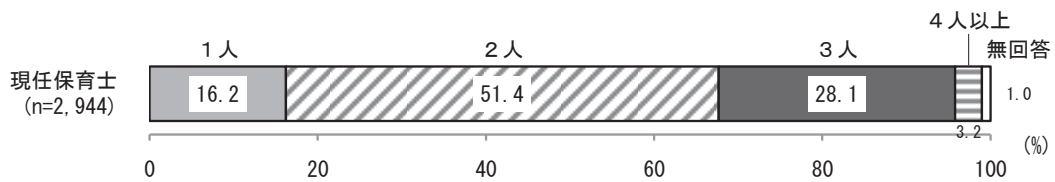
お子さんがいる場合はその人数と末子の年齢をご記入ください。

【図4① 子どもの有無】



子どもの有無については、「いる」が59.2%、「いない」が31.4%となっている。(図4①)

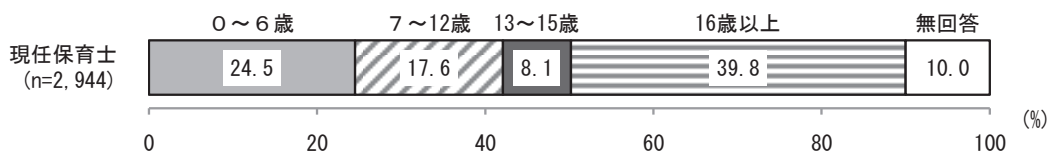
【図4② 子どもの人数】



子どもの人数については、「2人」が51.4%で最も多く、次いで「3人」が28.1%、「1人」が16.2%となっている。(図4②)

末子の年齢については、「16歳以上」が39.8%で最も多く、次いで「0～6歳」が24.5%、「7～12歳」が17.6%となっている。(図4③)

【図4③ 末子の年齢】

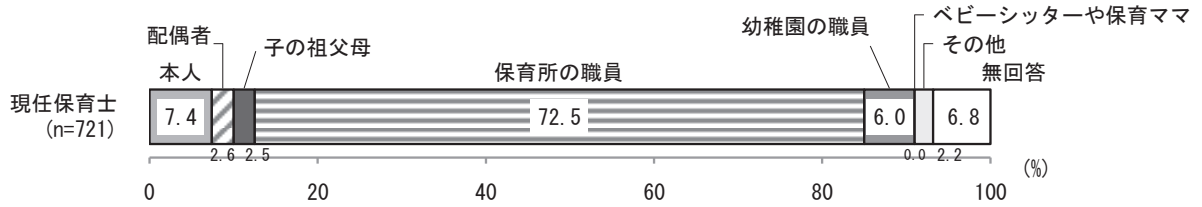


【2 現任保育士調査】

問5 末子の日中の主な保育者

小学校就学前のお子さんがある方におうかがいします。
末子のお子さんの日中の主な保育者はどなたですか。（休日を除く。○は1つ）

【図5 日中の主な保育者】

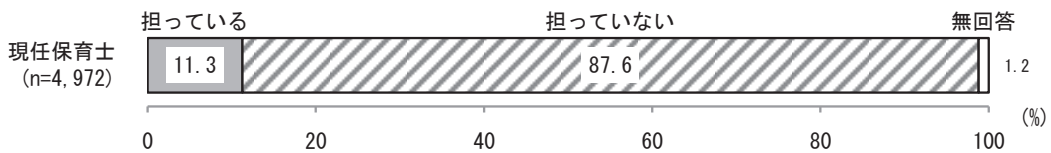


小学校就学前の子どもがいる方に、末子の日中の主な保育者についてたずねたところ、「保育所の職員」が72.5%で最も多く、次いで「本人」が7.4%となっている。（図5）

問6 要介護者の有無

あなたは家族の介護を担っていますか。

【図6 要介護者の有無】



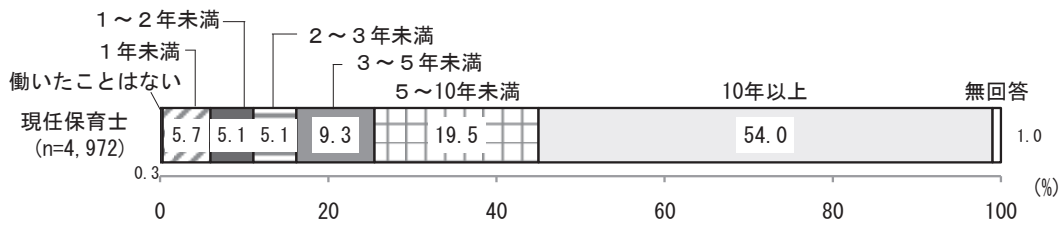
介護を担っているかについては、「担っている」が11.3%、「担っていない」が87.6%となっている。（図6）

【2 現任保育士調査】

問7 保育士としての通算就業年数

あなたが保育士として働いた通算就業年数はどれぐらいですか。(○は1つ)

【図7 保育士としての通算就業年数】

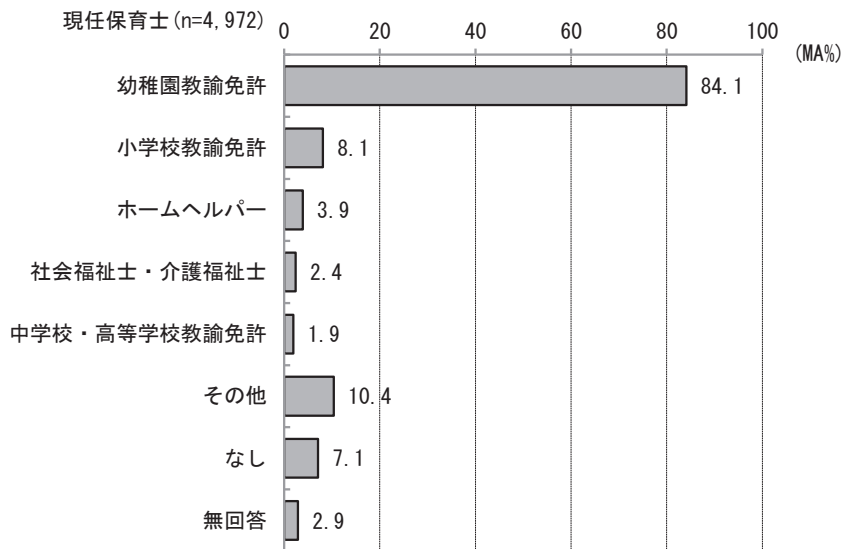


保育士としての通算就業年数については、「10年以上」が54.0%で最も多く、次いで「5～10年未満」が19.5%、「3～5年未満」が9.3%となっている。(図7)

問8 保育士以外の資格・免許

あなたが保育士以外に取得している資格・免許は次のどれですか。(○はいくつでも)

【図8 保育士以外の資格・免許】



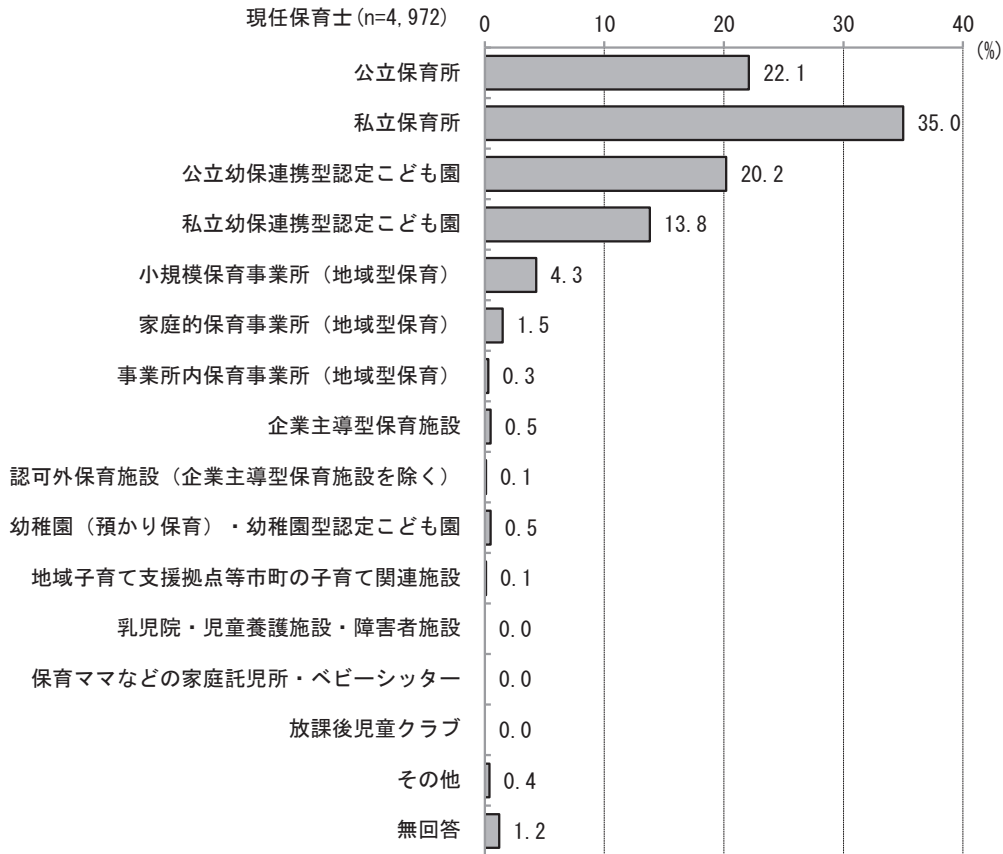
保育士以外に取得している資格・免許については、「幼稚園教諭免許」が84.1%で最も多く、次いで「小学校教諭免許」が8.1%となっている。(図8)

（2）現在の就業先の状況

問9 現在の主たる就業先

現在の就業先はどちらですか。（主たる勤務場所について○は1つ）

【図9 現在の主たる就業先】



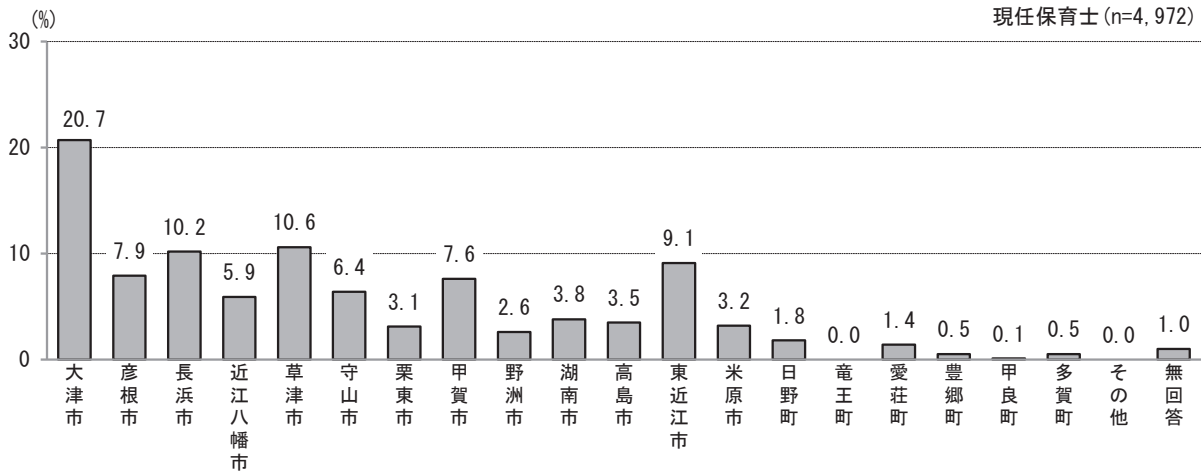
現在の主たる就業先については、「私立保育所」が35.0%で最も多く、次いで「公立保育所」が22.1%、「公立幼保連携型認定こども園」が20.2%、「私立幼保連携型認定こども園」が13.8%となっている。（図9）

【2 現任保育士調査】

問 10 職場の所在地

現在の職場の市町名をご記入ください。

【図10 職場の所在地】

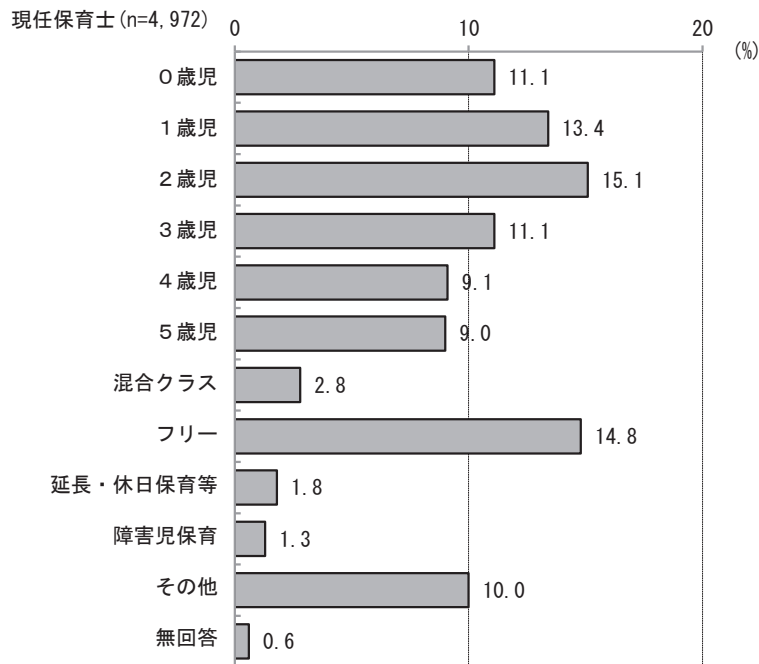


現在の職場の所在地については、「大津市」が20.7%で最も多く、次いで「草津市」が10.6%、「長浜市」が10.2%となっている。(図10)

問 11 担当クラス

あなたの担当クラス等に○をつけてください。(○は主なもの1つ)

【図11 担当クラス】



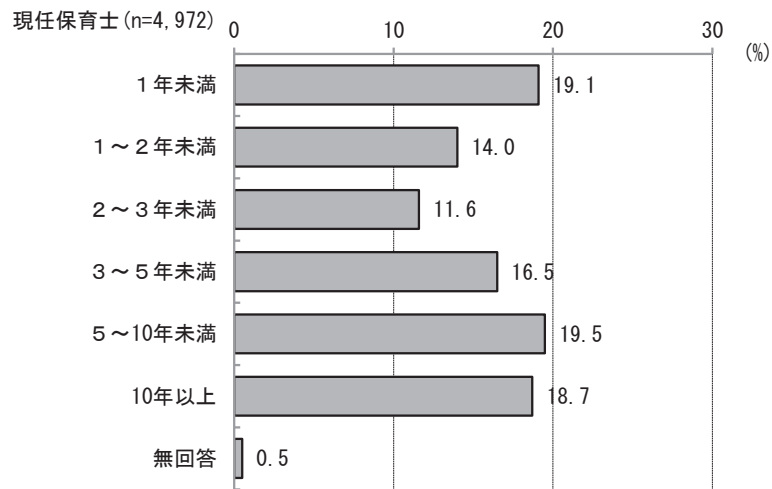
担当クラスについては、「2歳児」が15.1%で最も多く、次いで「フリー」が14.8%、「1歳児」が13.4%となっている。(図11)

【2 現任保育士調査】

問 12 現在の職場での勤務年数

あなたは現在の職場で何年程度働いていますか。(○は1つ)

【図12 現在の職場での勤務年数】

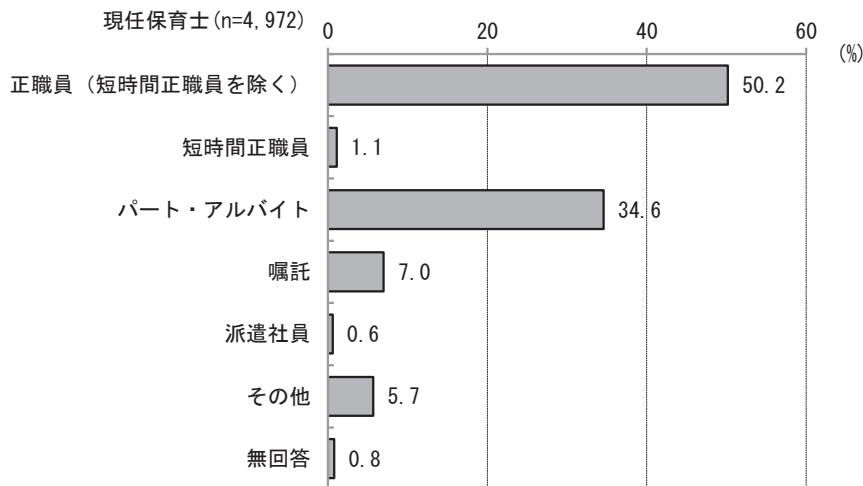


現在の職場での勤務年数については、「5～10年未満」が19.5%、「1年未満」が19.1%、「10年以上」が18.7%となっている。(図12)

問 13 雇用形態

現在の雇用形態についてお答えください。(○は1つ)

【図13 雇用形態】



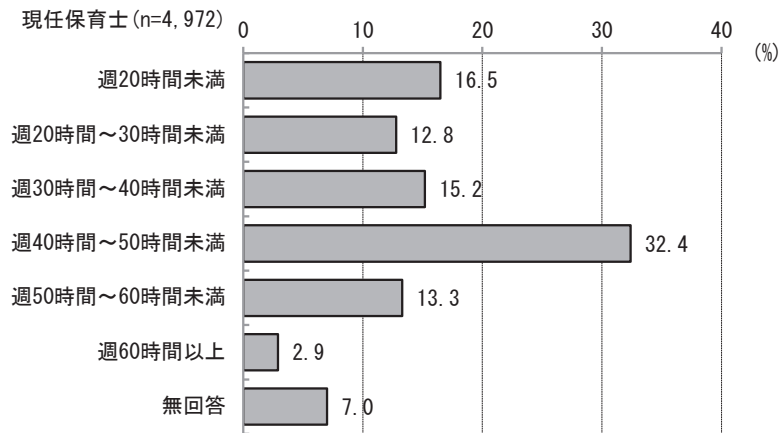
現在の雇用形態については、「正職員（短時間正職員を除く）」が50.2%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が34.6%となっている。(図13)

【2 現任保育士調査】

問 14 1 週当たりの労働時間

昨年度(平成30年度)の時間外勤務を含めた、1 週あたりの平均的な労働時間は何時間ですか。(○は1つ)

【図14 1 週当たりの労働時間】

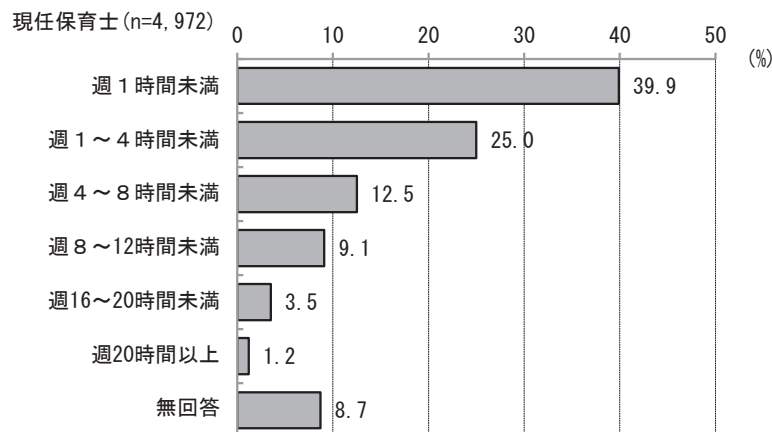


昨年度(平成30年度)の1 週当たりの労働時間については、「週40時間～50時間未満」が32.4%で最も多く、次いで「週20時間未満」が16.5%、「週30時間～40時間未満」が15.2%となっている。(図14)

問 15 1 週あたりの残業時間

昨年度(平成30年度)の1 週あたりの平均的な残業時間は何時間ですか。(○は1つ)

【図15 1 週あたりの残業時間】



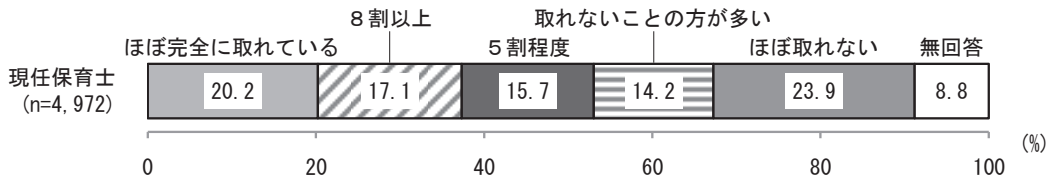
昨年度(平成30年度)の1 週あたりの平均的な残業時間については、「週1時間未満」が39.9%、「週1～4時間未満」が25.0%となっている。(図15)

【2 現任保育士調査】

問 16 休憩時間の取得状況

昼休憩等、休憩時間は十分に取れていますか。(○は1つ)

【図16 休憩時間の取得状況】



休憩時間の取得状況については、「ほぼ取れない」が23.9%で最も多く、次いで「ほぼ完全に取れている」が20.2%、「8割以上」が17.1%となっている。(図16)

【表16 休憩時間の取得状況 (現在の就業先別)】

	n	ほぼ完全に取れる	8割以上	5割程度	取れないことの方が多い	ほぼ取れない	無回答
公立保育所	1,097	20.8	20.8	14.9	11.8	18.6	13.1
私立保育所	1,739	19.9	14.5	15.0	14.4	30.1	6.1
公立幼保連携型認定こども園	1,003	15.6	17.3	17.9	16.7	21.9	10.5
私立幼保連携型認定こども園	688	16.7	16.6	17.9	16.7	26.9	5.2
小規模保育事業所(地域型保育)	215	42.3	22.8	10.2	7.9	9.3	7.4
家庭的保育事業所(地域型保育)	76	56.6	15.8	3.9	6.6	11.8	5.3
事業所内保育事業所(地域型保育)	15	26.7	20.0	20.0	6.7	20.0	6.7
企業主導型保育施設	24	16.7	25.0	25.0	16.7	12.5	4.2
認可外保育施設(企業主導型保育施設を除く)	3	66.7	-	-	-	33.3	-
幼稚園(預かり保育)・幼稚園型認定こども園	23	13.0	13.0	13.0	21.7	34.8	4.3
地域子育て支援拠点等市町の子育て関連施設	5	60.0	-	40.0	-	-	-
その他	22	4.5	22.7	36.4	13.6	13.6	9.1

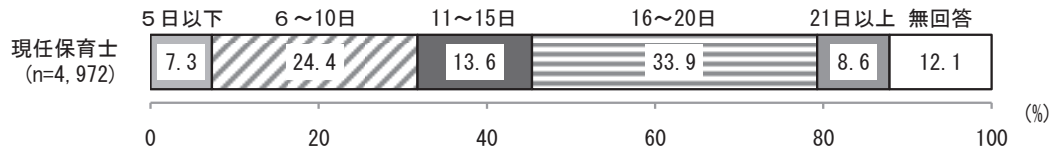
現在の就業先別でみると、私立保育所、公立幼保連携型認定こども園、私立幼保連携型認定こども園、幼稚園(預かり保育)・幼稚園型認定こども園では、「ほぼ取れない」が最も多くなっている。それ以外の施設では、「ほぼ完全に取れている」もしくは「8割以上」が多い傾向がある。(表16)

【2 現任保育士調査】

問 17 有給休暇の日数

あなたが取得可能な有給休暇は年間何日程度ですか。前年度からの繰り越しがある場合は、それを除いた日数をご記入ください。

【図17 有給休暇の日数】

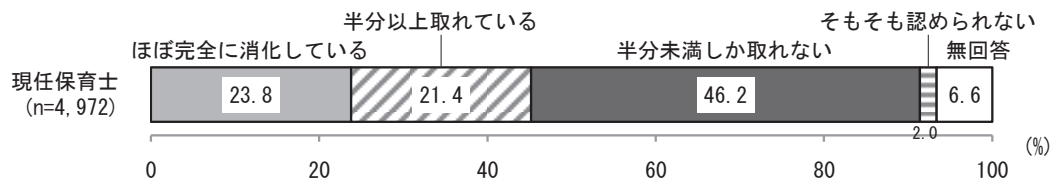


取得可能な有給休暇については、「16～20日」が33.9%で最も多く、次いで「6～10日」が24.4%となっている。(図17)

問 17-1 有給休暇の取得状況

取得可能な有給休暇のうち、どの程度取得できていますか。(○は1つ)

【図17-1 有給休暇の取得状況】



有給休暇の取得状況については、「半分未満しか取れない」が46.2%で最も多く、次いで「ほぼ完全に消化している」が23.8%、「半分以上取れている」が21.4%となっている。(図17-1)

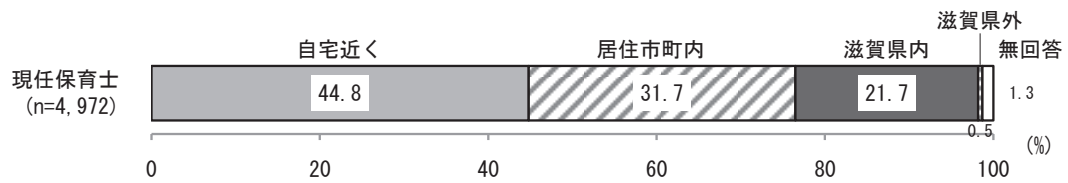
【2 現任保育士調査】

問 18 勤務地と通勤時間

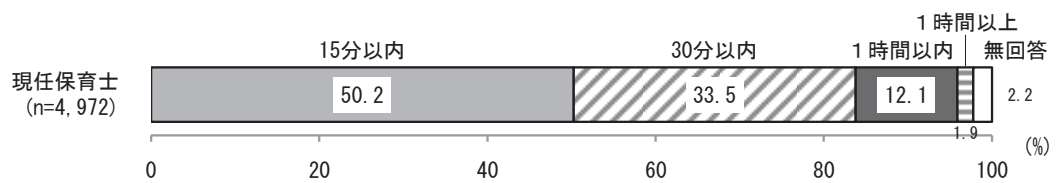
あなたの勤務地と通勤時間について（１）現在の状況と、（２）今後の希望（通勤時間は許容できる上限）について、該当する番号を下の選択肢の中から選んで枠内に○をつけてください。

①現在の状況

【図18①-1 勤務地】



【図18①-2 通勤時間】

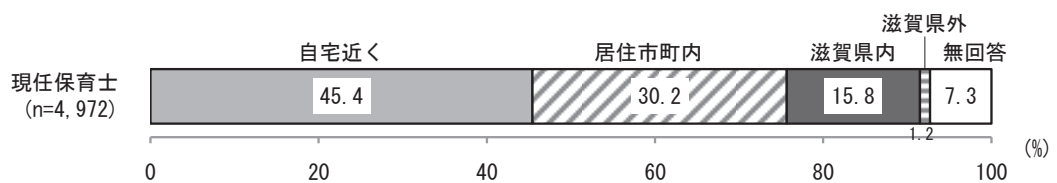


現在の勤務地については、「自宅近く」が44.8%、「居住市町内」が31.7%となっている。（図18①-1）

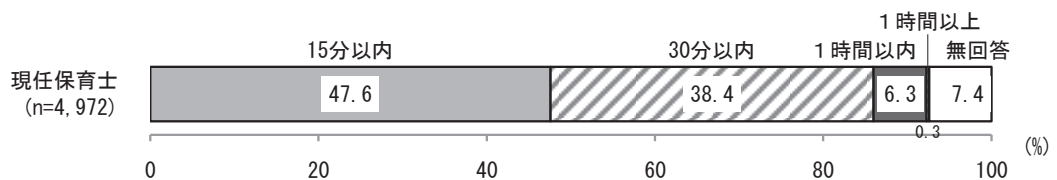
現在の通勤時間については、「15分以内」が50.2%、「30分以内」が33.5%となっている。（図18①-2）

②今後の希望

【図18②-1 勤務地】



【図18②-2 通勤時間】



今後の希望の勤務地については、「自宅近く」が45.4%、「居住市町内」が30.2%となっている。（図18②-1）

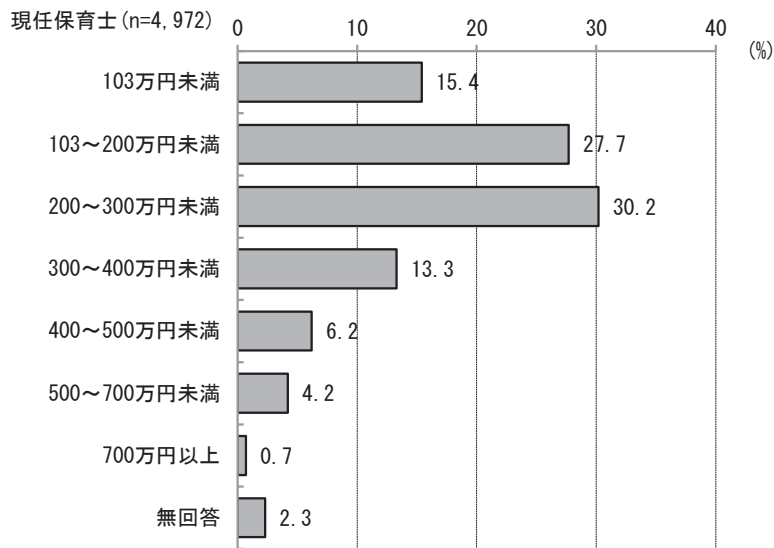
今後の希望の通勤時間については、「15分以内」が47.6%、「30分以内」が38.4%となっている。（図18②-2）

【2 現任保育士調査】

問 19 現在の給与（年収）

現在の給与について年収ベース（総支給額）でお答えください。（○は1つ）

【図19 現在の給与】



現在の給与の年収ベース（総支給額）については、「200～300万円未満」が30.2%で最も多く、次いで「103～200万円未満」が27.7%となっている。（図19）

【表19 現在の給与（年代別）】

	n								(%)
		10万円未満	20万円未満	30万円未満	40万円未満	50万円未満	70万円未満	70万円以上	無回答
20歳代	1,303	1.8	27.3	50.7	14.6	1.8	-	-	3.8
30歳代	1,152	13.0	23.4	29.3	21.2	8.8	2.5	0.1	1.7
40歳代	1,156	19.1	30.3	18.3	10.4	10.7	8.6	0.8	1.9
50歳代	879	21.5	28.3	24.1	9.2	5.3	7.4	2.7	1.4
60歳以上	400	42.3	33.0	12.8	3.8	2.5	3.3	0.5	2.0

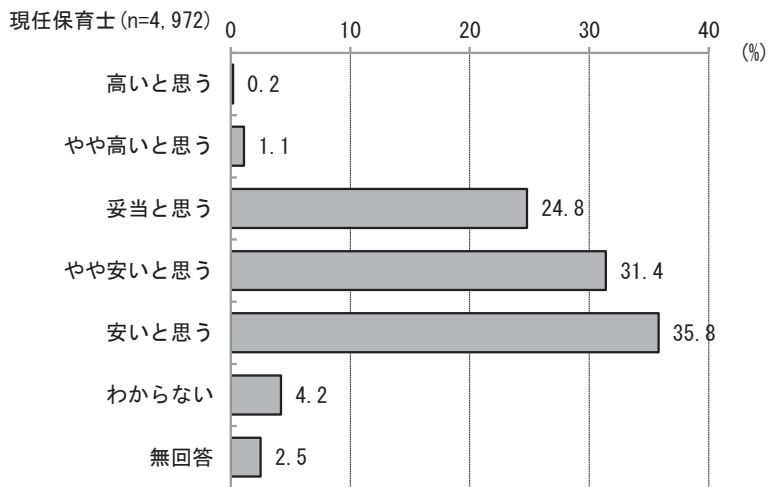
年代別でみると、年代が上がるほど「103万円未満」が多くなる傾向がある。また「400～500万円未満」と「500～700万円未満」は40歳代が最も高くなっている。（表19）

【2 現任保育士調査】

問 20 勤務内容に比べた現在の給与の妥当性

現在の給与は勤務内容に比べ妥当だと感じていますか。(○は1つ)

【図20 勤務内容に比べた現在の給与の妥当性】



勤務内容に比べた現在の給与の妥当性については、「安いと思う」が35.8%で最も多く、次いで「やや安いと思う」が31.4%、「妥当と思う」が24.8%となっている。(図20)

【表20 勤務内容に比べた現在の給与の妥当性 (年代別)】

	n	(%)						
		高いと思う	やや高いと思う	妥当と思う	やや安いと思う	安いと思う	わからない	無回答
20歳代	1,303	0.2	1.0	14.4	31.5	46.4	4.1	2.3
30歳代	1,152	0.4	0.8	21.1	33.1	40.1	2.9	1.6
40歳代	1,156	0.3	1.0	27.9	32.5	31.5	4.2	2.7
50歳代	879	-	1.4	31.3	30.4	29.5	5.0	2.5
60歳以上	400	0.3	1.3	45.8	24.8	17.5	7.3	3.3

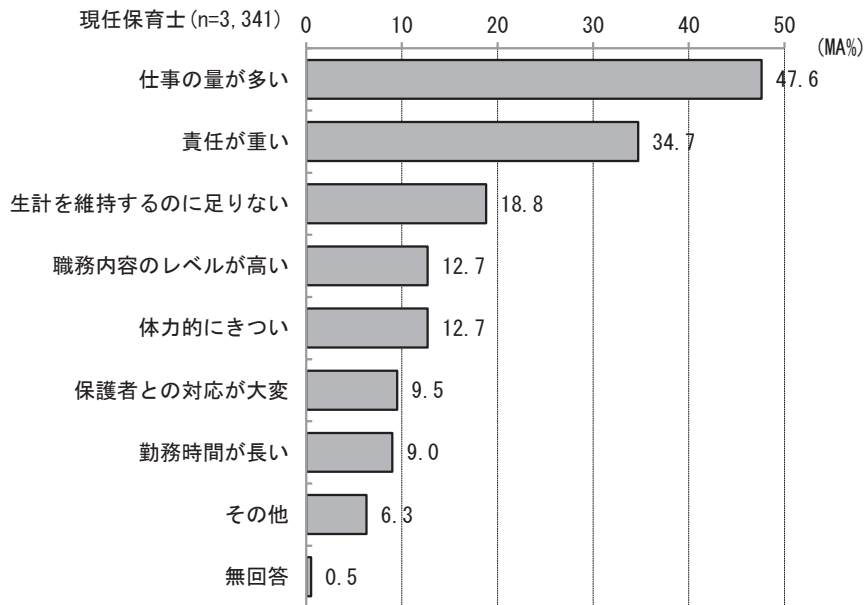
年代別でみると、年代が上るほど「妥当と思う」の割合が高い傾向がある。また「安いと思う」と「やや安いと思う」を合計した『安いと思う』は20歳代、30歳代で7割以上、40歳代で6割以上となっている。(表20)

【2 現任保育士調査】

問 20-1 給与が安いと思う理由

問20で「4 やや安いと思う」「5 安いと思う」と回答した方におうかがいします。
その主な理由は次のどれですか。(〇は1つ)

【図20-1 給与が安いと思う理由】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

給与が安いと思うと回答した方にその理由をたずねたところ、「仕事が多い」が47.6%で最も多く、次いで「責任が重い」が34.7%となっている。(図20-1)

【表20-1 給与が安いと思う理由 (年代別)】

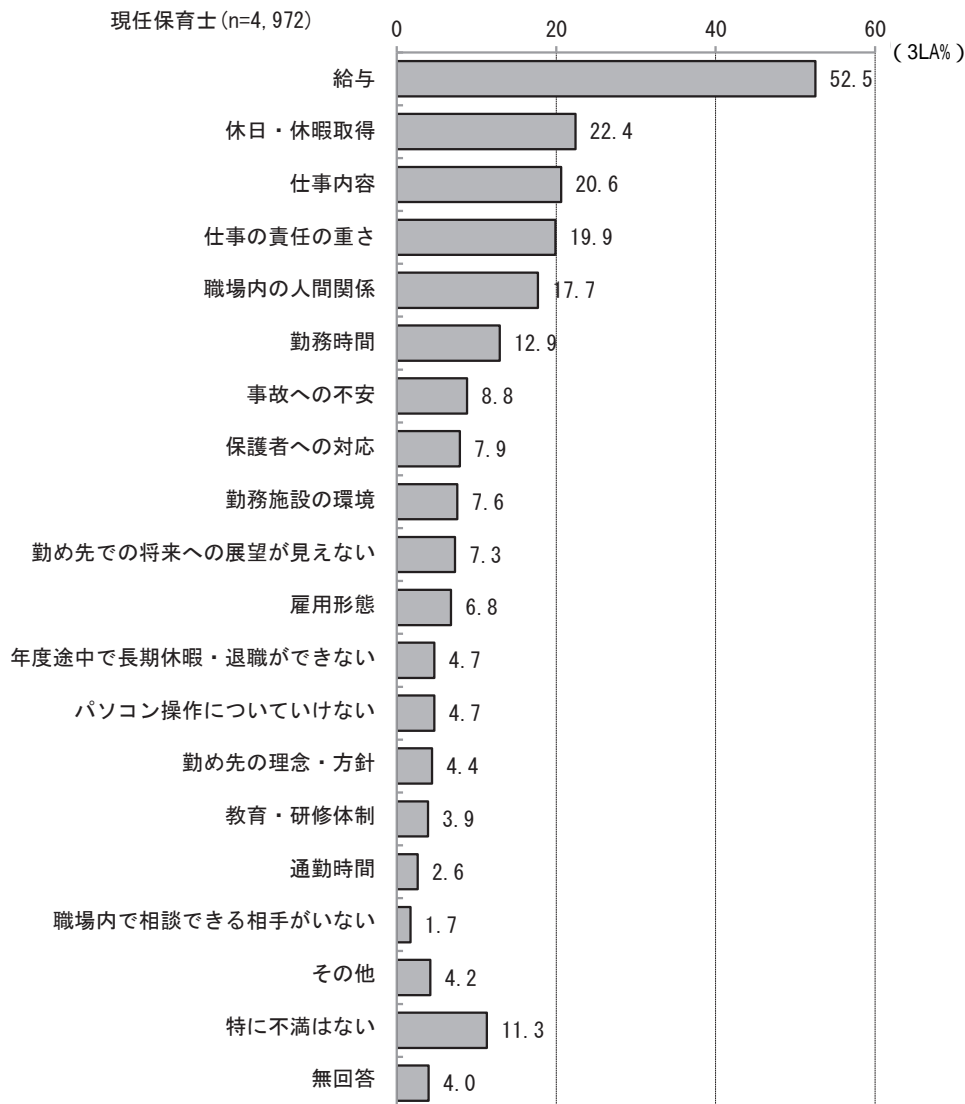
	n	(%)								
		仕事 の量 が多い	が職 務内 容の レベ ル	責 任が 重い	勤 務時 間が 長い	大保 護者 との 対応 が大 変	体 力的 に きつ い	に生 計を 維持 する の	そ の 他	無 回 答
20歳代	1,015	62.0	12.3	33.3	13.8	12.2	11.8	20.0	2.7	0.1
30歳代	843	50.5	12.0	34.5	9.0	12.3	10.4	22.3	5.7	0.8
40歳代	740	37.4	13.0	36.6	7.6	7.2	13.8	17.6	8.4	0.4
50歳代	526	35.9	13.5	35.0	4.9	4.9	14.3	14.3	9.9	0.4
60歳以上	169	24.9	14.2	36.1	0.6	4.7	18.9	12.4	11.8	1.2

現在の就業先別でみると、60歳以上は「責任が重い」が最も多いが、それ以外の年代は「仕事が多い」が最も多くなっている。(表 20-1)

問 21 労働環境についての不満

現在の労働環境について、特にご不満に感じておられることは何ですか。(〇は3つまで)

【図21 労働環境についての不満】



現在の労働環境への不満については、「給与」が52.5%で最も多く、次いで「休日・休暇取得」が22.4%、「仕事内容」が20.6%、「仕事の責任の重さ」が19.9%となっている。(図21)

【2 現任保育士調査】

【表21 労働環境についての不満（年代別・現在の就労先別）】

		(%)																				
		n	給与	勤務時間	仕事内容	雇用形態	休日・休暇取得	年度途中で長期休暇・退職ができない	勤務施設の環境	通勤時間	仕事の責任の重さ	事故への不安	パソコン操作についていけない	職場内の人間関係	職場内で相談できる相手がいない	教育・研修体制	勤め先での将来への展望が見えない	勤め先の理念・方針	保護者への対応	その他	特に不満はない	無回答
年代別	20歳代	1,303	65.7	17.6	24.2	5.4	35.8	8.1	6.6	1.6	23.3	7.1	1.5	17.8	2.6	2.8	8.6	2.6	9.4	2.1	5.8	3.2
	30歳代	1,152	59.5	13.8	22.6	7.0	24.4	5.5	8.5	3.3	19.8	6.7	3.3	18.1	1.3	4.8	8.5	5.0	8.1	5.1	10.3	2.6
	40歳代	1,156	45.8	12.7	19.7	6.0	16.2	3.5	6.5	2.9	20.9	11.4	4.8	18.9	1.3	3.7	7.3	4.5	7.6	5.4	11.9	4.7
	50歳代	879	44.6	9.1	18.5	8.6	15.7	1.9	9.9	2.6	18.3	9.9	10.1	17.1	1.7	4.4	5.6	5.2	6.8	5.0	13.0	4.3
	60歳以上	400	29.0	4.0	10.3	8.8	8.3	1.5	7.0	2.5	10.3	11.0	7.3	15.0	1.8	4.0	3.3	5.8	6.0	3.5	27.0	5.3
現在の就業先別	公立保育所	1,097	45.8	13.7	22.4	7.3	22.6	3.6	9.8	2.9	25.8	8.5	5.0	18.5	1.7	3.2	6.1	2.6	8.8	6.4	10.9	4.6
	私立保育所	1,739	56.4	11.4	18.7	5.5	23.3	5.9	8.1	2.2	17.7	9.1	4.1	17.9	1.7	3.9	7.9	4.8	9.1	3.7	11.3	3.5
	公立幼保連携型認定こども園	1,003	56.7	15.1	23.5	9.9	25.4	5.1	5.2	1.9	22.8	7.2	4.7	16.8	2.1	4.2	5.5	3.5	6.8	3.3	9.2	3.5
	私立幼保連携型認定こども園	688	51.0	12.5	22.8	5.4	21.8	3.5	5.7	3.1	15.3	7.4	6.4	19.0	1.5	5.2	8.4	5.7	6.3	3.8	11.9	3.5
	小規模保育事業所 (地域型保育)	215	51.2	13.0	12.1	6.0	11.2	2.8	12.1	4.2	13.0	15.8	2.8	18.1	2.3	3.7	12.6	6.0	4.2	4.7	14.9	5.1
	家庭的保育事業所 (地域型保育)	76	22.4	5.3	2.6	2.6	3.9	2.6	3.9	5.3	14.5	15.8	9.2	9.2	1.3	1.3	6.6	9.2	5.3	2.6	25.0	9.2
	事業所内保育事業所 (地域型保育)	15	66.7	6.7	-	-	13.3	13.3	13.3	6.7	13.3	13.3	6.7	-	-	6.7	20.0	20.0	6.7	-	-	6.7
	企業主導型保育施設	24	58.3	33.3	20.8	4.2	16.7	16.7	-	-	16.7	8.3	4.2	20.8	4.2	-	4.2	8.3	16.7	4.2	8.3	8.3
	認可外保育施設 (企業主導型保育施設を除く)	3	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	66.7	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-
	幼稚園(預かり保育)・ 幼稚園型認定こども園	23	60.9	17.4	21.7	17.4	21.7	-	17.4	-	26.1	8.7	-	21.7	-	4.3	4.3	-	8.7	-	4.3	4.3
	地域子育て支援拠点等市町 の子育て関連施設	5	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	20.0	-	-	40.0	-
	その他	22	72.7	13.6	27.3	9.1	27.3	4.5	9.1	-	4.5	4.5	-	13.6	4.5	-	13.6	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5

年代別で見ると、どの年代も「給与」が最も多くなっている。一方「特に不満はない」は60歳以上で最も高くなっている。

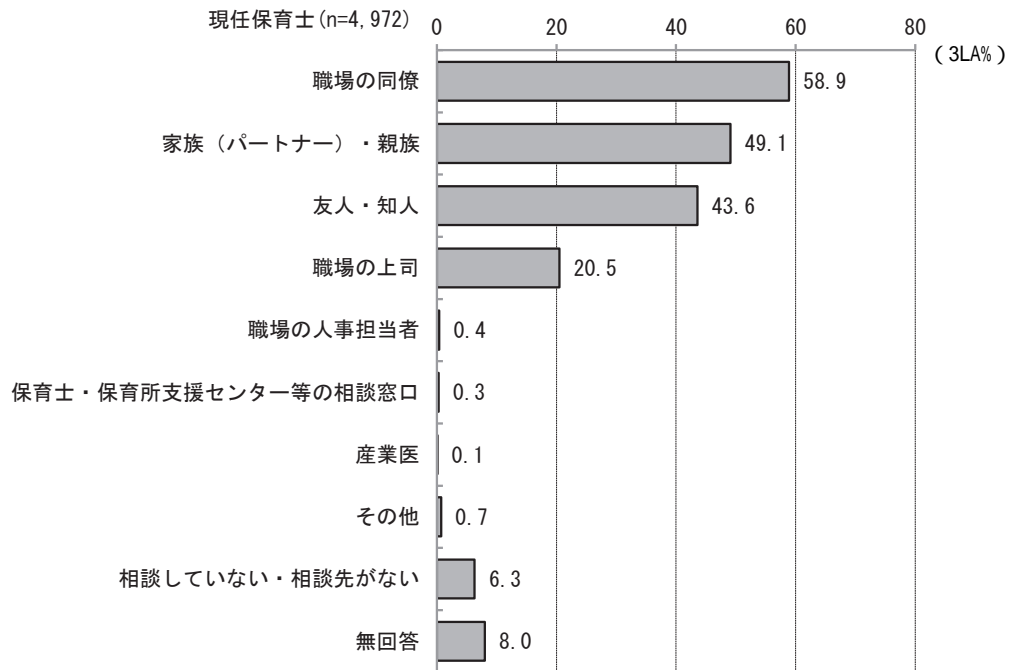
現在の就業先別で見ると、家庭的保育事業所（地域型保育）、認可外保育施設（企業主導型保育施設を除く）、地域子育て支援拠点等市町の子育て関連施設を除いて、どの施設も「給与」が最も多くなっている。家庭的保育事業所（地域型保育）では「特に不満はない」が最も多くなっている。（表21）

【2 現任保育士調査】

問 22 仕事の悩みの相談相手

問21で回答したような仕事の悩みについて、相談相手はどなたですか。(○は3つまで)

【図22 仕事の悩みの相談相手】

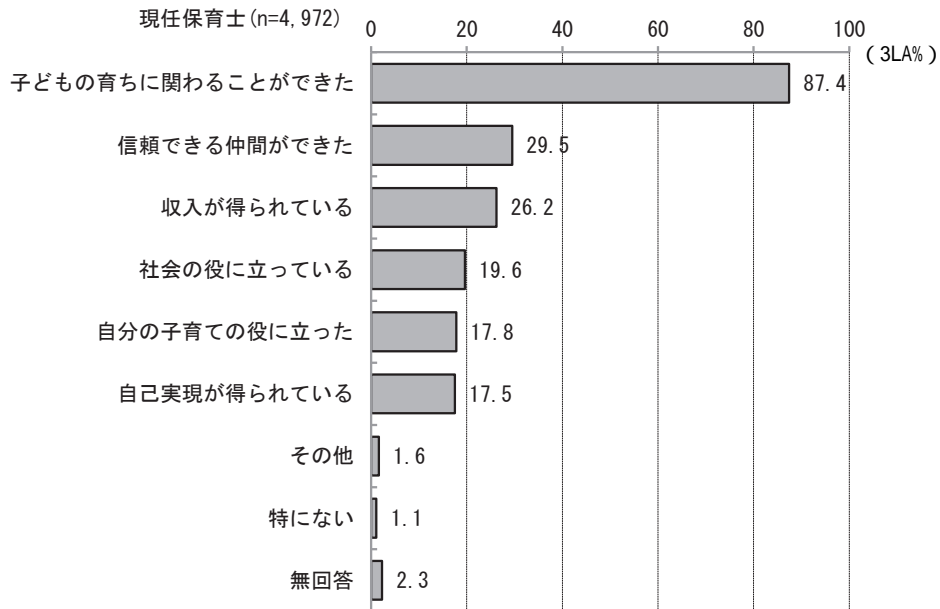


仕事の悩みの相談相手については、「職場の同僚」が58.9%で最も多く、次いで「家族（パートナー）・親族」が49.1%、「友人・知人」が43.6%となっている。（図22）

問 23 保育士としてのやりがい

あなたが保育士として働いてこられた中で、やりがいに感じることは何ですか。(〇は主なもの3つまで)

【図23 保育士としてのやりがい】

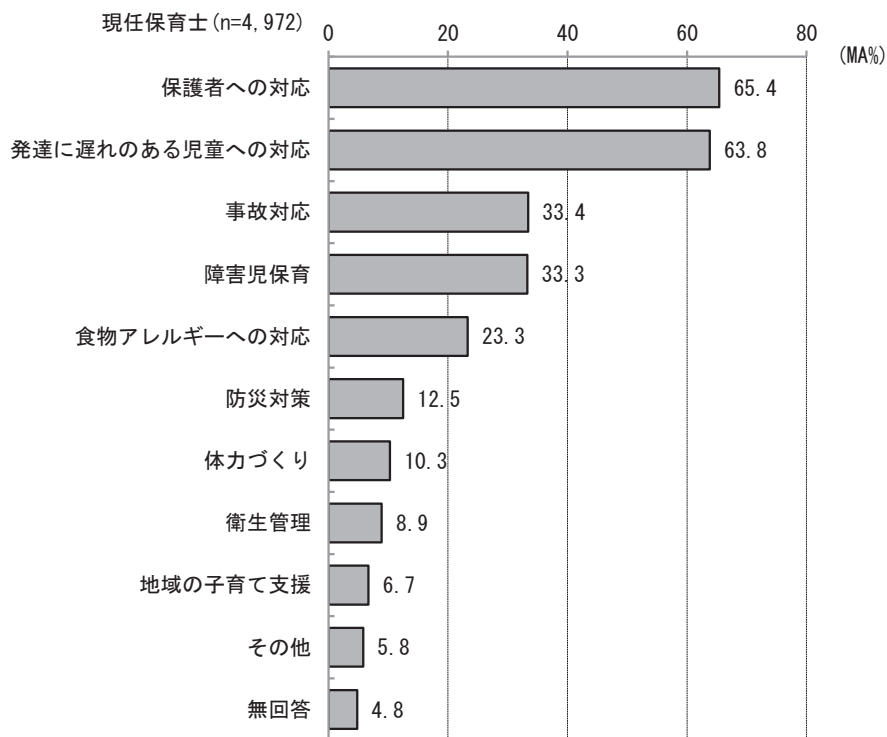


保育士としてのやりがいについては、「子どもの育ちに関わることができた」が87.4%で最も多く、次いで「信頼できる仲間ができた」が29.5%、「収入が得られている」が26.2%となっている。(図23)

問 24 保育現場で対応が難しいと感じること

あなたが、現在保育の現場で対応が難しいと感じていること（悩み）は何ですか。
（〇はいくつでも）

【図24 保育現場で対応が難しいと感じること】



保育現場で対応が難しいと感じることについては、「保護者への対応」が65.4%で最も多く、次いで「発達に遅れのある児童への対応」が63.8%、「事故対応」が33.4%、「障害児保育」が33.3%となっている。（図24）

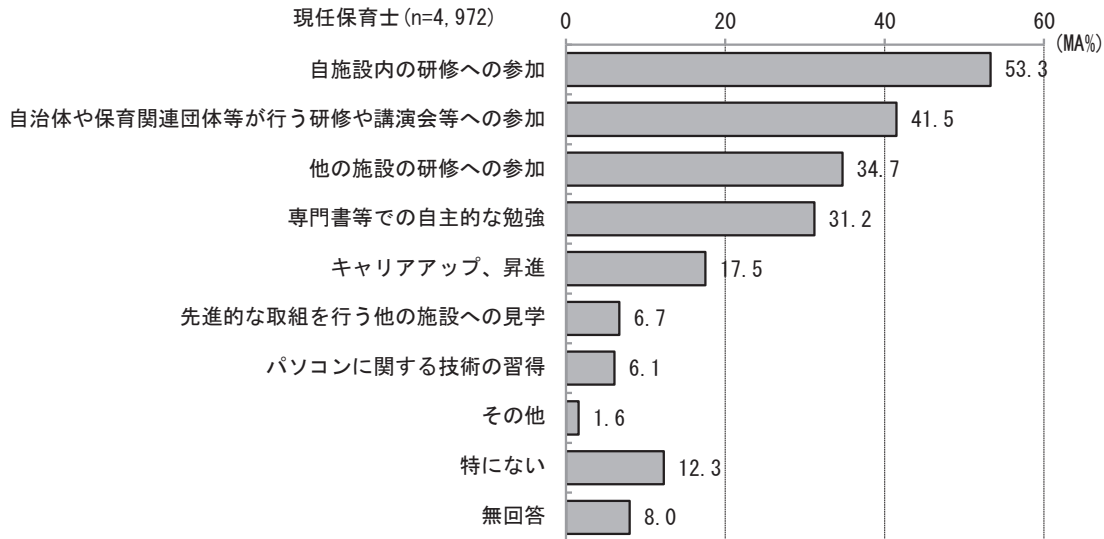
【2 現任保育士調査】

問 25 自己研鑽で現在取り組んでいること、今後取り組みたいこと

あなたは、自己研鑽（保育業務のレベルアップ）のため、ア 現在、どのような取組をおこなっていますか。また、イ 今後、どのような取組をおこないたいですか。（それぞれ〇はいくつでも）

ア 現在取り組んでいること

【図25ア 自己研鑽で現在取り組んでいること】

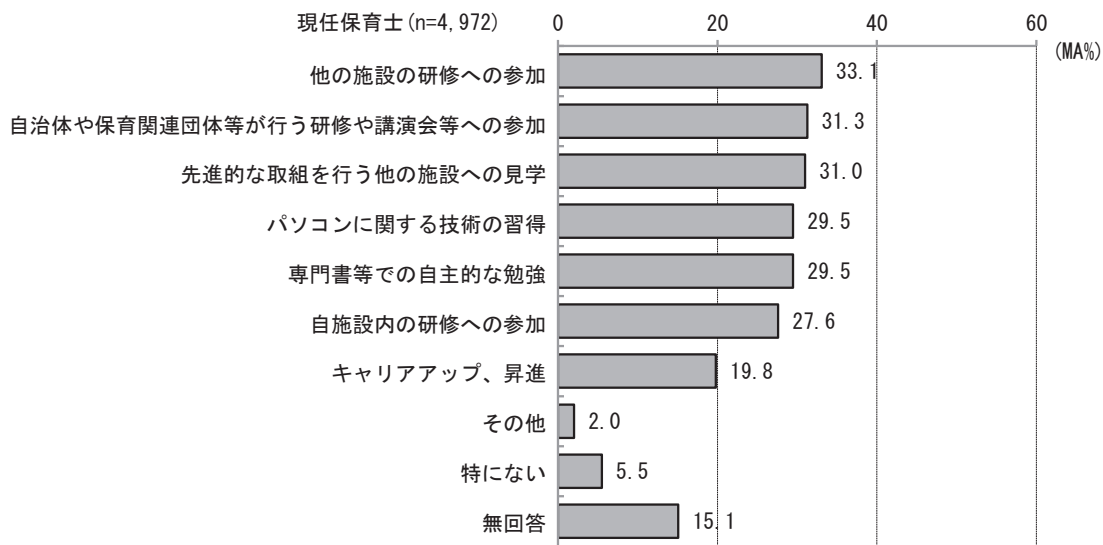


自己研鑽で現在取り組んでいることについては、「自施設内の研修への参加」が53.3%で最も多く、次いで「自治体や保育関連団体等が行う研修や講演会等への参加」が41.5%となっている。（図25ア）

【2 現任保育士調査】

イ 今後取り組みたいこと

【図25イ 自己研鑽で今後取り組みたいこと】



自己研鑽で今後取り組みたいことについては、「他の施設の研修への参加」が33.1%で最も多く、次いで「自治体や保育関連団体等が行う研修や講演会等への参加」が31.3%、「先進的な取組を行う他の施設への見学」が31.0%となっている。(図25イ)

【表25イ 自己研鑽で今後取り組みたいこと (年代別)】

	n	(%)									
		自施設内の研修への参加	他の施設の研修への参加	自治体や講演会等が行う研修や保育関連団体等が行う	先進的な取組を行う他の施設への見学	専門書等での自主的な勉強	パソコンに関する技術の習得	キャリアアップ、昇進	その他	特になし	無回答
20歳代	1,303	29.7	41.2	33.5	38.0	29.8	31.3	33.2	1.5	4.1	13.0
30歳代	1,152	29.0	36.7	31.3	32.4	28.1	31.4	22.8	2.0	6.9	12.0
40歳代	1,156	25.1	30.9	29.6	30.6	32.3	31.1	14.9	2.3	5.2	13.1
50歳代	879	28.8	27.5	34.0	27.3	30.8	29.6	10.1	2.5	4.8	16.5
60歳以上	400	21.8	17.3	24.3	14.5	21.3	15.5	4.0	1.5	8.0	30.5

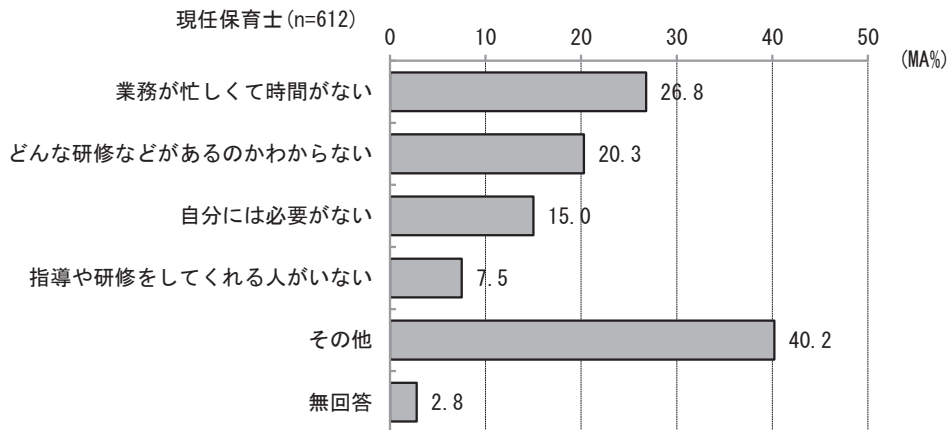
年代別でみると、20歳代、30歳代は「他の施設の研修への参加」が、40歳代は「専門書等での自主的な勉強」が、50歳代、60歳以上では「自治体や保育関連団体等が行う研修や講演会等への参加」が最も多くなっている。(表25イ)

【2 現任保育士調査】

問 26 取り組めていない理由

問25の「ア 現在取り組んでいること」で「9 特にない」と回答した方にお聞きします。
現在取り組めていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図26 取り組めていない理由】



自己研鑽に現在取り組めていないと回答した方にその理由をたずねたところ、「業務が忙しくて時間がない」が26.8%、「どんな研修などがあるのかわからない」が20.3%となっている。また「その他」には『家事、育児、介護等家庭のことが忙しくて時間がない、家庭を優先したい』、『パートや保育補助のため必要がない』、『研修の機会がない』という意見があった。(図26)

【表26 取り組めていない理由 (年代別)】

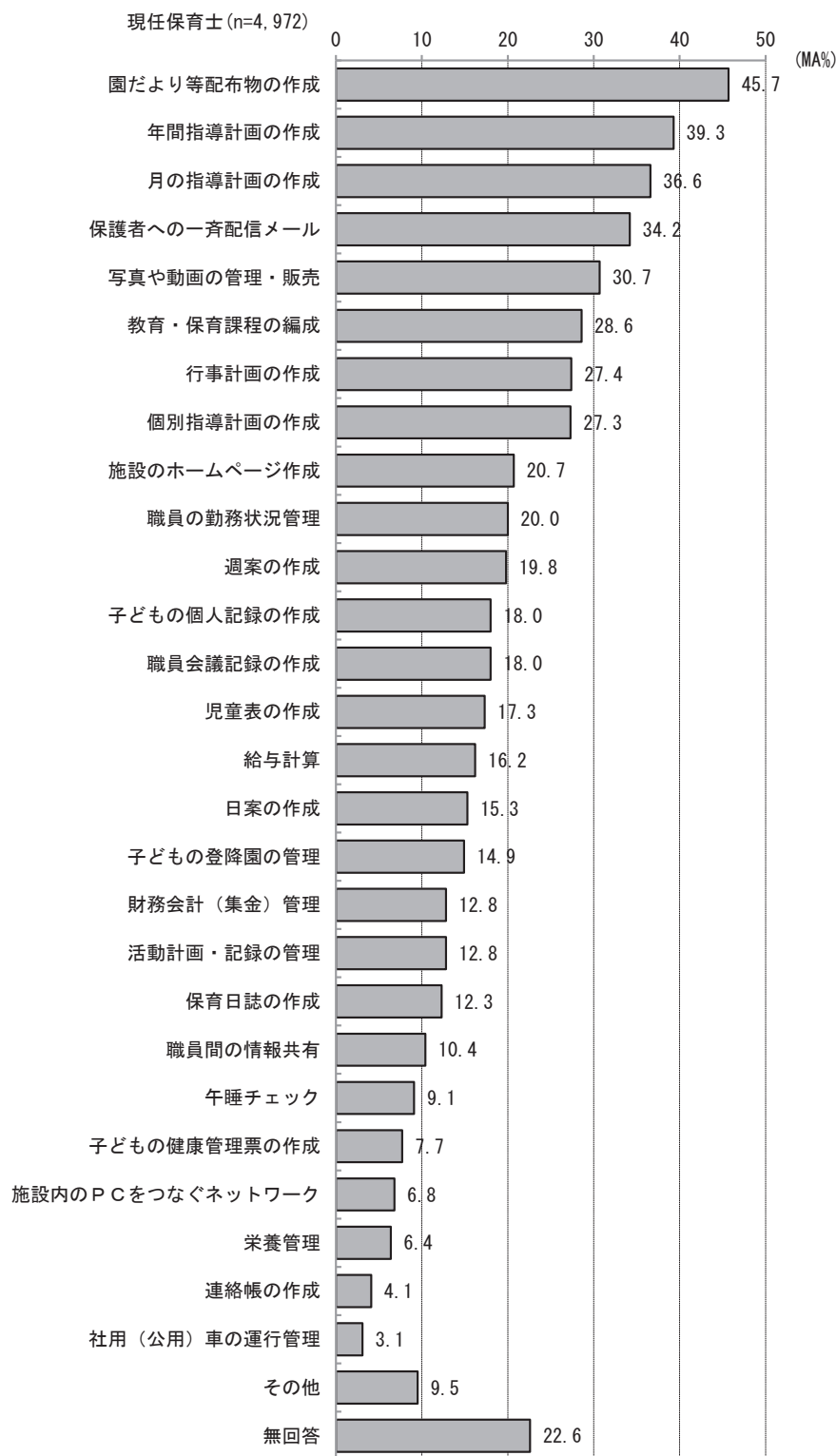
	n	業務が忙しくて時間がない	指導や研修をしてくれる人がいない	どんな研修などがあるのかわからない	自分には必要がない	その他	無回答
20歳代	94	54.3	4.3	30.9	11.7	19.1	-
30歳代	177	35.0	7.9	18.6	5.6	44.1	2.3
40歳代	147	17.0	9.5	20.4	12.2	46.3	4.1
50歳代	104	20.2	9.6	17.3	24.0	37.5	2.9
60歳以上	79	5.1	3.8	15.2	30.4	50.6	2.5

年代別でみると、20歳代、30歳代は「業務が忙しくて時間がない」が、40歳代は「どんな研修などがあるのかわからない」が、50歳代、60歳以上は「自分には必要がない」がそれぞれ最も多くなっている。(表26)

問 27 パソコン等を活用している事務業務

勤務先で、パソコン等の情報通信技術（ICT）を使用して作業されている事務業務をお答えください。（〇はいくつでも）

【図27 パソコン等を活用している事務業務】



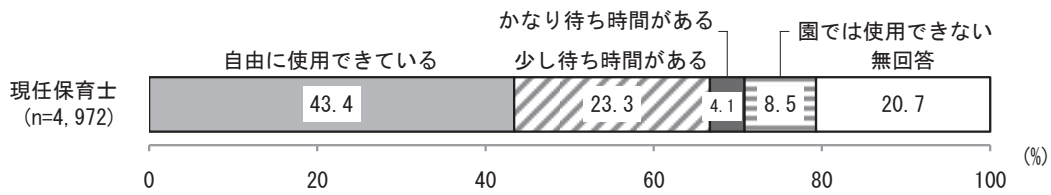
パソコン等を活用している事務業務については、「園だより等配布物の作成」が45.7%で最も多く、次いで「年間指導計画の作成」が39.3%、「月の指導計画の作成」が36.6%となっている（図27）

【2 現任保育士調査】

問 28 パソコンの使用状況

勤務先では、自由に（待ち時間なく）パソコンを使用できていますか。（○は1つ）

【図28 パソコンの使用状況】



パソコンの使用状況については、「自由に使用できている」が43.4%で最も多く、次いで「少し待ち時間がある」が23.3%となっている。（図28）

【表28 パソコンの使用状況（現在の就業先別）】

	n	自由に使用できている	少し待ち時間がある	かなり待ち時間がある	園では使用できない	無回答
公立保育所	1,097	35.8	22.7	4.6	11.1	25.7
私立保育所	1,739	42.2	26.7	4.0	7.4	19.8
公立幼保連携型認定こども園	1,003	48.8	19.8	4.1	6.9	20.4
私立幼保連携型認定こども園	688	55.7	22.7	3.3	5.5	12.8
小規模保育事業所(地域型保育)	215	37.2	25.6	5.1	13.5	18.6
家庭的保育事業所(地域型保育)	76	23.7	15.8	1.3	27.6	31.6
事業所内保育事業所(地域型保育)	15	46.7	33.3	-	-	20.0
企業主導型保育施設	24	20.8	37.5	4.2	8.3	29.2
認可外保育施設(企業主導型保育施設を除く)	3	66.7	-	-	-	33.3
幼稚園(預かり保育)・幼稚園型認定こども園	23	43.5	17.4	4.3	21.7	13.0
地域子育て支援拠点等市町の子育て関連施設	5	100.0	-	-	-	-
その他	22	50	4.5	4.5	22.7	18.2

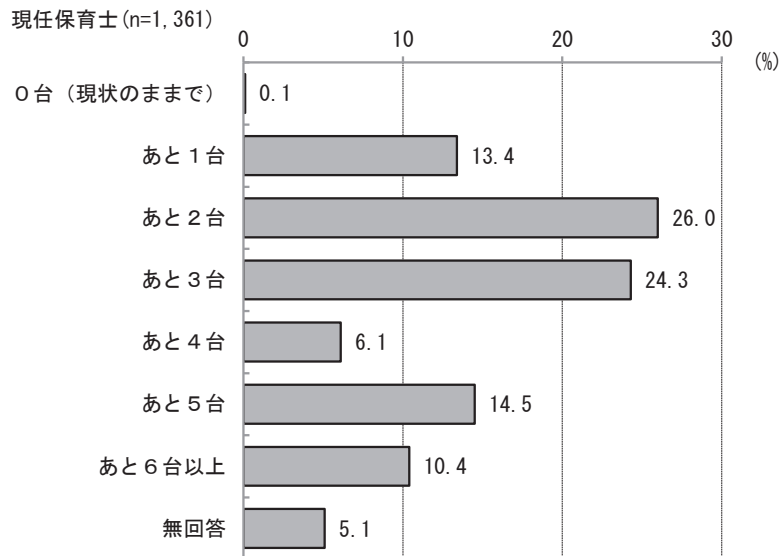
現在の就業先別でみると、家庭的保育事業所（地域型保育）は「園では使用できない」が、企業主導型保育施設では「少し待ち時間がある」が最も多くなっている。それ以外の施設では「自由に使用できている」が最も多くなっている。（表28）

【2 現任保育士調査】

問 28-1 パソコンの必要台数

問28で「2 少し待ち時間がある」または「3 かなり待ち時間がある」と回答された方にお聞きします。
あと何台パソコンがあれば待ち時間なく自由にパソコンが使用できると思いますか。

【図28-1 パソコンの必要台数】



待ち時間があると回答した方に、あと何台パソコンがあれば待ち時間なく自由にパソコンが使用できるかたずねたところ、「あと2台」が26.0%で最も多く、次いで「あと3台」が24.3%となっている。平均は3.4台である。(図28-1)

【表28-1 パソコンの必要台数 (現在の就業先別)】

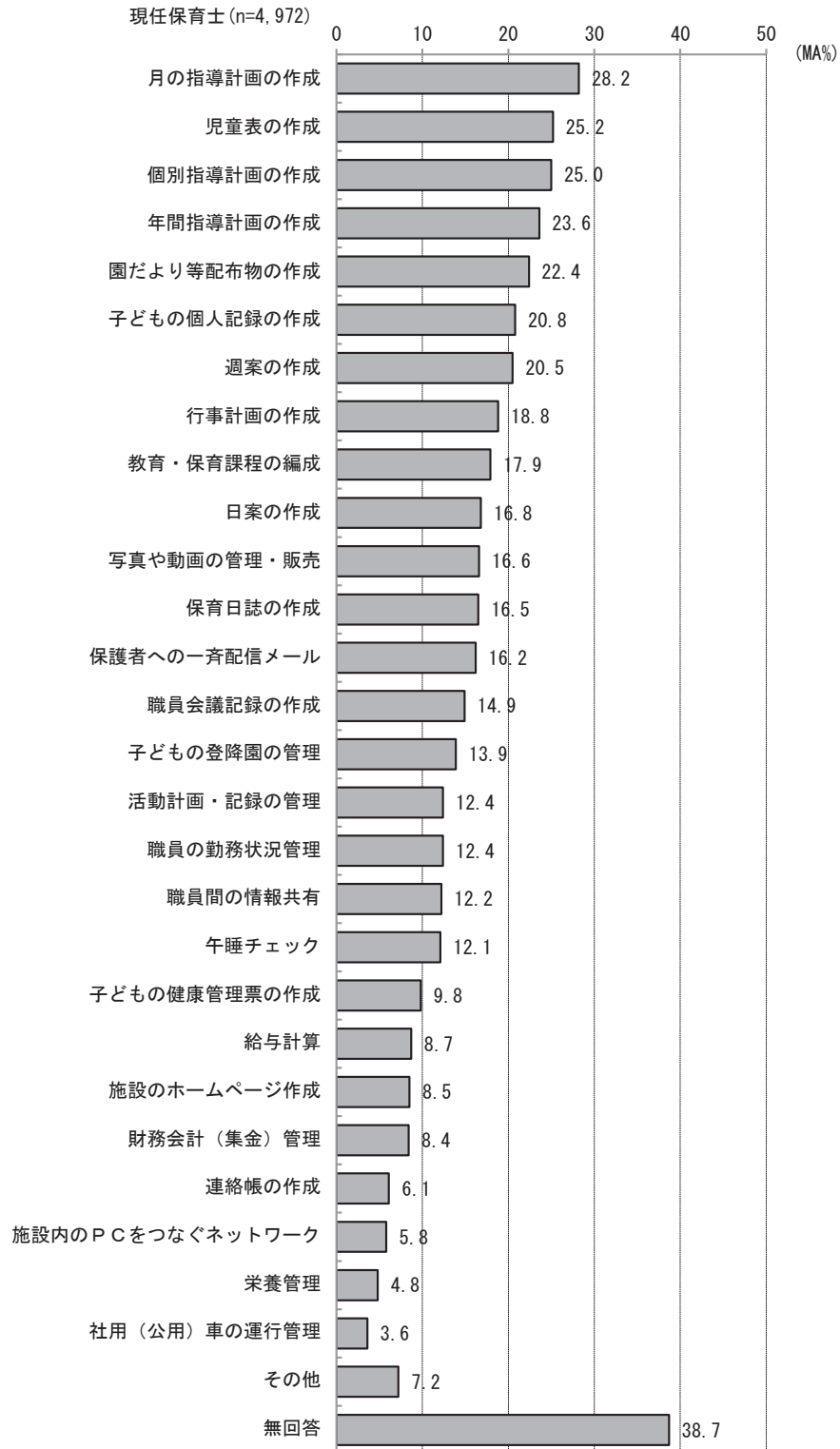
	n	0台 (現状のままで)	あと1台	あと2台	あと3台	あと4台	あと5台	あと6台以上	無回答
公立保育所	300	0.7	7.3	25.0	28.7	7.7	16.7	8.7	5.3
私立保育所	534	-	16.3	25.8	20.8	7.1	12.7	11.2	6.0
公立幼保連携型認定こども園	240	-	6.3	21.7	29.2	3.8	18.3	15.8	5.0
私立幼保連携型認定こども園	179	-	8.9	25.1	27.4	7.3	18.4	8.4	4.5
小規模保育事業所(地域型保育)	66	-	42.4	42.4	13.6	-	-	-	1.5
家庭的保育事業所(地域型保育)	13	-	30.8	61.5	7.7	-	-	-	-
事業所内保育事業所(地域型保育)	5	-	80.0	20.0	-	-	-	-	-
企業主導型保育施設	10	-	40.0	60.0	-	-	-	-	-
認可外保育施設(企業主導型保育施設を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
幼稚園(預かり保育)・幼稚園型認定こども園	5	-	40.0	-	20.0	-	40.0	-	-
地域子育て支援拠点等市町の子育て関連施設	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	2	-	-	-	-	-	-	100	-

現在の就業先別でみると、どの施設も「あと1台」～「あと3台」が多い傾向となっている。「あと6台以上」は公立幼保連携型認定こども園で高くなっている。(表28-1)

問 29 パソコンを使って作業したい事務業務

勤務先で、パソコン等の情報通信技術（ICT）を使用して作業したいと思う事務業務をお答えください。（〇はいくつでも）

【図29 パソコンを使って作業したい事務業務】



パソコンを使って作業したい事務業務については、「月の指導計画の作成」が28.2%で最も多く、次いで「児童表の作成」が25.2%、「個別指導計画の作成」が25.0%となっている。（図29）

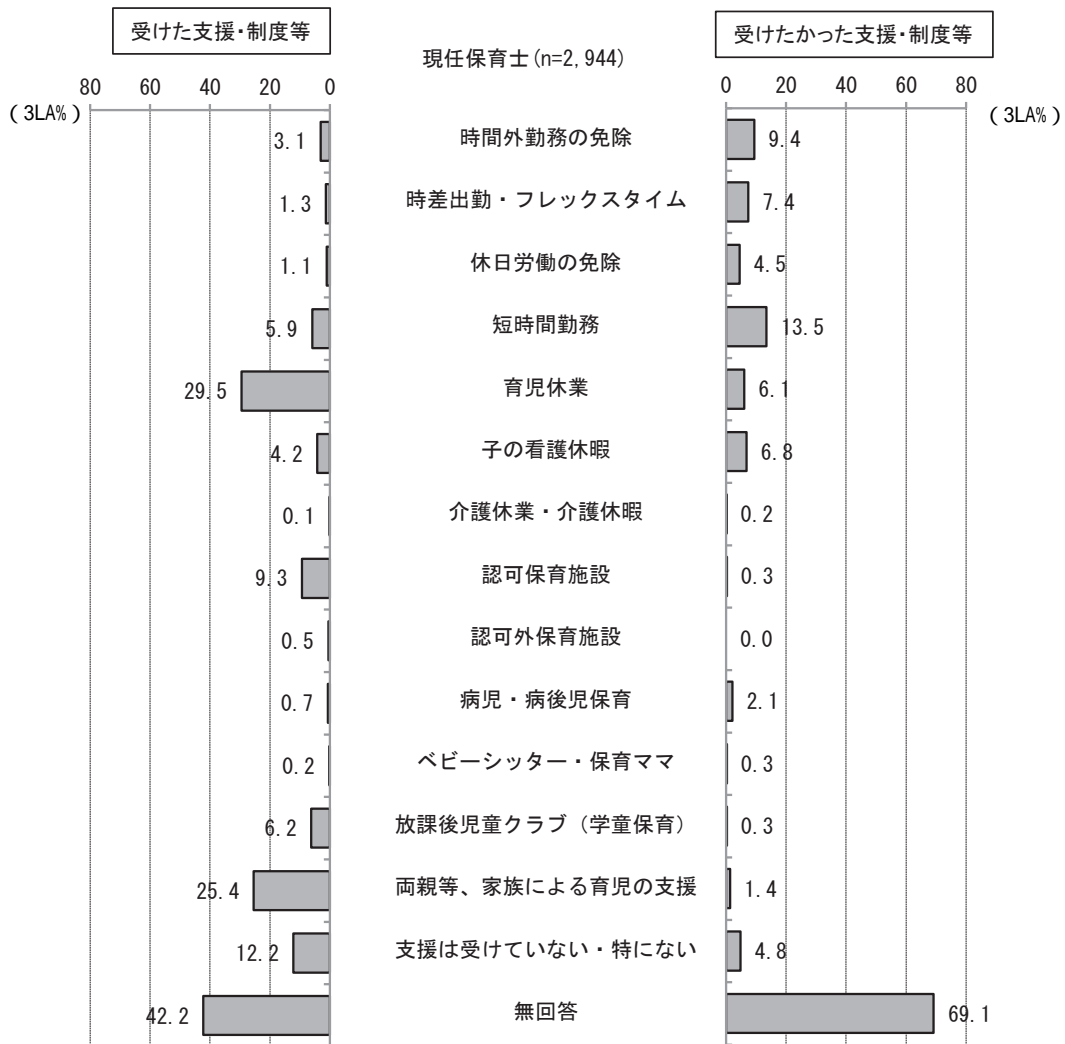
【2 現任保育士調査】

問 30 保育士になってから受けた支援・制度等、受けたかった支援・制度等

保育士になってからこれまでに受けた支援・活用した制度等を、それぞれの時期について、主なものを3つまでお答えください。
また、受けたかったが、受けられなかった支援・制度等についても、同様にお答えください。

① 第1子の妊娠・出産・育児の際

【図30① 第1子の妊娠・出産・育児の際に受けた支援、受けたかった支援】



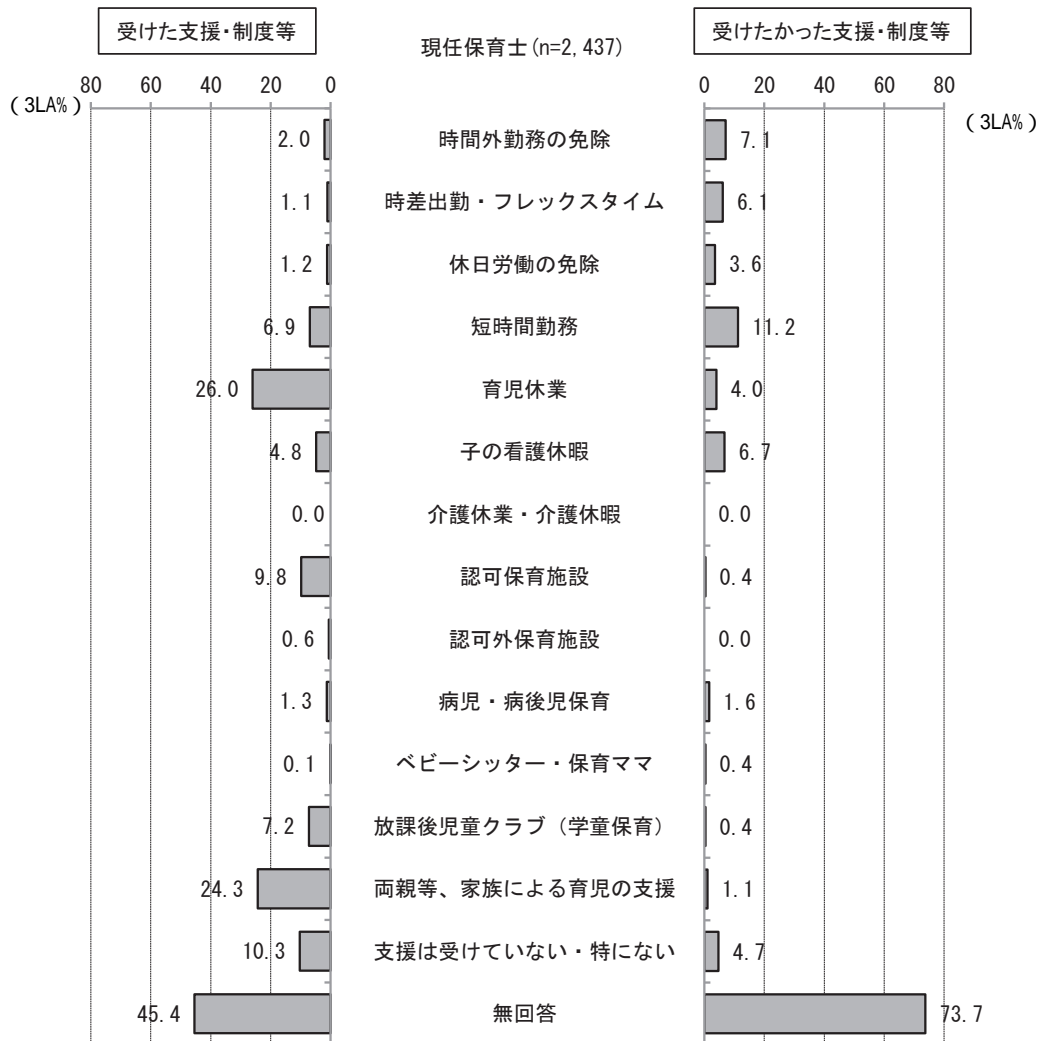
第1子の妊娠・出産・育児の際に受けた支援・制度等については、「育児休業」が29.5%で最も多く、次いで「両親等、家族による育児の支援」が25.4%、「認可保育施設」が9.3%となっている。また「支援は受けていない・特になし」は12.2%となっている。

第1子の妊娠・出産・育児の際に受けたかったが受けられなかった支援・制度等については、「短時間勤務」が13.5%で最も多く、次いで「時間外勤務の免除」が9.4%、「時差出勤、フレックスタイム」が7.4%となっている。(図30①)

【2 現任保育士調査】

②第2子以降の妊娠・出産・育児の際

【図30② 第2子の妊娠・出産・育児の際に受けた支援、受けなかった支援】



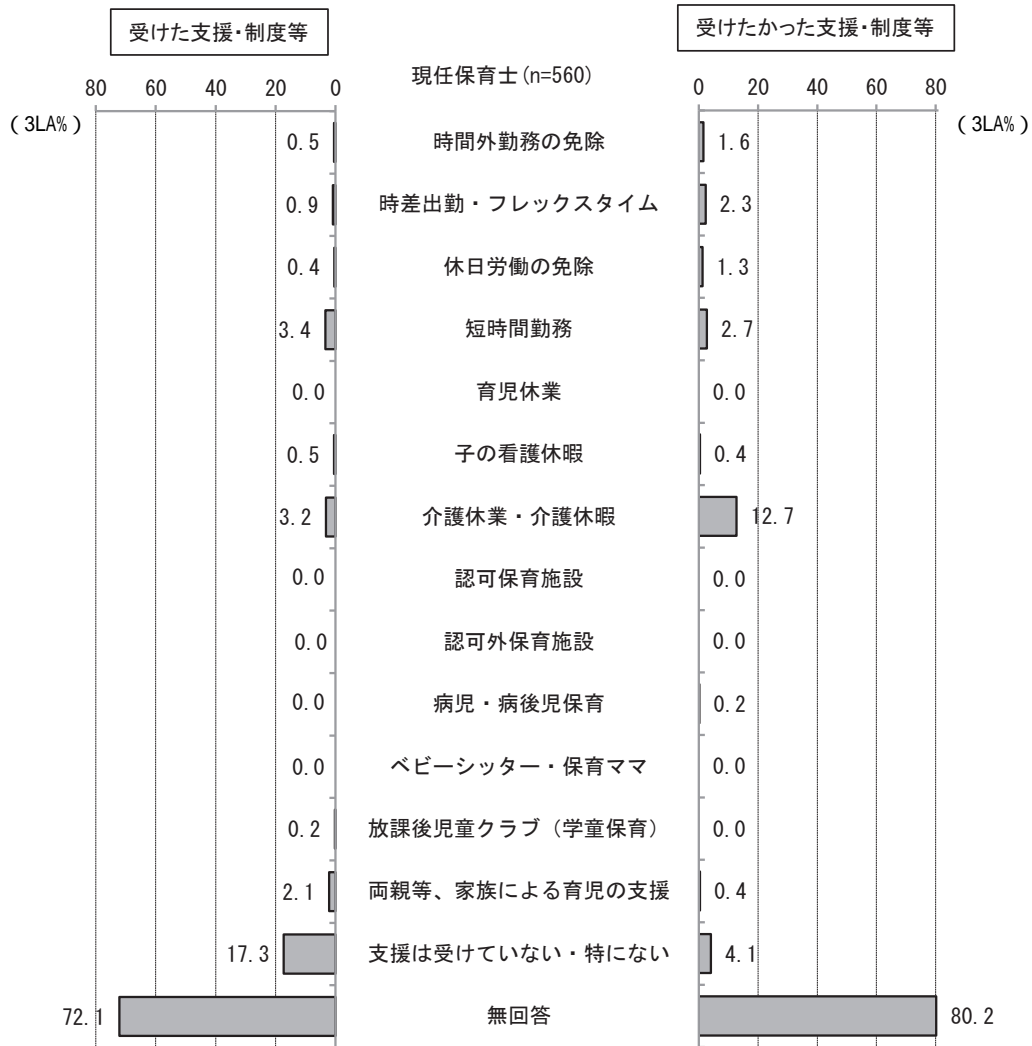
第2子以降の妊娠・出産・育児の際に受けた支援・制度等については、「育児休業」が26.0%で最も多く、次いで「両親等、家族による育児の支援」が24.3%、「認可保育施設」が9.8%となっている。また「支援は受けていない・特にない」は10.3%となっている。

第2子以降の妊娠・出産・育児の際に受けなかった支援・制度等については、「短時間勤務」が11.2%で最も多く、次いで「時間外勤務の免除」が7.1%、「子の看護休暇」が6.7%となっている。(図30②)

【2 現任保育士調査】

③家族の介護の際

【図30③ 家族の介護の際に受けた支援、受けたかった支援】



家族の介護の際に受けた支援・制度等については、「短時間勤務」が3.4%、「介護休業・介護休暇」は3.2%となっている。また「支援は受けていない・特になし」は17.3%となっている。

家族の介護の際に受けたかった支援・制度等については、「介護休業・介護休暇」が12.7%で最も多く、次いで「短時間勤務」が2.7%となっている。(図30③)

問 31 受けたかった支援・制度等（自由記述）

上記項目（問30）以外で受けたかった支援、あれば良かったと思われる支援があれば、具体的内容を下記にお書きください。

305 人から回答をいただき、主な意見は次の通り。

■雇用形態によって制度が受けられないことについて

- ・臨時職員やパートでも産休・育休を取得したかった。
- ・臨時職員は正職員と同量、同等の仕事にも関わらず、制度が受けられないのは疑問に思う。
- ・フルで働く者は、正規、非正規にかかわらず、産休、育休の制度を同一にしてほしい。

■育児休業に関すること

- ・育児休業からの復帰直後（年度途中）からのクラス担任は厳しかったので、年度末まではフリーでさせてもらえると有難いと思った。
- ・昔は育児休業が1年間だったが、現在は3年間なので、その制度があれば正職員を続けられたと思う。

■人手不足により制度が使えないことについて

- ・職場の人的環境が整っていなければ、休みを取りたくても取れない。
- ・育児休業後に復職したが、一人担任で休むことも難しく、続けることが困難だった。代わりに入ってくれる職員がいたり、カバーし合える職場であればよかった。

■短時間勤務について

- ・短時間勤務は1年だったので、2年、3年と取りたかった。
- ・短時間勤務の制度はあったが、他の職員に負担がかかるなど遠慮があり、取れなかった。

■介護休暇について

- ・介護休暇まではいかなくとも、短時間でも介護に関する休みの制度があると取得しやすいかと思う。
- ・介護中の短時間勤務制度がほしい。
- ・家族の介護が必要となった時、勤務時間の選択肢があればよかった。

■そのほかあれば良いと思う支援等

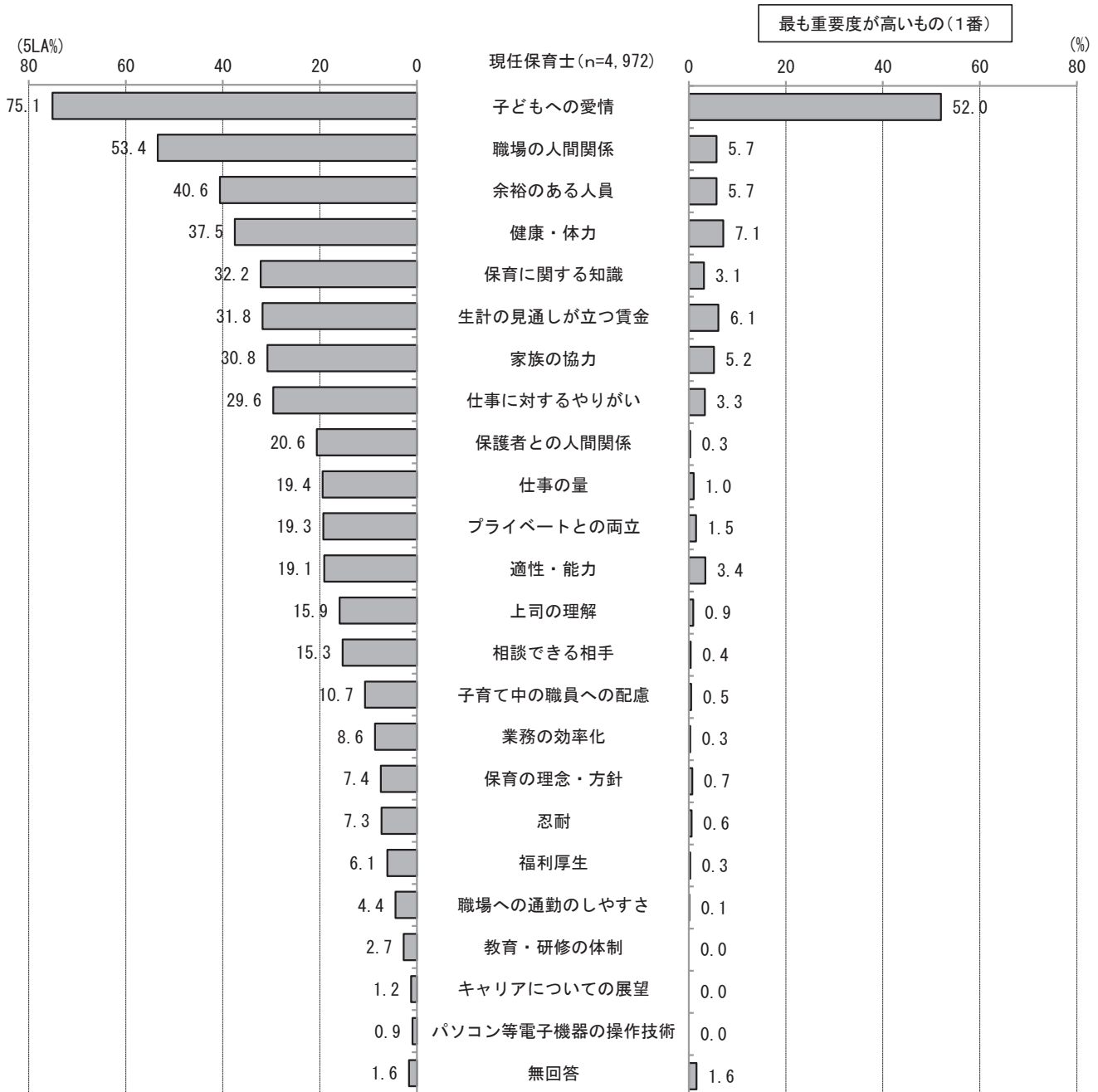
- ・子どもの学校行事や参観等で休暇を取りやすくしてほしい。
- ・妊娠中、仕事の内容や仕事量等への配慮があれば良かった。
- ・不妊治療のための休暇を取りやすくしてほしい。
- ・子どもが小さい間だけでも、時差勤務の免除や固定勤務を認めてほしい。
- ・長期休暇、リフレッシュ休暇

【2 現任保育士調査】

問 32 保育士として働くために重要なこと

保育士として働くためには、何が重要だと思いますか。特に重要だと思うことを5つ選び、重要度の高いものから順に、() 内に番号を記入してください。

【図32 保育士として働くために重要なこと】



保育士として働くために重要なことについては、全体で見ると「子どもへの愛情」が75.1%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が53.4%、「余裕のある人員」が40.6%となっている。

最も重要度が高いもの（1番）で見ると、「子どもへの愛情」が52.0%で最も多く、「健康・体力」が7.1%、「生計の見通しが立つ賃金」が6.1%となっている。（図32）

【2 現任保育士調査】

【表32 保育士として働くために重要なこと（年代別）】

(%)

	n	子どもへの愛情	生計の見通しが立つ賃金	プライベートとの両立	家族の協力	上司の理解	仕事の量	余裕のある人員	子育て中の職員への配慮	福利厚生	相談できる相手	仕事に対するやりがい	職場の人間関係	保護者との人間関係	キャリアについての展望	教育・研修の体制	業務の効率化	忍耐	保育に関する知識	パソコン等電子機器の操作技術	保育の理念・方針	健康・体力	適性・能力	職場への通勤のしやすさ	無回答	
20歳代	1,303	79.0	30.0	31.8	11.8	15.5	25.5	43.6	5.0	9.8	19.5	30.9	56.3	28.0	1.1	1.7	10.3	11.9	33.5	0.5	6.1	24.1	11.5	2.9	1.5	
30歳代	1,152	73.1	35.0	23.0	34.6	17.3	22.8	41.5	20.5	6.9	12.9	27.9	50.1	18.1	1.2	1.6	8.5	7.7	29.5	0.3	5.4	30.0	15.8	3.9	1.9	
40歳代	1,156	72.9	34.0	14.2	40.7	17.0	18.3	41.3	13.1	3.6	15.2	26.6	54.9	15.8	1.1	3.9	7.9	4.8	31.3	0.9	6.8	42.8	20.2	5.1	1.2	
50歳代	879	75.3	30.5	9.8	36.7	13.1	11.6	37.0	4.7	3.6	14.4	33.0	53.0	19.0	1.3	3.3	8.6	4.2	35.3	1.9	10.5	53.1	27.5	5.5	1.3	
60歳以上	400	73.3	25.0	4.8	39.3	15.3	11.5	35.8	7.3	4.0	10.8	32.0	51.5	21.5	1.0	5.5	6.0	5.5	31.8	1.5	12.3	52.3	31.3	6.0	2.3	
最も重要なもの	20歳代	1,303	53.7	6.5	3.2	1.2	0.8	1.2	6.2	0.3	0.5	0.8	3.2	9.2	0.5	-	-	0.6	1.5	3.1	-	0.7	3.5	1.6	0.2	1.5
	30歳代	1,152	50.1	8.8	1.8	7.0	1.2	1.6	6.0	0.6	0.6	0.3	3.4	4.8	0.4	-	-	0.2	0.3	3.0	-	0.3	4.7	3.0	0.1	1.9
	40歳代	1,156	49.9	5.4	0.6	8.2	1.2	1.0	6.5	1.0	0.1	0.2	3.0	4.8	0.2	-	0.1	0.2	0.3	3.5	-	0.4	8.0	4.1	0.2	1.2
	50歳代	879	55.3	5.3	0.2	4.8	0.5	0.7	4.3	0.1	0.1	-	3.3	3.8	0.1	0.1	-	0.1	-	3.2	0.1	1.1	11.4	4.1	0.1	1.3
	60歳以上	400	51.3	1.5	0.3	5.5	0.8	0.3	4.0	0.5	-	0.8	3.8	3.5	-	-	-	0.3	0.5	2.5	-	1.5	13.8	7.3	-	2.3

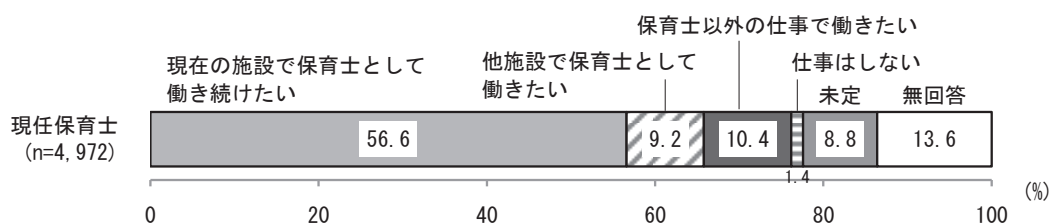
年代別でみると、全体では、いずれの年代も「子どもへの愛情」が最も多くなっている。次いで20歳代～40歳代では「職場の人間関係」が多く、50歳代、60歳以上では「健康・体力」が多くなっている。

最も重要度が高いものでは、いずれの年代も「子どもへの愛情」が最も多くなっている。
(表32)

問33 今後の就業意向

今後の就業意向について、あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。(○は1つ)

【図33 今後の就業意向】

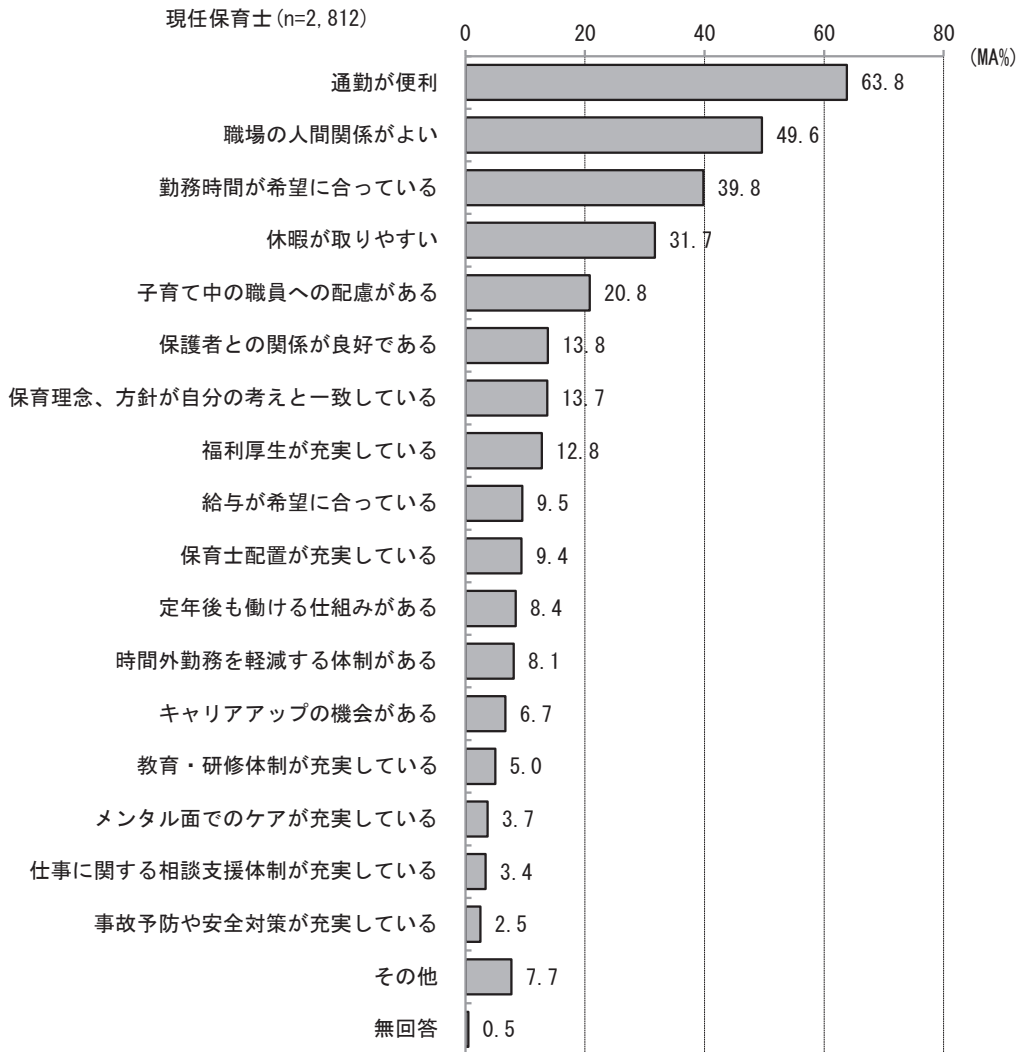


今後の就業意向については、「現在の施設で保育士として働き続けたい」が56.6%で最も多く、次いで「保育士以外の仕事で働きたい」が10.4%、「他施設で保育士として働きたい」が9.2%となっている。(図33)

問 34 現在の施設で保育士として働きたい理由

問33で「1 現在の施設で保育士として働きたい」と回答した方におうかがいします。
現在の施設で保育士として働きたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図34 現在の施設で保育士として働きたい理由】

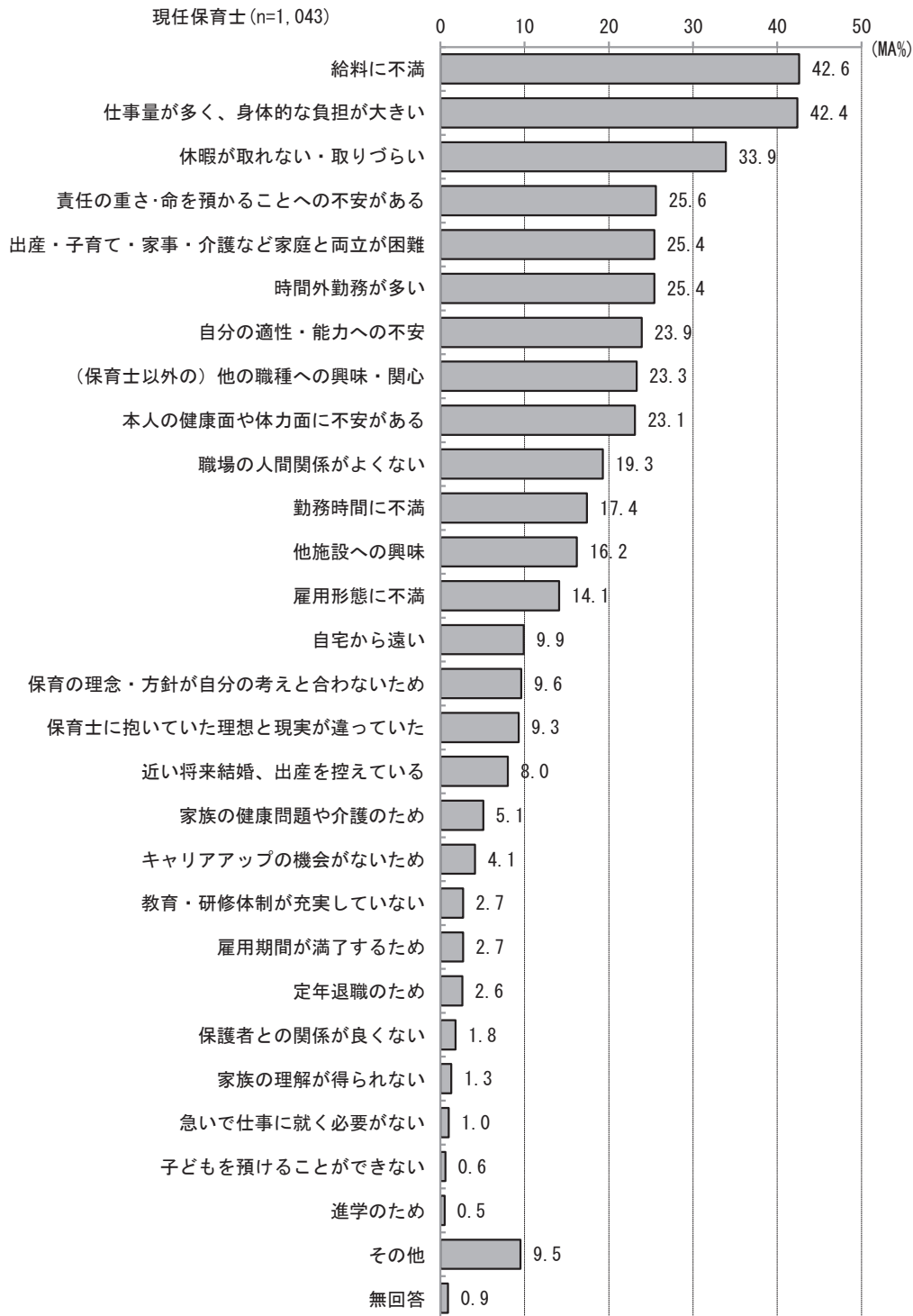


現在の施設で保育士として働きたいと回答した方にその理由をたずねたところ、「通勤が便利」が63.8%で最も多く、次いで「職場の人間関係がよい」が49.6%、「勤務時間が希望にあっている」が39.8%となっている。(図34)

問35 転職・退職を希望する理由

問33で「2 他施設で保育士として働きたい」「3 保育士以外の仕事で働きたい」「4 仕事はしない」と回答した方におうかがいします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図35 転職・退職を希望する理由】



転職・退職を希望する方にその理由をたずねたところ、「給料に不満」が42.6%で最も多く、次いで「仕事量が多く、身体的な負担が大きい」が42.4%、「休暇が取れない・取りづらい」が33.9%となっている。(図35)

【2 現任保育士調査】

【表35 転職・退職を希望する理由（年代別）】

	n	出産・子育て・家事・介護など家庭と両立が困難	本人の健康面や体力面に不安がある	家族の健康問題や介護のため	家族の理解が得られない	近い将来結婚、出産を控えている	進学のため	急いで仕事に就く必要がない	(保育士以外の)他の職種への興味・関心	他施設への興味	自分の適性・能力への不安	責任の重さ・命を預かることへの不安がある	給料に不満	雇用形態に不満	勤務時間に不満	時間外勤務が多い	休暇が取れない・取りづらい	自宅から遠い	子どもを預けることができない	仕事量が多く、身体的な負担が大きい	職場の人間関係がよくない	保護者との関係が良くない	教育・研修体制が充実していない	キャリアアップの機会がないため	雇用期間が満了するため	定年退職のため	保育の理念・方針が自分の考えと合わないため	保育士に抱いていた理想と現実が違っていた	その他	無回答
20歳代	389	29.3	15.4	0.5	1.3	15.9	0.8	0.3	31.9	18.5	33.4	31.4	53.0	17.2	22.1	36.2	43.7	6.4	-	50.6	18.5	2.3	2.1	2.3	-	0.3	7.2	16.5	5.1	1.0
30歳代	262	37.0	18.3	1.9	2.3	6.9	0.4	2.7	23.7	15.6	23.3	26.0	46.6	13.0	21.8	24.8	34.4	12.6	1.5	44.3	19.5	2.7	2.7	5.0	2.7	-	9.5	8.0	10.3	1.1
40歳代	191	20.9	28.3	9.4	1.0	1.0	0.5	0.5	13.1	19.4	19.4	22.0	33.5	13.6	12.0	18.8	28.3	11.5	1.0	37.2	20.4	1.0	4.2	5.2	2.1	1.0	13.1	4.7	15.2	1.0
50歳代	136	5.9	41.2	16.2	0.7	-	-	-	16.9	8.8	13.2	19.1	31.6	12.5	8.8	13.2	23.5	13.2	-	35.3	23.5	-	3.7	8.1	7.4	8.8	12.5	0.7	10.3	-
60歳以上	51	2.0	43.1	7.8	-	-	-	2.0	7.8	7.8	2.0	9.8	5.9	3.9	2.0	2.0	5.9	7.8	-	9.8	3.9	2.0	-	13.7	23.5	3.9	2.0	15.7	-	

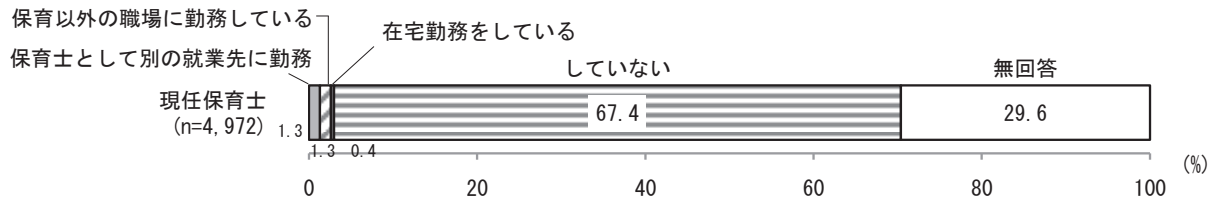
年代別でみると、20歳代、30歳代は「給料に不満」が、40歳代は「仕事量が多く、身体的な負担が大きい」が、50歳代、60歳以上は「本人の健康面や体力面に不安がある」が、それぞれ最も多くなっている。(表35)

【2 現任保育士調査】

問 36 現在の就業先以外での就業状況

現在の就業先以外で、所得を伴う仕事をしていきますか。(○は1つ)

【図36 現在の就業先以外での就業状況】

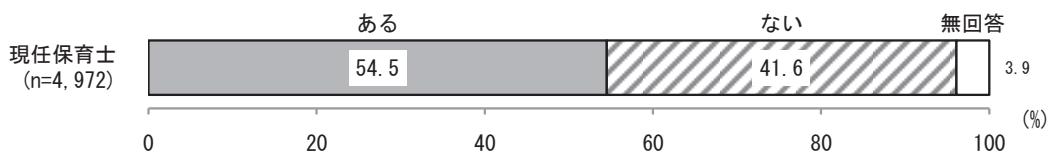


現在の就業先以外での就業状況については、「していない」が67.4%で最も多くなっている。また、「保育士として別の勤務先に勤務」は1.3%、「保育以外の職場に勤務している」は1.3%、「在宅勤務をしている」は0.4%となっている。(図36)

問 37 現在の就業先以外での保育に関する仕事経験の有無

現在の就業先以外で、過去に保育に関する仕事をしたことがありますか。(○は1つ)

【図37 現在の就業先以外での保育に関する仕事経験の有無】



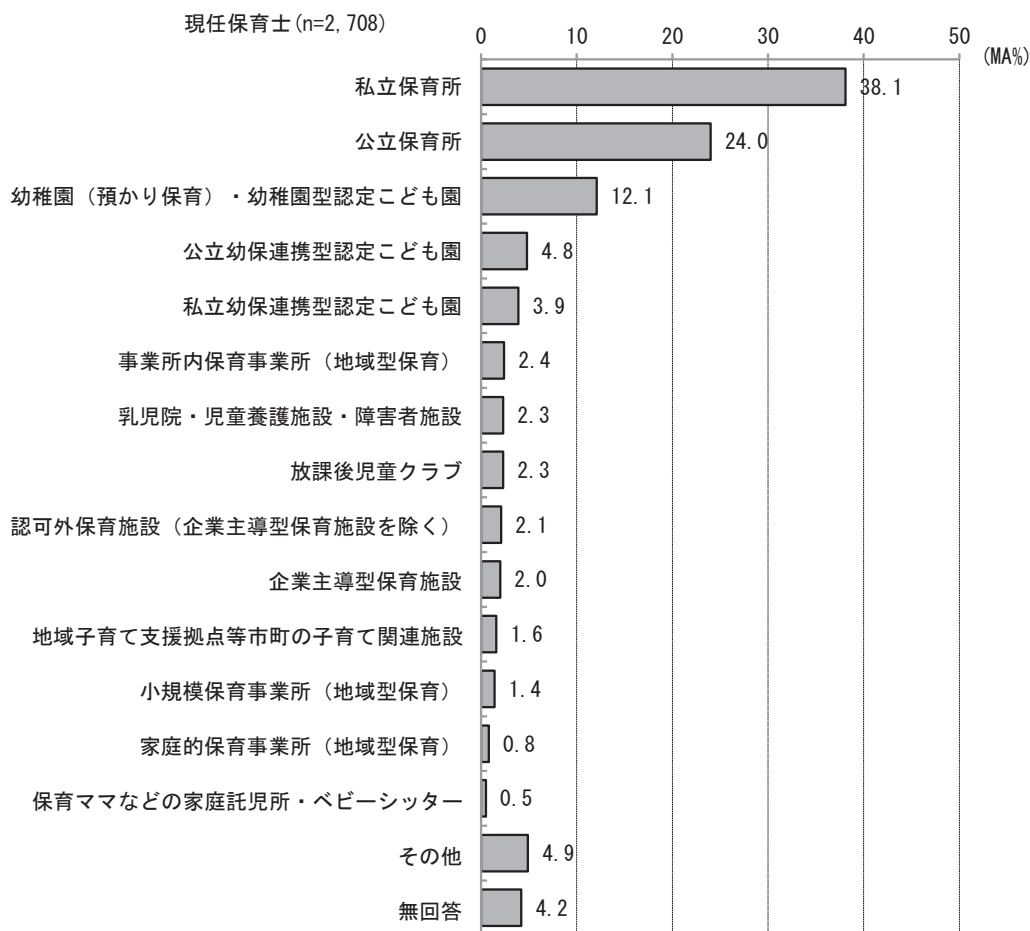
現在の就業先以外での保育に関する仕事経験の有無については、「ある」が54.5%、「ない」が41.6%となっている。(図37)

（3）保育に関する仕事を退職した経験がある方

問 38 直近に退職した勤務先

直近に退職した勤務先はどちらですか。（○は1つ）

【図38 直近に退職した勤務先】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

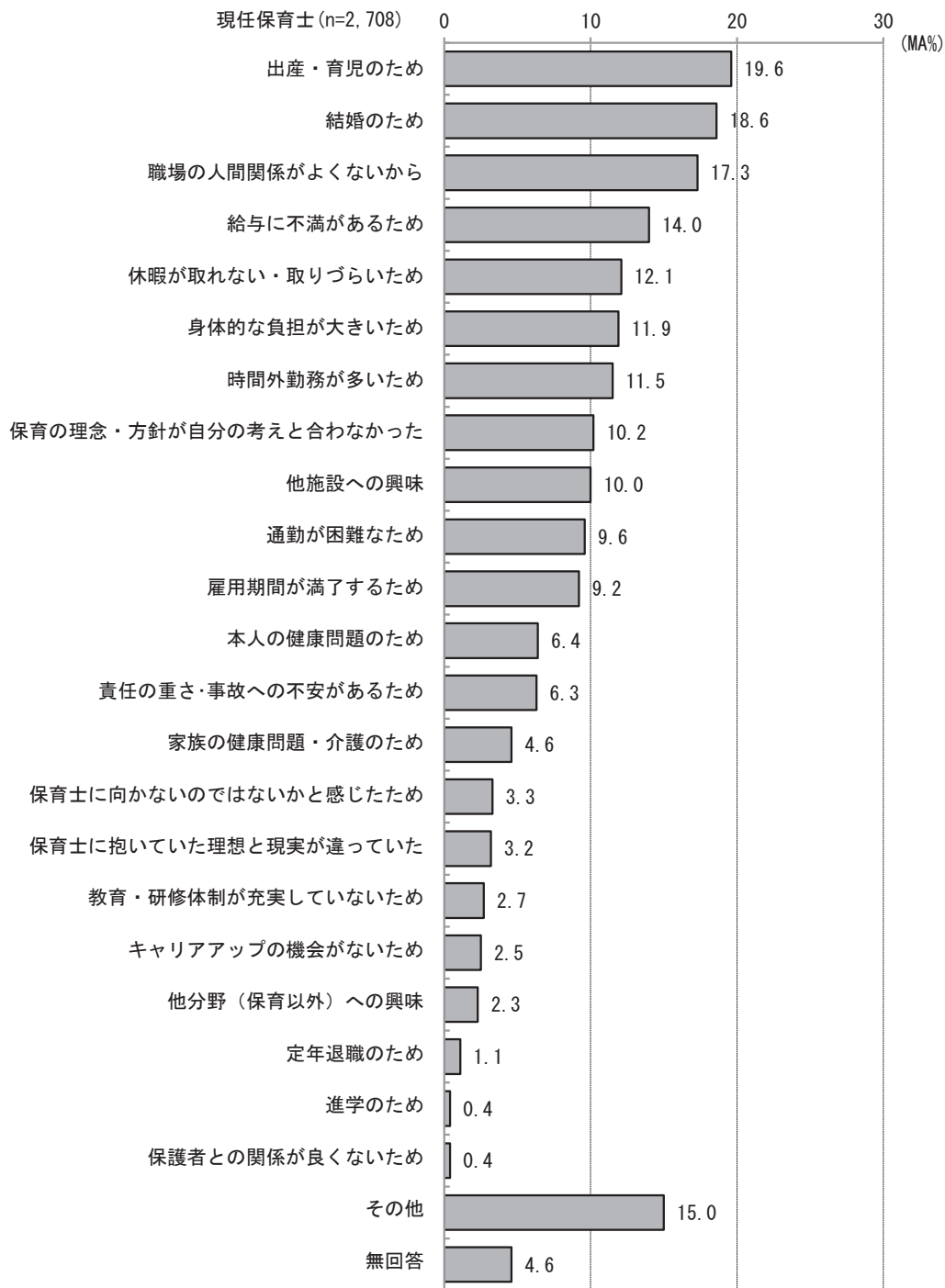
直近に退職した勤務先については、「私立保育所」が38.1%で最も多く、次いで「公立保育所」が24.0%、「幼稚園（預かり保育）・幼稚園型認定こども園」が12.1%となっている。（図38）

【2 現任保育士調査】

問 39 直近の勤務先を退職した理由

勤務先を退職した理由は何でしたか。(〇はいくつでも)

【図39 退職理由】



直近の勤務先を退職した理由については、「出産・育児のため」が19.6%で最も多く、次いで「結婚のため」が18.6%、「職場の人間関係がよくないから」が17.3%となっている。(図39)

【2 現任保育士調査】

【表39 退職理由（年代別）】

		(%)																							
	n	出産・育児のため	結婚のため	本人の健康問題のため	家族の健康問題・介護のため	通勤が困難なため	進学のため	他施設への興味	他分野（保育以外）への興味	職場の人間関係がよくないから	時間外勤務が多いため	休暇が取れない・取りづらいため	給与に不満があるため	身体的な負担が大きいため	責任の重さ・事故への不安があるため	教育・研修体制が充実していないため	キャリアアップの機会がないため	雇用期間が満了するため	定年退職のため	保育の理念・方針が自分の考えと合わなかった	保育士に向かないのではないかと感じたため	保護者との関係が良くないため	保育士に抱いていた理想と現実が違っていた	その他	無回答
20歳代	294	4.8	12.2	11.9	1.7	8.2	2.0	12.2	3.1	37.1	31.0	27.9	25.9	24.1	12.6	5.8	5.4	5.1	-	16.0	9.2	1.0	7.5	16.3	9.9
30歳代	646	25.2	19.3	4.6	1.2	12.2	0.5	13.9	3.4	19.5	15.6	15.2	17.2	12.4	6.2	2.5	3.7	6.8	-	10.1	5.1	0.6	3.7	13.0	3.9
40歳代	753	25.4	18.3	4.2	2.9	11.0	0.3	9.4	2.5	14.9	8.1	10.1	12.7	11.7	6.1	2.3	2.5	9.6	-	10.0	2.7	0.4	3.3	14.5	3.7
50歳代	650	17.7	20.6	8.6	8.2	8.5	0.2	8.2	1.5	13.1	6.3	8.5	12.2	8.3	4.8	2.5	1.1	11.7	-	11.1	1.4	0.3	2.2	16.5	2.5
60歳以上	318	13.2	19.5	5.3	11.3	5.3	-	6.0	0.6	10.1	4.7	4.1	4.1	8.5	5.0	1.9	0.3	11.6	9.4	4.4	0.3	-	0.6	15.1	5.3

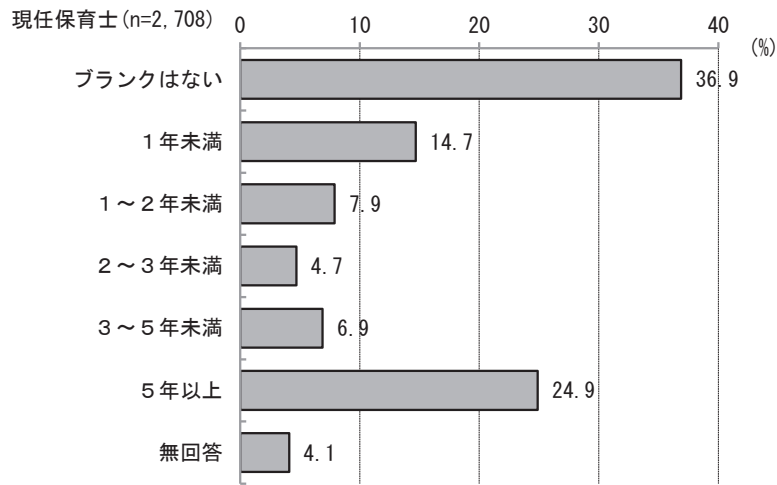
年代別でみると、20歳代は「職場の人間関係がよくないから」が、30歳代、40歳代は「出産・育児のため」が、50歳代、60歳以上は「結婚のため」が、それぞれ最も多くなっている。（表39）

【2 現任保育士調査】

問 40 直近の退職からのブランク期間

直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間についてお答えください。(○は1つ)

【図40 直近の退職からのブランク期間】



直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間については、「ブランクはない」が36.9%で最も多く、次いで「5年以上」が24.9%、「1年未満」が14.7%となっている。(図40)

【表40 直近の退職からのブランク期間 (年代別)】

	n	(%)						
		ブランクはない	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5年以上	無回答
20歳代	294	52.7	22.4	9.9	1.7	3.4	0.7	9.2
30歳代	646	36.8	14.9	11.5	7.4	9.0	16.6	3.9
40歳代	753	37.7	11.6	5.7	4.6	9.0	27.9	3.5
50歳代	650	33.2	13.1	6.3	3.8	4.3	37.4	1.8
60歳以上	318	28.3	18.6	7.2	3.5	6.3	32.4	3.8

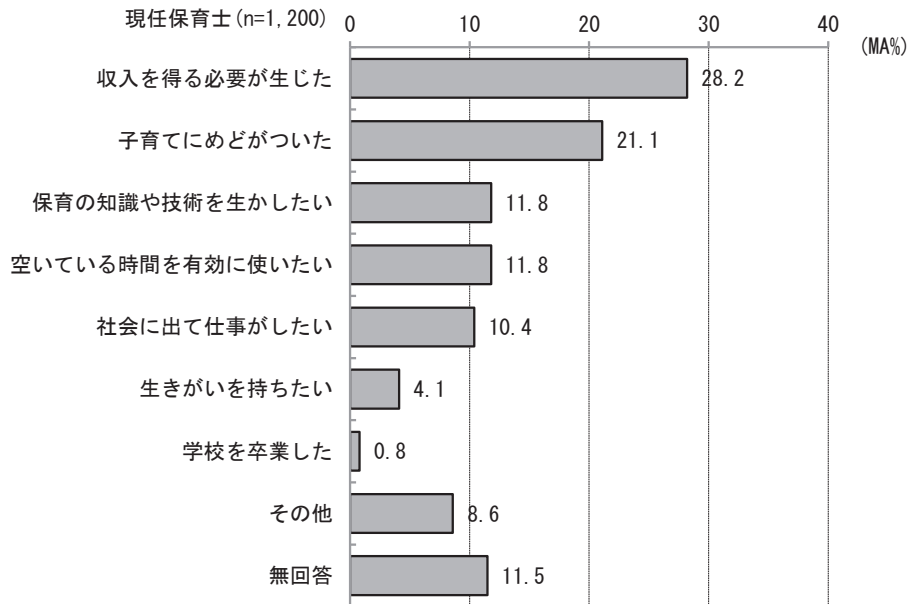
年代別でみると、20歳代～40歳代は「ブランクはない」が、50歳代、60歳以上は「5年以上」がそれぞれ最も多くなっている。(表40)

【2 現任保育士調査】

問 40-1 ブランク期間が1年以上の方の再就職した理由

再就職までの期間が1年以上の方におうかがいします。
再就職した最大の理由は何ですか。(〇は1つ)

【図40-1 ブランク期間が1年以上の方の再就職した理由】



ブランク期間が1年以上と回答した方に再就職した理由についてたずねたところ、「収入を得る必要が生じた」が28.2%、「子育てにめどがついた」が21.1%となっている。(図40-1)

【表40-1 ブランク期間が1年以上の方の再就職した理由 (年代別)】

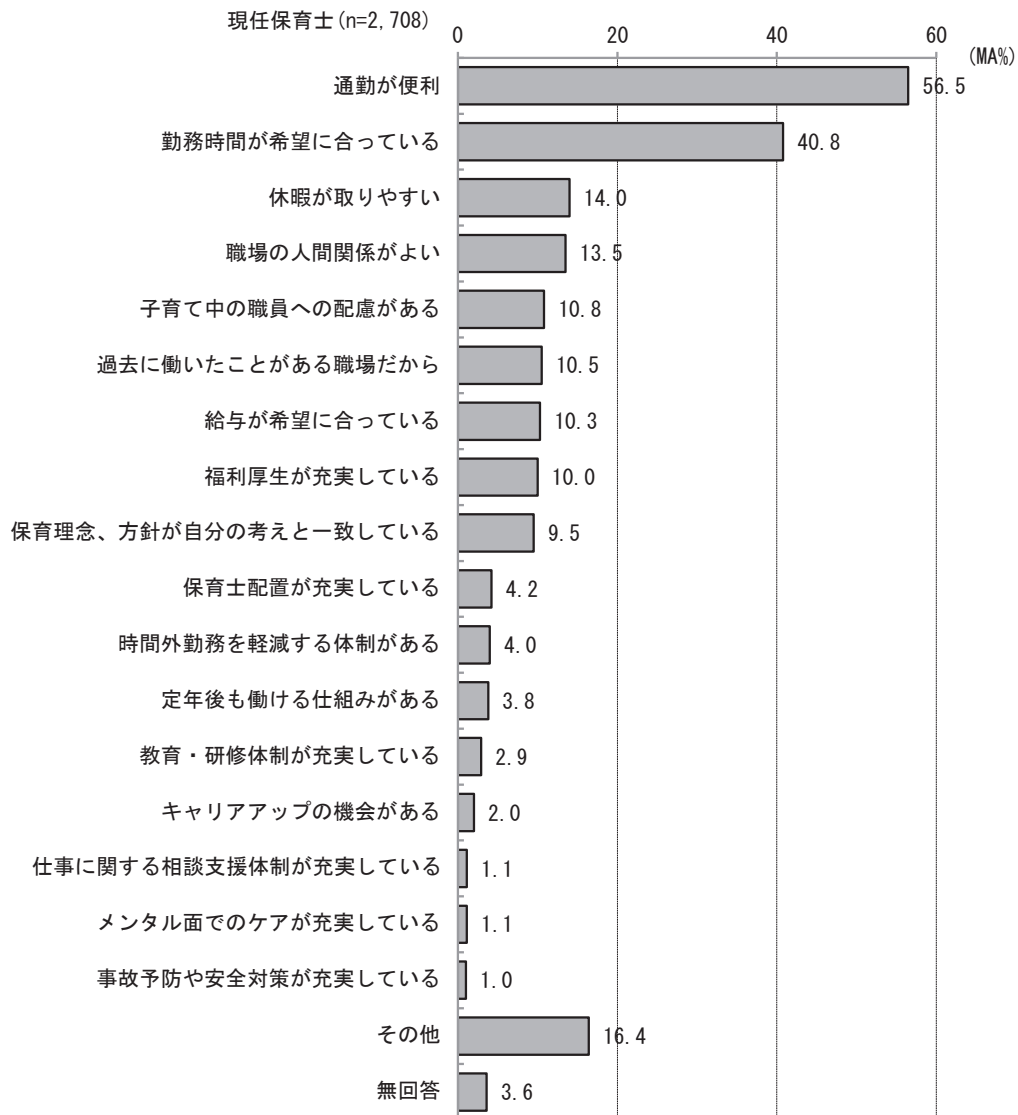
	調査数	(%)								
		収入を得る必要が生じた	保育の知識や技術を生かしたい	社会に出て仕事がしたい	生きがいを持ちたい	子育てにめどがついた	空いている時間を有効に使いたい	学校を卒業した	その他	無回答
20歳代	46	28.3	30.4	10.9	4.3	4.3	6.5	6.5	8.7	15.2
30歳代	287	34.8	9.1	12.2	1.7	15.7	8.7	1.4	6.3	13.6
40歳代	356	33.1	8.1	10.4	2.5	23.0	12.4	0.6	9.0	8.7
50歳代	337	23.1	12.5	10.4	5.0	27.9	10.1	-	10.4	11.3
60歳以上	157	15.3	19.7	7.6	9.6	17.2	20.4	-	8.3	13.4

年代別でみると、20歳代は「保育の知識や技術を生かしたい」が、30歳代、40歳代は「収入を得る必要が生じた」が、50歳代は「子育てにめどがついた」が、60歳代は「空いている時間を有効に使いたい」が、それぞれ最も多くなっている。(表40-1)

問 41 現在の職場を選んだ理由

現在の職場を選んだ理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図41 現在の職場を選んだ理由】

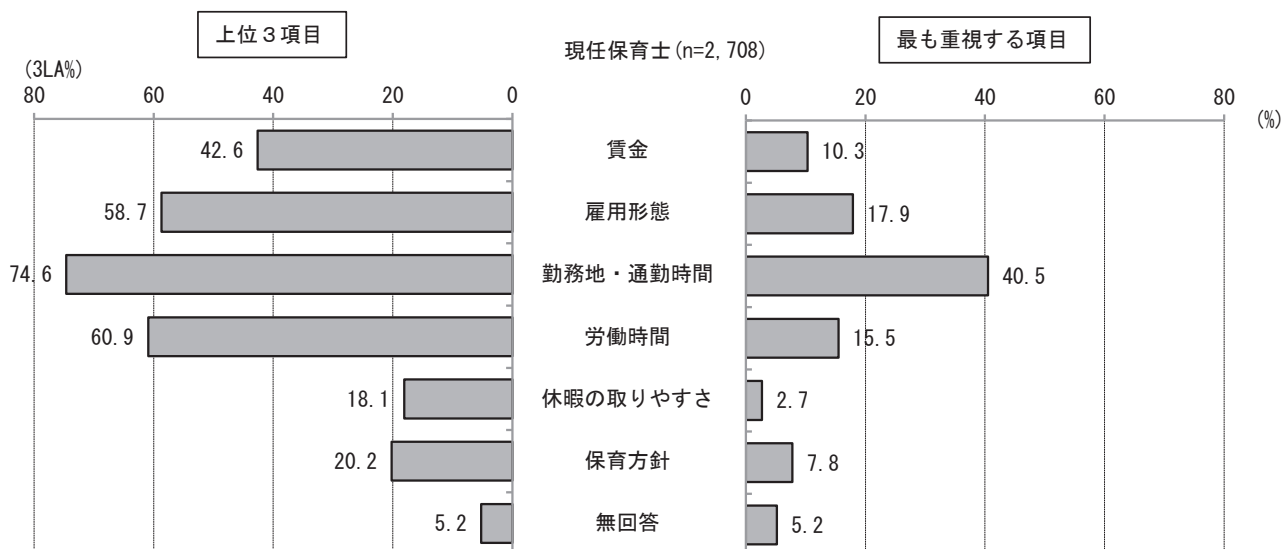


現在の職場を選んだ理由については、「通勤が便利」が56.5%で最も多く、次いで「勤務時間が希望にあっている」が40.8%となっている。また「その他」には『知人や園から誘われた、頼まれた』という回答が多かった。(図41)

問 42 現在の職場を探すのに重視した条件

現在の職場を探すのに重視した条件について、重要度の高いものから順に、() 内に番号を記入してください。

【図42 現在の職場を探すのに重視した条件】



現在の職場を探すのに重視した条件について、上位3項目でみると、「勤務地・通勤時間」が74.6%で最も多く、次いで「労働時間」が60.9%、「雇用形態」が58.7%となっている。

最も重視する項目でみると、「勤務地・通勤時間」が40.5%で最も多く、次いで「雇用形態」が17.9%、「労働時間」が15.5%となっている。(図42)

【表42 現在の職場を探すのに重視した条件 (年代別)】

		n	賃金	雇用形態	勤務地・通勤時間	労働時間	休暇の取りやすさ	保育方針	無回答
上位3項目	20歳代	294	56.5	63.3	66.0	48.0	22.8	23.1	5.1
	30歳代	646	49.5	56.0	75.4	56.2	20.4	19.7	5.0
	40歳代	753	42.8	57.1	75.3	63.7	19.3	19.1	4.1
	50歳代	650	37.5	59.8	76.3	64.0	14.2	21.7	5.1
	60歳以上	318	28.3	62.6	76.4	70.8	13.8	18.6	7.5
最も重視する項目	20歳代	294	18.7	19.7	30.3	9.5	4.8	11.9	5.1
	30歳代	646	11.5	17.8	40.4	14.6	4.3	6.5	5.0
	40歳代	753	8.4	16.2	42.2	19.0	2.7	7.4	4.1
	50歳代	650	9.8	18.3	41.5	15.7	1.4	8.2	5.1
	60歳以上	318	5.3	19.8	45.6	15.4	0.3	6.0	7.5

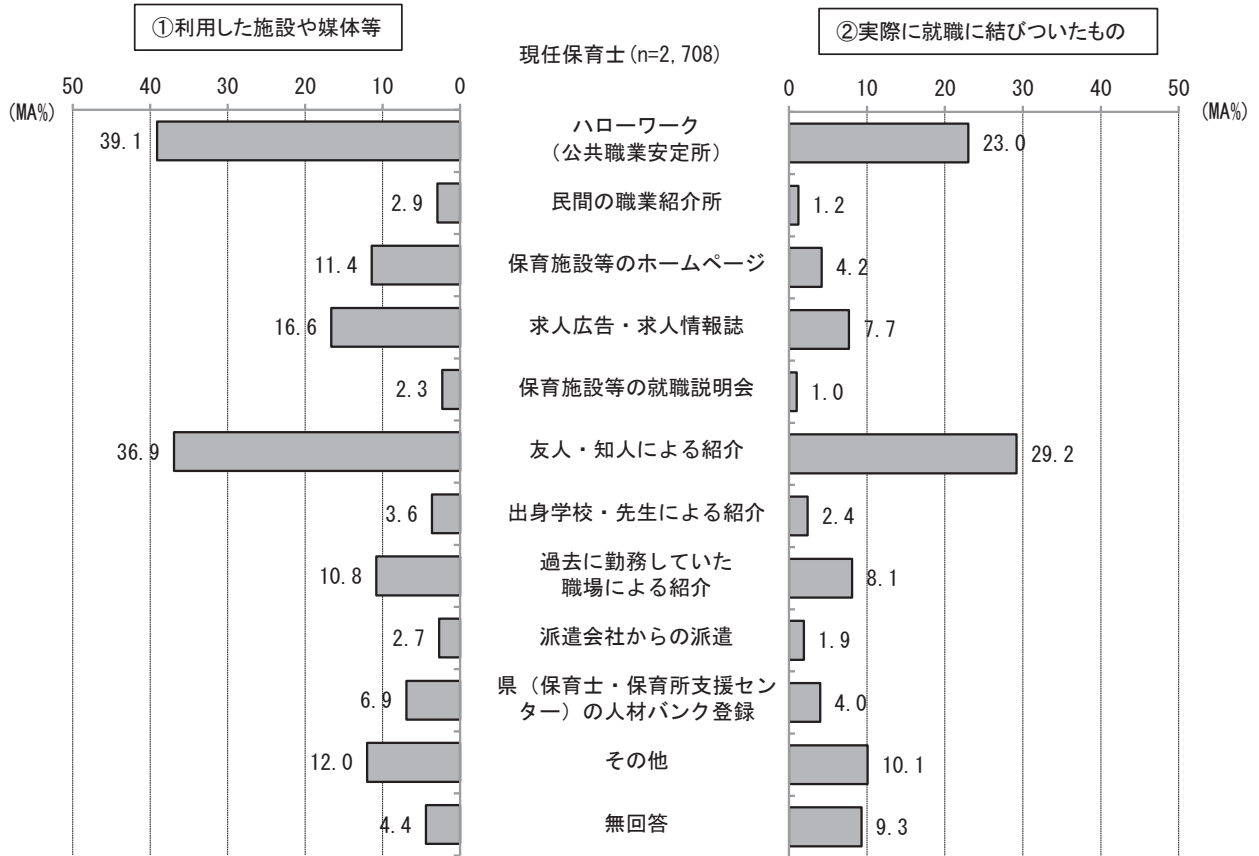
年代別でみると、上位3項目では、どの年代も「勤務地・通勤時間」が最も多くなっている。次いで、20歳代では「雇用形態」が多く、それ以外の年代では「労働時間」が多くなっている。最も重視する項目では、どの年代も「勤務地・通勤時間」が最も多くなっている。次いで、40歳代では「労働時間」が多く、それ以外の年代では「雇用形態」が多くなっている。(表42)

【2 現任保育士調査】

問 43 現在の職場を探す際に利用したもの、就職に結びついたもの

現在の職場を探す際、①利用した施設や媒体等は何ですか。(〇はいくつでも)
また、②実際に就職に結びついた主な施設や媒体等はどれですか。(〇は主なもの1つ)

【図43 求職中に利用した施設や媒体、就職に結びついた施設や媒体】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

①現在の職場を探す際、利用した施設や媒体等については、「ハローワーク (公共職業安定所)」が39.1%で最も多く、次いで「友人・知人による紹介」が36.9%、「求人広告・求人情報誌」が16.6%となっている。

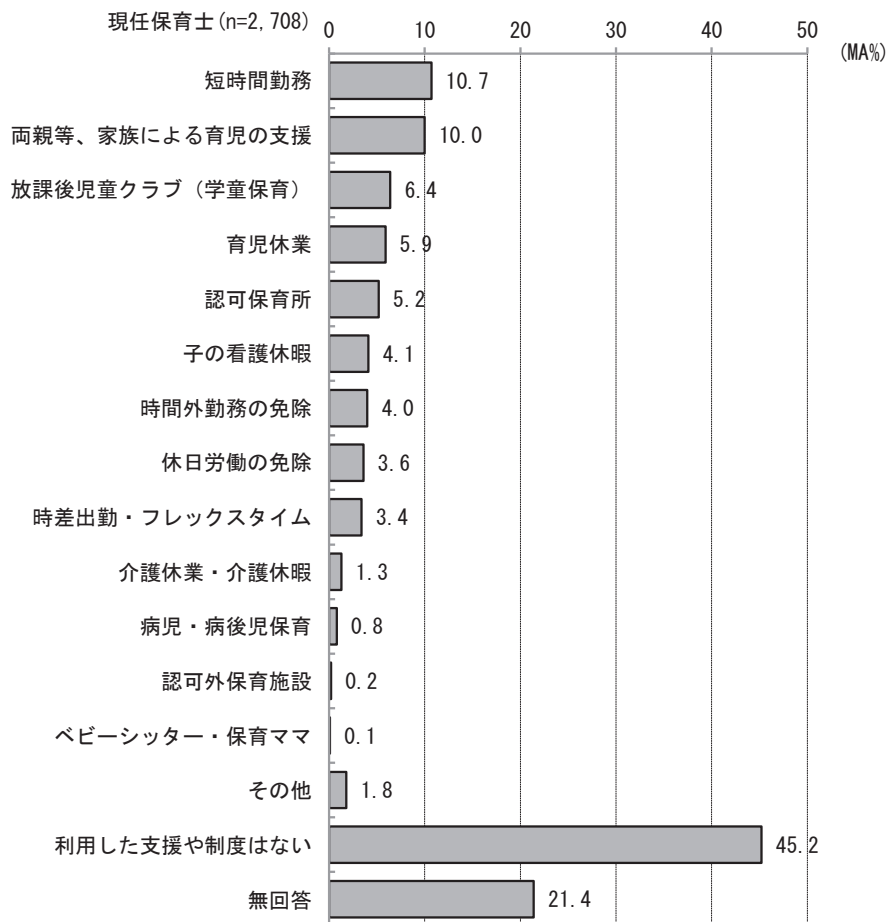
②実際に就職に結びついた主な施設や媒体等については、「友人・知人による紹介」が29.2%で最も多く、次いで「ハローワーク (公共職業安定所)」が23.0%となっている。(図43)

【2 現任保育士調査】

問 44 現在の職場において利用した支援や制度等

現在の職場において利用した支援や制度等がありますか。(〇はいくつでも)

【図44 現在の職場において利用した支援や制度等】



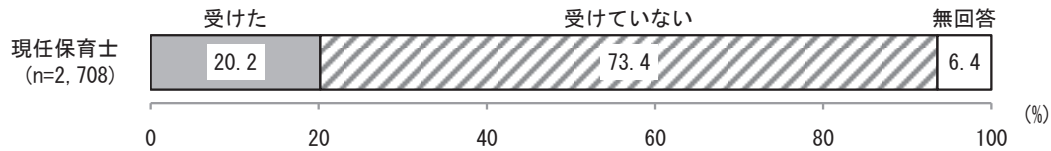
現在の職場において利用した支援や制度等については、「短時間勤務」が10.7%で最も多く、次いで「両親等、家族による育児の支援」が10.0%となっている。一方「利用した支援や制度はない」は45.2%となっている。(図44)

【2 現任保育士調査】

問 45 現在の職場への再就職前後に研修を受けたか

現在の職場への再就職前後に1日（全日）以上の研修を受けましたか。（○は1つ）

【図45 現在の職場への再就職前後に研修を受けたか】

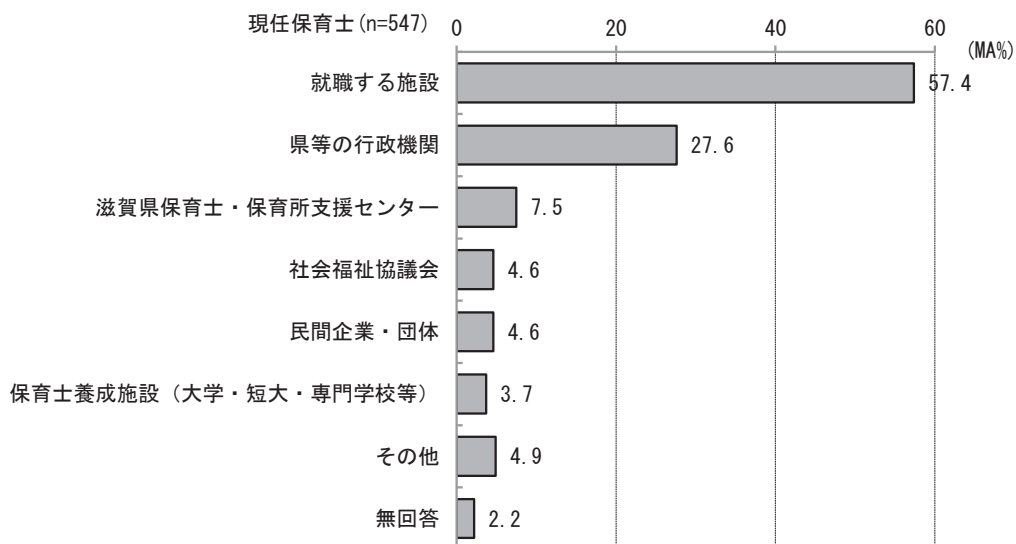


現在の職場への再就職前後に研修を受けたかについては、「受けた」が20.2%、「受けていない」が73.4%となっている。（図45）

問 45-1 研修場所

問45で「1 受けた」と回答した方におうかがいします。
どちらで研修を受けましたか。（○は主なもの1つ）

【図45-1 研修場所】

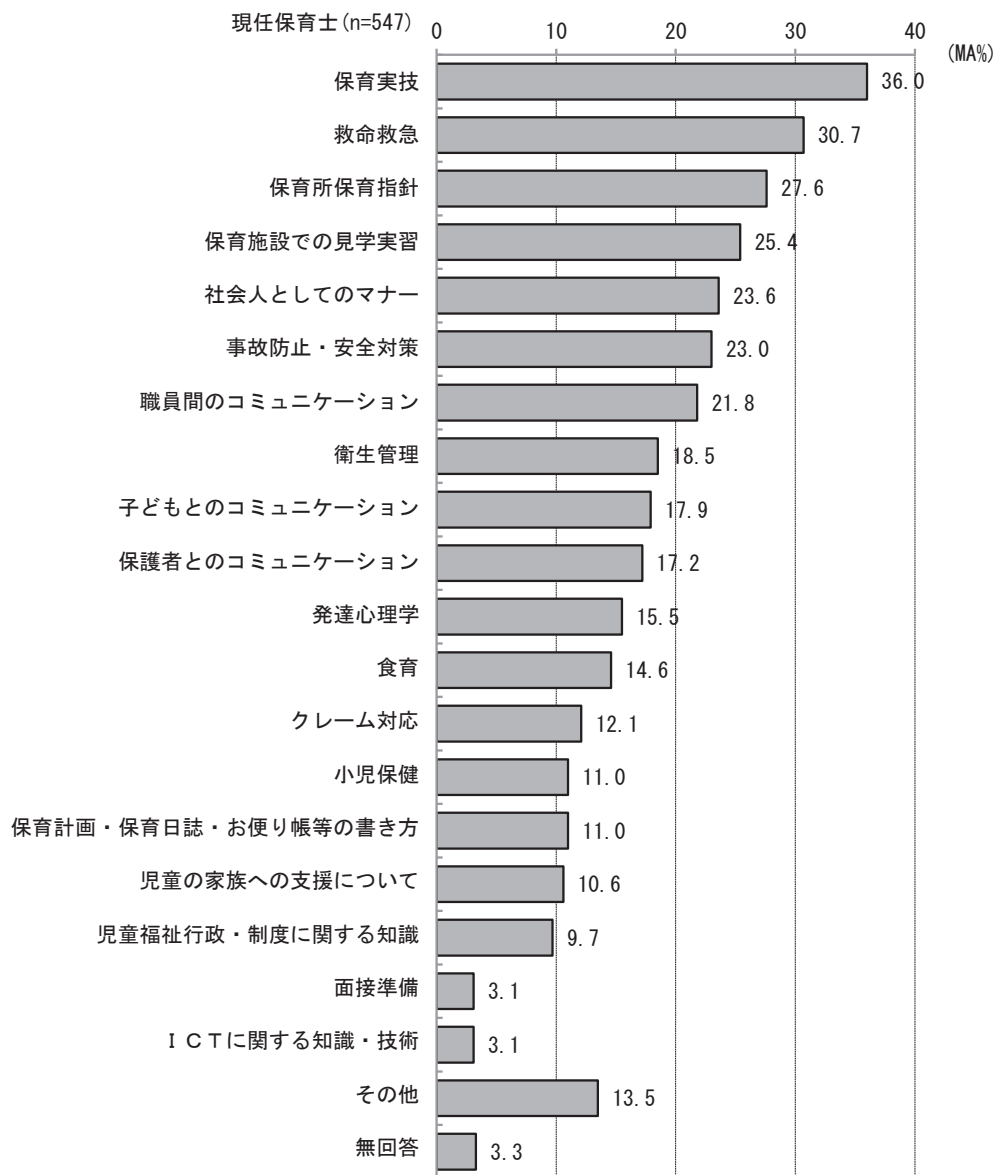


再就職前後に研修を受けたと回答した方に研修場所についてたずねたところ、「就業する施設」が57.4%で最も多く、次いで「県等の行政機関」が27.6%となっている。（図45-1）

問 45-2 研修内容

問45で「1 受けた」と回答した方におうかがいします。
 どのような内容の研修を受けましたか。(〇はいくつでも)

【図45-2 研修内容】

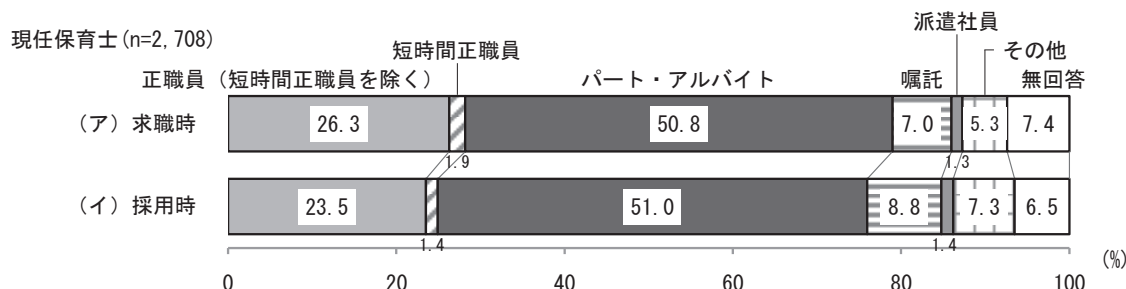


再就職前後に受けた研修の内容については、「保育実技」が36.0%で最も多く、次いで「救命救急」が30.7%、「保育所保育指針」が27.6%となっている（図45-2）

問 46 求職の際に希望した雇用形態と採用時の雇用形態

現在の職場への求職の際、(ア) 希望した雇用形態と (イ) 採用された時の雇用形態を、それぞれ下の選択肢の中から選んで () 内にご記入ください。(それぞれ○は1つ)

【図46 希望の雇用形態と採用時の雇用形態】



求職の際に希望した雇用形態については、「パート・アルバイト」が50.8%で最も多く、次いで「正職員 (短時間正職員を除く)」が26.3%となっている。

採用された時の雇用形態については、「パート・アルバイト」が51.0%で最も多く、次いで「正職員 (短時間正職員を除く)」が23.5%となっている。(図46)

【表46 希望の雇用形態と採用時の雇用形態 (年代別)】

		n	正職員 (短時間正職員を除く)	短時間正職員	パート・アルバイト	嘱託	派遣社員	その他	無回答
(ア) 求職時	20歳代	294	58.8	2.4	14.6	8.5	1.4	4.1	10.2
	30歳代	646	34.7	2.2	44.3	4.8	2.5	5.3	6.3
	40歳代	753	22.3	1.7	60.6	5.3	1.2	3.7	5.2
	50歳代	650	17.5	2.0	54.8	9.7	0.6	8.5	6.9
	60歳以上	318	7.5	0.9	67.6	8.2	0.6	4.4	10.7
(イ) 採用時	20歳代	294	53.1	2.0	13.6	12.6	2.4	6.1	10.2
	30歳代	646	31.4	1.4	43.5	7.7	2.9	7.7	5.3
	40歳代	753	19.3	1.3	61.2	5.8	1.1	6.1	5.2
	50歳代	650	15.5	1.4	54.9	11.7	0.5	9.8	6.2
	60歳以上	318	7.5	0.9	71.1	8.2	0.3	4.7	7.2

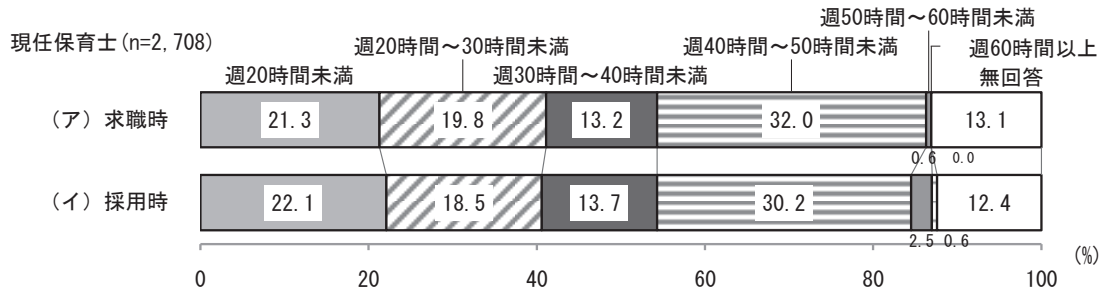
年代別でみると、求職時、採用時とも、20歳代は「正職員 (短時間正職員を除く)」が、それ以外の年代は「パート・アルバイト」がそれぞれ最も多くなっている。(表 46)

【2 現任保育士調査】

問 47 求職の際に希望した労働時間と採用された時の労働時間

現在の職場への求職の際、(ア) 希望した労働時間と (イ) 採用された時のそれぞれの労働時間について、1 週間あたりの時間数を () 内に数字でご記入ください。

【図47 希望の労働時間と採用時の労働時間】



求職の際に希望した労働時間については、「週40時間～50時間未満」が32.0%で最も多く、次いで「週20時間未満」が21.3%、「週20時間～30時間未満」が19.8%となっている。

採用時の労働時間については、「週40時間～50時間未満」が32.0%で最も多く、次いで「週20時間未満」が22.1%、「週20時間～30時間未満」が18.5%となっている。(図47)

【表47 希望の労働時間と採用時の労働時間 (年代別)】

		n	週 2 0 時 間 未 満	週 3 2 0 時 間 未 満	週 4 3 0 時 間 未 満	週 5 4 0 時 間 未 満	週 6 5 0 時 間 未 満	週 6 0 時 間 以 上	無 回 答
(ア) 求 職 時	20歳代	294	12.9	3.4	6.8	53.1	2.7	-	21.1
	30歳代	646	18.7	18.1	13.0	36.1	0.8	0.2	13.2
	40歳代	753	23.5	23.1	15.1	27.8	0.1	-	10.4
	50歳代	650	20.5	22.0	15.8	29.7	-	-	12.0
	60歳以上	318	32.1	25.8	9.7	21.1	0.3	-	11.0
(イ) 採 用 時	20歳代	294	13.6	2.4	7.5	48.0	5.8	1.4	21.4
	30歳代	646	17.8	17.2	12.2	34.8	4.3	0.6	13.0
	40歳代	753	24.4	22.0	15.7	25.1	2.1	0.5	10.1
	50歳代	650	22.8	19.5	16.3	29.2	0.8	0.3	11.1
	60歳以上	318	32.7	25.2	12.9	19.5	0.3	0.3	9.1

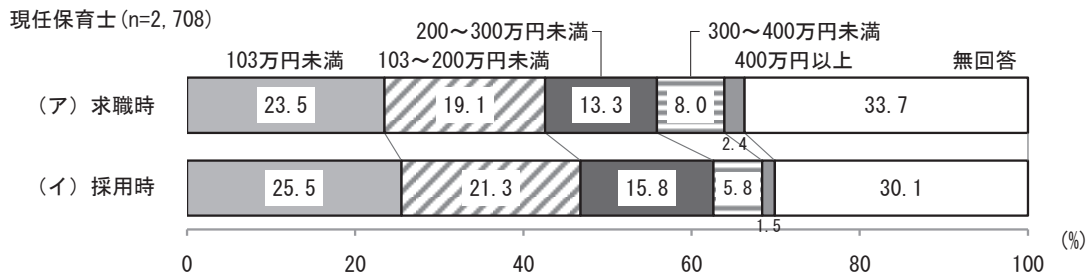
年代別でみると、求職時、採用時とも、60歳代は「週20時間未満」が、それ以外の年代は「週40時間～50時間未満」がそれぞれ最も多くなっている。(表47)

【2 現任保育士調査】

問 48 求職の際に希望した給与水準と採用時の給与水準

現在の職場への求職の際、(ア) 希望した給与水準、(イ) 採用された時のそれぞれの給与水準について、おおよその年収（総収入）ベースでの額を（ ）内に数字でご記入ください。

【図48 希望した給与水準と採用時の給与水準】



求職の際に希望した給与水準については、「103万円未満」が23.5%で最も多く、次いで「103～200万円未満」が19.1%、「200～300万円未満」が13.3%となっている。

採用時の給与水準については、「103万円未満」が25.5%で最も多く、次いで「103～200万円未満」が21.3%、「200～300万円未満」が15.8%となっている。(図48)

【表48 希望した給与水準と採用時の給与水準（年代別）】

		n	103万円未満	103~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400万円以上	無回答
(ア) 求職時	20歳代	294	18.4	6.5	24.5	14.6	2.0	34.0
	30歳代	646	22.6	17.3	12.2	11.0	3.7	33.1
	40歳代	753	22.8	25.8	10.5	7.2	2.1	31.6
	50歳代	650	23.1	21.2	14.9	6.2	2.5	32.2
	60歳以上	318	33.6	14.8	9.7	1.3	0.6	39.9
(イ) 採用時	20歳代	294	19.4	9.2	28.9	9.2	1.4	32.0
	30歳代	646	24.0	18.9	16.1	8.5	2.3	30.2
	40歳代	753	25.1	26.8	12.6	5.6	1.2	28.7
	50歳代	650	24.3	25.4	16.9	4.0	1.7	27.7
	60歳以上	318	38.4	16.7	8.5	1.9	0.6	34.0

年代別でみると、求職時では、20歳代は「200～300万円未満」が、30歳代、50歳代、60歳以上は「103万円未満」が、40歳代は「103～200万円未満」が、それぞれ最も多くなっている。

採用時では、20歳代は「200～300万円未満」が、30歳代と60歳以上は「103万円未満」が、40歳代と50歳代は「103～200万円未満」が、それぞれ最も多くなっている。(表48)

（４）保育士としての就労や労働環境などについて

問 49 保育士としての就労や労働環境などについて（自由意見）

保育士としての就労や労働環境などについてご意見・ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。

2,887 人から回答をいただいた。主な意見は次の通り。

■給与に関すること

- ・ 仕事の責任や仕事量と比べると給与が低く、なり手が少ない為いつも人手不足である。
- ・ もう少し給料が増えると、モチベーションも上がり、精神的に楽になる。
- ・ 専門職なのに、時給が他の飲食店等のパートと変わらず、生活が苦しい。
- ・ 人員の余裕、賃金の向上等処遇がもっと改善されれば、若い人も結婚や出産等を経ても続けられると思う。
- ・ 大切な子どもの命を預かるとても責任の重い大切な仕事であるのに、余りにも過酷な労働条件、信じられない賃金の低さである。

■人手不足に関すること

- ・ 仕事の量が多く、残業もほぼサービス残業で休憩もまともにとれないほどの人員不足で、現場は疲れている職員が多い。
- ・ 人員が足りていないと心の余裕がなくなり、人間関係が悪くなるし、子どもにも悪影響を与えると思う。保育士が心にゆとりを持てるように職員を配置してほしい。
- ・ 人手不足で休憩もとれない大変な職場であるのに、それでも周囲から質を求められ、現場は疲弊している。このままだと後輩が育たないし、なりたい人もいなくなると思う。
- ・ 経験のある保育士が圧倒的に不足していると感じる。子育て世代の保育士は、自分の子どもを犠牲にしなければならないことがとても多い。子育て世代の保育士が働きやすいように看護休暇や介護休暇等の充実、専門性の高い保育士への正当な給与等、しっかりとした基盤が必要だと感じる。

■休憩、休暇について

- ・ 保育士の人数がぎりぎり、休憩時間を十分に取れなかったり、休暇も気をつかいながらでないと取れない状況に不満を感じる。
- ・ 人が足りない、とても休みにくく、子の看護のためでも休みを取りにくく、我が子は優先できない。また休むと事務など滞るので、休みたくても休めない。
- ・ 休みが取りづらく子どもの参観や面談などに行けない。精神的にも体力的にも毎日疲れるので、月に1回か2か月に1回の有休をもらえると、この先も続けられると思う。
- ・ 書類の大切さは分かるが、時間内に終われる適度な量にしてほしい。休日でも仕事をしていることが多く体力的にも負担である。

■保育の無償化、子育て支援に関すること

- ・ 政府は保育料を無償化にし子育て支援というが、現場は人手不足で大混乱である。無償化にする前に働く側の制度改善が先ではないか。
- ・ 保育料無償化と共にあちこちで保育園が新設されているが、その反面保育士が足りず、どこの園でも人員不足で現場がますます大変になっている現状である。保育士が足りず、保育の質も下がり、本当に無償化は良かったのだろうか。
- ・ 子育て支援とは親支援だが、親が就労しやすいように支援することが子育て支援なのか？親が子育てを他に任せたり依存したりする傾向が年々強くなっている。
- ・ 保育士不足が問題視される中で、無償化も始まり、更に一人あたりの子どもをみる人数が増えるのが不安である。

■臨時職員、パート職員の待遇等について

- ・ 公立保育園の年間臨時職員として働いているが正規の職員と比較して、給与等大きな差がある割には、仕事の量はあまり変わらない。今より仕事量を減らすか、給与を増やすかどちらかを希望したい。
- ・ 臨時職員なのに仕事量がとても多い。また臨時職員は育児休業が取得できない為、必然的に辞めなければならない。
- ・ 臨時職員が正職員と変らぬ仕事量であっても、給料の格差、保障の格差が大きすぎると思う。

■職場の人間関係について

- ・ 保育士の人数をもっと増やしてもう少し余裕のある保育をしたい。早朝・夕方の当番もほぼ毎日、体力的、精神的にも疲れがたまり、様々な面で余裕がなくなり、保育や人間関係にも支障がでてくる。
- ・ 男性保育士はやはり少なく、女性だけの職場は人間関係が難しくなりやすいように感じる。力のいる作業も多く男性保育士が増えてほしい。
- ・ 人と人が育ち合う職場であるので、(子ども、大人ともに)自己理解、他者理解の大切さの学びは必要だと感じる。
- ・ 職場の人間関係が大切である。個々の子どもや保護者の対応について相談しあえる関係、また時々私的なことも相談できる関係が大切である。

■やりがいについて

- ・ 保育士としての仕事は、好きでやりがいもあり、誇りも持っている。しかし、社会、国は、保育士の仕事を甘く見すぎているように感じる。
- ・ 保育現場は楽しく充実した日々でやりがいも感じられる良い職場だが、しかしやはり給与の少なさは改善されると良いと思う。
- ・ 子どもの成長を見守れる仕事に就けて大変幸せであり体力が続くまで保育士として働きたいと日々思っている。

〔3〕 潜在保育士調査

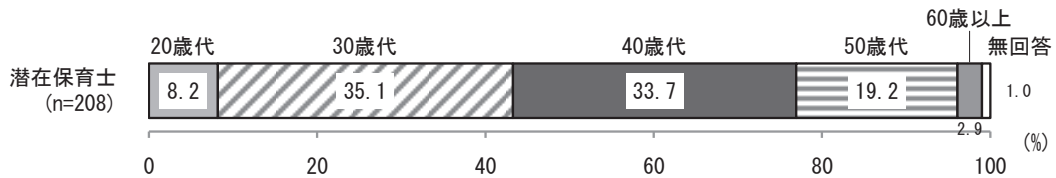
（1） 回答者の基本属性

問1 回答者の基本属性

あなた自身のことについておうかがいします。

①年代

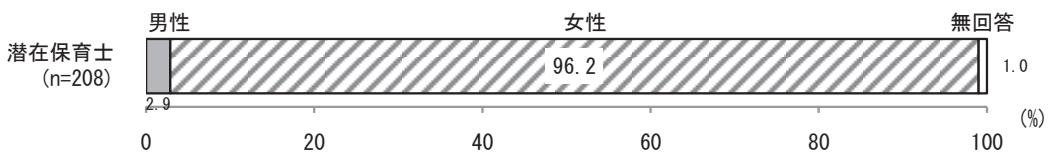
【図1-1 年代】



回答者の年代は、「30歳代」が35.1%で最も多く、次いで「40歳代」が33.7%となっている。
(図1-1)

②性別

【図1-2 性別】

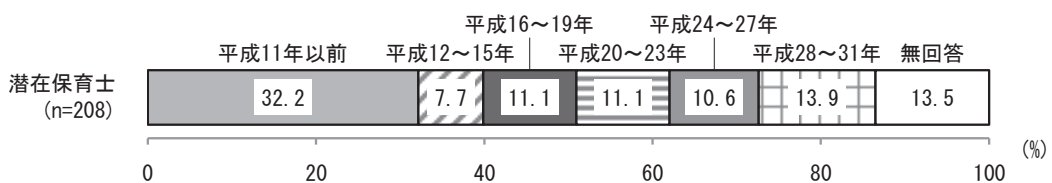


回答者の性別は、「男性」が2.9%、「女性」が96.2%となっている。(図1-2)

③保育士資格取得年月と取得方法

ア 取得年月

【図1-3ア 取得年月】

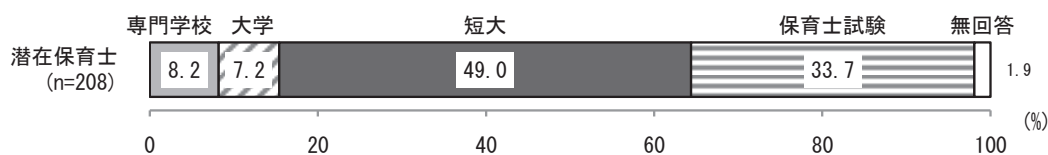


保育士資格取得年月については、「平成11年以前」が32.2%で最も多く、次いで「平成28～31年」が13.9%、「平成16～19年」と「平成20～23年」がそれぞれ11.1%となっている。(図1-3ア)

【3 潜在保育士調査】

イ 取得方法

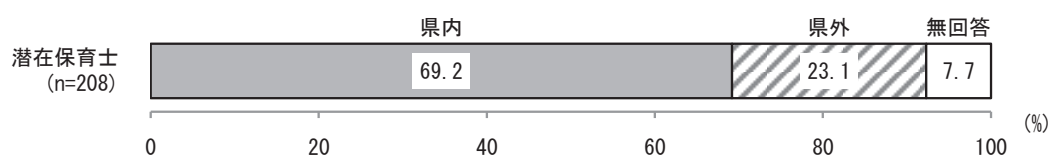
【図1-3イ 取得方法】



保育士資格の取得方法については、「短大」が49.0%で最も多く、次いで「保育士試験」が33.7%となっている。(図1-3イ)

ウ 保育士登録をした都道府県

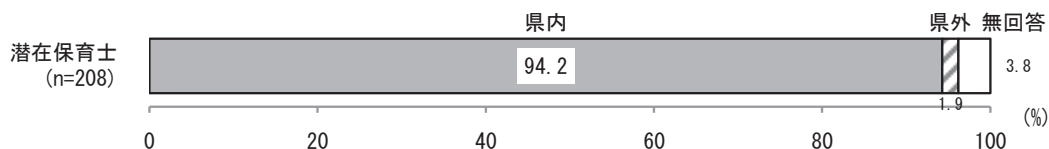
【図1-3ウ 保育士登録をした都道府県】



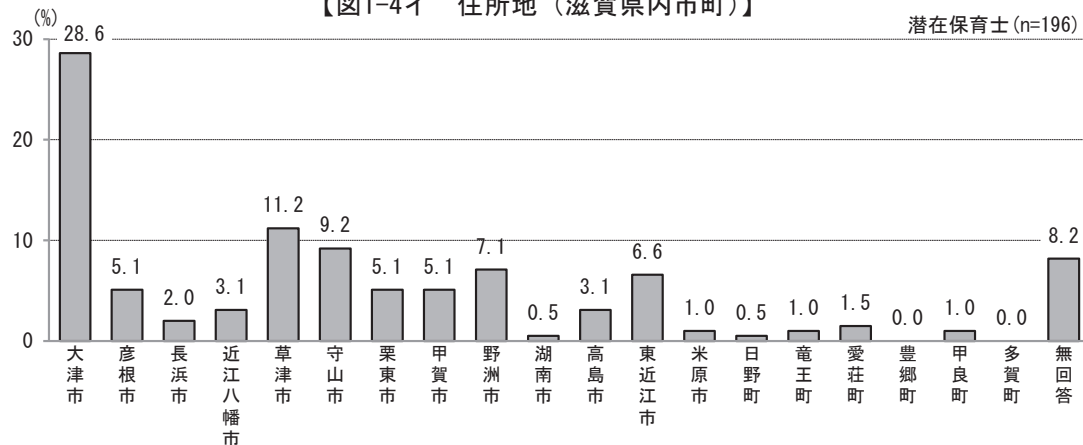
保育士登録をした都道府県については、「県内」が69.2%、「県外」が23.1%となっている。(図1-3ウ)

④現在の住所地

【図1-4ア 住所地】



【図1-4イ 住所地（滋賀県内市町）】



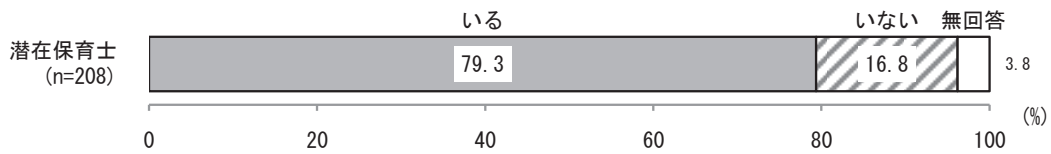
現在の住所地については、「県内」が94.2%、「県外」が1.9%となっている。(図1-4ア)

住所地の市町については、「大津市」が28.6%で最も多く、次いで「草津市」が11.2%、「守山市」が9.2%となっている。(図1-4イ)

【3 潜在保育士調査】

⑤配偶者の有無

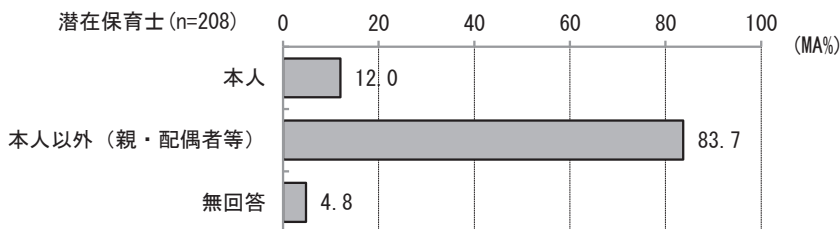
【図1-5 配偶者の有無】



配偶者の有無については、「いる」が79.3%、「いない」が16.8%となっている。(図1-5)

⑥家計の主たる生計者

【図1-6 主たる生計者】



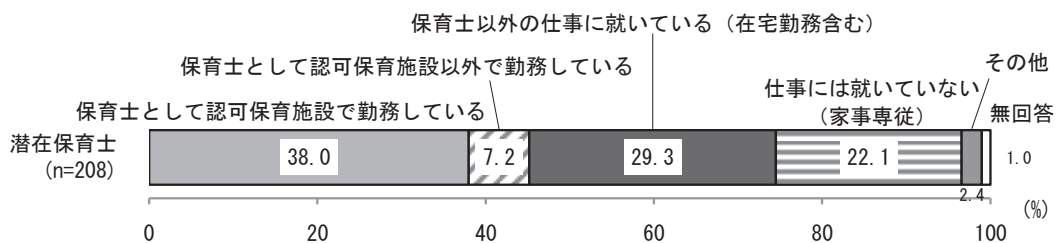
* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

家計の主たる生計者については、「本人」が12.0%、「本人以外 (親・配偶者等)」が83.7%となっている。

問2 就労の有無

あなたは、現在、所得を伴う仕事 (パート、アルバイト等を含む) に就いていますか。(○は1つ)

【図2 就労の有無】

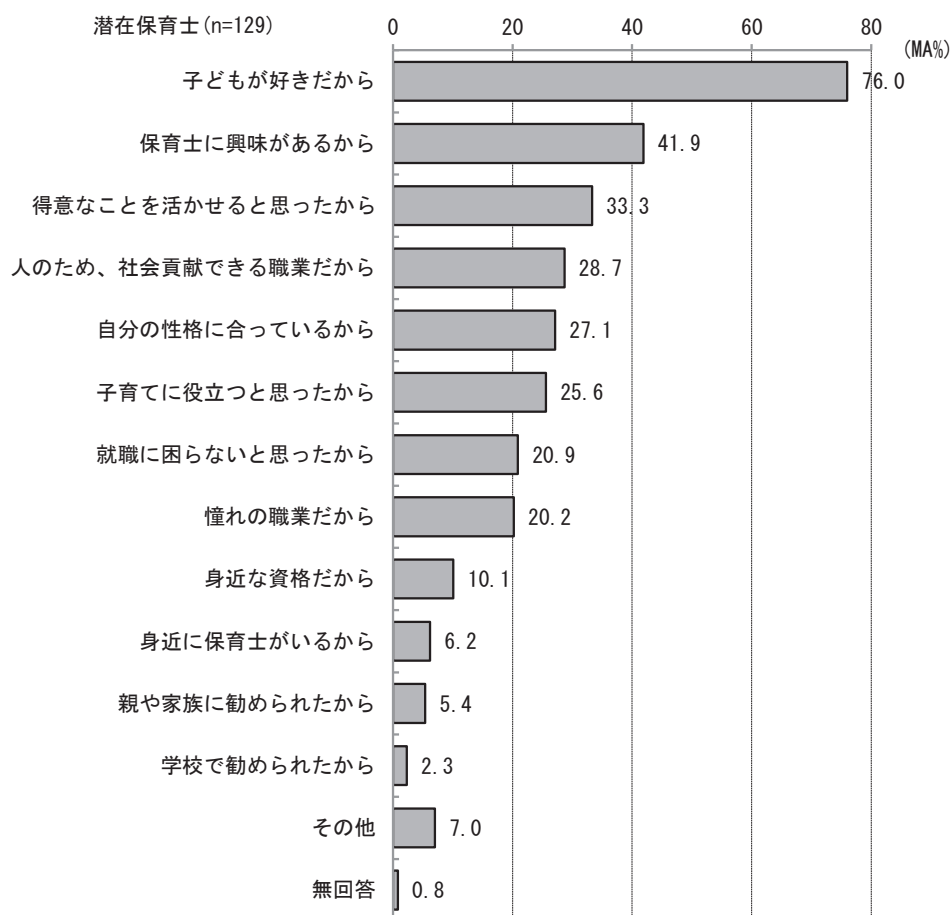


就労の有無については、「保育士として認可保育施設で勤務している」が38.0%で最も多く、次いで「保育士以外の仕事に就いている (在宅勤務含む)」が29.3%、「仕事には就いていない (家事専従)」が22.1%となっている。(図2)

問3 保育士の資格を取得した理由

あなたはなぜ保育士の資格を取りましたか。(〇はいくつでも)

【図3 保育士資格の取得理由】



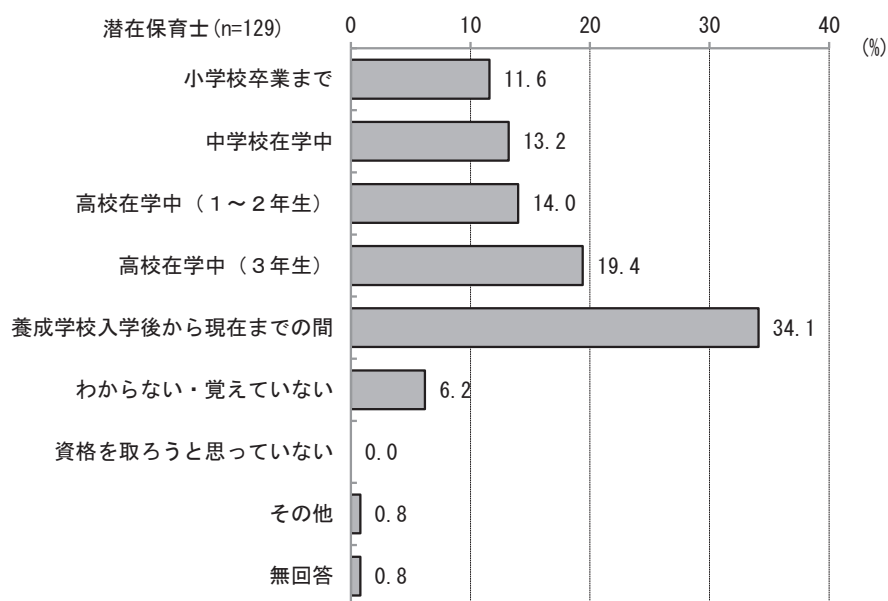
保育士の資格を取得した理由については、「子どもが好きだから」が76.0%で最も多く、次いで「保育士に興味があるから」が41.9%、「得意なことを活かせると思ったから」が33.3%となっている。(図3)

【3 潜在保育士調査】

問4 保育士資格を取得しようと思った時期

保育士資格を取ろうと思った時期はいつ頃ですか。(○は1つ)

【図4 保育士資格を取得しようと思った時期】



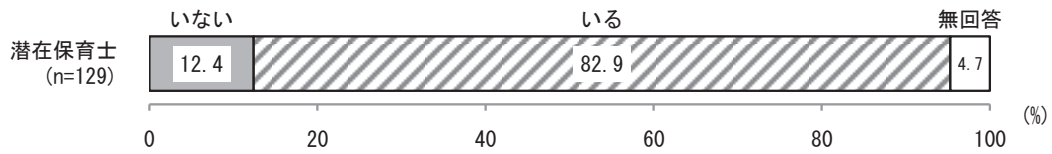
保育士資格を取得しようと思った時期については、「養成学校入学後から現在までの間」が34.1%で最も多く、次いで「高校在学中(3年生)」が19.4%、「高校在学中(1～2年生)」が14.0%となっている。(図4)

【3 潜在保育士調査】

問5 子どもの有無と、子どもの人数、末子の年齢

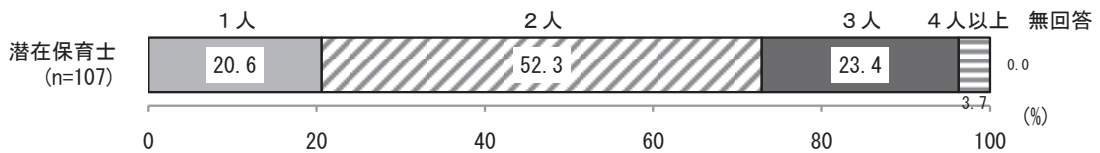
お子さんがいる場合はその人数と末子の年齢をご記入ください。

【図5① 子どもの有無】

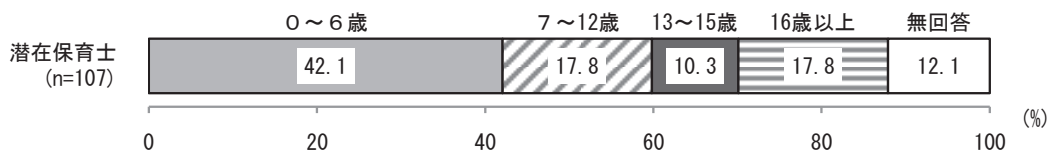


子どもの有無については、「いない」が12.4%、「いる」が82.9%となっている。(図5①)

【図5② 子どもの人数】



【図5③ 末子の年齢】



子どもがいると回答した方に、子どもの人数をたずねたところ、「2人」が52.3%で最も多く、次いで「3人」が23.4%、「1人」が20.6%となっている。(図5②)

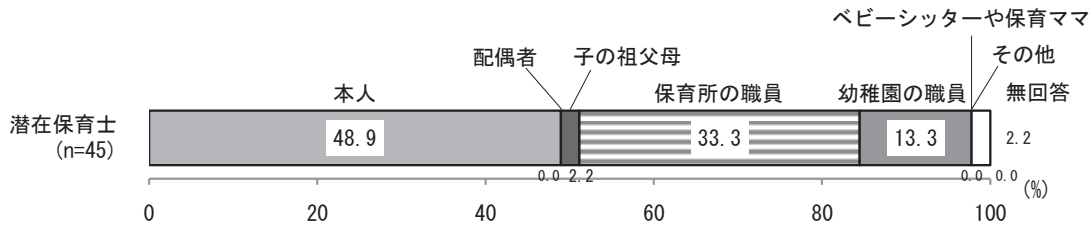
また末子の年齢については、「0～6歳」が42.1%で最も多く、次いで「7～12歳」「16歳以上」がそれぞれ17.8%となっている。(図5③)

【3 潜在保育士調査】

問5-1 末子の日中の主な保育者

小学校就学前のお子さんがいる方におうかがいします。
末子のおさんの日中の主な保育者はどなたですか。(休日を除く。○は1つ)

【図5-1 日中の主な保育者】

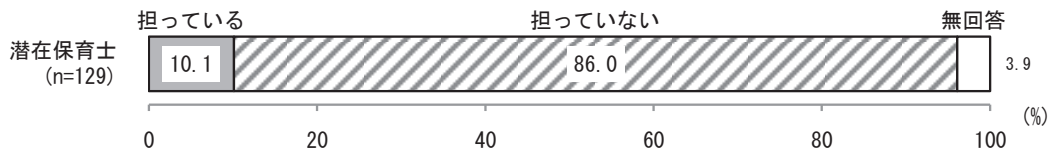


小学校就学前の子どもがいる方に、末子の日中の主な保育者についてたずねたところ、「本人」が48.9%で最も多く、次いで「保育所の職員」が33.3%、「幼稚園の職員」が13.3%となっている。(図5-1)

問6 要介護者の有無

あなたは家族の介護を担っていますか。

【図6 要介護者の有無】



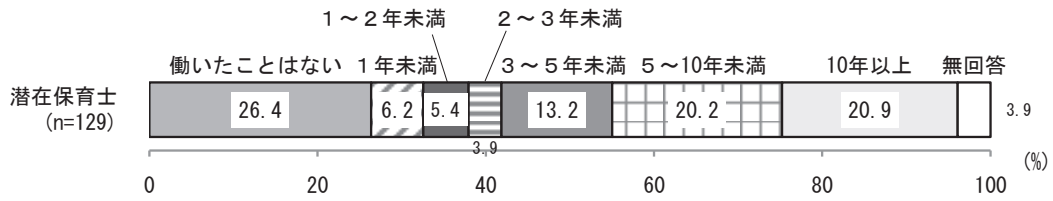
家族の介護を担っているかについては、「担っている」が10.1%、「担っていない」が86.0%となっている。(図6)

【3 潜在保育士調査】

問7 保育士としての通算就業年数

あなたが保育士として働いた通算就業年数はどれぐらいですか。(○は1つ)

【図7 保育士としての通算就業年数】

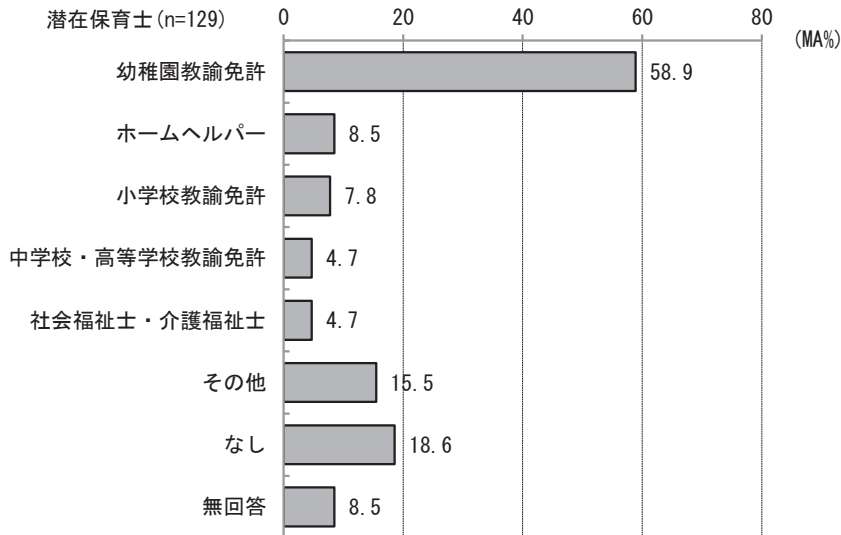


保育士としての通算就業年数については、「働いたことはない」が26.4%で最も多く、次いで「10年以上」が20.9%、「5~10年未満」が20.2%となっている。(図7)

問8 保育士以外の資格・免許

あなたが保育士以外に取得している資格・免許は次のどれですか。(○はいくつでも)

【図8 保育士以外の資格・免許】



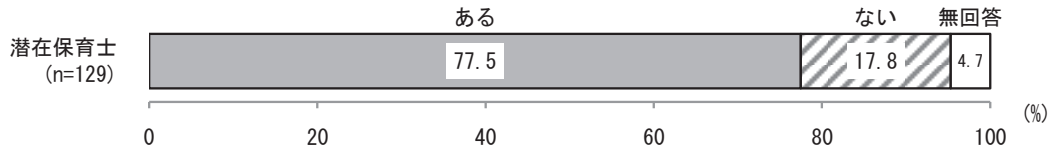
保育士以外に取得している資格・免許については、「幼稚園教諭免許」が58.9%で最も多く、次いで「ホームヘルパー」が8.5%となっている。また「なし」は18.6%となっている。(図8)

(2) 保育士としての勤務経験

問9 保育に関する仕事経験の有無

あなたは、過去に保育に関する仕事をしたことがありますか。(○は1つ)

【図9 保育に関する仕事経験の有無】

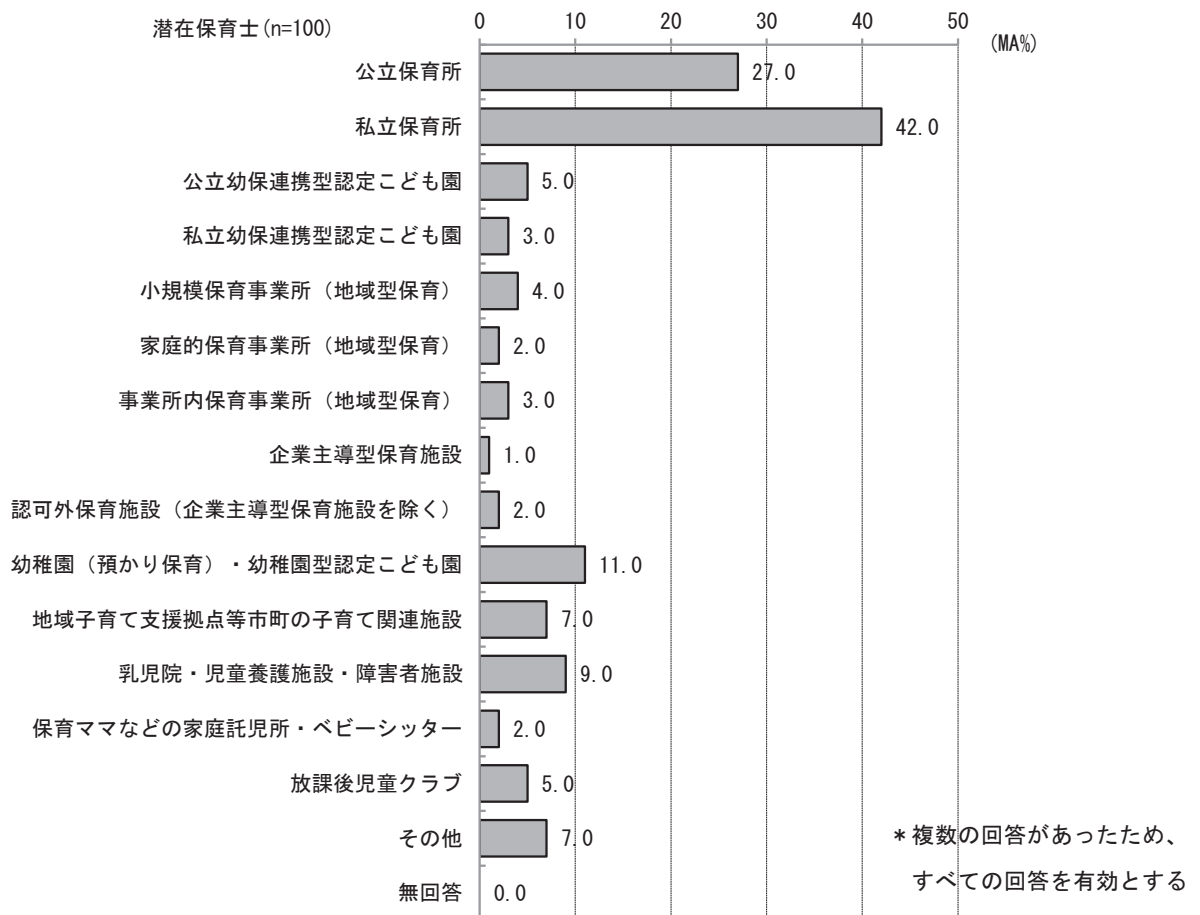


過去に保育に関する仕事をしたことがあるかについては、「ある」が77.5%、「ない」が17.8%となっている。(図9)

問10 保育に関する仕事の直近の就業先

問9で「1 ある」と回答した方におうかがいします。
 保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先はどちらですか。(○は主たる勤務場所に1つ)

【図10 保育に関する仕事の直近の就業先】

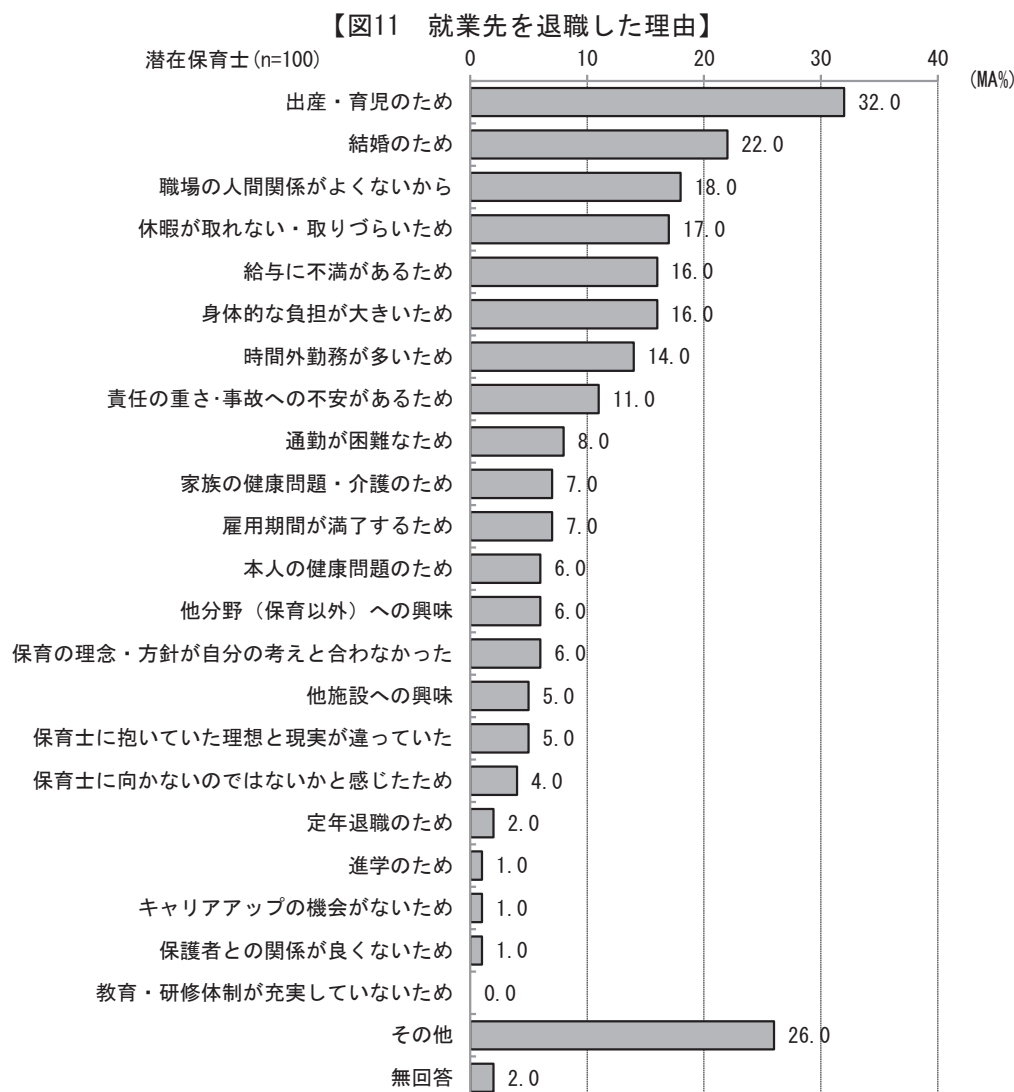


保育に関する仕事経験がある方に、保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先についてたずねたところ、「私立保育所」が42.0%で最も多く、次いで「公立保育所」が27.0%、「幼稚園 (預かり保育)・幼稚園型認定こども園」が11.0%となっている。(図10)

【3 潜在保育士調査】

問11 就業先を退職した理由

問9で「1 ある」と回答した方におうかがいします。
上記の就業先を退職した理由は何でしたか。(〇はいくつでも)



過去保育に関する仕事をしたことがある方に、その就業先を退職した理由をたずねたところ、「出産・育児のため」が32.0%で最も多く、次いで「結婚のため」が22.0%、「職場の人間関係がよくないから」が18.0%となっている。また「その他」には『配偶者の転勤のため』『職場の上司との関係がよくない（パワハラ等）』などの意見があった。（図11）

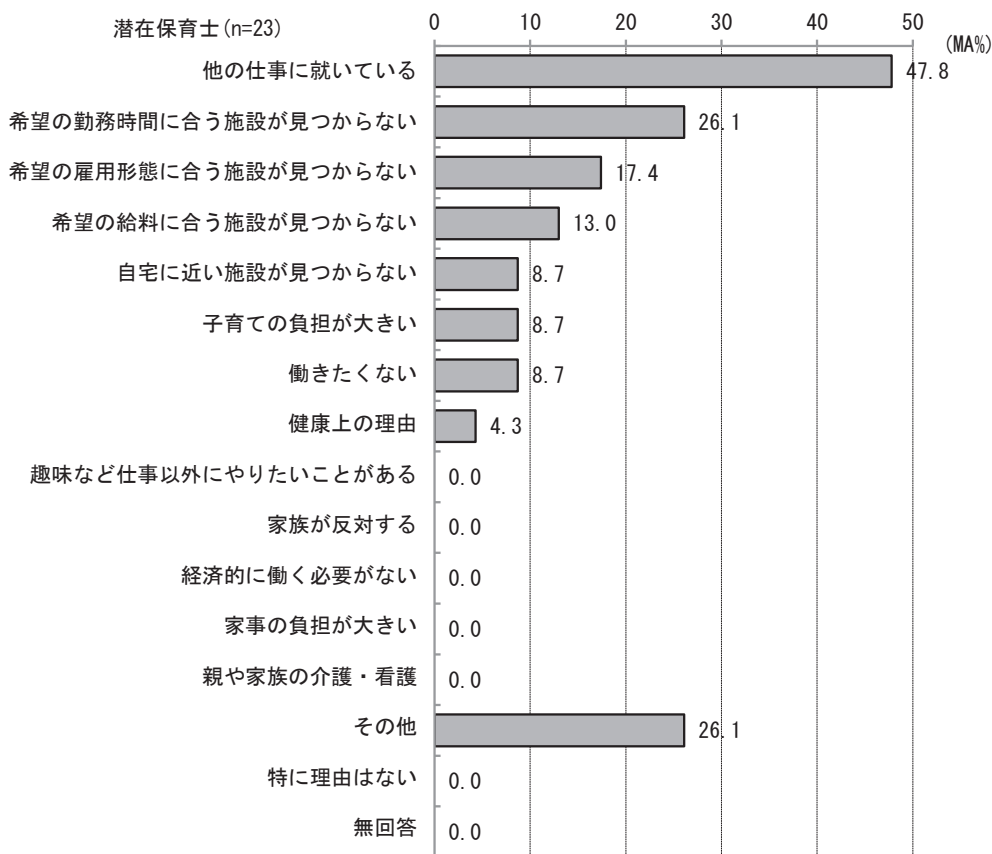
【表11 就業先を退職した理由（年代別）】

年代	n	理由																				その他	無回答			
		出産・育児のため	結婚のため	本人の健康問題のため	家族の健康問題・介護のため	通勤が困難なため	進学のため	他施設への興味	他分野（保育以外）への興味	職場の人間関係がよくないから	時間外勤務が多いため	休暇が取れない・取りづらいため	給与に不満があるため	身体的な負担が大きいため	責任の重さ・事故への不安があるため	実質的な研修体制が充実していないため	キャリアアップの機会がないため	雇用期間が満了するため	定年退職のため	保育の理念・方針が自分の考えと合わなかった	他施設への興味			保育士に抱いていた理想と現実が違っていた	保育士に向かないのではないかと感じたため	
20歳代	3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	100.0	-
30歳代	37	48.6	27.0	2.7	2.7	2.7	-	-	2.7	13.5	16.2	16.2	13.5	18.9	10.8	-	-	5.4	-	2.7	5.4	2.7	-	-	24.3	-
40歳代	39	28.2	23.1	7.7	7.7	10.3	2.6	5.1	2.6	20.5	12.8	12.8	15.4	10.3	12.8	-	2.6	5.1	-	7.7	5.1	-	7.7	23.1	2.6	
50歳代	14	21.4	21.4	14.3	7.1	21.4	-	7.1	21.4	28.6	14.3	28.6	21.4	21.4	7.1	-	-	14.3	-	7.1	-	-	-	14.3	28.6	-
60歳以上	6	-	-	-	33.3	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	16.7	16.7

問12 保育士の仕事をしていない理由

問9で「2 ない」と回答した方におうかがいします。
 現在、保育士の仕事をしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図12 保育士の仕事をしていない理由】



過去保育に関する仕事をしたことがないと回答した方に、現在保育士の仕事をしていない理由をたずねたところ、「他の仕事に就いている」が47.8%で最も多く、次いで「希望の勤務時間に合う施設が見つからない」が26.1%、「希望の雇用形態に合う施設が見つからない」が17.4%となっている。(図12)

【表12 保育士の仕事をしていない理由 (年代別)】

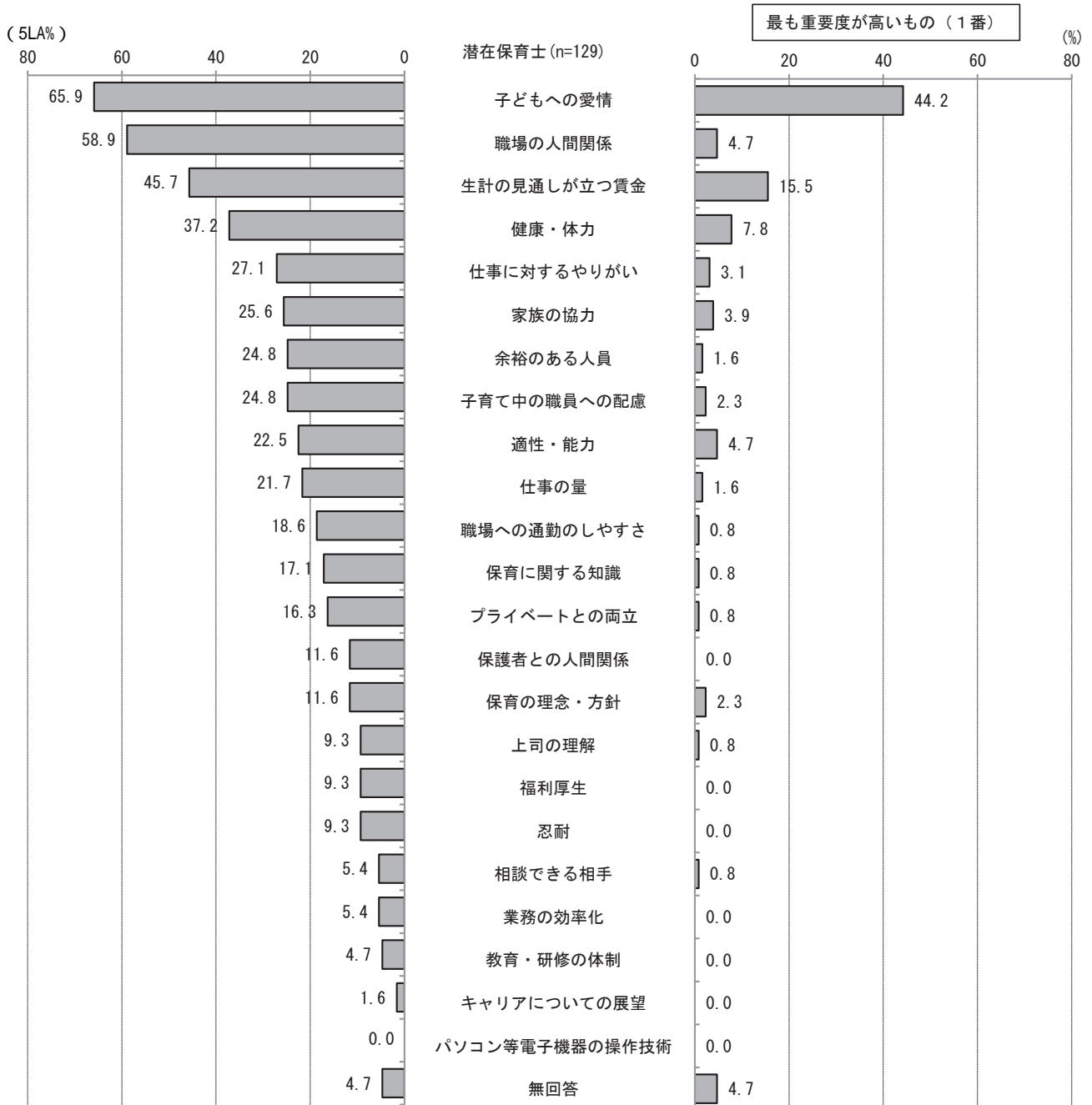
	n	(%)														
		自宅に近い施設が見つからない	希望の給料に合う施設が見つからない	希望の勤務時間に合う施設が見つからない	希望の雇用形態に合う施設が見つからない	趣味など仕事以外にやりたいことがある	健康上の理由	家族が反対する	経済的に働く必要がない	子育ての負担が大きい	家事の負担が大きい	親や家族の介護・看護	他の仕事に就いている	働きたくない	その他	特に理由はない
20歳代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	66.7	33.3	-	-
30歳代	8	12.5	12.5	12.5	12.5	-	-	-	25.0	-	-	50.0	-	37.5	-	-
40歳代	7	-	14.3	42.9	14.3	-	14.3	-	-	-	-	42.9	-	14.3	-	-
50歳代	5	20.0	20.0	40.0	40.0	-	-	-	-	-	-	60.0	-	20.0	-	-
60歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【3 潜在保育士調査】

問 13 保育士として働くために重要なこと

保育士として働くためには、何が重要だと思いますか。特に重要だと思うことを5つ選び、重要度の高いものから順に、() 内に番号を記入してください。

【図13 保育士として働くために重要なこと】



保育士として働くために重要なことについては、全体で見ると「子どもへの愛情」が65.9%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が58.9%、「生計の見通しが立つ賃金」が45.7%となっている。

また最も重要度が高いもの（1番）で見ると、「子どもへの愛情」が44.2%で最も多く、次いで「生計の見通しが立つ賃金」が15.5%となっている。（図13）

【3 潜在保育士調査】

【表13 保育士として働くために重要なこと（年代別）】

(%)

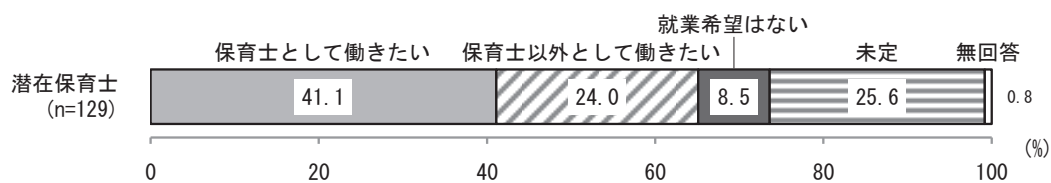
	n	子どもへの愛情	生計の見通しが立つ賃金	プライベートとの両立	家族の協力	上司の理解	仕事の量	余裕のある人員	子育て中の職員への配慮	福利厚生	相談できる相手	仕事に対するやりがい	職場の人間関係	保護者との人間関係	キャリアについての展望	教育・研修の体制	業務の効率化	忍耐	保育に関する知識	パソコン等電子機器の操作技術	保育の理念・方針	健康・体力	適性・能力	職場への通勤のしやすさ	無回答
20歳代	6	16.7	33.3	50.0	-	16.7	-	16.7	33.3	16.7	16.7	66.7	83.3	-	-	-	-	-	16.7	-	-	16.7	33.3	-	16.7
30歳代	47	68.1	61.7	23.4	27.7	10.6	25.5	19.1	38.3	10.6	8.5	19.1	55.3	12.8	-	6.4	8.5	4.3	8.5	-	6.4	31.9	14.9	17.0	4.3
40歳代	47	72.3	42.6	14.9	25.5	8.5	23.4	25.5	23.4	8.5	2.1	25.5	57.4	14.9	2.1	2.1	2.1	14.9	21.3	-	14.9	40.4	19.1	21.3	2.1
50歳代	22	59.1	31.8	-	27.3	9.1	13.6	40.9	4.5	4.5	4.5	27.3	59.1	9.1	-	9.1	9.1	9.1	22.7	-	13.6	45.5	40.9	13.6	9.1
60歳以上	6	66.7	16.7	-	16.7	-	16.7	16.7	-	16.7	-	66.7	66.7	-	16.7	-	-	16.7	33.3	-	33.3	50.0	33.3	33.3	-
最も重要なものが	20歳代	6	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	16.7
	30歳代	47	42.6	27.7	-	2.1	-	2.1	4.3	-	-	-	6.4	-	-	-	-	-	-	-	2.1	4.3	2.1	-	4.3
	40歳代	47	55.3	12.8	-	4.3	-	2.1	-	2.1	-	-	4.3	-	-	-	-	-	2.1	-	2.1	6.4	4.3	2.1	2.1
	50歳代	22	27.3	4.5	-	9.1	4.5	-	4.5	-	-	-	4.5	4.5	-	-	-	-	-	-	4.5	18.2	9.1	-	9.1
	60歳以上	6	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-

(3) 今後、保育士として働くことについて

問 14 今後の就業意向

今後の就業意向について、あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。(○は1つ)

【図14 今後の就業意向】

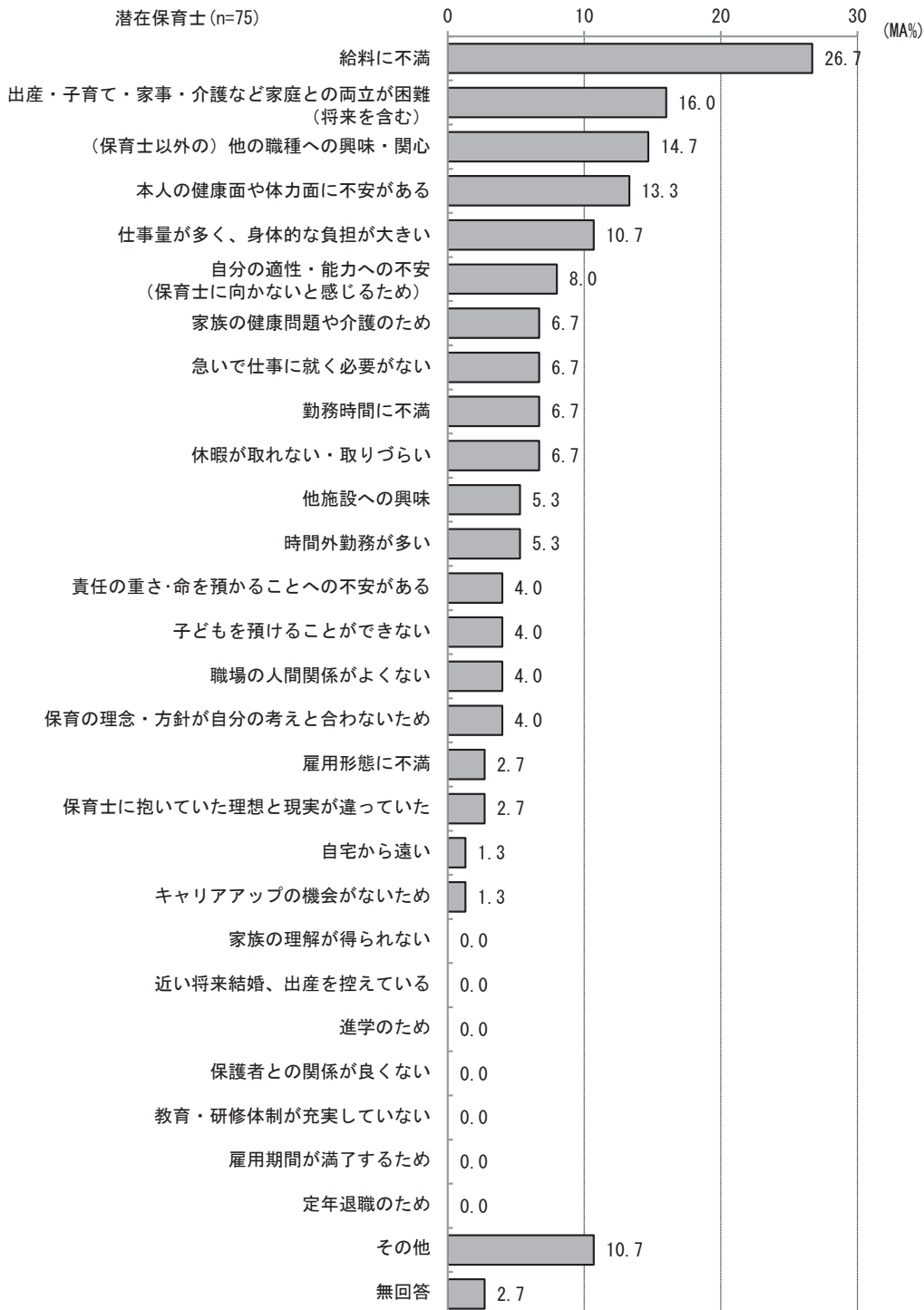


今後の就業意向については、「保育士として働きたい」が41.1%で最も多く、次いで「保育士以外として働きたい」が24.0%となっている。(図14)

問15 保育士としての就業希望がない理由

問14で「2 保育士以外として働きたい」「3 就業希望はない」「4 未定」と回答した方におうかがいします。その最大の理由は何ですか。

【図15 保育士としての就業希望がない理由】



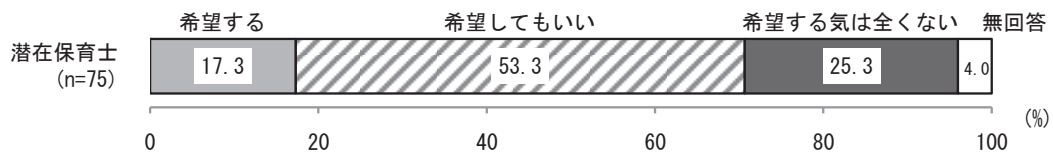
保育士としての就業希望がない方にその理由をたずねたところ、「給料に不満」が26.7%で最も多く、次いで「出産・子育て・家事・介護など家庭との両立が困難 (将来も含む)」が16.0%、「(保育士以外の)他の職種への興味・関心」が14.7%となっている。(図15)

【3 潜在保育士調査】

問 16 問題が解消された場合の保育士としての就職意向

問15の理由が解消された場合には、保育士としての就職を希望しますか。(○は1つ)

【図16 問題が解消された場合の保育士としての就職意向】

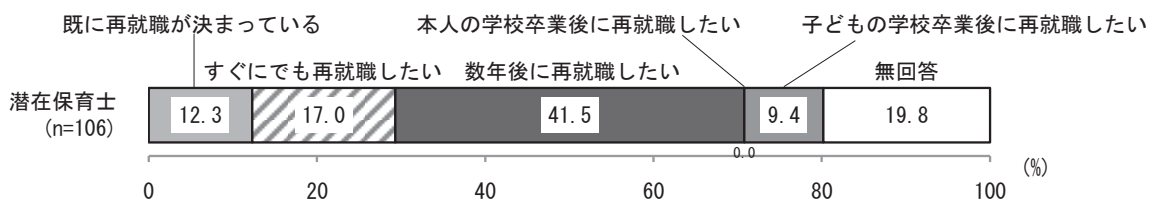


問題が解消された場合に保育士として就職を希望するかについては、「希望してもいい」が53.3%で最も多く、次いで「希望する気は全くない」が25.3%、「希望する」が17.3%となっている。(図16)

問 17 保育士として再就職したい時期

問14で保育士として働きたいと回答した方
 いつごろ保育士として再就職を希望していますか。(○は最も希望する時期に1つ)

【図17 保育士として再就職したい時期】

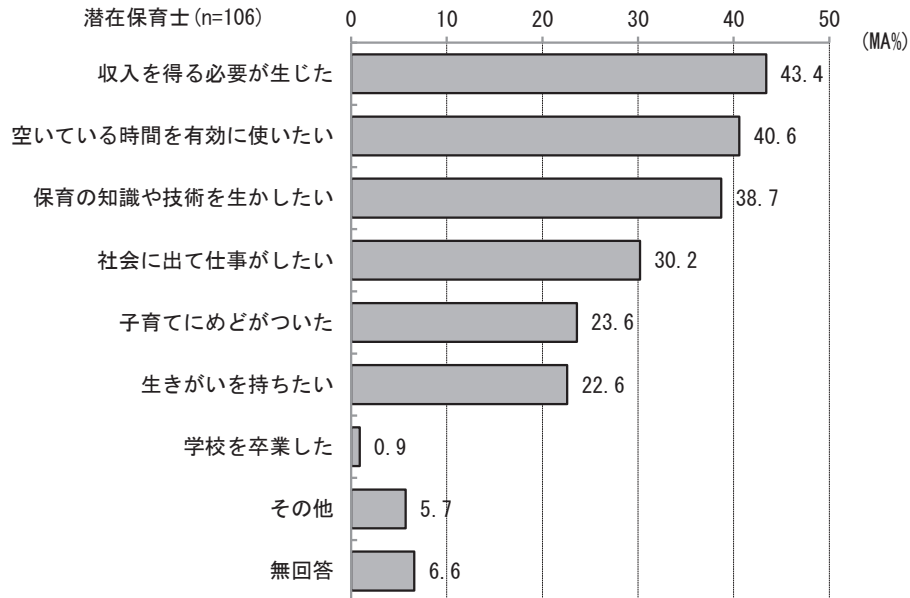


今後の就労意向で保育士として働きたいと回答した方に、再就職したい時期についてたずねたところ、「数年後に再就職したい」が41.5%でも最も多く、次いで「すぐにでも再就職したい」が17.0%となっている。(図17)

問 18 今後、保育士として働きたい理由

問14で保育士として働きたいと回答した方
 今後、保育士として働きたいと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図18 保育士として働きたい理由】

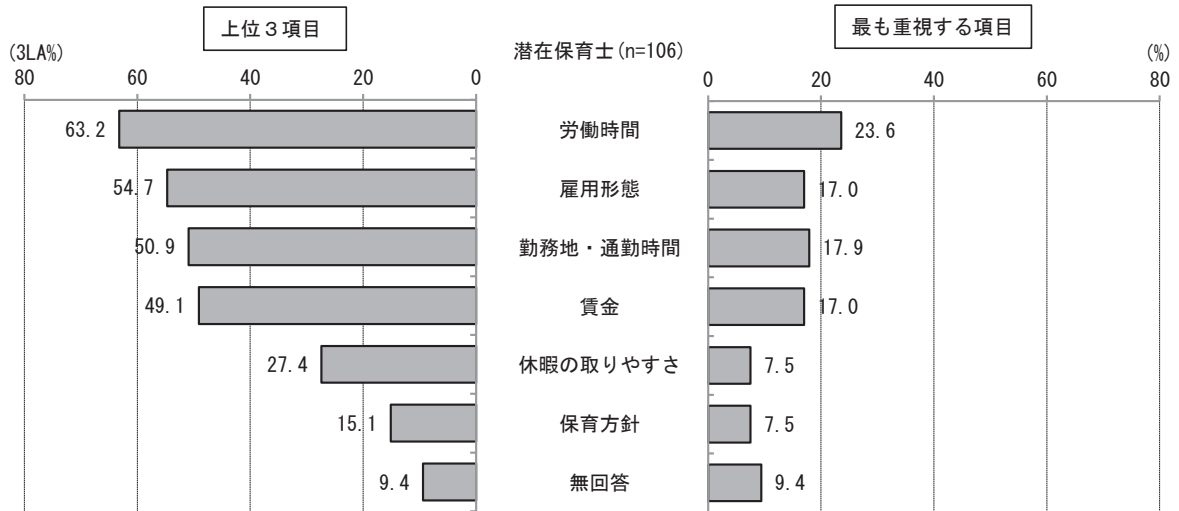


今後保育士として働きたい理由については、「収入を得る必要が生じた」が43.4%で最も多く、次いで「空いている時間を有効に使いたい」が40.6%、「保育の知識や技術を生かしたい」が38.7%となっている。(図18)

問19 職場を探す際に重視する条件

問14で保育士として働きたいと回答した方
 職場を探すのに重視する条件について、下記の選択肢の中から選び、重要度の高いものから順に、() 内に番号を記入してください。

【図19 職場を探す際に重視する条件】



職場を探す際に重視する条件について、上位3項目で見ると「労働時間」が63.2%で最も多く、次いで「雇用形態」が54.7%、「勤務地・通勤時間」が50.9%となっている。

最も重視する項目で見ると、「労働時間」が23.6%で最も多く、次いで「勤務地・通勤時間」が17.9%となっている。(図19)

【表19 職場を探す際に重視する条件 (年代別)】

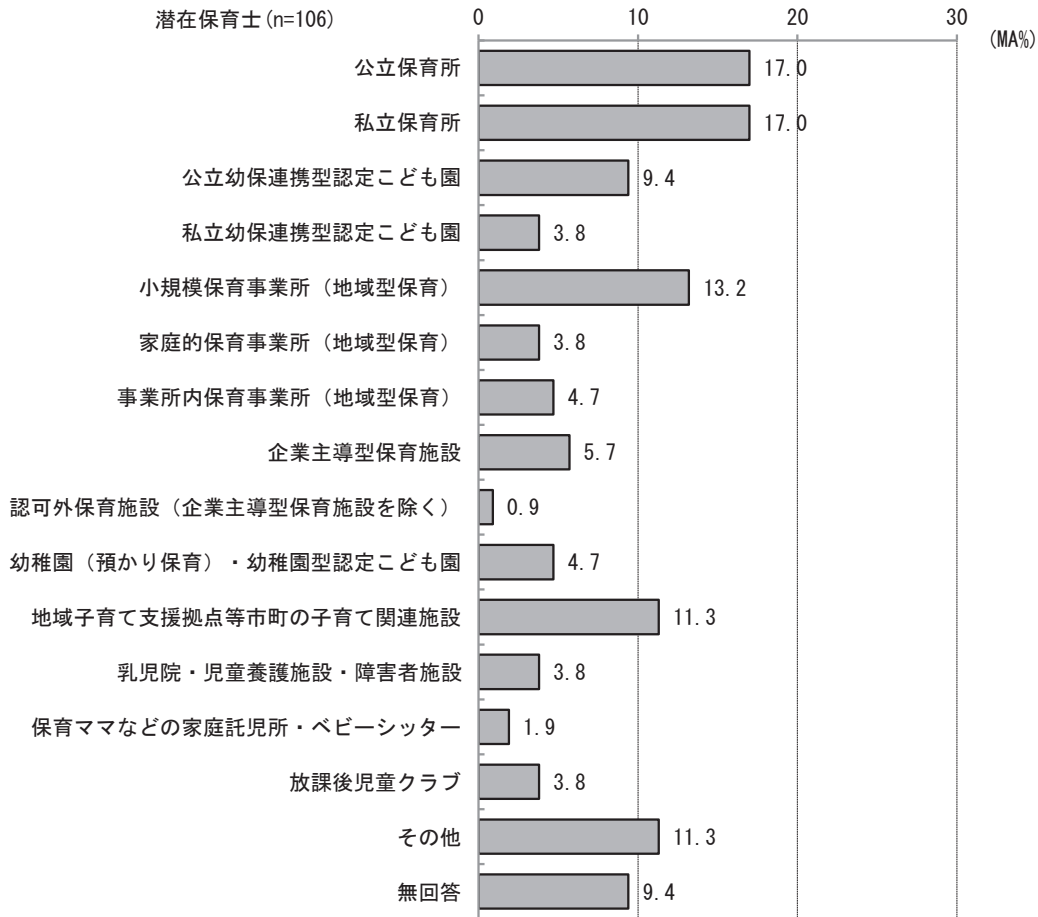
		n	賃金	雇用形態	勤務地・通勤時間	労働時間	休暇の取りやすさ	保育方針	無回答
上位3項目	20歳代	6	33.3	66.7	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7
	30歳代	43	44.2	55.8	44.2	67.4	37.2	16.3	7.0
	40歳代	35	54.3	45.7	60.0	65.7	22.9	14.3	8.6
	50歳代	19	52.6	63.2	52.6	57.9	15.8	10.5	15.8
	60歳以上	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-
最も重視する項目	20歳代	6	-	16.7	16.7	-	33.3	16.7	16.7
	30歳代	43	20.9	16.3	9.3	25.6	9.3	11.6	7.0
	40歳代	35	14.3	20.0	17.1	28.6	5.7	5.7	8.6
	50歳代	19	15.8	15.8	31.6	21.1	-	-	15.8
	60歳以上	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-

【3 潜在保育士調査】

問20 勤務を希望する施設

問14で保育士として働きたいと回答した方
勤務を希望する施設はどこですか。(〇は1つ)

【図20 勤務を希望する施設】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

勤務を希望する施設については、「公立保育所」と「私立保育所」が17.0%で最も多く、次いで「小規模保育事業所 (地域型保育)」が13.2%となっている。(図20)

【表20 勤務を希望する施設 (年代別)】

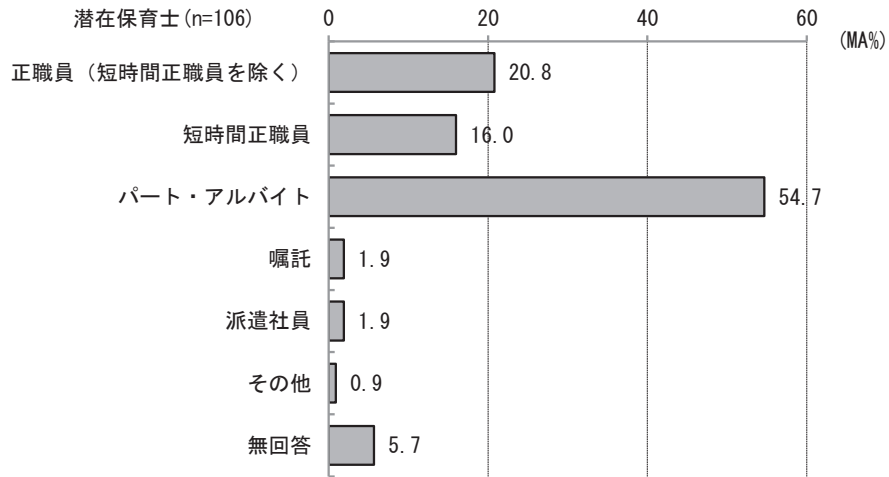
	n	(%)																		
		公立保育所	私立保育所	公立幼保連携型認定こども園	私立幼保連携型認定こども園	小規模保育事業所 (地域型保育)	家庭的保育事業所 (地域型保育)	事業所内保育事業所 (地域型保育)	企業主導型保育施設	認可外保育施設 (企業主導型保育施設を除く)	認可外保育施設 (企業主導型保育施設を除く)	幼稚園 (預かり保育)・幼稚園型認定こども園	幼稚園 (預かり保育)・幼稚園型認定こども園	地域子育て支援拠点等市町の子育て関連施設	乳児院・児童養護施設・障害者施設	託児所・ベビーシッター	保育ママなどの家庭託児所	放課後児童クラブ	その他	無回答
20歳代	6	-	50.0	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7
30歳代	43	20.9	18.6	11.6	4.7	4.7	4.7	4.7	2.3	-	2.3	11.6	7.0	-	2.3	11.6	4.7	4.7	4.7	
40歳代	35	20.0	17.1	11.4	2.9	17.1	2.9	5.7	8.6	2.9	5.7	5.7	-	2.9	5.7	11.4	14.3	14.3	14.3	
50歳代	19	10.5	5.3	-	-	26.3	5.3	5.3	10.5	-	10.5	26.3	5.3	5.3	5.3	10.5	5.3	5.3	5.3	
60歳以上	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	

【3 潜在保育士調査】

問 21 希望する雇用形態

問14で保育士として働きたいと回答した方
雇用形態について、最も希望するものは何ですか。(○は1つ)

【図21 希望する雇用形態】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

希望する雇用形態については、「パート・アルバイト」が54.7%で最も多く、次いで「正職員 (短時間正職員を除く)」が20.8%、「短時間正職員」が16.0%となっている。(図21)

【表21 希望する雇用形態 (年代別)】

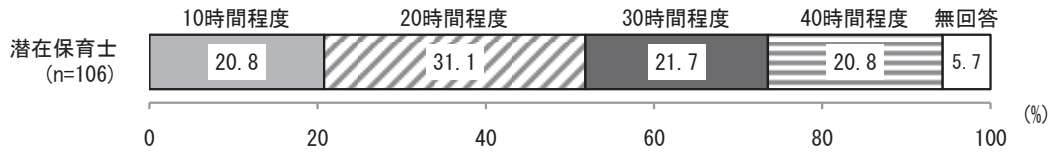
	n	(%)						
		(正職員 (短時間正職員を除く))	短時間正職員	パート・アルバイト	嘱託	派遣社員	その他	無回答
20歳代	6	50.0	16.7	16.7	-	16.7	-	-
30歳代	43	11.6	16.3	67.4	2.3	2.3	-	2.3
40歳代	35	25.7	11.4	48.6	2.9	-	-	11.4
50歳代	19	21.1	26.3	52.6	-	-	5.3	-
60歳以上	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0

【3 潜在保育士調査】

問 22 希望する1週間あたりの労働時間

問14で保育士として働きたいと回答した方
希望する1週間あたりの労働時間はどれくらいですか。(○は1つ)

【図22 希望する1週間あたりの労働時間】



希望する1週間あたりの労働時間については、「20時間程度」が31.1%で最も多く、次いで「30時間程度」が21.7%となっている(図22)

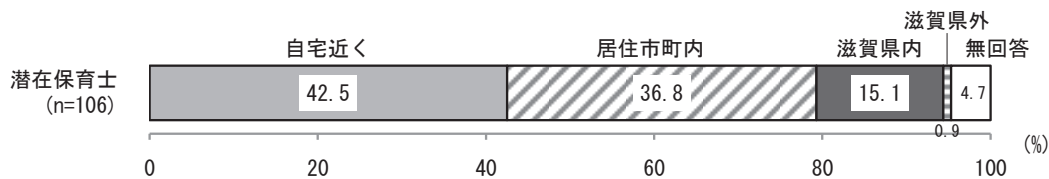
【表22 希望する1週間あたりの労働時間(年代別)】

	n	(%)				
		程1 度0 時間	程2 度0 時間	程3 度0 時間	程4 度0 時間	無 回 答
20歳代	6	-	33.3	-	66.7	-
30歳代	43	23.3	32.6	32.6	9.3	2.3
40歳代	35	17.1	28.6	20.0	22.9	11.4
50歳代	19	31.6	31.6	10.5	26.3	-
60歳以上	2	-	50.0	-	-	50.0

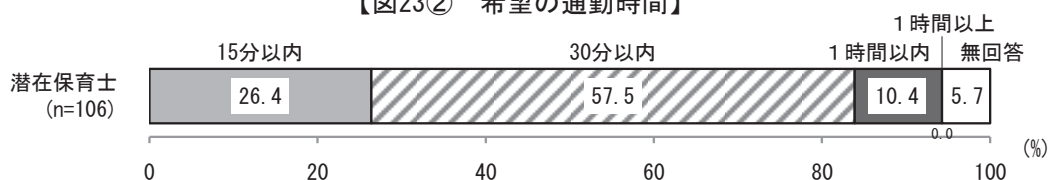
問 23 希望する勤務地と通勤時間

問14で保育士として働きたいと回答した方
希望する勤務地と通勤時間(許容できる上限)について、それぞれ該当する番号に○をつけてください。(○は1つずつ)

【図23① 希望の勤務地】



【図23② 希望の通勤時間】



希望の勤務地については、「自宅近く」が42.5%で最も多く、次いで「居住市町内」が36.8%となっている。(図23①)

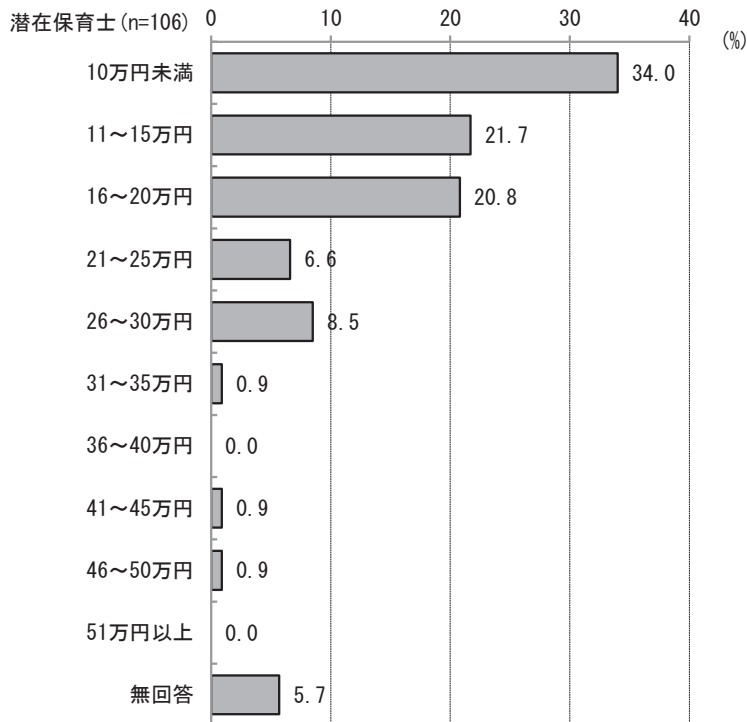
希望の通勤時間については、「30分以内」が57.5%で最も多く、次いで「15分以内」が26.4%となっている。(図23②)

【3 潜在保育士調査】

問24 希望する1か月の給与水準（手取り）

問14で保育士として働きたいと回答した方
 希望する1か月の給与水準（手取り）はどれくらいですか（1万円以下切り捨て）。（○は1つ）

【図24 希望する1か月の給与水準（手取り）】



希望する1か月の給与水準（手取り）については、「10万円未満」が34.0%で最も多く、次いで「11～15万円」が21.7%、「16～20万円」が20.8%となっている。（図24）

【表24 希望する1か月の給与水準（手取り）（年代別）】

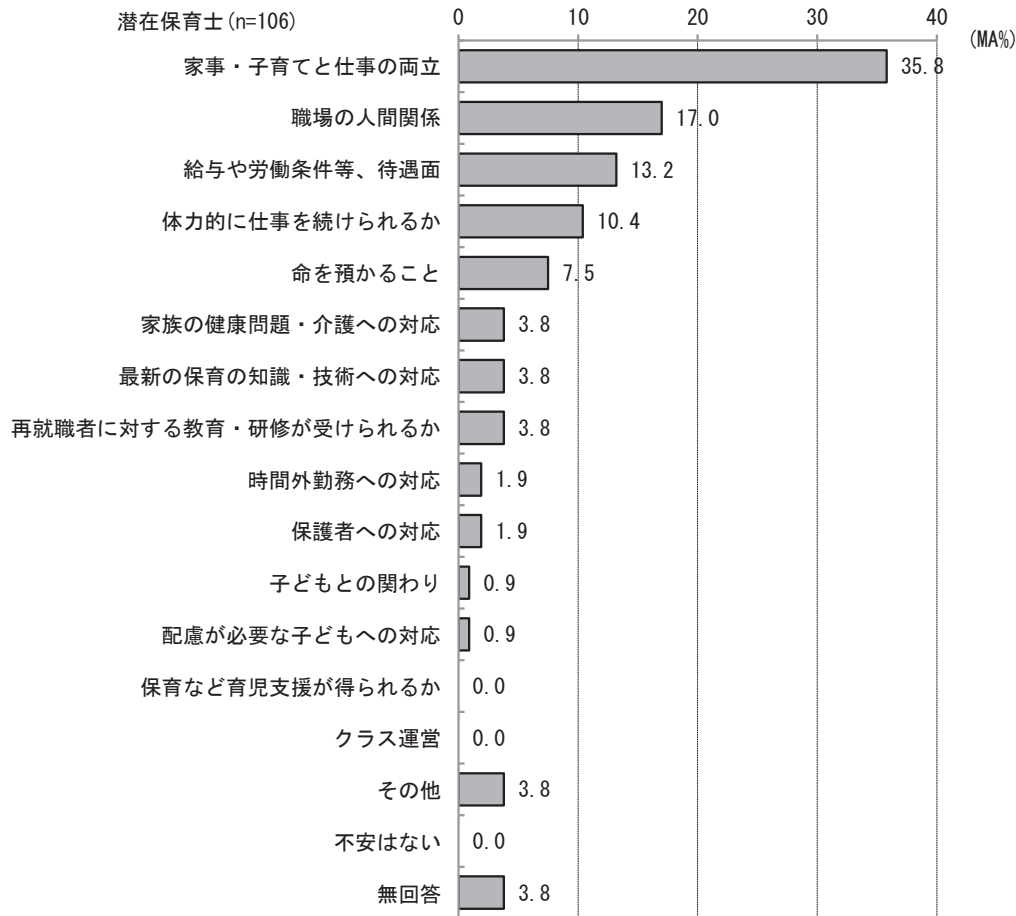
	n	希望する1か月の給与水準（手取り）											無回答
		10万円未満	11～15万円	16～20万円	21～25万円	26～30万円	31～35万円	36～40万円	41～45万円	46～50万円	51万円以上		
20歳代	6	16.7	-	50.0	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	43	32.6	27.9	18.6	9.3	9.3	-	-	-	-	-	-	2.3
40歳代	35	34.3	17.1	22.9	5.7	5.7	2.9	-	-	-	-	-	11.4
50歳代	19	42.1	26.3	10.5	-	10.5	-	-	5.3	5.3	-	-	-
60歳以上	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

【3 潜在保育士調査】

問 25 再就職に際して最も不安に思うこと

問14で保育士として働きたいと回答した方
再就職に際して、最も不安に思うことを選んで○をつけてください。(○は1つ)

【図25 再就職に際して最も不安に思うこと】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

再就職に際して最も不安に思うことについては、「家事・子育てと仕事の両立」が35.8%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が17.0%、「給与や労働条件等、待遇面」が13.2%となっている。(図25)

【表25 再就職に際して最も不安に思うこと (年代別)】

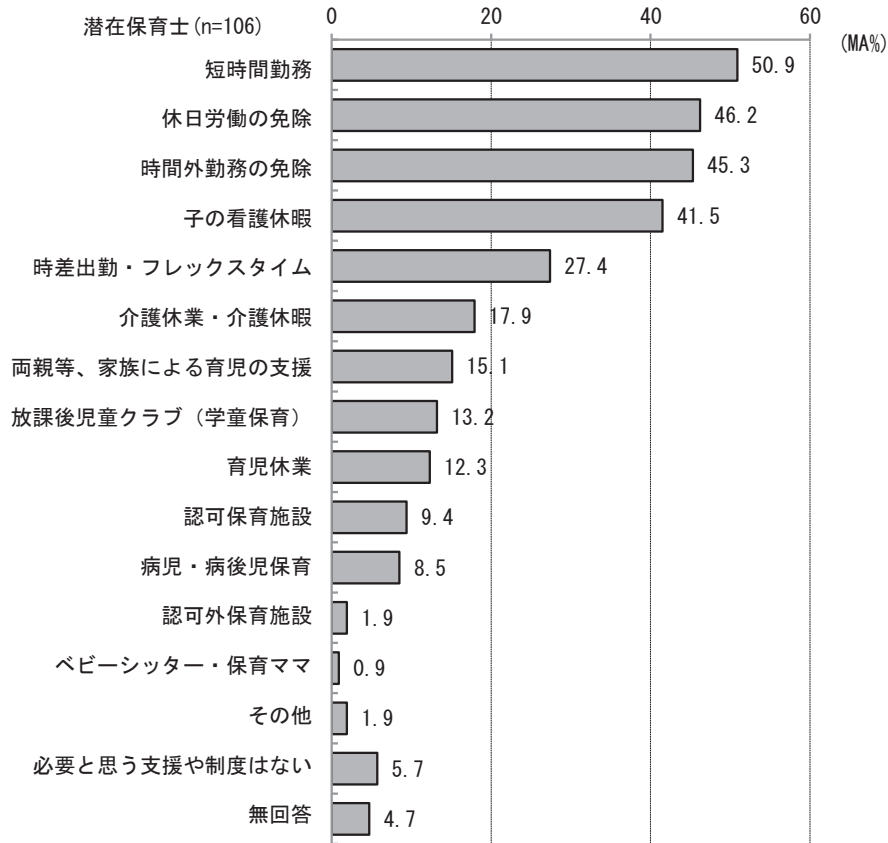
	n	家事・子育てと仕事の両立	保育など育児支援が得られるか	家族の健康問題・介護への対応	時間外勤務への対応	最新の保育の知識・技術への対応	再就職者に対する教育・研修が受けられるか	体力的に仕事を続けられるか	クラス運営	子どもとの関わり	保護者への対応	職場の人間関係	配慮が必要な子どもへの対応	命を預かること	給与や労働条件等、待遇面	その他	不安はない	無回答
20歳代	6	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	33.3	-	-
30歳代	43	55.8	-	-	-	2.3	2.3	4.7	-	-	2.3	14.0	-	2.3	16.3	2.3	-	2.3
40歳代	35	34.3	-	5.7	5.7	8.6	-	5.7	-	-	-	17.1	2.9	11.4	11.4	-	-	5.7
50歳代	19	5.3	-	5.3	-	-	15.8	36.8	-	5.3	5.3	10.5	-	15.8	15.8	5.3	-	-
60歳以上	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

【3 潜在保育士調査】

問26 再就職のために使いたい支援や制度等

問14で保育士として働きたいと回答した方
再就職のために使いたい支援や制度等は何ですか。(〇はいくつでも)

【図26 再就職のために使いたい支援や制度等】



再就職のために使いたい支援や制度等については、「短時間勤務」が50.9%で最も多く、次いで「休日労働の免除」が46.2%、「時間外勤務の免除」が45.3%、「子の看護休暇」が41.5%となっている。(図26)

【表26 再就職のために使いたい支援や制度等（年代別）】

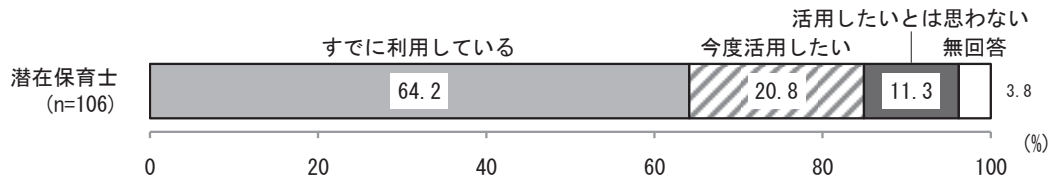
	n	(%)															
		時間外勤務の免除	時差出勤・フレックスタイム	休日労働の免除	短時間勤務	育児休業	子の看護休暇	介護休業・介護休暇	認可保育施設	認可外保育施設	病児・病後児保育	マベベシッター・保育ママ	放課後児童クラブ（学童保育）	両親等、家族による育児の支援	その他	必要と思う支援や制度はない	無回答
20歳代	6	-	33.3	33.3	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	-	16.7	-	16.7	16.7	33.3	16.7	-
30歳代	43	62.8	32.6	53.5	58.1	20.9	58.1	7.0	14.0	2.3	16.3	-	27.9	27.9	-	-	2.3
40歳代	35	51.4	22.9	57.1	51.4	2.9	40.0	22.9	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	5.7	-	5.7	5.7
50歳代	19	15.8	26.3	21.1	47.4	-	10.5	31.6	-	-	-	-	-	5.3	-	15.8	5.3
60歳以上	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

問 27 人材バンクの活用意向

問14で保育士として働きたいと回答した方

県では、再就職のために登録すると、県内の保育所への就職斡旋や情報提供を受けられる人材バンクを運営しています。あなたは、人材バンクを活用したいと思いますか。(○は1つ)

【図27 人材バンクの活用意向】



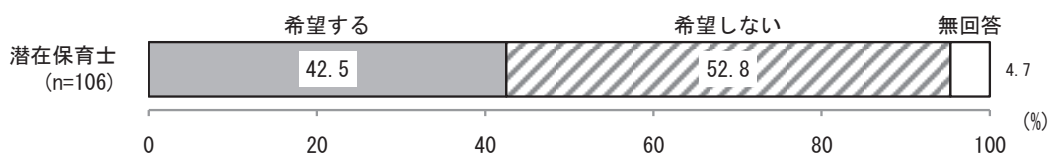
人材バンクの活用意向については、「すでに利用している」が64.2%で最も多く、次いで「今後活用したい」が20.8%、「活用したいとは思わない」が11.3%となっている。(図27)

問 28 再就職のための研修の受講意向

問14で保育士として働きたいと回答した方

再就職のための研修の受講を希望しますか。(○は1つ)

【図28 再就職のための研修の受講意向】



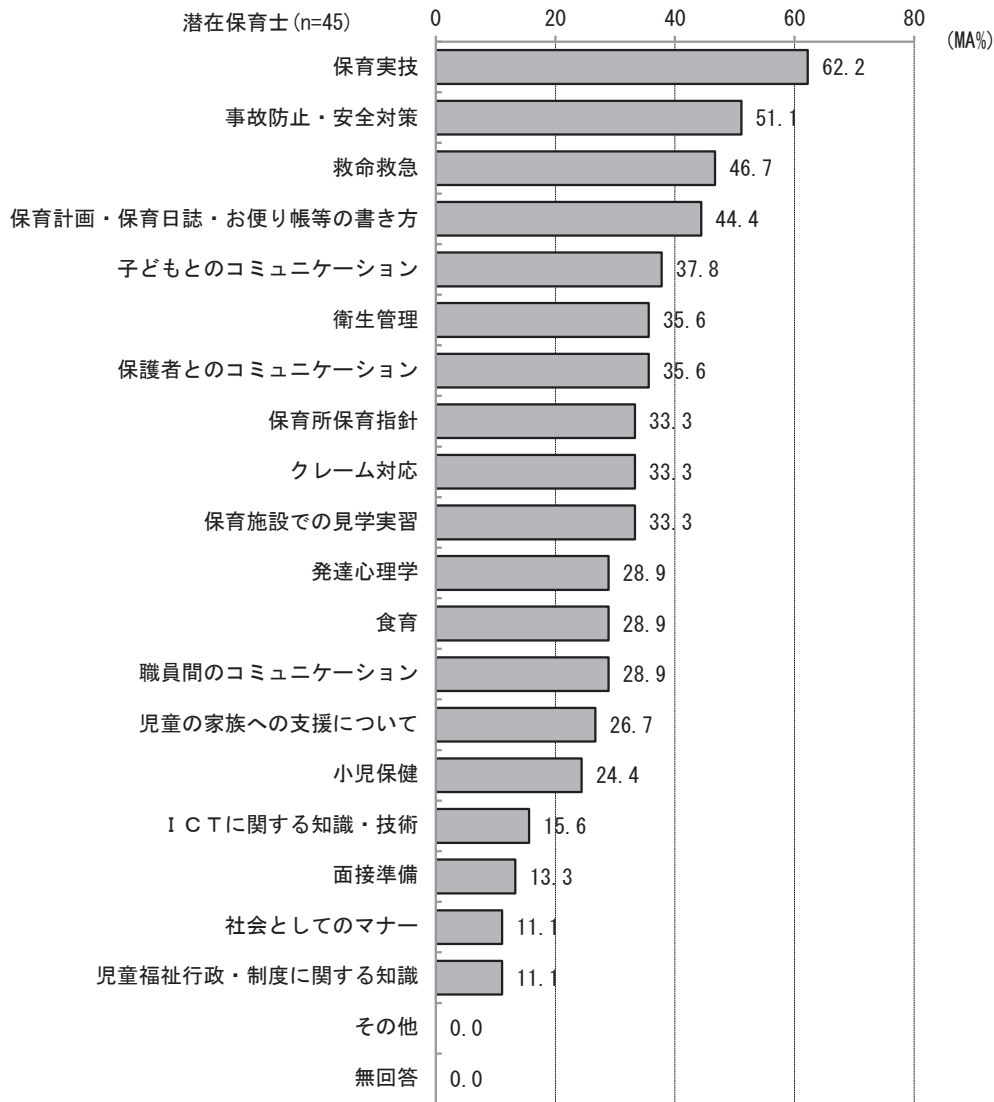
再就職のための研修の受講意向については、「希望する」が42.5%、「希望しない」が52.8%となっている。(図28)

【3 潜在保育士調査】

問 28-1 希望する研修内容

問28で「1 希望する」と回答した方におうかがいします。
 どのような内容の研修を希望しますか。(〇はいくつでも)

【図28-1 希望する研修内容】



再就職のための研修を希望すると回答した方に、希望する研修内容をたずねたところ、「保育実技」が62.2%で最も多く、次いで「事故防止・安全対策」が51.1%、「救命救急」が46.7%、「保育計画・保育日誌・お便り帳等の書き方」が44.4%となっている。(図28-1)

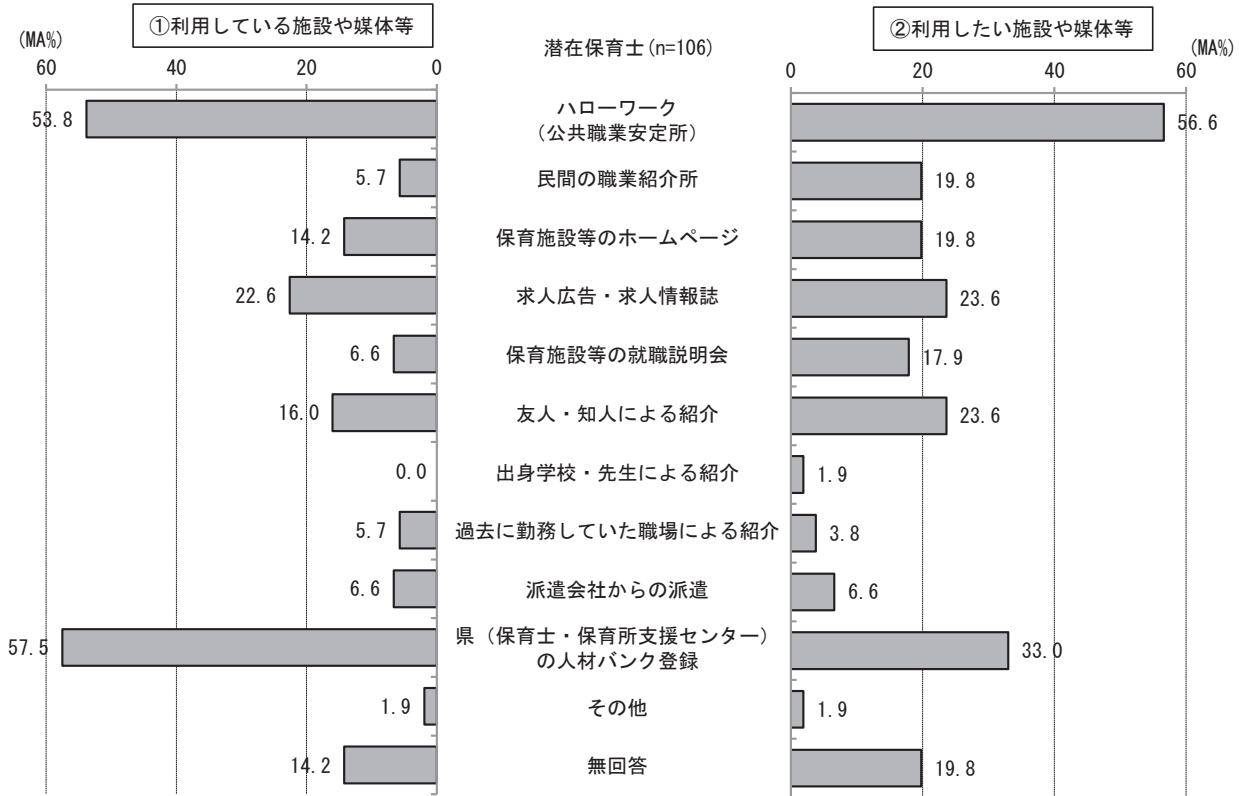
【3 潜在保育士調査】

問29 再就職先を探す際に利用している、または利用したい施設や媒体等

問14で保育士として働きたいと回答した方

再就職先を探す際、①利用している施設や媒体等は何ですか。(〇はいくつでも)
また、②利用したい施設や媒体等はどれですか。(〇はいくつでも)

【図29 再就職先を探す際に利用している施設や媒体等】



①再就職先を探す際に利用している施設や媒体等については、「県 (保育士・保育所支援センター) の人材バンク登録」が57.5%で最も多く、次いで「ハローワーク (公共職業安定所)」が53.8%、「求人広告・求人情報誌」が22.6%となっている。

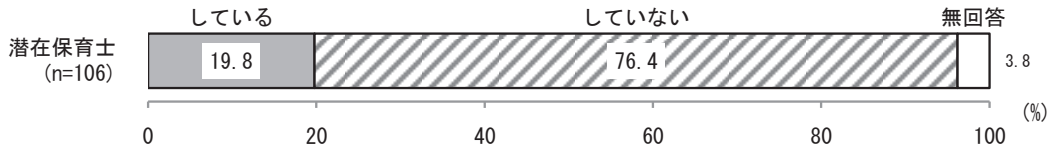
②再就職先を探す際に利用したい施設や媒体等については、「ハローワーク (公共職業安定所)」が56.6%で最も多く、次いで「県 (保育士・保育所支援センター) の人材バンク登録」が33.0%、「求人広告・求人情報誌」「友人・知人による紹介」が23.6%となっている。(図29)

【3 潜在保育士調査】

問 30 求職活動の有無

問14で保育士として働きたいと回答した方
現在、求職活動をしていますか。(○は1つ)

【図30 求職活動の有無】

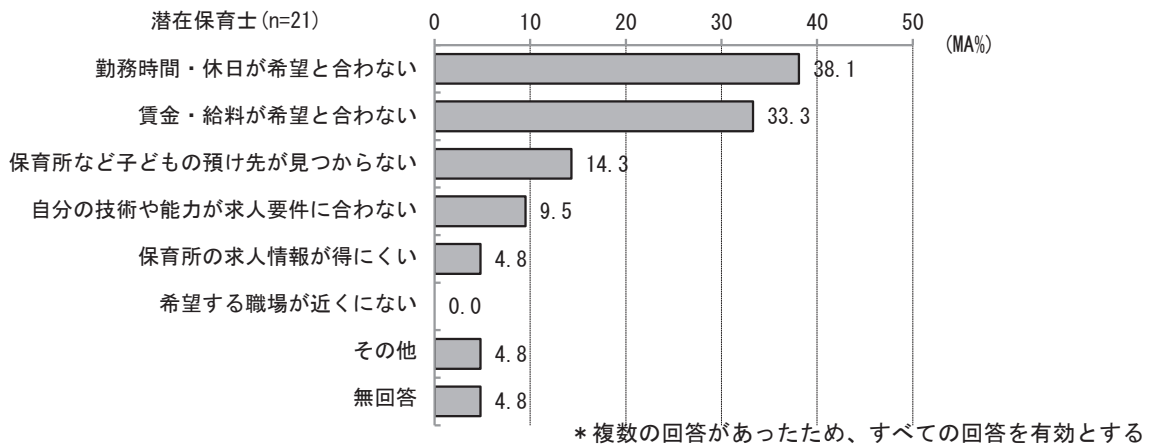


現在求職活動をしているかについては、「している」が19.8%、「していない」が76.4%となっている。(図30)

問 30-1 就職できない理由

問30で「1 している」と回答した方におうかがいします。
求職活動をしているが、就職できない最大の理由は何ですか。(○は最も大きな理由に1つ)

【図30-1 就職できない理由】



現在求職活動をしていると回答した方に、就職できない理由についてたずねたところ、「勤務時間・休日が希望と合わない」が38.1%で最も多く、次いで「賃金・給料が希望と合わない」が33.3%、「保育所など子どもの預け先が見つからない」が14.3%となっている。(図30-1)

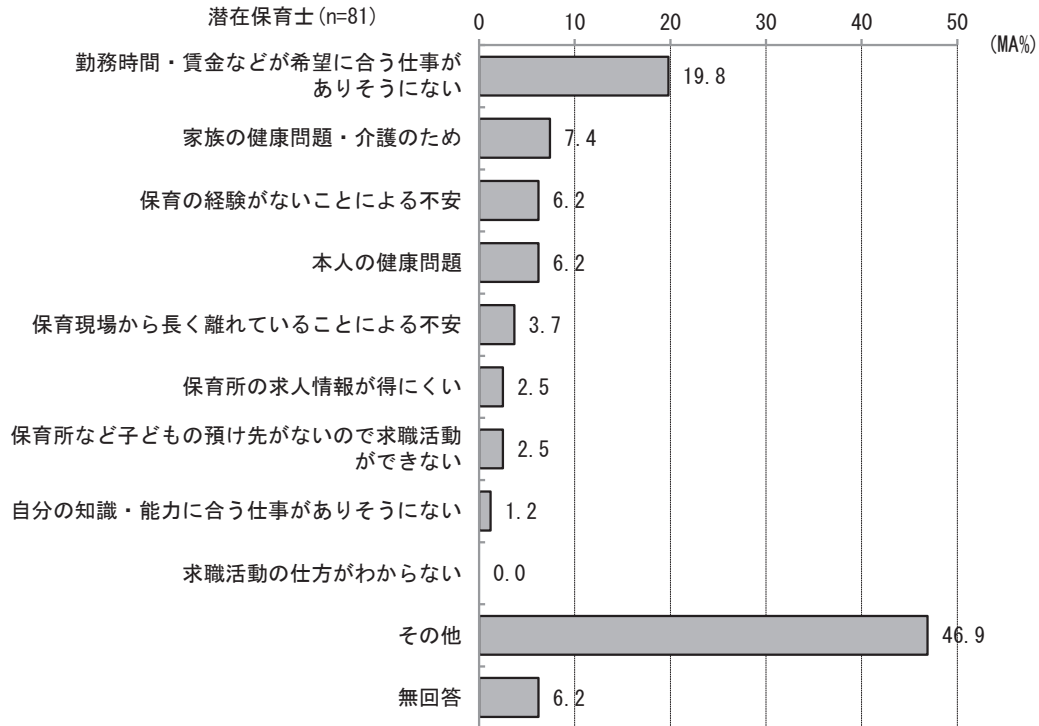
【表30-1 就職できない理由 (年代別)】

	n	(%)							
		望賃と金合・わな料が希	いが勤務希望時間と間合・わ休な日	報保が育得所にのく求い人情	合力が分の求人技術要件やに能	近希く望にする職場が	つも保かの育預所なけな先どが見	その他	無回答
20歳代	2	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
30歳代	6	-	66.7	-	-	-	50.0	-	-
40歳代	10	50.0	40.0	10.0	10.0	-	-	-	-
50歳代	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-
60歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 30-2 求職活動をしていない理由

問30で「2 していない」と回答した方におうかがいします。
 就職を希望しているのに求職活動をしていない最大の理由は何ですか。(○は最も大きな理由に1つ)

【図30-2 求職活動をしていない理由】



* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

現在求職活動をしていないと回答した方に、求職活動をしていない理由についてたずねたところ、「勤務時間・賃金などが希望に合う仕事がありそうにない」が19.8%で最も多く、次いで「家族の健康問題・介護のため」が7.4%となっている。「その他」では、『子どもが小さく子育てに専念したい』『現在、他の仕事に就いている』などの意見が挙げられている。(図30-2)

(4) 保育士としての就労や労働環境などについて

問 31 保育士としての就労や労働環境などについて（自由意見）

保育士としての就労や労働環境などについてご意見・ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。

91 人から回答をいただいた。主な意見は次の通り。

■給与、待遇改善に関すること

- ・ パートは時給も安く、他職種なら 1,200 円以上のものもある中、900～1,000 円と、仕事量に見合うものではない。周りの元保育士たちも 1,200 円以上あればと話をする。
- ・ 昔に比べると、保育士の待遇は良くなったが、まだまだ勤務時間や勤務内容がきついわりには給料が低く、保育士として働くことをためらってしまう場合があるように思う。
- ・ 子育て中のため短時間の勤務を希望している。平日昼間勤務で子どもの行事に合わせて休めるものは、賃金他職種のパートと同じになるため、現在は飲食店でパートをしている。自分の子どもを優先しながら働ける環境になったら、保育士として働きたいと思う。
- ・ 仕事量が多いわりに給料が低い。パートはとくに。少しは改善されたが微々たるものである。若い人たちが継続出来るよう待遇をもっと良くして欲しい。
- ・ 保育士は本当におもしろくて楽しい。正職員の方々の仕事の量を見ていると、賃金のみあっていないのが本当に問題だと思う。

■人間関係について

- ・ 現場の人間関係でやめる同僚を沢山見てきたので、そのことが保育士不足の 1 番の課題だと思う。
- ・ 人と関わる仕事でもあるだけに、まずは職員の間人間関係を 1 番に改善する必要があると思う。職員同士が良くないと子どもたちや園にも影響が出ると思う。
- ・ 労働環境、特に人間関係が重要だと思う。女性が多い職場のため人間関係が難しい。

■潜在保育士への支援等について

- ・ 子育てしながら仕事をする事への不安があるため、選ぶ際、理解ある所を探したい。公立の保育園幼稚園のHPがなく保育内容などわからない。オープンな情報提供をしてほしい。実際に足を運ばないとわからない。
- ・ 潜在的には希望者が多い職業だと思う。しかし職場環境としては残業が常態化したり賃金と責任が見合わないなど不十分だと思われる。保育士になりたいと思う方々が不安なくやりがいを持って働ける職場環境づくりを実現してほしい。
- ・ 自分の子ども（未就園児）をどうするかの問題がある。週 2～3 日程度働きたいと思っても、仕事先はたくさんあっても預け先がない、あっても市役所を通すと数か月先になる等、すぐ復職したくてもあきらめてしまう人が自分を含め周りにもいる。

■ 子育て、家庭との両立について

- 子育て、家庭との両立が本当に難しい仕事だと思う。持ち帰りの仕事があり、自分の子どもとの行事が重なったり、休みをもらう際はその他の職員に気もつかう。
- 子育て中でも働きやすいよう、様々な時間設定のパートを増やしてほしい。子どもを幼稚園に通わせている間の数時間を有効に使いたい。
- 潜在保育士の場合、働きたくても夏休みなど長期休暇がネックとなる人が非常に多いと思う。地域により夏休みだけOKの学童もあるが、なければ働く幅も狭まる。
- 短時間で働きたく、需要もあるのはわかっているが、末っ子を預ける保育園もなく、申請は出したものの、市役所にはこの時間だと厳しいと言われた。保育士として働く場合の我が子の預け先の確保の整備をしてほしいと思う。ただ時短勤務のママ保育士が増えると、それ以外の職員の早出遅出等の負担も増えると思うので、その賃金の保証をしっかりとすればよいと思う。
- 働いてほしいとよく電話をもらうが、子どもを預ける所がなく働けないままでいた。面接前に7hしか無理だと伝えると、8h勤務以外は受け付けないと言われた。働ける前提で色々決めたので（勤務予定先の新入園児受け入れ）、今さら働けないのは無理だと言われた。面接、契約前に決まっているのはつらかった。子どもを預けて無理なく働ける環境があると嬉しい。

〔4〕 保育士養成施設調査

問1 施設の基本属性

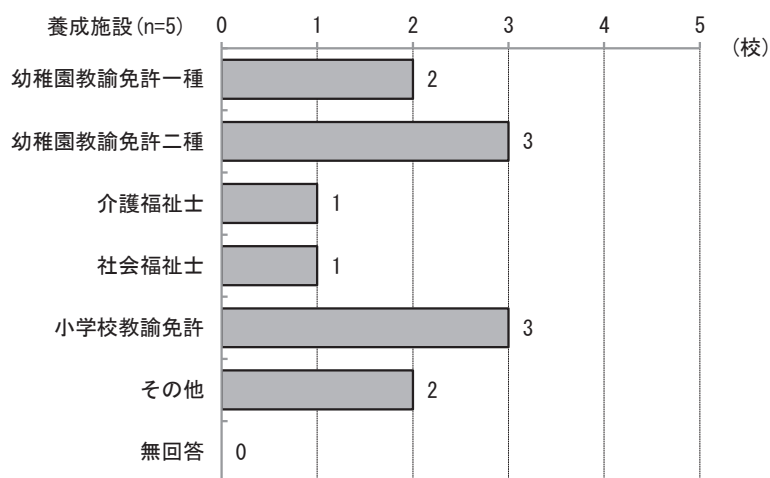
貴校に関する基本的な情報についておうかがいします。

【表1 基本属性】

養成施設 (n=5)	(校)		
	大津市	東近江市	長浜市
① 施設の所在市町	2	2	1
② 施設の種別	大学	短期大学	
	2	3	
③ 修業年限	4年制	2年制	
	2	3	

④ 保育士以外の取得可能な資格・免許

【図1-4 取得可能な資格・免許】

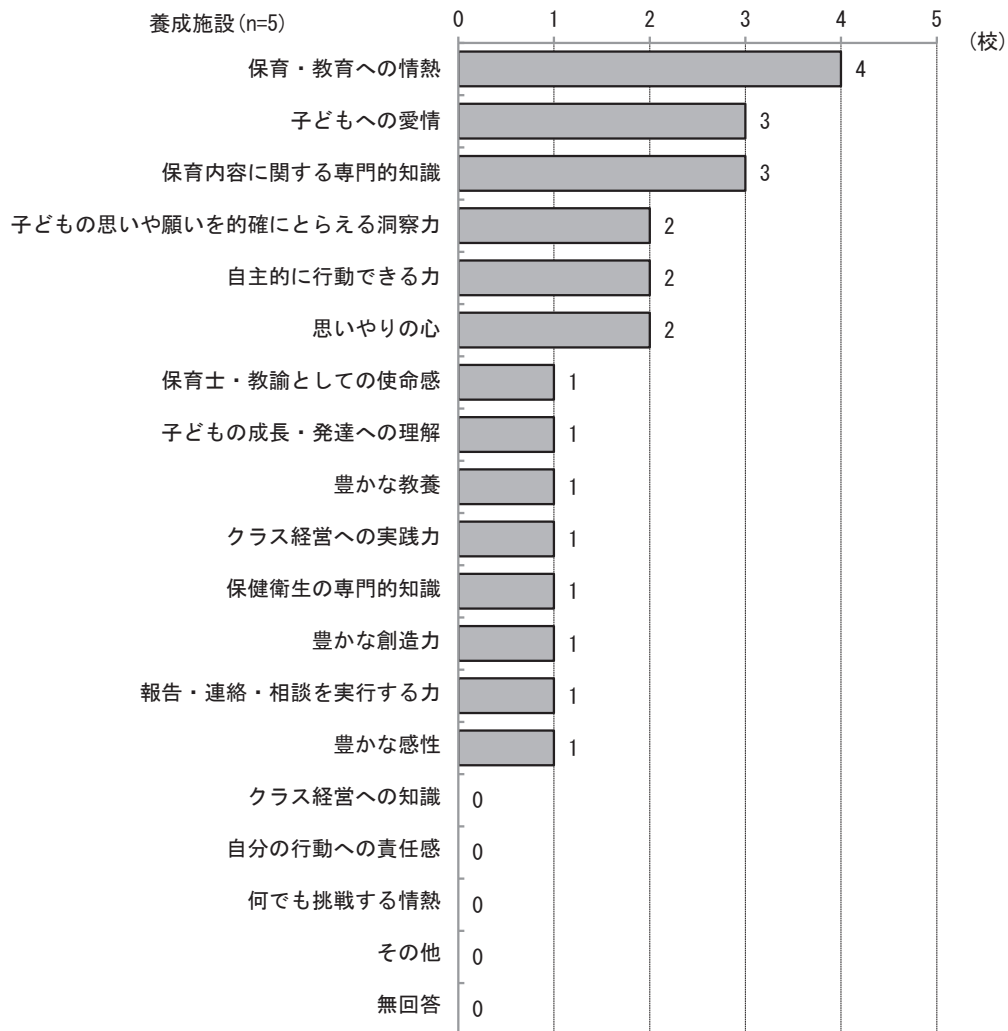


【4 保育士養成施設調査】

問2 保育士として身につけるべき資質能力

学生が、保育士として身につけるべき資質能力について、特に必要だと思うものを5つ選択してください。(〇は5つまで)

【図2 保育士として身につけるべき資質能力】



保育士として身につけるべき資質能力については、「保育・教育への情熱」を4校が挙げている。(図2)

問3 資質能力を養成するために行っている取組（自由記述）

保育士が身につけるべき資質能力を育成するために行っている取組について具体的に教えてください。

資質能力を育成するために行っている取組について、次のような意見が挙げられている。

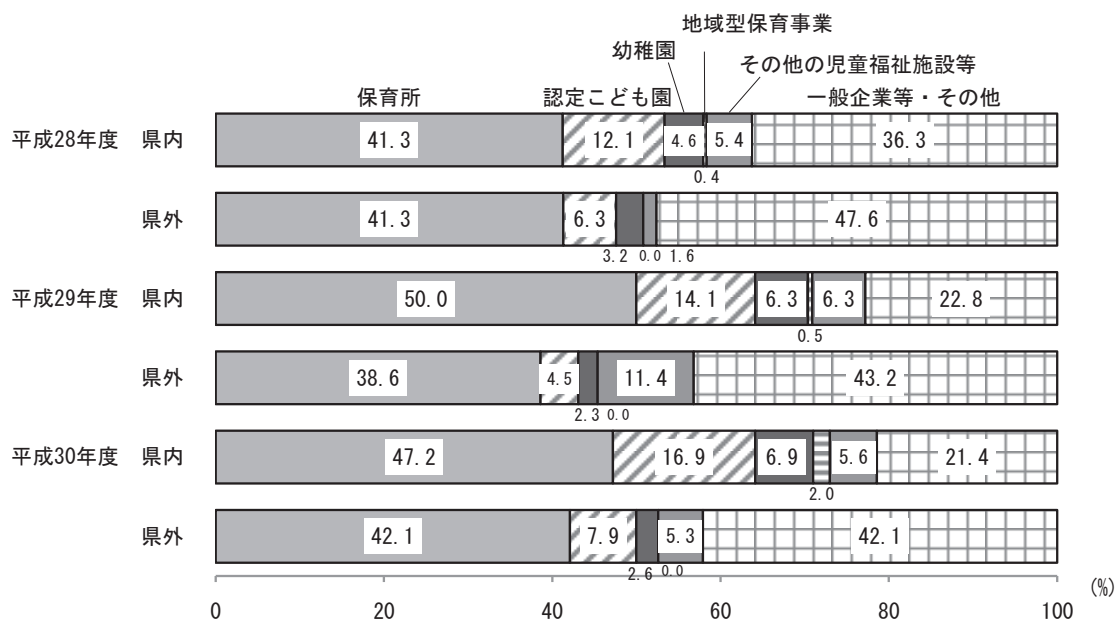
- ・子どもの保育に関する知識や技術を持つ保育者は、保護者のパートナーとして、より良い子育てに取り組んでいけるように支援することが求められる。大学では、子育て支援の場「ぶんぶんひろば」を行い、親子と積極的に関わり、理論と体験を統合できる場を設けている。社会性や倫理観育成のため基礎力カリキュラムの教科を設けている。
- ・保育士養成カリキュラム中での指導の充実を図っている。ボランティアやインターンシップにおいて保育実践に触れ理解を深めている。先輩の話を聞いたり、保育について語り合ったりする機会を作っている。
- ・対人関係が苦手な学生が多く、子どもなら大丈夫と思っているので、保育士には親対応や職員間での対話が必要である事を踏まえ、グループワークを取り入れている。
- ・保育者になる強い意志を持たせ、挨拶や礼儀正しさを教えている。乳幼児理解に努め、個と集団の関わりについて事例に沿って学習している。実習に向け、保育指導案の作成について一人ひとりに丁寧に指導している。支援を必要としている園児への理解と対応策について学習している。
- ・保育士の専門知識・技術は勿論だが、人として相手の思いを受けとめ、また、自分の思い（意見）が伝えられる力をアクティブラーニングの授業形態で能動的に学べる方法をとっている。

【4 保育士養成施設調査】

問4 卒業生の就職先

平成28～30年度の卒業生について、保育所等に就職した学生の人数を県内・県外別で、それぞれ数字でご記入ください。

【図4 卒業生の就職先（実人数）】



上段:実人数 下段:%	保育所	認定こども園	幼稚園	地域型保育事業	その他の児童福祉施設等	一般企業等・その他	合計
平成28年度 県内	99 41.3	29 12.1	11 4.6	1 0.4	13 5.4	87 36.3	240 100.0
県外	26 41.3	4 6.3	2 3.2	0 0.0	1 1.6	30 47.6	63 100.0
平成29年度 県内	103 50.0	29 14.1	13 6.3	1 0.5	13 6.3	47 22.8	206 100.0
県外	17 38.6	2 4.5	1 2.3	0 0.0	5 11.4	19 43.2	44 100.0
平成30年度 県内	117 47.2	42 16.9	17 6.9	5 2.0	14 5.6	53 21.4	248 100.0
県外	16 42.1	3 7.9	1 2.6	0 0.0	2 5.3	16 42.1	38 100.0

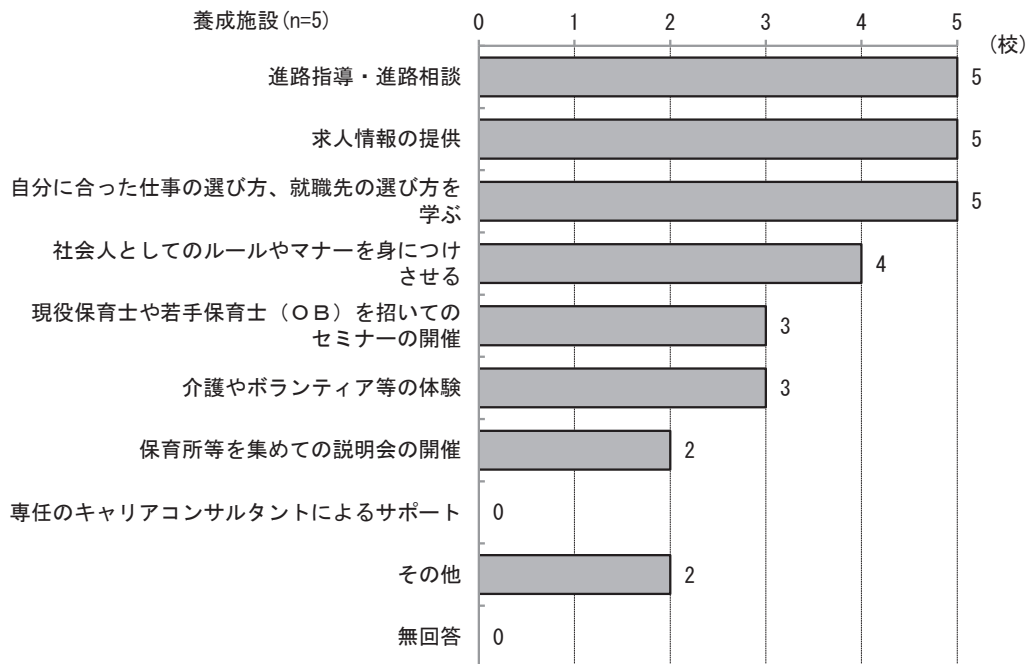
過去3年間の卒業生の就職先については、県内に就職した学生はいずれの年度も「保育所」が最も多く、次いで「一般企業等・その他」が多くなっている。県外に就職した学生は平成28年度と平成29年度は「一般企業等・その他」が最も多く、平成30年度は「保育所」「一般企業等・その他」が同率となっている。また、県内、県外とも、「一般企業等・その他」の割合が年々低くなっている。(図4)

【4 保育士養成施設調査】

問5 学生に対する就職支援策

学生に対して行っている就職支援策は何ですか。(〇はいくつでも)

【図5 学生に対する就職支援策】



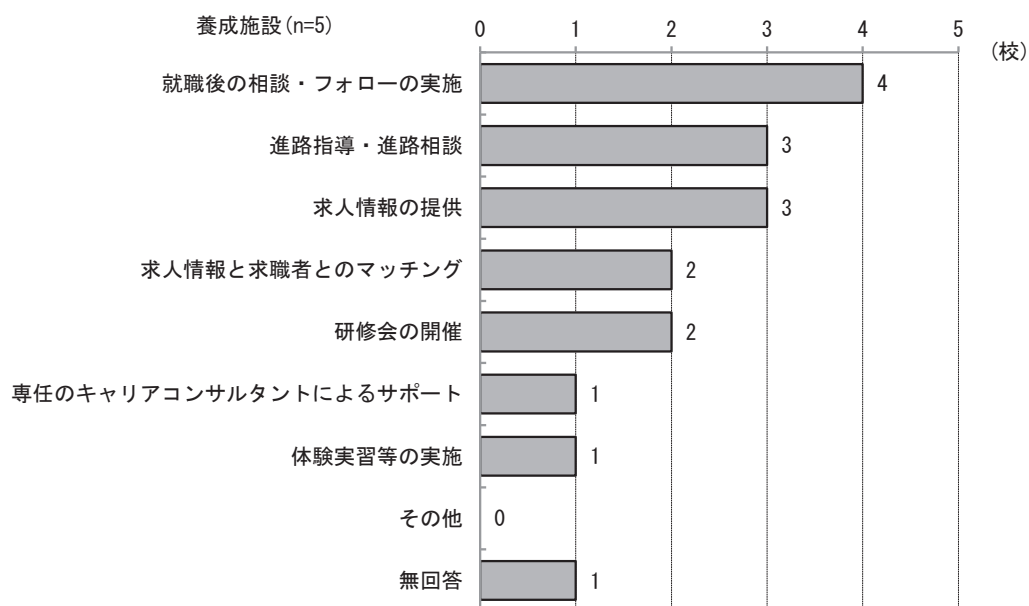
学生に対して行っている就職支援策については、「進路指導・進路相談」「求人情報の提供」「自分に合った仕事の選び方、就職先の選び方を学ぶ」を5校が挙げている。(図5)

【4 保育士養成施設調査】

問6 卒業生に対する就職支援策

卒業生に対して行っている就職支援策は何ですか。(〇はいくつでも)

【図6 卒業生に対する就職支援策】



卒業生に対する就職支援策については、「就職後の相談・フォローの実施」を4校が行っている。(図6)

問7 入学者確保のための取組 (自由記述)

貴校の入学者を確保するためにどのような取組を行っていますか。

入学者を確保するために行っている取組について、次のような意見が挙げられている。

- ・オープンキャンパスの実施。学外進路ガイダンスへの参加。高校訪問による情報提供。高校と大学での連携。
- ・オープンキャンパスや高校等における説明会。
- ・職業理解を目的とした幼稚園教諭・保育士に特化したイベントを開催している。また、授業や実習、採用試験の説明の他、現在、在職中の卒業生の話や在学生の話が聞けて、話せる場を設定し、将来のイメージを持ってもらえるよう取り組んでいる。イベント開催にあたり、次年度から後援いただけるとありがたい。
- ・オープンキャンパス、附属高校との連携による講座の開講、高校内ガイダンスなどに参加。

問8 保育士向けの講座等の実施有無（自由記述）

一般の方へ保育士向けの講座等を実施していますか。あれば具体的に記入してください。

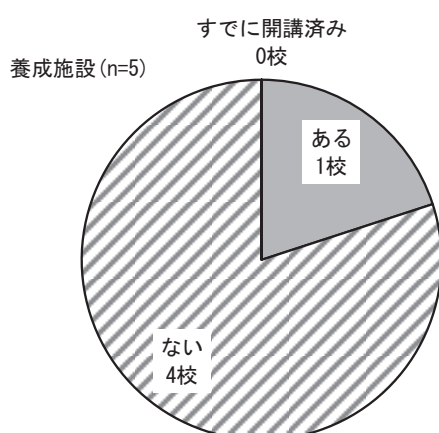
一般の方へ保育士向け講座等を実施しているかについて、次のような意見が挙がっている。

- ・彦根・長浜地域連携プラットフォームとして、本学にて潜在保育士・保育補助者対象にキャリアアップ講座を実施予定。
- ・幼稚園教諭免許取得特例講座、保育協議会主催の保育士等キャリアアップ研修
- ・一般の人向けは実施していないが、県内7市にて地域移動講座として、現任保育士向け講座を年1回開講している。

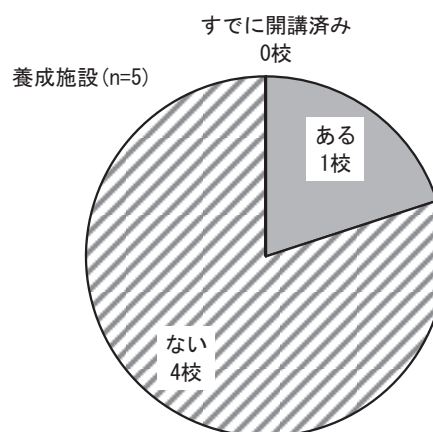
問9 特例教科目講座の開講予定の有無

保育士資格と幼稚園教諭免許の両方の取得を推進するため、特例教科目講座を開講する予定はありますか。

【図9① 保育士資格保有者向け】



【図9② 幼稚園免許保有者向け】



特例教科目講座の開講予定の有無については、保育士資格保有者向け、幼稚園免許保有者向けのどちらも、「ある」が1校、「ない」が4校となっている。(図9①、図9②)

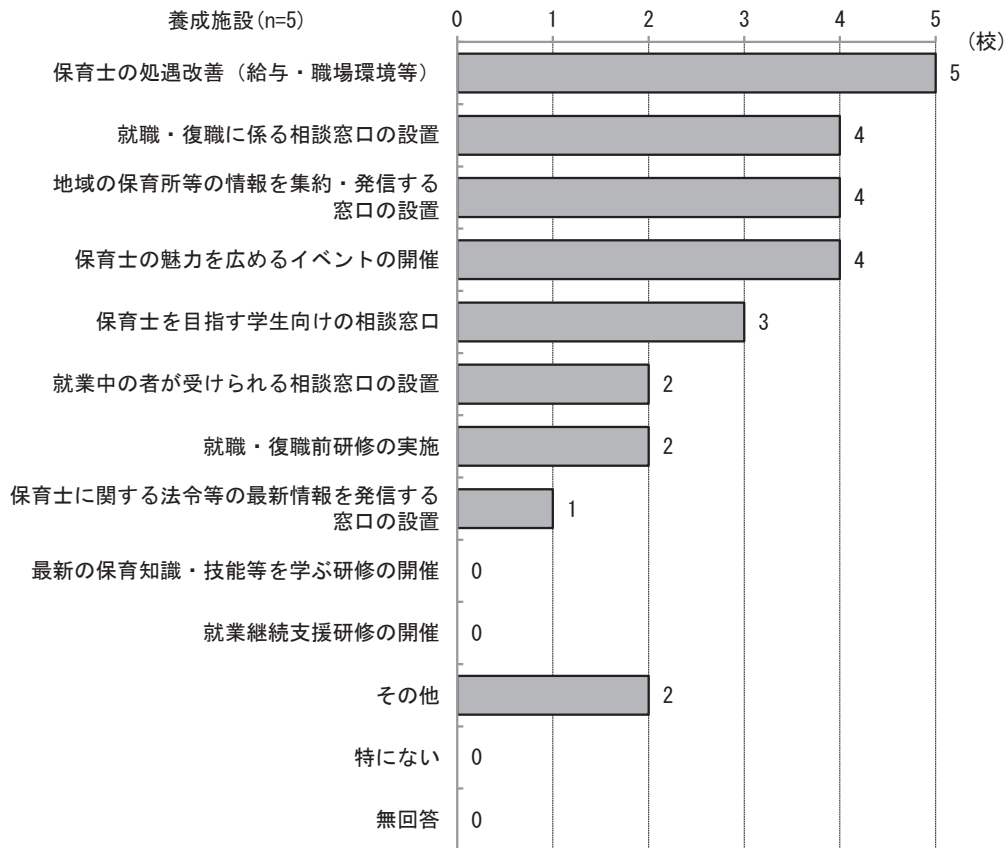
開講予定が「ない」と回答した学校の原因は、『検討中』『四年制学部で開講している』となっている。

【4 保育士養成施設調査】

問 10 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度

どのような支援や制度があれば、保育士を目指す学生が増えると思いますか。(〇はいくつでも)

【図10 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度】



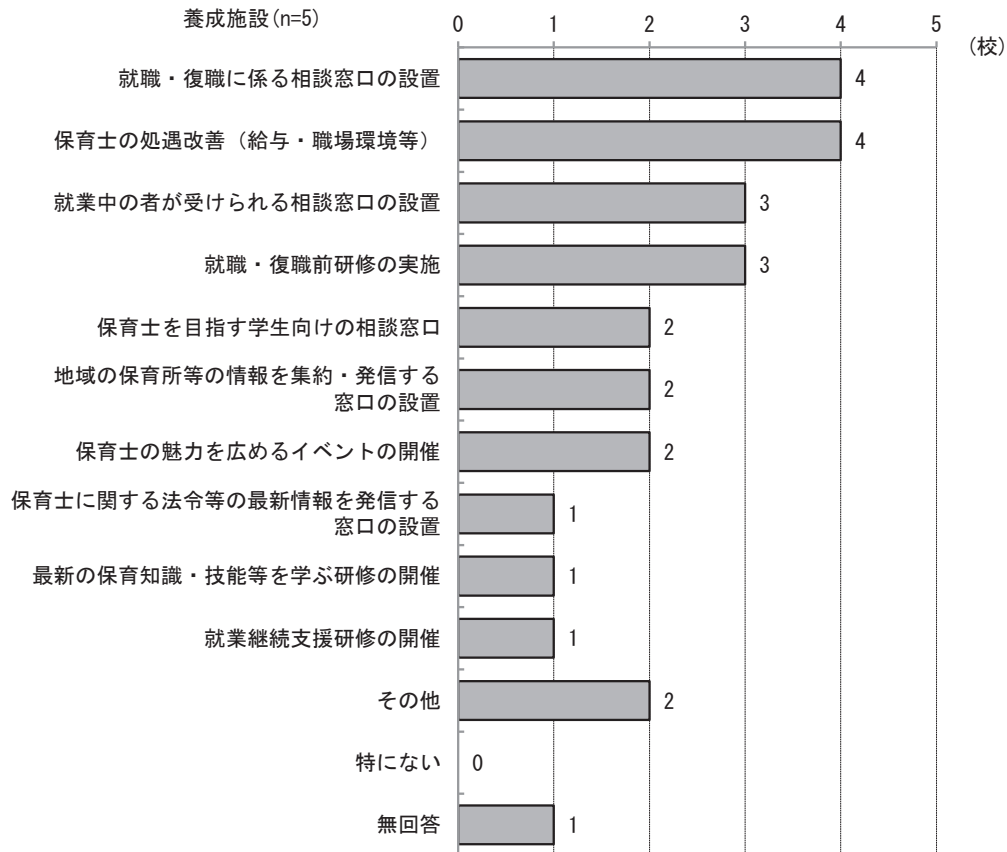
どのような支援や制度があれば、保育士を目指す学生が増えるかについては、「保育士の処遇改善 (給与・職場環境等)」を5校が挙げている。(図10)

【4 保育士養成施設調査】

問 11 保育士の安定的な確保のためにあればよい支援や制度

社会全体で保育士が安定的に確保されるためには、どのような支援や制度があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

【図11 保育士の安定的な確保のためにあればよい支援や制度】



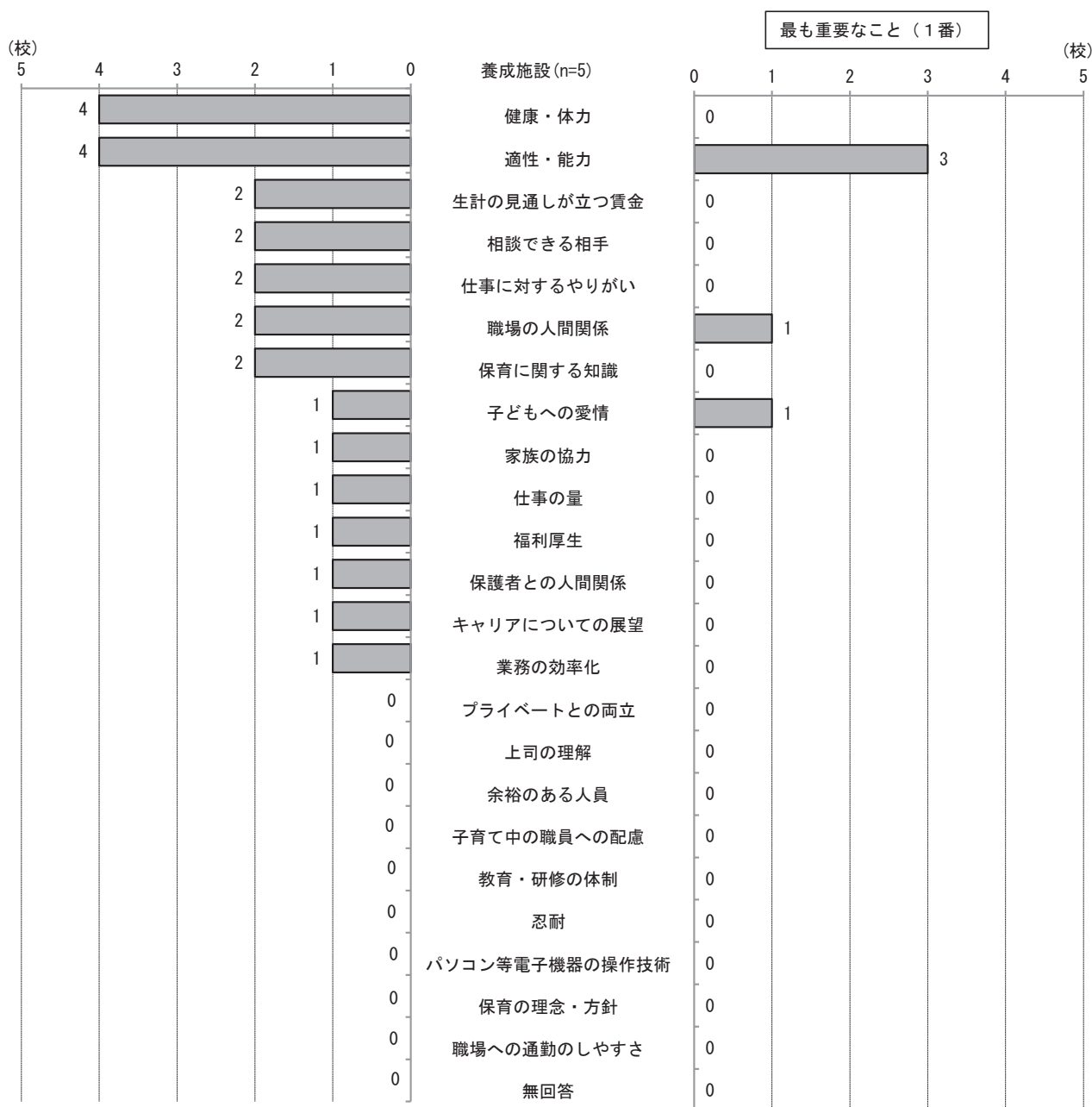
社会全体で保育士が安定的に確保されるためにはどのような支援や制度があればよいと思うかについては、「就職・復職に係る相談窓口の設置」「保育士の処遇改善 (給与・職場環境等)」を4校が挙げている。(図11)

【4 保育士養成施設調査】

問 12 保育士として働くために重要なこと

保育士として働くためには、何が重要だと思いますか。

【図12 保育士として働くために重要なこと】



保育士として働くために重要なことについては、全体でみると、「健康・体力」「適性・能力」を4校が挙げている。

最も重要なこと（1番）だけでみると、3校が「適性・能力」を選択している。（図12）

問 13 保育士としての就労や労働環境などについて（自由記述）

保育士としての就労や労働環境などについてご意見・ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。

保育士としての就労や労働環境などについて、次のような意見が挙げられている。

- ・人間関係に悩むことが多い。園長・副園長・主幹などに相談しにくい。書類が多く帰る時間が遅い。残業代がつかない。
- ・優秀な保育士の確保のためには、まず処遇改善かと思う。質を下げないための取組が必要である。こども園に幼稚園・保育所の単体から移動した際に、書類の多種に苦しんでいる様である。保育士同士がコミュニケーションをとれていないところがあるため、休職する人が出た園に対しての人権研修等を行う必要があると考える。
- ・優秀な保育士の確保のためには、まず処遇改善が必要と考える。併せて質を下げないための取組も必要である。仕事量（目に見えるものと、目に見えないもの）に対する処遇に意欲を低下させているのではないか。各園に事務と養護教諭の設置が必要である。園児数と保育士数の改善（例えば、0歳児3：1→2：1にする等）をお願いしたい。
- ・保育士として働く際、良い条件の施設が見つかり、入職したが、自分が認識していた条件と違い、「こんなはずじゃなかった…」という卒業生の声を聞く。（土曜保育に出たのに、振替休日がないなど、振替があっても希望日にとれない）

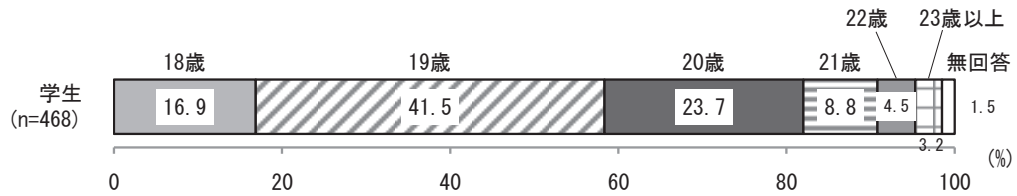
〔5〕 保育士養成施設学生調査

問1 回答者の基本属性

あなた自身のことについておうかがいします。

① 年齢

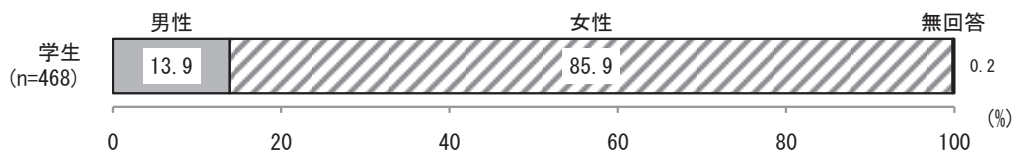
【図1-1 年齢】



回答者の年齢は、「19歳」が41.5%で最も多く、次いで「20歳」が23.7%、「18歳」が16.9%となっている。(図1-1)

② 性別

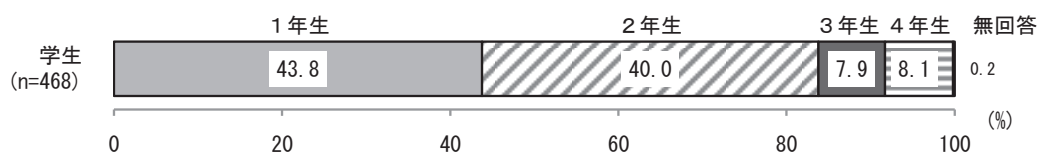
【図1-2 性別】



回答者の性別は、「男性」が13.9%、「女性」が85.9%となっている。(図1-2)

③ 学年

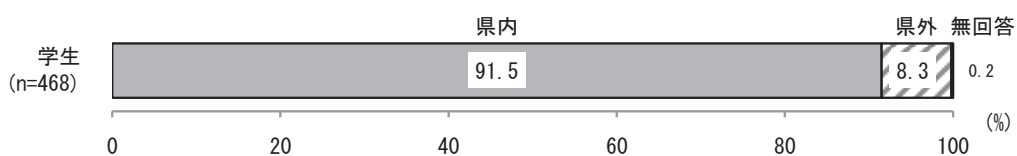
【図1-3 学年】



回答者の学年は、「1年生」が43.8%、「2年生」が40.0%、「3年生」が7.9%、「4年生」が8.1%となっている。(図1-3)

④ 住所

【図1-4 住所】



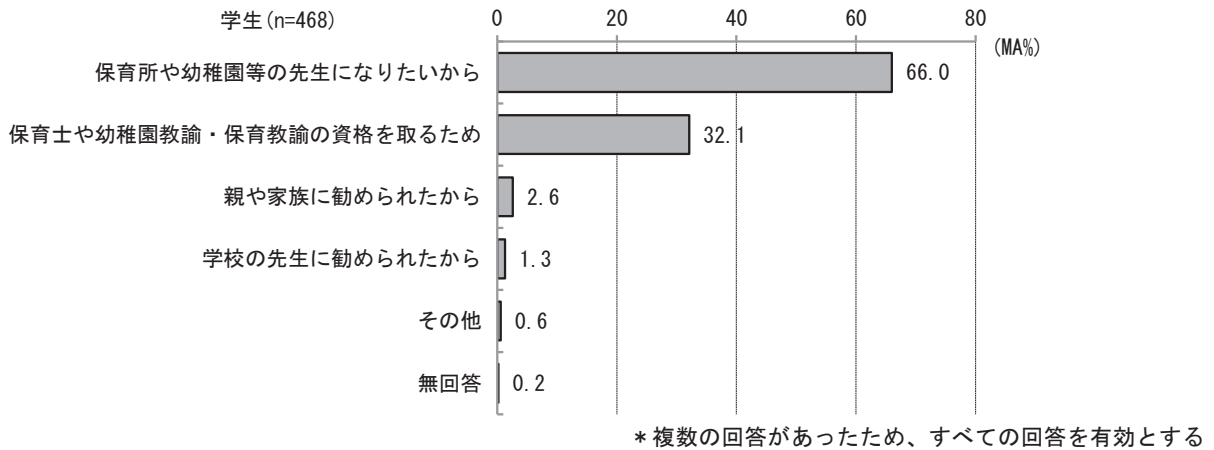
回答者の住所は、「県内」が91.5%、「県外」が8.3%となっている。(図1-4)

【5 保育士養成施設学生調査】

問2 保育士養成施設に通う理由

保育士養成施設に通っている理由は何ですか。(○は主なもの1つ)

【図2 保育士養成施設に通う理由】

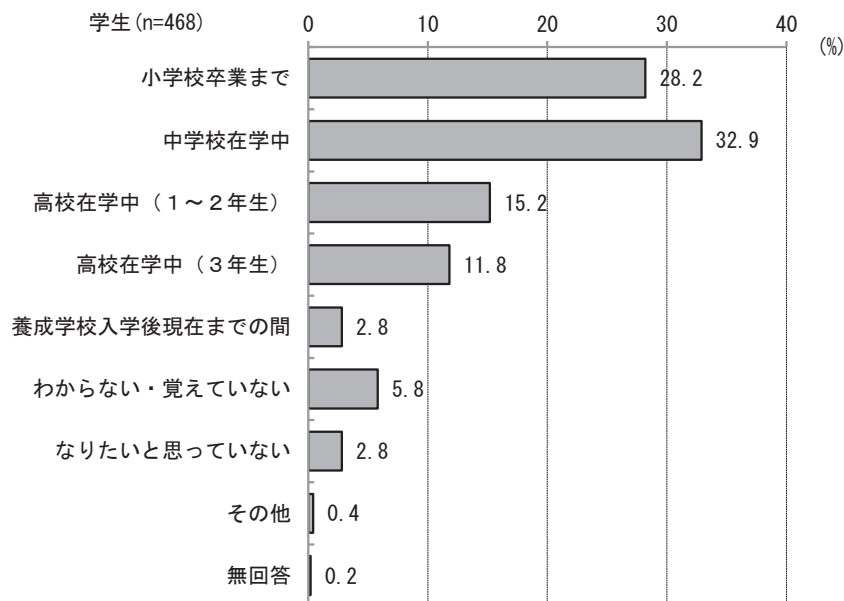


保育士養成施設に通っている理由については、「保育所や幼稚園等の先生になりたいから」が66.0%で最も多く、次いで「保育士や幼稚園教諭・保育教諭の資格を取るため」が32.1%となっている。(図2)

問3 保育士になりたいと思った時期

保育士になりたいと思った時期はいつですか。(○は1つ)

【図3 保育士になりたいと思った時期】

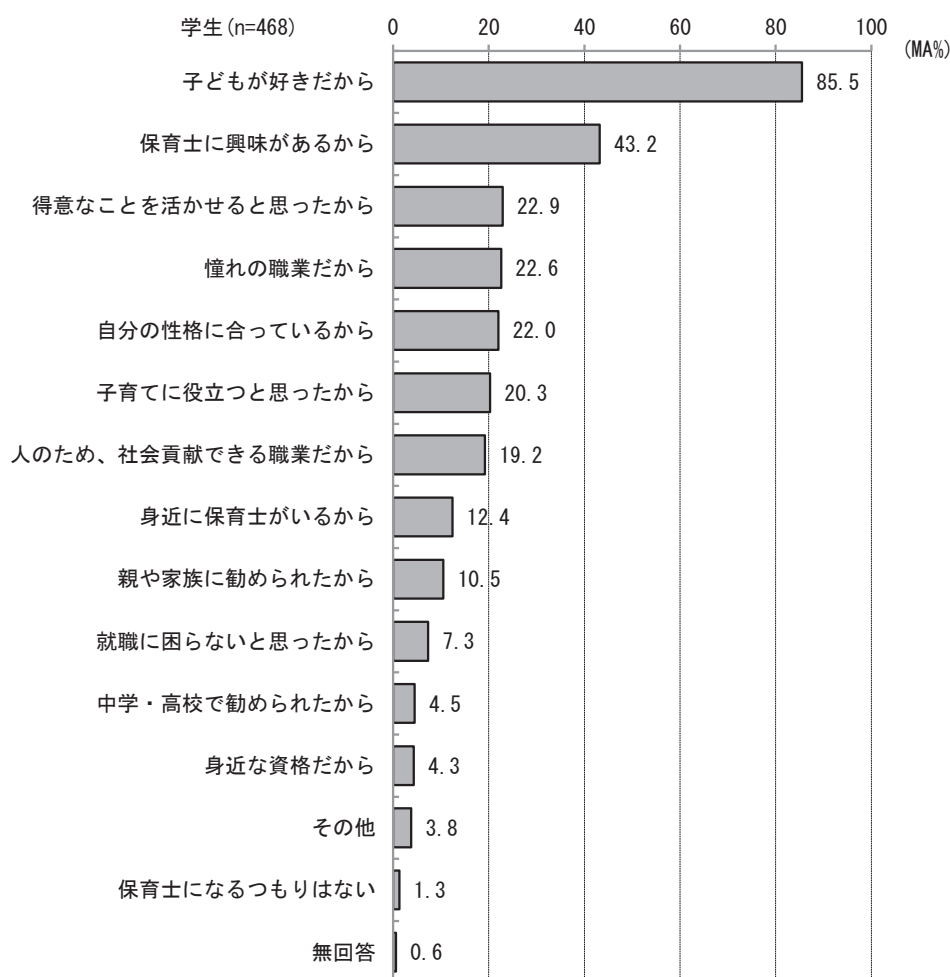


保育士になりたいと思った時期については、「中学校在学中」が32.9%で最も多く、次いで「小学校卒業まで」が28.2%となっている。(図3)

問4 保育士になりたいと思った主な動機

保育士になりたいと思った主な動機は何ですか。(〇はいくつでも)

【図4 保育士になりたいと思った主な動機】



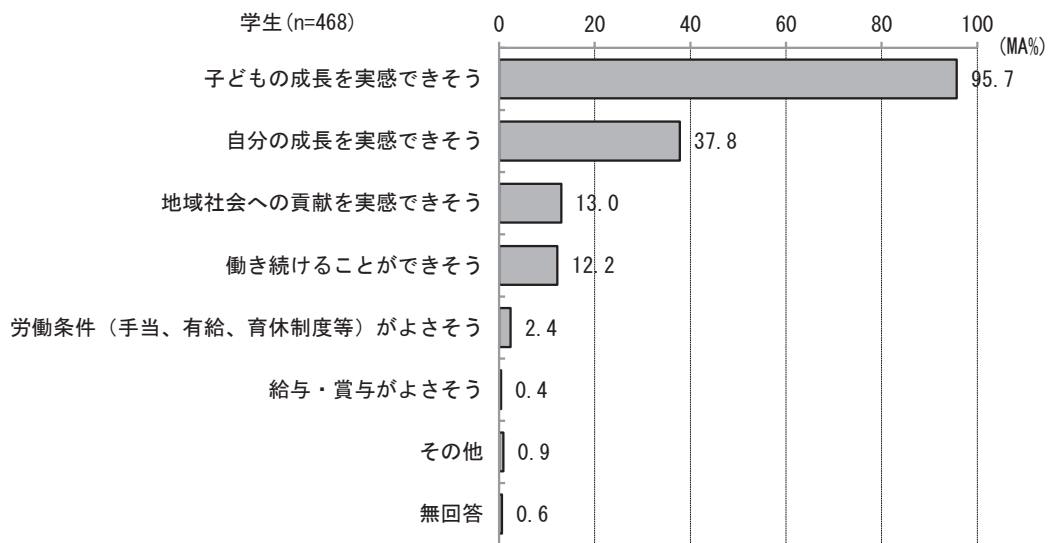
保育士になりたいと思った主な動機については、「子どもが好きだから」が 85.5%で最も多く、次いで「保育士に興味があるから」が 43.2%、「得意なことを活かせると思ったから」が 22.9%となっている。(図4)

【5 保育士養成施設学生調査】

問5 保育士の魅力

保育士について、どのようなことに魅力を感じますか。(〇はいくつでも)

【図5 保育士の魅力】

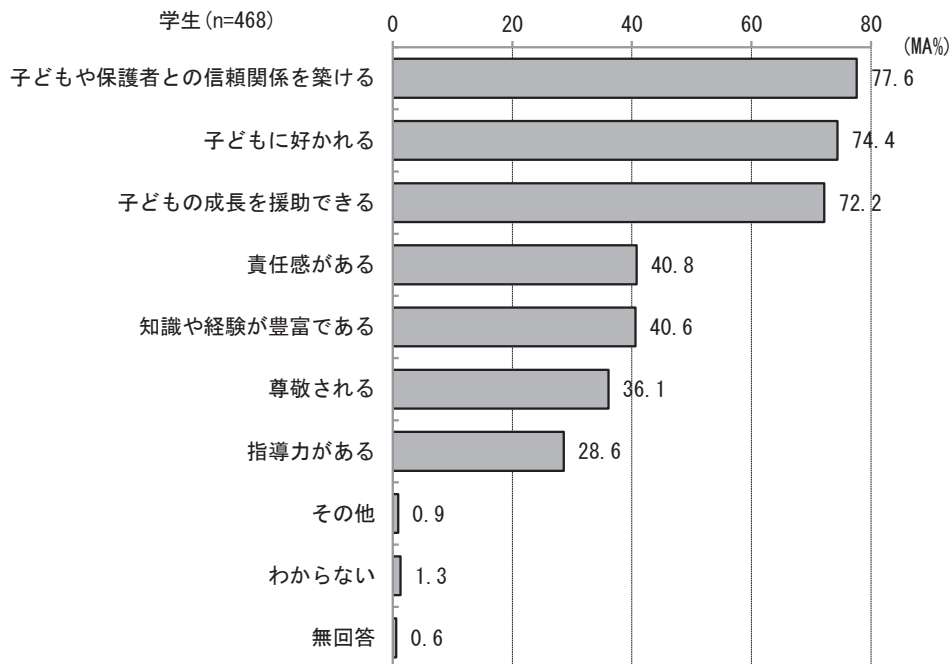


保育士の魅力については、「子どもの成長を実感できそう」が95.7%で最も多く、次いで「自分の成長を実感できそう」が37.8%となっている。(図5)

問6 目指す保育士像

将来どのような保育士になりたいですか。(〇はいくつでも)

【図6 目指す保育士像】



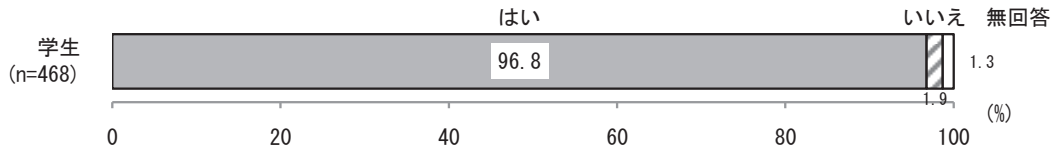
目指す保育士像については、「子どもや保護者との信頼関係を築ける」が77.6%で最も多く、次いで「子どもに好かれる」が74.4%、「子どもの成長を援助できる」が72.2%となっている。(図6)

【5 保育士養成施設学生調査】

問7 保育士になることへの家族の応援の有無

保育士になることを家族は応援してくれていますか。(○は1つ)

【図7 保育士になることへの家族の応援の有無】

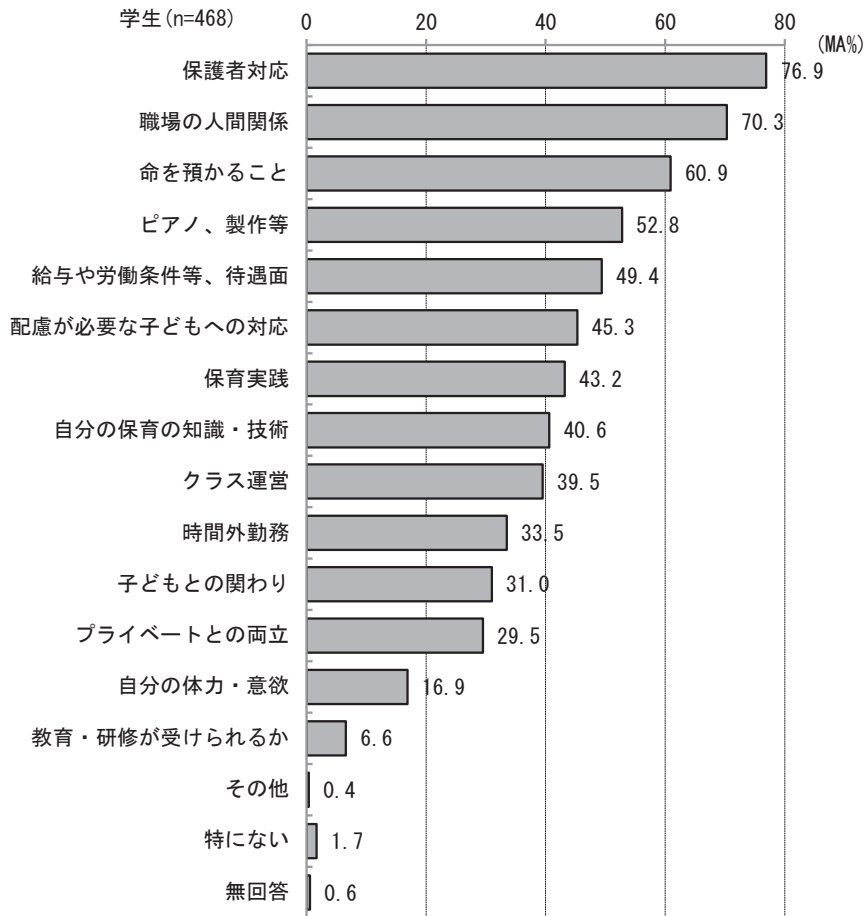


保育士になることを家族は応援してくれているかについては、「はい」が 96.8%、「いいえ」が 1.9%となっている。(図7)

問8 保育士になることへの不安

保育士になるにあたり、不安に思うことはありますか。(○はいくつでも)

【図8 保育士になることへの不安】



保育士になることへの不安については、「保護者対応」が 76.9%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が 70.3%、「命を預かること」が 60.9%、「ピアノ・製作等」が 52.8%となっている。(図8)

【5 保育士養成施設学生調査】

【表8 保育士になることへの不安（学年別）】

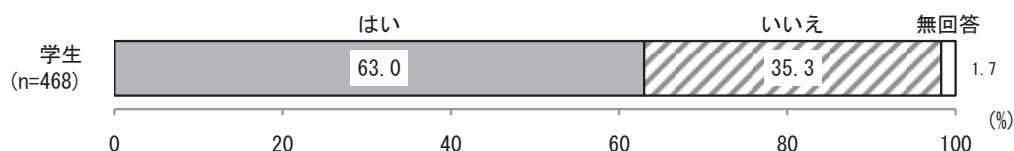
	n	保育実践	クラス運営	子どもとの関わり	保護者対応	職場の人間関係	配慮が必要な子どもへの対応	命を預かること	自分の体力・意欲	給与や労働条件等、待遇面	ピアノ、製作等	プライベートとの両立	時間外勤務	教育・研修が受けられるか	自分の保育の知識・技術	その他	特にない	無回答
1年生	205	42.9	33.7	34.6	78.5	71.2	47.8	61.0	14.1	51.7	53.7	27.3	31.2	6.3	34.6	1.0	1.5	-
2年生	187	44.9	43.3	31.6	74.9	70.6	42.8	63.6	16.6	42.2	53.5	29.9	28.9	5.9	46.0	-	2.7	0.5
3年生	37	37.8	40.5	10.8	73.0	62.2	35.1	45.9	16.2	67.6	45.9	21.6	40.5	10.8	43.2	-	-	2.7
4年生	38	42.1	52.6	28.9	84.2	73.7	55.3	63.2	34.2	55.3	52.6	47.4	63.2	7.9	44.7	-	-	-

学年別でみると、どの学年も「保護者対応」が最も多く、次いで1年生、2年生、4年生は、「職場の人間関係」、3年生は「給与や労働条件等、待遇面」が続く。また「子どもとの関わり」は1年生で最も高くなっている。（表8）

問9 実習経験の有無

あなたは実習に行ったことがありますか。（○は1つ）

【図9 実習経験の有無】



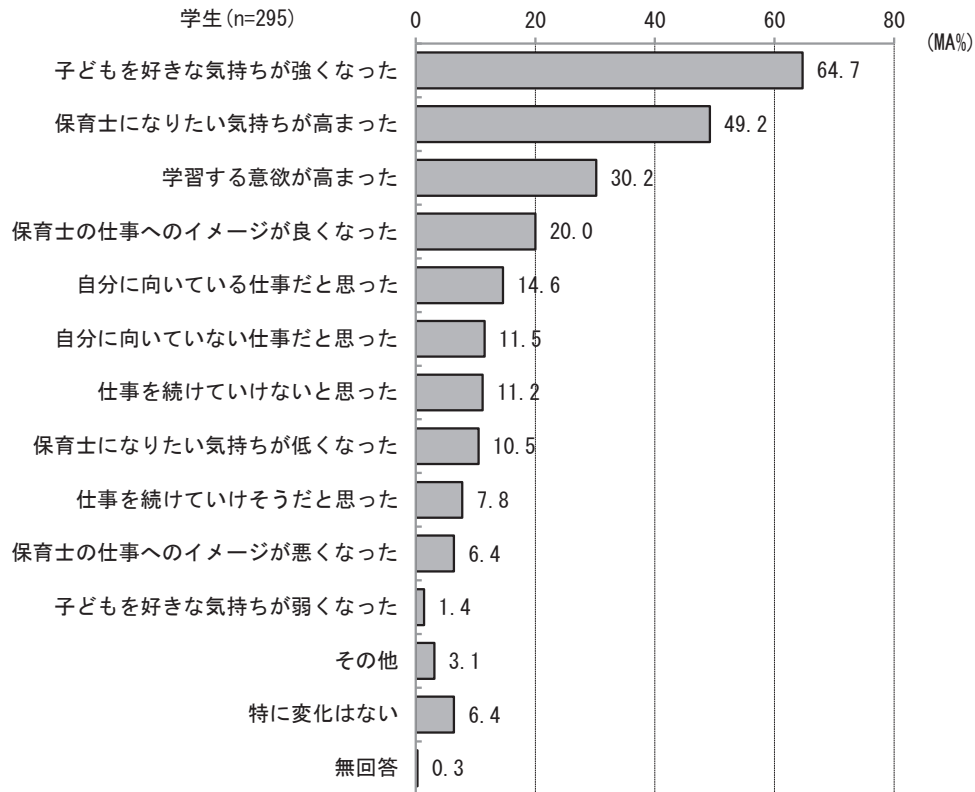
実習に行ったことがあるかについては、「はい」が 63.0%、「いいえ」が 35.3%となっている。（図9）

【5 保育士養成施設学生調査】

問9-1 実習の前後で変化したこと

問9で「1 はい」と回答された方におうかがいします。
 実習の前後で変化したことはありますか。(〇はいくつでも)

【図9-1 実習の前後で変化したこと】



実習の前後で変化したことについては、「子どもを好きな気持ちが強くなった」が 64.7%で最も多く、次いで「保育士になりたい気持ちが高まった」が 49.2%、「学習する意欲が高まった」が 30.2%となっている。(図 9-1)

【表9-1 実習の前後で変化したこと (学年別)】

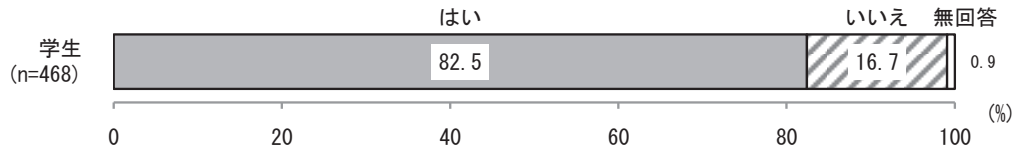
	n	(%)													
		が保育士になりたい気持ち	が保育士になりたい気持ち	保育士の仕事へのイメージが良くなった	保育士の仕事へのイメージが悪くなった	自分に向いている仕事だと思った	自分に向いていない仕事だと思った	仕事を続けていけないと思った	仕事を続けていけそうと思った	仕事を続けていけないと思った	子どもを好きな気持ちが強くなった	子どもを好きな気持ちが弱くなった	学習する意欲が高まった	その他	特に変化はない
1年生	64	62.5	3.1	18.8	1.6	14.1	7.8	7.8	6.3	68.8	1.6	25.0	-	9.4	1.6
2年生	163	42.3	9.8	19.6	6.1	13.5	11.7	7.4	12.3	63.2	1.8	29.4	2.5	6.1	-
3年生	30	46.7	20.0	13.3	13.3	23.3	13.3	3.3	13.3	53.3	-	23.3	13.3	6.7	-
4年生	37	59.5	16.2	29.7	10.8	13.5	16.2	13.5	10.8	75.7	-	48.6	2.7	2.7	-

学年別でみると、どの学年も「子どもを好きな気持ちが強くなった」が最も多くなっている。また「保育士になりたい気持ちが高まった」は1年生で最も高くなっている。(表 9-1)

問 10 保育士としての就職希望の有無

保育士として就職を希望しますか。(○は1つ)

【図10 保育士としての就職希望の有無】

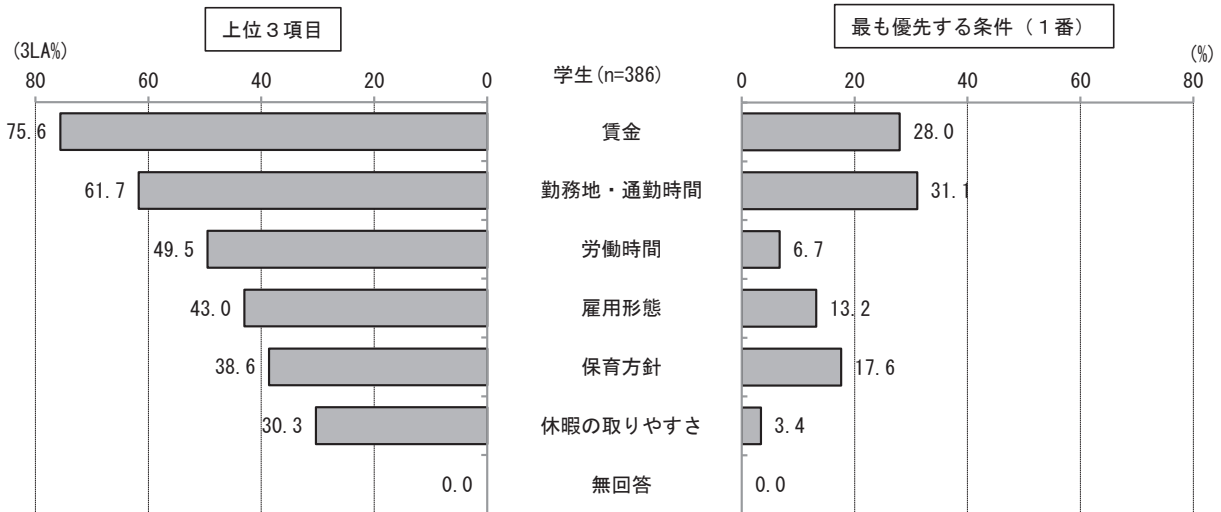


保育士としての就職を希望するかについては、「はい」が82.5%、「いいえ」が16.7%となっている。(図10)

問 10-1 就職先を決める際に重視すること

問10で「1 はい」と回答された方におうかがいします。
就職先を決める際の条件について選択肢の中から選び、最も優先する順に () 内に番号を記入してください。

【図10-1 就職先を決める際に重視すること】



保育士としての就職を希望すると回答した方に、就職先を決める際に重視することについてたずねたところ、上位3項目でみると、「賃金」が75.6%で最も多く、次いで「勤務地・通勤時間」が61.7%、「労働時間」が49.5%となっている。

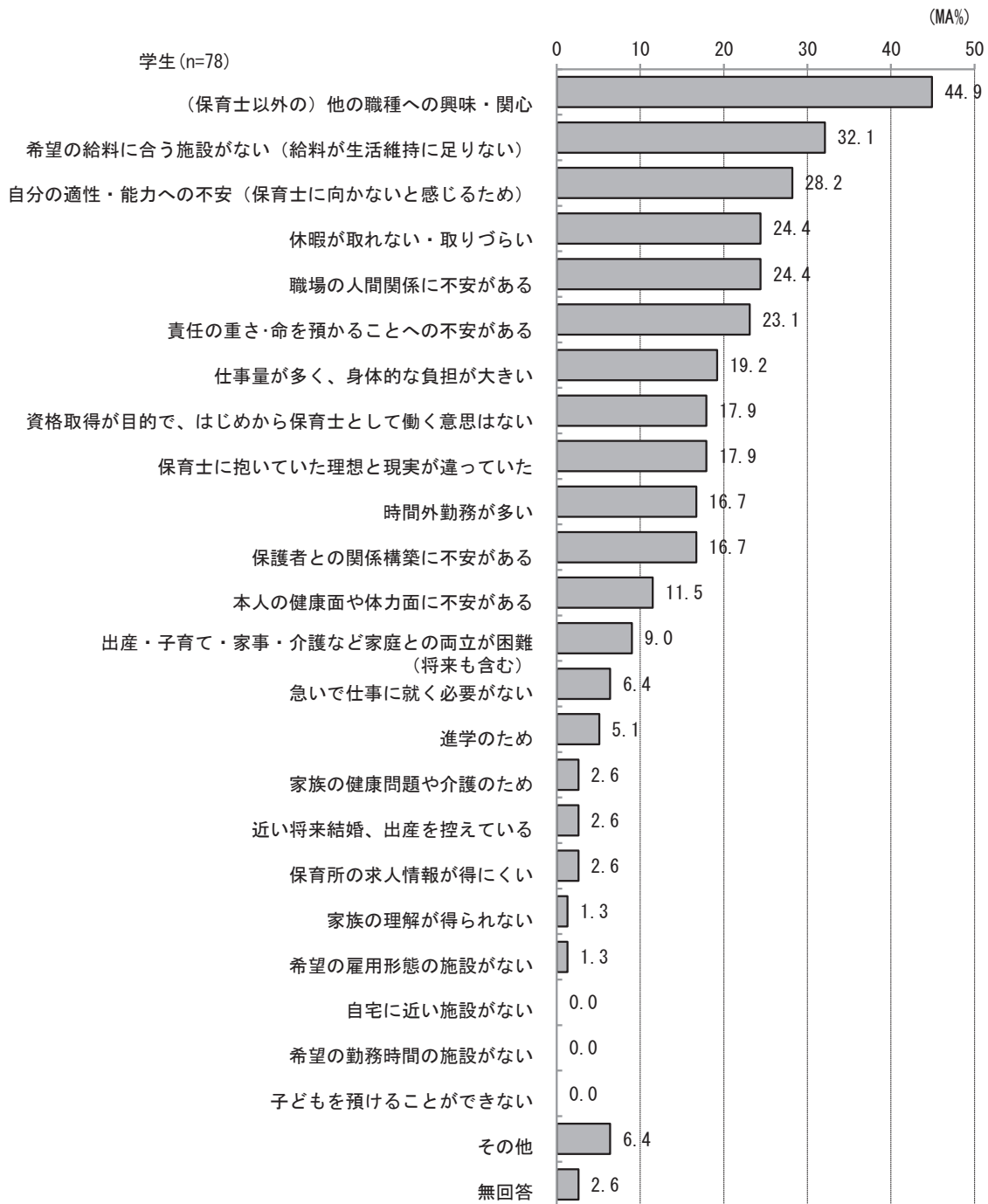
最も優先する条件(1番)でみると、「勤務地・通勤時間」が31.1%で最も多く、次いで「賃金」が28.0%、「保育方針」が17.6%となっている。(図10-1)

【5 保育士養成施設学生調査】

問10-2 保育士を希望しない理由

問10で「2 いいえ」と回答された方におうかがいします。
希望しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図10-2 保育士を希望しない理由】

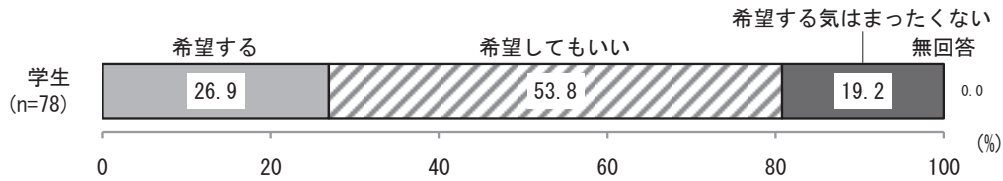


保育士としての就職を希望しない方にその理由をたずねたところ、「(保育士以外の) 他の職種への興味・関心」が44.9%で最も多く、次いで「希望の給料に合う施設がない (給料が生活維持に足りない)」が32.1%、「自分の適性・能力への不安 (保育士に向かないと感じるため)」が28.2%となっている。(図10-2)

問 10-3 問題が解消された場合の保育士としての就職意向

問10-2の理由が解消された場合には、保育士としての就職を希望しますか。(○は1つ)

【図10-3 問題が解消された場合の保育士としての就職意向】

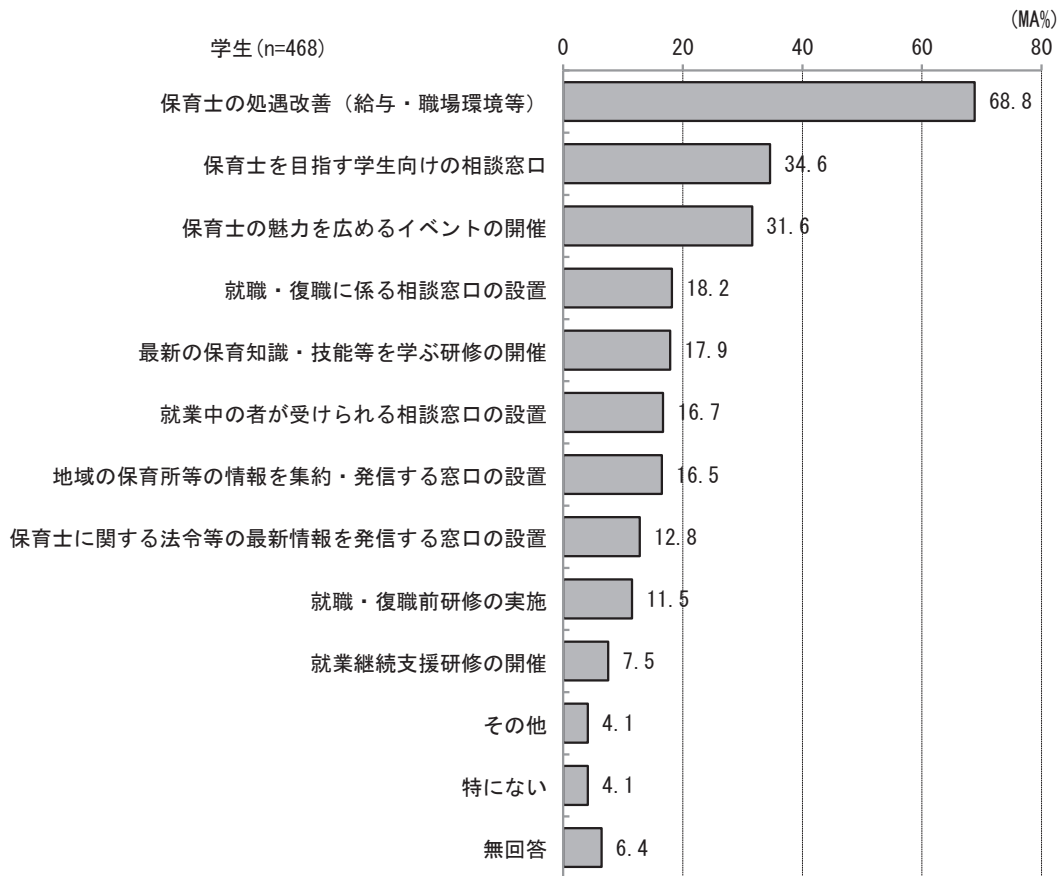


保育士を希望しないと回答した方に、希望しない理由が解消された場合に保育士として就職を希望するかをたずねたところ、「希望する」が26.9%、「希望してもいい」が53.8%、「希望する気はまったくない」が19.2%となっている。(図10-3)

問 11 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度

どのような支援や制度があれば、保育士を目指す学生が増えると思いますか。(○はいくつでも)

【図11 保育士を目指す学生が増えるような支援や制度】

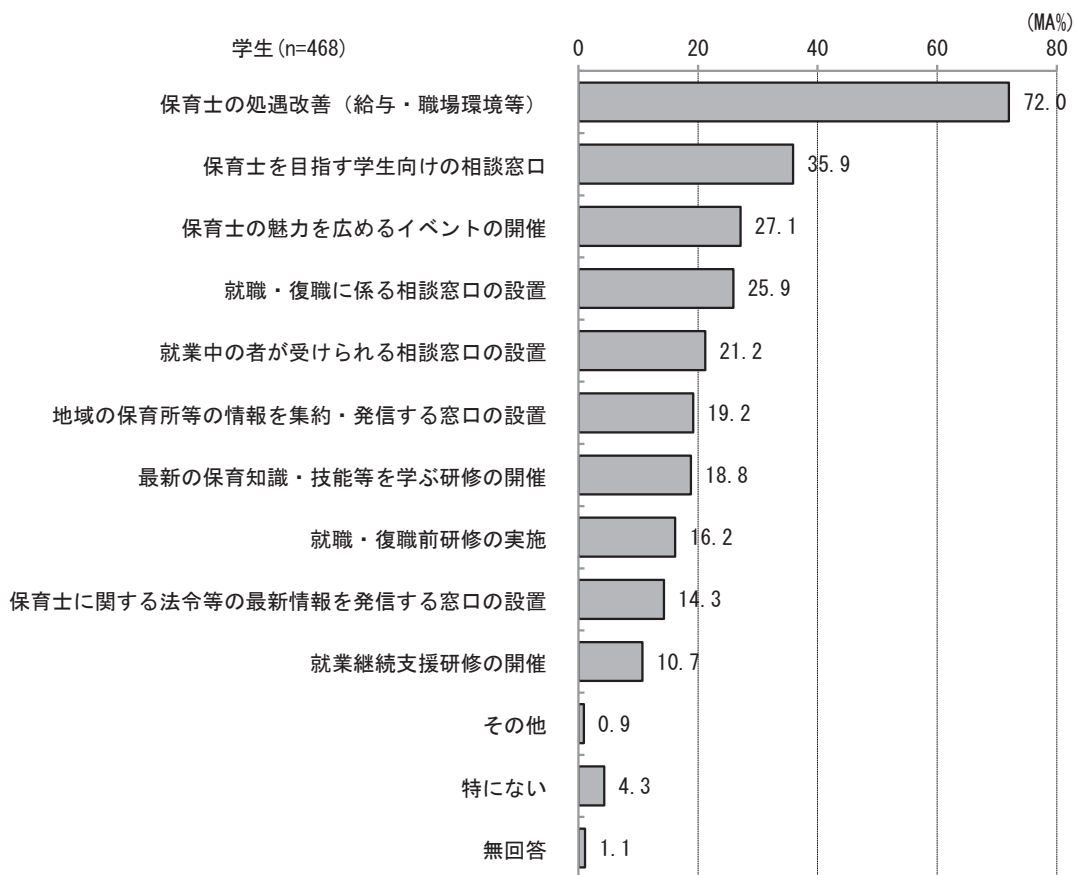


どのような支援や制度があれば、保育士を目指す学生が増えるかについては、「保育士の処遇改善 (給与・職場環境等)」が68.8%で最も多く、次いで「保育士を目指す学生向けの相談窓口」が34.6%、「保育士の魅力を広めるイベントの開催」が31.6%となっている。(図11)

問 12 保育士の安定的な確保のためにあればよい支援や制度

社会全体で保育士が安定的に確保されるためには、どのような支援や制度があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

【図12 保育士の安定的な確保のためにあればよい支援や制度】



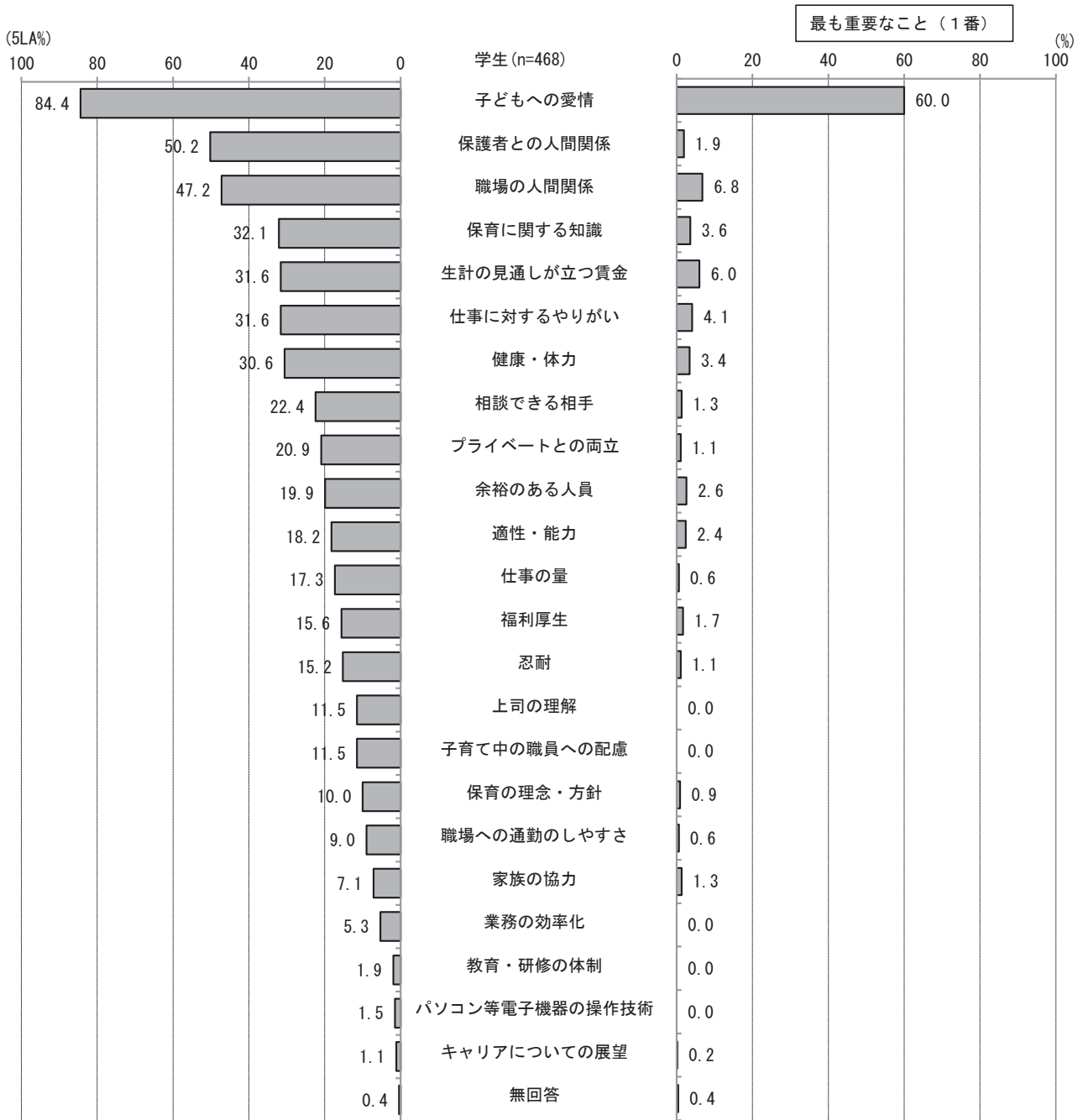
社会全体で保育士が安定的に確保されるためにはどのような支援や制度があればよいと思うかについては、「保育士の処遇改善（給与・職場環境等）」が72.0%で最も多く、次いで「保育士を目指す学生向けの相談窓口」が35.9%、「保育士の魅力を広めるイベントの開催」が27.1%となっている。(図12)

【5 保育士養成施設学生調査】

問13 保育士として働くために重要なこと

保育士として働くためには、何が重要だと思いますか。

【図13 保育士として働くために重要なこと】



保育士として働くために重要なことについては、全体で見ると「子どもへの愛情」が84.4%で最も多く、次いで「保護者との人間関係」が50.2%、「職場の人間関係」が47.2%となっている。

最も重要なこと（1番）だけでみると、「子どもへの愛情」が60.0%で最も多く、次いで「職場の人間関係」が6.8%となっている。（図13）

【5 保育士養成施設学生調査】

【表13 保育士として働くために重要なこと（学年別）】

(%)

	n	子どもへの愛情	生計の見通しが立つ賃金	プライベートとの両立	家族の協力	上司の理解	仕事の量	余裕のある人員	子育て中の職員への配慮	福利厚生	相談できる相手	仕事に対するやりがい	職場の人間関係	保護者との人間関係	キャリアについての展望	教育・研修の体制	業務の効率化	忍耐	保育に関する知識	パソコン等電子機器の操作技術	保育の理念・方針	健康・体力	適性・能力	職場への通勤のしやすさ	無回答	
1年生	205	88.3	30.7	16.6	6.3	10.2	14.6	17.6	12.2	13.2	18.5	27.8	45.9	58.5	1.0	2.4	5.9	16.1	40.0	2.4	13.2	29.8	16.1	10.7	-	
2年生	187	81.3	29.9	25.7	7.5	12.8	17.1	18.7	11.2	15.0	29.4	36.9	46.0	47.6	0.5	0.5	3.2	15.0	28.9	1.1	6.4	34.2	19.3	8.6	0.5	
3年生	37	81.1	43.2	16.2	5.4	24.3	18.9	37.8	2.7	5.4	18.9	35.1	54.1	32.4	-	2.7	10.8	18.9	13.5	-	8.1	32.4	24.3	5.4	-	
4年生	38	84.2	34.2	26.3	10.5	-	31.6	21.1	18.4	42.1	13.2	23.7	55.3	36.8	5.3	5.3	7.9	7.9	23.7	-	13.2	15.8	18.4	5.3	-	
最も重要なこと	1年生	205	68.3	5.4	0.5	0.5	-	-	3.4	-	0.5	1.0	2.0	3.9	3.9	-	-	-	1.0	2.9	-	0.5	3.4	2.4	0.5	-
	2年生	187	53.5	3.7	1.6	1.6	-	1.1	1.1	-	3.7	2.1	4.8	11.8	0.5	-	-	-	1.6	4.8	-	1.1	2.7	2.7	1.1	0.5
	3年生	37	54.1	10.8	2.7	2.7	-	2.7	5.4	-	-	-	10.8	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	5.4	2.7	-	-
	4年生	38	55.3	15.8	-	2.6	-	-	2.6	-	-	-	5.3	2.6	-	2.6	-	-	-	5.3	-	2.6	5.3	-	-	-

学年別でみると、全体では、どの学年も「子どもへの愛情」が最も多くなっている。次いで、1年生と2年生は「保護者との人間関係」が、3年生と4年生は「職場の人間関係」が多くなっている。

最も重要なことでは、どの学年も「子どもへの愛情」が最も多くなっている。次いで、2年生は「職場の人間関係」が、それ以外の学年は「生計の見通しが立つ賃金」が、多くなっている。(表13)

滋賀県保育士実態調査報告書

令和2年2月

発行：滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局

子育て支援室 保育人材確保係

滋賀県大津市京町四丁目1番1号 TEL：077-528-3557

